

2つの世界のサッカー

オト姫

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この度オト姫はラブライブサッカーの小説で有名なルビィちゃんキャンデイさんとコラボをさせていただく事になりました。

ルビィちゃんキャンデイさんには遠く及ばないと思いますが頑張つてラブライブキャラ達のサッカーをお送りしていきたいと思っておりますのでよろしく願います。

※黒澤 エメラの設定を大幅に変更します。今までのエメラの設定は一度忘れていただければと思います。急に変更になり申し訳ございません。これからは話の先をしつかりみて書いていきたいと思えます。

目次

2つの世界の戦い	1
戦いの始まり	1
第2話 異色なポジション	17
第3話 違う世界の園田 海未	45
第4話 圧倒的な実力	63
第5話 海未の覚悟と銀色の力	85
第6話 無考の極意	115
第7話 ダブルエースフィールドに立つ	147
第8話 究極のシュート	166
第9話 紅き流星と青き龍	200
第10話 力の差	237
第11話 戦いの結末	290
違う世界彼女達	
それぞれの特訓	306
戦う日は近づいていく	348
未知の襲来編	
特訓とSOS	378
フードの戦士達	401
作戦会議	450
最悪の再開	478
アドバンチュール戦「別人の強さ」	520

裏で蠢く闇	728	アドバンチュールを越えるために	622	アドバンチュール戦「圧倒的な力」	603	アドバンチュール戦「真姫の作戦」	577	アドバンチュール戦「拮抗の実力」	546
完全敗北	668	究極の技その1	698	アドバンチュール戦「ヒートアップする戦い」	603				

再戦アドバンチュール「突破口」	994	再戦アドバンチュール「破られた切り札」	970	今やるべき事	948	エメラの過去【サッカーを失った日】	817	エメラの過去【二人のストライカー】	783
		再戦アドバンチュール	970	エメラの過去【サッカーを失った日】	855	エメラの過去【サッカーを失った日】	817	エメラの過去【二人のストライカー】	783

の帰還」

—————

1576

ワールドレジスタンス戦「勝利への暗

示」

—————

1599

ワールドレジスタンス戦「砕かれる太

陽」

—————

1622

ワールドレジスタンス戦「輝くスタ

ダスト」

—————

1661

ワールドレジスタンス戦「王の盾を砕

け」

—————

1706

ワールドレジスタンス戦「私達は未来

の花」

—————

1754

二つの世界のサッカー

作者の話

1794

振り返り&茶番回

—————

1822

2つの世界の戦い 戦いの始まり

日本と中国の戦いが終わった後からの話となっています。

美奈「ふう、ここまで来たわね」
スタジアムに居た

美奈「本戦はもつともつと激しいものになる。みんなにはもつと頑張つて貰わないとね」

ぱちぱちぱち

美奈「!!」

どこからか拍手が聞こえてくる

「本戦出場おめでとうございます」

どこからか男が出てくる

美奈「貴方は？」

「おっと、自己紹介がまだでしたね。私は桜木 結城。結城と呼んでください、美奈さん」

美奈「!!」

結城「ふふふ、本日は貴方に話があるんですよ」

美奈「話？」

結城「勝負しません？僕のチームと」

美奈「!!」

結城「確か日本を出るのは1週間後でしたよね。日本に出る前に勝負しましょうよ」

美奈「一つ聞けど、貴方の事全く知らないんだけど、そんな人の話を聞くとと思う？」

結城「成る程、まあそうですね」

そう言っつて懐からスマホを取り出す

結城 「これを見たら戦っていたかと思えますよ」
画面を見せる

美奈 「これは!!!」

結城 「どうです？戦う気になりましたか？」

美奈 「……………」

結城 「……………5日後アキバスタジアムで待ってますよ」
ザッザッザッ

美奈 「……………」

結城 「……………」

「監督!!」

結城 「エメラか」

エメラ 「受け入れてくれたんですか？」

結城 「……………ああ、多分な」

エメラ 「……………」

結城 「楽しみか？」

エメラ 「はい……………」

日本代表の合宿キャンプ地

美奈「……………」

真恋「美奈？どうしたの？」

美奈「……………」

真恋「貴方帰ってきてから浮かない顔をしてるわね。何かあったの？」

美奈「実は……………」

アキバスタジアであったことを話す

真恋 「!!何ですって5日後に試合を申し込まれた!!」

美奈 「ええ………」

真恋 「普通にまずいでしょ!?!2日後には海外に行くのよ」

美奈 「でもね」

ある事を言う

真恋 「え?……嘘でしょ?」

美奈 「嘘じゃないわ。写真を見せてもらったから」

真恋 「と言うことはその結城とか言う人は」

美奈 「ええ、私達と違う世界から来ているわ」

5日後

アキバスタジアム

穂乃果「今日は楽しみだね」

海未「・・・何を考えてるんでしょうか？」

英玲奈「海未もそう思うか」

海未「はい、海外に行く前に試合をするだなんて」

梨子「……」

千歌「お母さん何考えてるんだろう」

美奈「……」

真恋「美奈。真実をいわなくていいの？」

美奈「……」

果南「……美奈さんの様子も変だけどやるしかないよね」

ダイヤ「そうですね。優勝するためにもこの勝負も負けられませんわね」

真姫「……(何を考えてるのかしらみんなかなり無理をしてもう少し休ませないといけないのに)」

ルビィ「真姫ちゃん。私は大丈夫だよ」

真姫「……何言ってるの！」

ルビィにチョップをする

ルビィ「ピッ！」

真姫「……私の言う事をちゃんと聞くって約束したはずよ」

ルビィ「……分かってる」

美奈「みんな！集まって！！」

全員が集まる

美奈「今日は急に試合を入れてごめんね。私の知り合いがどうしても戦いたいつて言うから」

ツバサ「相手は誰なんですか？」

美奈「それは来てからのお楽しみよ」

ツバサ「・・・」

美奈「ひとまず今日のポジションを発表するわね」

F W……………黒澤 ダイヤ、渡辺 月

M F……………園田 海未、統堂 エレナ

M F……………桜内 梨子、矢澤 にご

D F…………東條 希、優希あんじゅ、鹿角 聖良、南 ことり

G K……………高坂 穂乃果☆

真姫「ふう、二人は初っ端じゃないのね」

美奈「…果南ちゃん、千歌ちゃん、曜ちゃん、理亞ちゃん、凜ちゃん、ツバサちゃんいつでも行けるように準備してね」

果南、千歌、曜、理亞、ルビィ、凜、ツバサ「はい！」

真恋「!!」（美奈がここまで言うなんてどんな相手なのよ）」

ルビィ「…」

理亞「すぐに出るかもしれないわね」

ルビィ「……うん」

するとある男がグラウンドに出てくる

結城「……ちゃんと来てくれましたね美奈さん」

千歌「あの人誰？」

曜「見た事ないね」

美奈「ええ」

結城「今日はよろしくお願いしますね」

美奈「……よろしくお願いします」

結城「それじゃあ、私の方のチームも出てきてもらうよ、みんな出てきて」

結城が出てきたところから選手が次々と出てくる

穂乃果「!!嘘」

千歌「え・・・そんな事って」

ルビィ「・・・成る程。そう言う事なんだ」

結城のチームの選手が18人が出てくる

結城「さてと、みんな自己紹介よろしく」

ダイヤ「FWの黒澤ダイヤです」

ツバサ「FWの綺羅 ツバサ」

理亞「FWの鹿角 理亞」

海未「FWの園田 海未です」

エメラ「FWの鹿角 エメラ」

絵里「MFの綾瀬 絵里」

真姫「MFの西木野 真姫」

千歌「MFの高海 千歌」

梨子「MFの桜内 梨子です」

果南「MFの松浦 果南」

エレナ「MFの統堂 エレナだ」

希「DFの東條 希」

花丸「DFの国木田 花丸ズラ」

にこ「DFの矢澤 にこよ」

聖良「DFの鹿角 聖良です」

あんじゅ「DFの優希 あんじゅよ〜♪」

ことり「DFの南ことりですー♪」

曜「GKの渡辺 曜です！ヨソロー！」

穂乃果「・・・キャプテンでGKの高坂 穂乃果です!!よろしく!!」

結城 「君達とは違うところから来た日本代表だ。よろしく頼むよ」

サニデイジャパン 「!!!」

次回…始まる!!

第2話 異色なポジション

美奈「・・・」

結城「さあという事で、よろしく」

敵のチームはベンチに行く

ダイヤ「・・・ルビィ!!」

ルビィ「うん、分かってるよお姉ちゃん。あのエメラっていう人黒澤って言ってたよね」

ダイヤ「ええ」

ルビィ「……私と同じ匂いがする」

ダイヤ「え？」

ルビィ「……」

理亞「ルビィ……」

ルビィ「分かってるよ理亞ちゃん」

敵ベンチ

(オト) ダイヤ「……エメラ気づきましたか？」

エメラ「……ええ、姉様。でもまさかルビイが代表だなんて」

(オト) ダイヤ「……海未さんどうです？」

(オト) 海未「ふふ、面白そうですね。特にルビイと理亞は何か隠してそうです」

(オト) 希「……」

結城「さて！お前ら！！あいつらは強いぞ！気を引き締めらよ！」

「はい！！」

結城「……ん？なんだ実況がないのか」

そういう言おうとボールを取り出す

ボールが誰かを転送する

「な、なんだ？ここはどこだ？」

結城 「頼むよ♪矢島さん」

矢島 「・・・おう！任せとけ!!」

サニデイジャパン 「!!」

真恋 「人を呼び出した!？」

美奈 「……………」

全員がポジションにつく

『さあ!!エキシビションマッチ!!開幕です!! サニデイジャパンVSラブライブジャパン!!まさかの違う世界同士の戦いとなっています!!』

サニデイジャパン

F W……………黒澤 ダイヤ、渡辺 月

M F……………統堂 エレナ、園田 海未

M F……………桜内 梨子、矢澤 ニコ

D F……………南 ことり、東條 希、鹿角 聖良、優希 あんじゅ

G K……………高坂 穂乃果☆

ラブライブジャパン

F W …… 黒澤 エメラ、鹿角 理亞

M F …… 綾瀬 絵里、西木野 真姫、松浦 果南

M F …… 統堂 エレナ

D F …… 鹿角 聖良、優希 あんじゅ

D F …… 国木田 花丸

とり

G K …… 渡辺 曜

真恋 「な、何!? このフォーメーション」

美奈 「……(全く分からない)。どんな手を使ってくるの?」

結城 「この時代の日本代表がどれほどのものか見ものだな」

ルビイ、理亞「……」

ダイヤ「月さん！まず速攻で一点とりますよ！」

月「……うん、そうだねまずは一点取ろう」

『さあ！いよいよキックオフです！』

ピ—————！

ダイヤ「行きます！」

ダイヤは後ろにパス

海未「一気に攻めますよ」

エメラ「行かせないよ」

エメラが立ちはだかる

海未「・・・取れませんかよ！」

風を起こす

海未「風神の舞!!」

エメラ「うわあ!!」

エメラを一瞬で抜く

(オト) 海未「……へえ、そちらの私はいいドリブル技を持つてるんですね」

美奈「……(向こうの海未ちゃん。明らかにやばいなら) まず一点を決める!」

海未「梨子!!」

梨子にパスを渡す

梨子「はい!!」

梨子にパスが渡る

(オト) 果南「行かせないよ!!」

梨子「いえ、行きます!!」

梨子は飛び上がり炎を纏う

梨子「神のタクト！ F I R E F I !!!」

サニデイジャパンにメンバーに炎の道しるべを示す

梨子「海未さん!!」

海未「任せてください!!」

指示どおりに動き、パスが通る

(オト) 梨子「次!!月ちゃん!!」

月「了解！」

(オト) 花丸「させないズラ!!」

月「どいてもらおうよ! ブルースターダスト！」

花丸を躲す

(オト) 花丸「ズラ!!」

『おおっと! サニデイジャパンの猛攻だ!!』

梨子「・・・仕上げです!! ダイヤさん!!」

ダイヤ「了解ですわ!!」

道が上に行く

月「さあ、一点だよ！ダイヤさん！」

上にパスを飛ばす

ダイヤ「さあ!!見せてあげますわ！」ピイ!!!

ダイヤは口笛でペンギンを呼び出す。

勢いに乗ったペンギン達がダイヤの出した炎に入っていく

ダイヤ「はあああ!!フェニックスペンギン！」

『黒澤 ダイヤのフェニックスペンギンだあああ!!!』

(オト) 曜「いいシュートだね・・・でも止めるよ」

手を下から突き上げて水を突き上げ。水の化身を呼び出す

(オト) 曜「マジンザウエーブ!!」

(オト) 梨子「曜ちゃん!止められる!!」

(オト) 海未「いや、まだです」

(オト) 曜「・・・止める!!」

ダイヤ「・・・右ですわ」

急にコースが変わる

(オト) 曜「!?!」

バシューーーーーーン！

『ゴール!!先取点を決めたのはサニデイジャパン!!黒澤
ダイヤの変幻自在のフェ
ニックスペンギンだあああ!!!』

(オト) 曜「な、なんなの今のシユート」

ダイヤ「これがこの時代のですわ！」

自分のコートに帰っていく

月「ナイスシュート!! ダイヤさん!」

ルビィ「お姉ちゃん!!」

ダイヤ「ありがとうございます」

(オト) 海未「……………サニデイジャパン」

結城「……………いいねえ。こうでないとな」

(オト) 穂乃果「曜ちゃん!! ドンマイドンマイ!! 次は止めよう!!」

(オト) 曜「はい! 穂乃果さん」

エメラ「やってくれるね」

(オト) 理亞「取り返すんでしょ?」

エメラ「当たり前でしょ？速攻でやり返すわよ理亞」

(オト) 理亞「分かってますよ」

美奈「(奇襲は成功したけど、相手は驚くどころか楽しんでいる、とんでもない相手ね)」

穂乃果「みんな!!もつともつと攻めていこう!!」

サニデイジャパン「おお!!」

『さあ、開幕でいきなり先取点をもぎ取ったサニデイジャパン。それに対してラブライブジャパンはどうするのか？ラブライブジャパンからキックオフです!!』
『ピィ!!』

エメラ「・・・理亞！」

理亞にパスが通る

(オト) 理亞「・・・行くよ！」

ドリブルで駆け上がる

月「行かせないよ」

月が止める

(オト) 理亞「・・・抜いてみせる」

1対1の駆け引きをする

月「・・・なかなかやるね」

(オト) 理亞「・・・甘い！」

理亞は月を抜く

月「!!しまった」

梨子「任せて!!」

月が抜かれた後ろではすでに梨子がカバーしていた

梨子「・・・アインザッツ!!」

一瞬で理亞からボールをとる

(オト) 理亞「しまった」

『おおっと！再びサニデイジャパンボールだ!!』

梨子「もう一度行きま「させませんよ」!!」

ガキン!!

梨子は凍ってしまふ

聖良「アイスグランド」

『再びラブライブジャパンがボールを取り返したあああ!』

(オト) 理亞「姉様!!」

(オト) 聖良「理亞。言ったはずですよ抜いた後は狙われやすいつて」

(オト) 理亞「ごめんなさい」

(オト) 聖良「……行きますよ！理亞」

(オト) 理亞「うん!!」

にこ「!!なんでDFの聖良が上がってきてるのよ！

英玲奈「……それだけじゃない。相手のポジションが変だぞ！」

結城「ふふふ、変幻自在なのはそっちだけじゃないぞ」

『DFの聖良が上がっている!!』

英玲奈「ゴール前！固めるんだ！」

(オト) 聖良 「行きますよ理亞」

理亞 「はい！」

二人はシュートモーションに入る

穂乃果 「!!来る」

サニデイジャパン 「!!」

(オト) 聖良 「ハアアア!!」

飛び上がり月の様なものを浮かび上がらせる

(オト) 理亞 「うおおおおお！」

それに反応し理亞が何度もボールを蹴る

(オト) 理亞「喰らいなさい!」

一度ボールから離れて聖良と二人で蹴る

(オト) 聖良&理亞「アイス・オブ・エデン」

『協力な氷のシュートだああ!!』

(オト) 海未「さあ、止められますか?そっちの穂乃果」

ダイヤ「任せてください!」

『何と!!FWの黒澤 ダイヤゴール前まで戻っていたぞ!!』

ダイヤ「ラ・フラム」

炎の壁をボールに当てる

ダイヤ「……くっなんて力。うわあ!!」

吹き飛ばされる

穂乃果「ナイスだよ！ダイヤちゃんだいぶ威力は落ちた」

穂乃果は構えを取る

穂乃果「愛は太陽V3!!」

太陽で焼き尽くす

穂乃果「……くっ威力は落ちたはずなのに強いうわあ!!」

ボールはゴールポストに弾かれる

『高坂穂乃果はゴールポストに救われた……ああつと!!』

エメラ「なんとなく予想してた!!」

なんと弾いた先にエメラが詰めていた

サニデイジャパン「穂乃果!!（穂乃果さん、穂乃果ちゃん!）」

穂乃果「わ、分かってる!!」

エメラ「……はあ!」

片目を抑えて闇の力をためる

エメラ「シャーク・ザ・デープ!!」

サメの力を纏ってボールを蹴る

穂乃果「!!!絶対に止めるよ」

ゴットハンドVを両手に込める

穂乃果「ゴットハンドW!」

シュートを完全に捉える

穂乃果「うおおおおお!」

(オト) 海未「へえ!!」

バシユウ!!!

穂乃果「・・・止めたよ」

『あぁと!!止めた!!アイス・オブ・エデンに続きシャーク・ザ・ディープをも止めたあぁ!!』

聖良、ツバサ「穂乃果さん!」

にこ、海未「穂乃果!!」

結城「・・・予想外だなこれは」

ことり「ナイス!セーブことりちゃん!!」

穂乃果「うん・・・」

ルビィ「理亞ちゃん・・・私達の出番は近いかもね」

理亞「ルビィ!?!」

ダイヤ「え?穂乃果さんは止めましたよ!?!」

ルビィ「・・・さっきのシュート全然本気じゃない」

サニデイベンチ「!!」

結城「・・・さてと。早いけど行ってもらおうか・・・海未」

(オト)海未「・・・分かりました」

ザッ!

立ち上がる

美奈「くるわね」

(オト)海未「ふふふ、見せてあげますよ私のサッカーを」

第3話 違う世界の園田 海未

『おーつとー！ここでラブライブジャパン

が早くも選手交替です!! F Wの鹿角 理亜に変わってM Fの桜内 梨子!! F Wの

黒澤 エメラに変わって………F Wの園田 海未だあ
!!!!!!』

(オト) 梨子「理亜ちゃん、ナイスシユートだ

ったよ」

(オト) 理亜「ありがとうございます……」

(オト) 梨子「あとは私達に任せて」

エメラ「!!もう交替!?!」

(オト) 海未「エメラ……………」

エメラ「…お願いするわね海未」

(オト) 海未「……………この試合が終わったら。あれやりますからね」

エメラ「!!!」

(オト) 海未「…貴方は決め切れると油断した、だから止められた違いますか?」

エメラ「……………海未の言う通りよ」

(オト) 海未「しっかりとベンチで見てなさい」

『さあ、メンバーが変わったラブライブジャパン!! 1—3—2—2—2—2という見たことのないような陣形です』

(オト) 海未「さてと、楽しみですね」

(オト) 梨子「海未さん、この陣形と言うことはあれを使うつもりですね」

(オト) 海未「勿論です」

(オト) エレナ「しかし大丈夫なのか? いきなり」

(オト) 海未「大丈夫ですよ、相手は強いですから」

美奈「……」

真恋「……（美奈のこんな表情久しぶりにみたかもこんなにも焦っている表情は）」

穂乃果「さあみんな！もう一点取りに行くよ！」

サニデイジヤパン「おお!!」

穂乃果「聖良ちゃん」

聖良「なんででしょうか穂乃果さん？」

穂乃果「笛が鳴ったら聖良ちゃんにパスをするだからあれで中盤まで繋いで欲しい」

聖良「!!分かりました」

『さあサニデイジヤパンのゴールキックから再開です!!』ピイ!!!

穂乃果「聖良ちゃん!!」

聖良にパスが渡る

聖良「いきますよ!!」

ボールに氷を纏わせて高く打ち上げる

聖良「氷の矢!!」

選手の上を通り過ぎて中央まで飛んでいく

英玲奈「ナイスパスだ！聖良」

パスはちょうど英玲奈の頭上に来ており、このまま英玲奈にパスが通ると誰もが思っていた

ルビィ「英玲奈さん!!上です!!」

英玲奈「……………は？」

既に海未がボールを取っていた

(オト) 海未「来ると思っていましたよ、ロングパス」

サニデイジャパン「!!」

美奈「!!嘘でしょ」

『なっ、なんとお!!!ゴール前からのパスが統堂に渡るかと思いきや、園田がカットした!!!』

(オト) 海未「残念でしたね」

英玲奈「くっ！」

英玲奈がスライディングで取り返そうとする

ツバサ「英玲奈!! 落ち着け！」

(オト) 海未「隙だらけですね」

スライディングを躲す

『園田が躲したあ!!!』

(オト) 海未「梨子!!」

後ろにパスを出す

(オト) 梨子「はい!!」

パスが通る

(オト) 海未「皆さん、配置についてますね!! いきますよ!」

ルビィ「!!これはまさか!! みんな離れて!!」

理亞「ルビィ?」

ルビィ「何かあるよ!!」

(オト) 海未「もう遅いです!!」

(オト) 梨子から (オト) 絵里にパス、(オト) 絵里から (オト) 真姫にパス、(オト) 真姫から (オト) 果南にパス、(オト) 果南からエレナにパス、そしてエレナが (オト) 絵里に戻す。これを高速で繰り返し

海未「こ、これは!？」

英玲奈「我々は今」

希「完全に囲まれてるやん」

にこ「……嫌な予感がするわね」

英玲奈、海未、梨子、にこ、ことり、希は6人がパスを回している円の中に入っていた

(オト) 絵里「疲れるわねこれ」

(オト) 真姫「ええ、そうね」

(オト) 果南「使うのは久しぶりだね」

(オト) エレナ 「そろそろフィニッシュだ！」

回し続けた後上に打ち上げる

ルビィ 「!!」

海未 「喰らいなさい!! 必殺タクテイク
ス！」

『だって噫無情』

上に打ち上がったボールを海未が地面に叩きつける

ドゴーーーーーン!!

にこ「なっ！何よ！この威力」

英玲奈「まさかこんなタクティクスがあるとは。うああああ！」

円の中に入っていた6人は吹き飛ばされる

(オト)海未「道が開けましたね」

『な、なんと必殺タクティクス、『だって噫無情』が炸裂したあああ!!!』

美奈「……………恐ろしいタクティクスね」

(オト)海未「一気に行きますよ！」

6人が吹き飛ばされたためゴール前はDF2人とGKを除いてガラ空きになってい

た

美奈「まずい!!」

(オト) 海未がドリブルで上がっていく

あんじゅ「止める!」

海未「……………退きなさい!!」

急にスピードを上げて抜き去る

あんじゅ「!!な、何今の」

『おおっと!? 優希 何も出来ずに抜かれてしまった!!』

聖良「絶対にここは行かせません!!」

(オト) 海未「・・・貴方も氷のDF技持っているんでしょ?」

聖良「!!」

なんと(オト) 海未は既に技を発動させていた

(オト) 海未「スパークエッジドリブル!!」

ボールから火花を散らして相手を吹き飛ばす

聖良「!!早い。うわあああ!」

ついにゴールキーパーと一対一となる

穂乃果「……………打ってきなよ!海未ちゃん!!」

海未「ふふ、穂乃果はどの世界でも熱いですね!!」

シュートの体制に入る

海未「……………でりゃ!!」

凄いスピードでボールに鋭い一閃を入れる

海未「菊一文字!!!」

菊の花から出た鋭いボールがゴールに向かう

穂乃果「止めるよ!!ゴットハンドW!!」

ゴットハンドVを両手に込める

穂乃果「はあああああ!!!」

ボールを捉えるが

(オト) 海未「……………無駄ですよ」

穂乃果「な、なんて威力。うわあああああ!!」

ゴールに刺さる

『ゴ、ゴール!!園田 海未の華麗なる技 菊一文字で一点を返した!!』

ルビィ「……す、凄い。私の”ATF”に近い威力……………いや、同じくらいかも」

理亞「!!そんなことって」

美奈「圧倒的ね、向こうの園田 海未は」

穂乃果「……………す、凄い威力だった」

ことり「穂乃果ちゃん!!」

海未「穂乃果!!」

穂乃果「……………大丈夫だよ、二人とも、それよりも海未ちゃんは大丈夫?」

海未「はい、大丈夫です……………」

にこ「無茶苦茶な事するわね」

英玲奈「……………全く隙がなかった。おそらくあれをされたら止めようがない」

希「しかもそれだけじゃない。ウチとことりちゃんは誘導された」

にこ、英玲奈、梨子「!!」

梨子「誘導されたんですか!？」

希「うん、相手はなんとなくDFの中で私とことりちゃん的能力に気がついたのかも」

月「……………化け物だね、向こうの海未ちゃん」

ダイヤ「……………ええ、ですがまだまだ本気ではないでしょうね

(オト)海未「ふう」

エレナ「ナイスシュートだ海未」

(オト)海未「……………ええ、ですが一瞬私のシュートを止めましたよ」

エレナ、梨子、絵里「!!」

(オト) 海未「……次は止められるかもしれないね」

(オト) 真姫「向こうの穂乃果……とんでもないわね」

(オト) 海未「なにやら不思議な力を持っているみたいですね。技とは違う力を」

絵里「……」

前半15分

サニデイジャパン 1—1ライブジャパン

第4話 圧倒的な実力

『さあ、白熱の戦いとなっています!!開始5分でサニデイジャパンが決めたと思えばラ
ブライブジャパンも一瞬で取り返します!ハイレベルな戦いが繰り広げられています!!』

美奈「・・・ツバサちゃん」

ツバサ「!!!」

美奈「準備……………しといてね」

ツバサ「はい」

ルビィ「……………」

観客席

鬼道「始まっているみたいだな」

佐久間「開始15分で1対1だと!？」

鬼道「……………なに!しかも相手のチームにも月や園田が居るだと!？」

佐久間 「これを見てどう思う善子？」

善子 「……………」

『さあサニデイジャパンボールから再開です!!』
『ピイ!!!』

ダイヤ 「もう一点決めます」

月 「了解」

ダイヤが月にパスを出す

(オト) 海未 「行かせませんよ」

月「(は、速い!!) ウルトラムーン!」

ギリギリで海未を躲した………と思っていたが

(オト) 海未「おっと!」

月「なっ! 一度抜いた筈」

ダイヤ「ま、まさか!! 抜かせて追いついたのですか!?!」

(オト) 海未「ご名答ですよ、ダイヤ」

『ラブライブジャパン園田恐るべし。一度抜かせて追いついたあああああ!』

月「くっ!」

(オト) 海未「喰らいなさい」

海未は手から無数の矢を作り出し相手に投げる

(オト) 海未「アーツドロ―！」

矢で相手の動きを止める、その隙に海未はボールを奪い取る

『な、なんと!! DF技だあ!! ラブライブジャパンの園田恐るべしだあ!!』

月「つつ!! 速すぎる」

『再びラブライブジャパンボールだ!』

(オト) 海未「・・・さてと、梨子!!」

(オト) 梨子「はい!」

(オト) 梨子にボールが渡る

英玲奈 「気をつけるタクティクスかもしれない!!」

(オト) 梨子「と、見せて。エレナさん!!」

エレナ 「ナイスパスだ梨子!」

「ここ」しまった! ガラ空きよ!」

エレナ 「ふっ!」 ぴい!!

エレナは一体一体色が違うペンギンを7匹呼び出す

エレナ 「皇帝ペンギン7!!」

『中盤からのロングシュートだ!!』

「ことり」「止めちゃいます!!」

(オト) 真姫「残念だけどまだ私たちのターンよ!」

「ことり!!」

(オト) 真姫「フォルテシモ!!」

音の旋律を奏でる

『ここでシュートチェインだ!!』

(オト) 海未「シュートチェインはあまり好きではないですけどね」

絵里「まあいいじゃない、相手が強いってことで」

(オト) 海未「……………」

二人の力の合わさったボールがゴールに向かう

梨子「任せて!!」

にこ「やめなさい!! 梨子」

梨子「大丈夫です!! アインザッツ!!」

ボールを蹴り返す

梨子「くっ! 強すぎる……………うあああ!!」

穂乃果「ありがとう梨子ちゃん」

両手をを後ろに下げ力を貯める

穂乃果「ゴツトハンドW!!」

ボールを捉える

穂乃果「うおおおおお!!!」

バシユウ

穂乃果「ふう、止められた」

『と、止めたあああ！シュートブロックがあつたとはいえ2人のシュートを止めたああ
！サニデイジャパンの高坂 穂乃果恐るべし』

(オト) 海未「やはり、そうではなくては」ニヤリ

穂乃果「反撃!!行くよ!」

穂乃果は英玲奈にパスをする

英玲奈「任せろ!」

エレナ「行かせない」

英玲奈「私対私か」

エレナ「私は負けないけどな」

英玲奈「誰が勝負するっていった？」

エレナ「!!」

英玲奈は既にパスを出していた

にこ「ナイスパスよ！英玲奈!!」

『ここでも矢澤がボールを持ったぞ!!』

(オト) 果南「にこがMFか考えられないなあ」

にこ「……………果南、かかってきなさい」

(オト) 果南「遠慮なく行くよ!!」

果南はにこのボールを取ろうと詰める

にこ「ふん」

(オト) 果南「!!取れない」

にこ「そんなんじやいつまで経っても取れないわよ」

(オト) 海未「舐められたものですね!」

にこ「……………無駄よ」

海未が加わるがにこからボールを取ることが出来ない

(オト) 海未「なんてキープ力！」

にこ「・・・甘いわね」

『矢澤、とんでもないわねキープ力で二人をねじ伏せている』

花丸「・・・マルもいくズラ」

ついににこに3人目が詰めに行く

(オト) 海未「花丸!!来てはダメですよ!!!」

にこ「もう遅いわ!ファンタスティックキープ」

『ここで矢澤のファンタステックキープだ!!!』

(オト) 海未「くっ!こっちのには凄いキープ力ですね」

にこ「ダイヤ!!決めなさいよ!」

ゴール前のダイヤにパスをする

ダイヤ「任せてください!!」

『黒澤が一気にゴール前だ!!!』

(オト) 曜「これ以上は絶対に決めさせないよ!!ダイヤさん」

ダイヤ「フェニックスペンギンはおそらく対策をしてくるでしょう。ならば!!」

ダイヤはラ・フラムの熱を左足に込める

ダイヤ「うおおおお！マキシマムファイア!!!」

『「ここ」で！マキシマムファイアだああ!!』

(オト) 曜「・・・違う技で来ると思ってたよ!!ダイヤさん」

曜はステップを踏み、下から激流を呼び起こさせる

(オト) 曜「AQUARIUM!!」

水の壁が出現する

ダイヤ「!!」

(オト) 曜「……………」

ダイヤの放ったマキシマムファイアはゴールに入ることなく水の壁に止められる

ダイヤ「嘘でしょ……………」

『とっ止めたあああああ！渡辺が黒澤の最高の技マキシマムファイアをAQUARIUMでねじ伏せた!!』

ダイヤ「……………そ、そんな」

(オト) 曜「強かったよ。ダイヤさん、けどあれでは私のAQUARIUMの壁は超えられない」

ダイヤ「つつ!!」

(オト) 海未「曜！パスです!!」

(オト) 曜「了解!!海未さん!!」

海未にパスをする

(オト) 海未「さてと、ここでもう一点決めるとしましょうか」

相手のゴールへドリブルで上がっていく

にこ「行かせないわよ!!」

にこが立ちはだかる

(オト) 海未「……………邪魔です」

超高速で移動する

ルビィ「!!それは」

(オト)海未「……………スプリントワープ」

『園田のスプリントワープだあああ!!あまりの速さに誰もが止まってしまっているぞ
!』

(オト)海未「……………絵里!真姫!」

絵里「あ、あれをやるの!?!」

真姫「分かったわ。やりましょう」

穂乃果「(ぞくつ)く、来る」

(オト) 海未「ハアアア!!」

ボールに闇の力を込める

(オト) 海未「うらあああああああ!」

ボール蹴り上げて空中ボールを乱打乱打乱打

(オト) 海未「せい!」

一回転して蹴った後

足に力を込める

(オト) 絵里と真姫の同様に力を込める

そして力をため終わり、絵里は左足、真姫は右足、海未はかかと落としでボールを蹴る

(オト) 海未&真姫&絵里「うおおおおお！ soldier strike」

『とんでもない威力のシュートだああ!!』

3人のシュートがゴールに向かう

希「なんてい、うわああああ！」

聖良「こんな威力今まで!!」

DFの4人を吹き飛ばしてゴールに向かう

穂乃果「……………!!」

海未「ま、まさか！闇の力を全開にするつもりですか！やめてください！！穂乃果！！」

ホノカ「……………トメテミセル!!」

ゴットハンドVを両手に込める

ホノカ「ゴットハンドW!!!」

(オト) 海未「へえ、さつきより力が増してますね。けど

それでは止められませんよ」

ホノカ「……………！ごめん、止められないや」

穂乃果はボールと共にゴールへと押し込まれた。

サニデイ 1対2 ラブライブ

第5話 海未の覚悟と銀色の力

『さあ、ラブライブジャパンが連続で得点しリードしているぞ!!そしてさらにラブライブジャパンの猛攻が続いているぞ!!』

英玲奈「ハアハアハア、まずいな。このままではもう一点取られるぞ!？」

海未「一点どころではないでしょう……今穂乃果はボロボロです。たとえ向こうの私のシュートじゃないにしても止めるのは無理です」

穂乃果「……………」

にこ「……………穂乃果」

海未「絶対にシユートンを打たせないようにしましょう!!」

ダイヤ「そうですね」

美奈「……………みんな今は耐えて」

ツバサ「前半まだ10分ありますよ!!大丈夫なんですか?」

美奈「……………皆んなには踏ん張ってもらおう。そして後半!!ツバサちゃん、理亞ちゃん、ルビィちゃん!行ってもらおうよ!」

ツバサ、理亞、ルビィ「!!はい!」

真恋「……………美奈。穂乃果ちゃんは？大丈夫なの!?ボロボロよ!」

美奈「……………」

真恋「美奈!!」

美奈「……………耐えてもらう。後半もキーパーをして貰うために、向こうの海未ちゃんのシュートを止められるのはあの子しかない」

真恋「……………頑張つて穂乃果ちゃん」

(オト) 海未「……………」

ドリブルで攻め上がる

(オト) 海未「残り10分くらいですね、ならば) 皆さん!!もう一点取りに行きますよ

!!
」

ラブライブジャパン「おお!!」

海未「皆さん!!絶対に守り切りますよ!」

サニデイジャパン「おお!!」

『白熱する両チーム!!前半も残りわずかです』

(オト)海未「真姫!今ゴールガラ空きですよ!!」

(オト)真姫「……………了解」

(オト) 海未「真姫!!」

真姫にパスをする

(オト) 真姫「行くわよ!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

(オト) 真姫「p s y c h i c A r t s !!!」

回転したボールを上打ち上げる

真姫「p s y c h i c A r t s !!」

ルビィ「真姫ちゃん!？」

真姫「……………いや、何でもない」

海未「させませんよ!!スピニングフェンス」

海未は風を起こしてpsychic Artsを止めようとする

海未「はあああああああああ!」

真姫「まさか!」

海未「……………」

『と、止めたあああああ!西木野のpsychic Artsを園田のスピニングフェンスで止めた!!』

真姫「!!そんな私の P s y c h i c A r t s が」

(オト) 海未「そっちの海未はチームの芯ですね!!」

すぐさまカットした海未のボールを狙う

海未「!!来ましたね。」

海未同士でぶつかり合う!?

(オト) 海未「……………思っていたよりも強いですねそっちの海未!!」

「海未「私に褒められるなんて光栄ですね！」

「ここに「海未!!!」

穂乃果「……………海未ちゃん」

海未「穂乃果!!……………ふふ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
はあああああああ!風神の舞!!」

(オト) 海未「あははははははは、最高ですよそっちの私!! アーツドロー!!」

技と技がぶつかり合う

海未 「はあああああああああ！」

(オト) 海未 「はあああああああ！」

穂乃果&ことり 「海未ちゃん
!!!!!!」

海未 「……………」 フツ

海未 「うあああああああ！」

(オト) 海未 「!!」

(オト) 海未を吹き飛ばす

海未 「ハアハアハア」

穂乃果、ことり 「海未ちゃん!!」

海未 「あとは頼みますよ……………」

ここにパスをする

にこ 「……………任せなさい!!」

『ここにサニデイジャパンが一步抜け出したあああ!!』

(オト) 海未「止めてください!!」

(オト) ことり「止めちゃいます!!」

にこ「……………英玲奈!!」

英玲奈にパスをする

英玲奈「(どうする、DFは全員いる。しかもそれを突破してもキーパーに向こうの渡辺が居る)」

(オト) 花丸「隙ありズラ!!」

英玲奈「!!梨子」

スライディングでカットされそうになるがギリギリでパスをする

(オト) 花丸「!!」

梨子「ナイスパスです! 英玲奈さん」

あんじゅ「行かせないわよ」

梨子「(どうするの、ここで同点にしてルビイちゃんと理亞ちゃんに繋げないといけないのに)」

海未「梨子!!」

梨子「海未さん!!」

穂乃果&ことり「海未ちゃん!!」

海未「ください!!」

梨子「お願いします！海未さん」

海未「……………」（後のことはもう考える場合ではない今は絶対に同点にしなければ）」

聖良「……………止めますよ」

海未「……………」

ダイヤ「海未さん!!」

（オト）聖良「しまった!!」

海未「……………ダイヤ!!」

ダイヤにパスをする

ダイヤ「よつと!」

海未「……………!!見つけましたよひとつだけ」

ダイヤ「……………本当ですか!?!」

海未「ええ、成功するかは分かりませんが。試してみる価値はあると思います」

ダイヤに作戦を伝える

ダイヤ「!!成る程それはいけるかもしれないね!」

ダイヤは後ろに下がる

海未は曜と一対一だ

(オト) 曜 「次は海未ちゃんか。止めるよ!」

海未 「これを止められますかね?」

手を上に掲げ雷雲を発生させて海未はその中に回転しながら入っていく

そして雷雲の力のボールを蹴る

海未「天地雷鳴!!」

(オト) 曜「す、凄い力だね。でも無駄だよ!」

ステップを踏み、下から激流を呼び起こす

(オト) 曜「AQUARIUM!!」

水の壁を出現させる

(オト) 曜「水で飲み込むからね!!」

だか、シュートはゴールに向かっていなかった

(オト) 穂乃果「!! 曜ちゃん狙われてるよ!」

(オト) 曜「狙われてる?.....!!」

海未が放った天地雷鳴はゴールではなく

ダイヤの方に向かっていた

(オト) 曜 「!!まさかもうAQUARIUMの秘密を!!」

海未「AQUARIUMは強力な水の壁でどんなシュートも飲み込んでしまう……
ですが少し経てば水の勢いは弱くなる。だからあえてAQUARIUMを使わせるこ
とによって隙を作る!」

ダイヤ「行きますわよ!」

ダイヤはラ・フラムの炎を左足に込める

ダイヤ「これで同点です。マキシマム「バシユン
!!!!!!!」

この時信じられないことが起きる。

海未の天地雷鳴はダイヤへのパスであり。AQUARIUMを誘発させるものであつた。

誰しもが同点になるそう思っていた

が。
しかし

ラブライブジャパン
!!!
」

サニデイジャパン
!!!
」

(オト) 真姫「……………」

真姫が天地雷鳴のダイヤへのパスをカットしたのであった

海未「!!」

ダイヤ「つつ！」

ダイヤは真姫からボールを取るために背後スライディングをする

(オト) 真姫「……………」

またもや信じられないことが起こる

ダイヤ「なっ！嘘でしょ……………」

(オト) 真姫は背を向けたまま、空中で回転しダイヤのスライディングを躲したのである

(オト) 真姫 「……………」

海未 「……………な、何が起こってるのですか!？」

(オト) 海未 「……………真姫貴方いったい?」

結城 「……………!!」

(オト) 真姫 「……………」

真姫はドリブルで上がっていく

英玲奈 「梨子！にこ！にこ！3人で行くぞ」

梨子 「はい！」

にこ 「ええ！」

3人で3方向からスライディングをする

(オト) 真姫 「……………」

普通ならば躲せない筈だが……………今の真姫には関係ない

英玲奈、梨子、にこ「!!」

(オト) 真姫「……………」

真恋「な、何よあれ」

美奈「……………まさかあれは!!」

(オト) 真姫「……………」

4人を躲してドリブルで進む

聖良「これ以上は進ませません!!スノーエンジェル!!」

真姫に向かって氷がいき、寸前までいくが……………今の真姫は氷も躲す

(オト) 真姫「……………」

聖良「!!そんなスノーエンジェルが躲された!?!」

あんじゅ「絶対に止める!!」

あんじゅは嫌な予感がし、既に後ろで準備をしていた

(オト) 真姫「……………」

あんじゅ「ジャツチメントレイ！」パチン！

指を鳴らして上空に不気味な紋章を実現させてそこから無数のレーザービームを放つ

ビュン！ビュン！ビュン！ビュン！

ドガアン！ドガアン！ドガアン！

（オト）真姫「……………」

だが真姫は全てを滑らかな身のこなしで躲す

あんじゅ「まさか、ジャツチメントレイの軌道が分かっているの!？」

ツバサ「あんじゅのジャツチメントレイが躲された!!そんな事有り得ない」

(オト) 真姫「……………」

真姫はあつという間に8人を抜き去る

穂乃果「くっ、来なよ！真姫ちゃん」

(オト) 真姫「……………」

バ
シ
ユ
ン
!!!!!!!

穂乃果「……………え？」

穂乃果が後ろを見ると……………既にボールがゴールに入っていた

(オト) 真姫 「……………」

そしてポジションに戻る真姫の目からは少し銀色の輝きを放っていた

第6話 無考の極意

『……………何が起こったんだ!? 一瞬の間に8人を抜き去ってそして気がつけばボールはゴールにささっていたぞ!』

(オト) 真姫「……………」

(オト) 海未「……………真姫貴方の身に何が起こったのですか?」

(オト) 真姫「……………」

観客席

鬼道「な、なんだ今の」

佐久間「次元がまるで違いすぎる」

善子「……………まさか。あれは」

穂乃果「くっ！くそおおおおお！」

地面に拳を叩きつける

『ピッ!!ピッ!!ピーーーーイ!!ここで前半が終了だ!終了間際2―2になると思いきやまさかのラブライブジャンの追加点!!1―3となった!!果たして後半は逆転する』

事が出来るのか!!!』

結城「……………真姫こっちに来い！」

(オト) 真姫「……………」

海未「……………な、なんて強さなんです……………か」ドサツ!

穂乃果&ことり「海未ちゃん!!」

にこ、英玲奈「海未!!」

穂乃果&ことりが海未に近づく

(オト) 海未「……………」

海未「」

(オト) 海未は海未を持ち上げる

穂乃果「あ、ありがとうそっちの海未ちゃん」

(オト) 海未「……………そっちの世界の海未は面白いですね」

ことり「え？」

(オト) 海未「……………後半も期待していますよ」

(オト) 海未は海未を穂乃果に渡す

(オト) 海未「……………」

ラブライブジャパンの選手はみんなスタジアムに入っていく

結城「美奈さん」

美奈「結城さん？」

結城「少し後半までに時間を欲しい。ハーフタイムくらい、いやもう少しかかるかもしれないいいですか？」

美奈「問題ないですよ」

結城「ありがとうございます」

そう言うのと真姫を連れてをスタジオの中に入っていく

穂乃果「……………あつちの海未ちゃん。様子が変だよね？」

ことり「う、うん」

海未「」

美奈「みんな！全員集合よ！」

サニデイジャパンは全員集合する

穂乃果「海未ちゃんはベンチに寝かせてあるないと」

ベンチに寝かせる

真姫「……………私に任せなさい。穂乃果貴方は美奈さんの指示を聞いて」

穂乃果「うん、わかった」

真姫「……………」ギリツ

美奈「みんな！前半お疲れ様」

月「……………美奈さんどういことなんですか？何故違う世界の日本代表がこの世界に？」

美奈「……………私も詳しくはわかってないの。まして時空を超えてきているなんて予想外、予想なんて出来るわけない」

サニデイジャパン「……………」

美奈「……………ごめんなさい、世界に行く前にこんな無謀な試合を組んでしまつて」

頭を下げる

美奈にとって想定外の事が3つあった。

一つは敵が違う世界の彼女達という事

二つはラブライブジャパンとサニデイジャパンでは実力が違いすぎる事

三つは自信をつけさせるつもりが逆に自信を砕く結果になってしまっている事

穂乃果「頭をあげてください！監督」

美奈「穂乃果ちゃん……………」

穂乃果 「私はワクワクしてますよ！」

美奈 「!!!」

穂乃果 「違う世界の私達は強いです。けどそれ以上に強い相手と戦えて私は楽しい
!!」

美奈 「穂乃果ちゃん……………」ポロポロ

千歌 「お母さん!!穂乃果さんの言う通りだよ!こんなに面白い試合はないよ!」

美奈「千歌……………」

穂乃果「だから！後半の指示をお願いします！監督」

美奈「……………本当に最高ね。貴方は……………ごめんなさい私が諦めていたわ」

立ち上がる

美奈「それでは。ラブライブジャパンに勝つために！後半の話をするわ！」

サニデイジャパン「はい！」

美奈「まず GKは穂乃果ちゃん！お願いね！」

穂乃果「はい！」

美奈「そして、DFは3人で行くわ！希ちゃん、聖良ちゃん、ことりちゃん引き続きお願いね」

希、聖良、ことり「はい!!」

美奈「あんじゅちゃん、ありがとう！次の試合もお願いね」

あんじゅ「はい！」

美奈「そしてMFは海未ちゃんと変わって千歌！出番よ！」

千歌「うん!!」

美奈 「梨子ちゃん、にこちゃんは引き続きお願いね！」

梨子、にこ 「はい!!」

美奈 「そして月ちゃん、MFお願いしてもいい？」

月 「!!任せてください！」

美奈 「それじゃあ英玲奈ちゃんと交代よ」

英玲奈 「月任せたぞ」

月 「任せてよ！」

美奈「……………そしてFW。ポジションを変えた月ちゃんとダイヤちゃんに変わって……………ルビイちゃんと理亞ちゃん！そしてツバサちゃん！スリートップでお願いね！」

ツバサ「任せてください！」

月「理亞ちゃん、あとはよろしくね」

理亞「はい！任せてください！」

ダイヤ「……………ルビイ。お願いします」

ルビイ「任せてお姉ちゃん！」

ダイヤ「あの壁をぶち破ってください」

ルビィ「うん、ルビィも同じこと考えてたよ。真正面からあの壁をぶち抜くよ！」

美奈「後半まずは！2点返すわよ！」

サニデイジヤパン「おーーー！」

ラブライブジャパン
控え室

エレナ「3—1か……………」

(オト) 果南「予定よりも取れなかったね」

エレナ「ああ、というか一点入れられたのもびつくりだな」

(オト) 曜「……………シユートがあんなに急にコースを変えられるなんて予想できる!？」

絵里「並大抵では出来ないことは確かだね」

(オト) ことり「それに向こうの海未ちゃん凄かったな」

(オト) 穂乃果「うん！私も思った！なんだが向こうの芯というか。覚悟を持ってるし」

(オト) ことり「どの時代でも凄いね海未ちゃんは」

(オト) 海未「それをいうなら穂乃果もですよ！」

(オト) ことり「そうだね！向こうの穂乃果ちゃん凄かったよね！」

(オト) 穂乃果「うん、それに不思議な力を持っているよね！」

(オト) 海未「ええ、ですが常に使用する事は出来ないようです。それでも強力な事に変わりはないですが」

(オト) 穂乃果「そうだよね……………」

(オト) 梨子「……………海未さん」

(オト) 海未「梨子? どうしました?」

(オト) 梨子「驚きましたよ、まさか海未さんが始めから『だって噫無情』を使うなんて」

(オト) ことり「確かに! いつもは終盤でしか使わなかったのに」

(オト) 海未「……………純粹に向こうの穂乃果の実力が知りたかったので」

(オト) 梨子「そうだったんですね」

(オト) 海未「思っていたよりも強かったので嬉しかったですよ」

(オト) ツバサ「監督遅いわね」

エレナ「真姫……………」

あんじゅ「真姫ちゃんあの変化は？なんなの？」

(オト) 穂乃果「真姫ちゃんに急に凄くなったよね」

絵里「そうね、あんな真姫見た事ないわ」

(オト) 海未「……………目が銀色に輝いていました」

一同「!!!」

(オト) 海未「あれは一体なんだったのでしょうか……………」

別室

結城「……………」

(オト) 真姫「……………」

結城「(なんだこの変化は?今までこんな真姫を見たことない。それにあんな身のこなし普通では出来ない。とはいえゾーンでもない。いくら真姫クラスのゾーンでもそんなに素早くなる事はない、それに後ろからのスライディングを回転して避けるなんて普通ではない。これだけならいいんだが真姫は明らかにコントロールが出来ていない。その証拠に今も目は銀色に輝いてる。体の負担も恐らく)」

(オト) 真姫「!!!」プチン!!

真姫の中で途絶える音がした

(オト) 真姫「……………」ハアハア

真姫から凄みが消え、目の銀色の輝きも消える

結城「!!!大丈夫か真姫!」

(オト) 真姫「……………ゆ……………うきさん」ガクッ

膝をつく

結城「真姫!!」

(オト) 真姫「ふふ……自分でもよく分からなかった。体が無意識に反応して、それに真正面しか見ていなくても後ろからのスライディングも感じる事が出来た。とんでもない……です」

結城「無意識に反応……」

(オト) 真姫「はい……」

結城 「キツカケは P s y c h i c A r t s を止められた時か？」

(オト) 真姫 「……………そうですね。あの時何か切れる音がしたんです。そこからは何も考えなくても体が反応して……………」

結城 「……………そうか。分かった」

(オト) 真姫 「……………」 ドサツ

結城 「真姫!!」

(オト) 真姫 「」

結城「……………ご苦勞様。真姫」

真姫を背負ってラブライブジャパンの元に向かう

ラブライブジャパン控え室

(オト) 海未「……………遅いですね」

(オト) ことり「うん、監督もわからない顔してたから」

(オト) 穂乃果「でも本当に凄かったよね真姫ちゃん」

絵里「確かにそうね」

(オト) 聖良「確かに凄かったですか……………何かデメリットがあるんじゃないんですか？」

(オト) 穂乃果、ことり、絵里「!!!」

エレナ「私もそれを考えていた。例えばコントロールが効かないとか」

(オト) ツバサ「十分あり得るわね」

(オト) 希「……………」

(オト) ダイヤ「そうですね。見た感じでは体力が大量に持っていけると思うので
す」

(オト) 海未「それは間違いなさそうですね」

ガチャ

結城「待たせたなみんな」

ラブライブジャパン「監督!!」

結城「……………後半についてのミーティングを始める、とその前に真姫を頼む」

(オト) 穂乃果、ことり、梨子、千歌、曜「真姫ちゃん!!」

海未、絵里、にこ、エレナ、ツバサ「真姫!!」

真姫「」

聖良 「結城さん真姫さんは大丈夫なんですか!？」

結城 「心配するな、気を失っているだけだ……………」

あんじゅ 「よかった……………」

真姫を背中から下ろす

(オト) 海未 「監督真姫の身に何が起きたのですか?」

結城 「……………俺も詳しくは分からない。本人は体が無意識に動くと言っていた」

(オト) ツバサ 「無意識に動く?」

結城「無駄な考えがなくなって動きの無駄がなくなる。そう真姫は言っていた」

(オト) 理亞「……………とんでもない状態」

エメラ「……………」

(オト) 希「……………真姫ちゃんのあの状態もしかしたら」

絵里「希？」

(オト) 希「無意識に動き、考えがなくなる。一見単純のようで単純ではない事や。人は常に何かを考えて生きているから、それでもなお考える事なく体を動かせたと言うのな

ら。真姫ちゃんは目覚めたのかもしれない。無考の極意に」

「真姫の状態が無考の極意と判明した。そしてなぜ希が知っているのか？」

第7話 ダブルエースフィールドに立つ

結城「無考の極意だ!？」

(オト) 希「はい、この前あるバトル漫画を見ていたんですが。その中で真姫ちゃんと似たような状態になってる人がいたのでそれじゃないかと……………」

(オト) 海未「なるほど、無意識で考える事なく動く……………納得がいきますね」

絵里「で、でもなんで真姫は急に」

(オト) 希「真姫ちゃんは悩んでいたんや己の力の無さに。優勝できたのもみんなのおかげ。私は何も出来ないってずっと悩んでいた。きつと焦りと自分自身への怒りが産んだ状態だと思っやんや」

(オト) ツバサ「……………そして向こうの海未に止められた事がスイッチになった……………そういうことね」

(オト) 希「うん、そうやとウチは思う」

ラブライブジャパン「……………」

(オト) 真姫「……………」

真姫は起き上がる

穂乃果「真姫ちゃん！」

ラブライブジャパン「!!」

(オト) ことり「ダメだよ！真姫ちゃん！寝てないと！」

(オト) 真姫「……………大丈夫よことり。それよりもみんなごめんなさい。倒れてしまつて」

(オト) 海未「謝ることなんてないんですよ？むしろこちらが謝るべきです。一点と止める事が出来たのも決める事が出来たのも真姫貴方のおかげですから。それに私達はあなたの悩みに気づけていなかった」

エレナ「そうだとぞ真姫」

(オト) 真姫「……………みんな」

結城「真姫さっきの話聞いていたのか？」

真姫「……………ちやうど無考の極意あたりから聞いていました」

結城「そうか……………自分で発動させる事は出来るのか？」

(オト) 真姫「……………多分無理です。」

結城「……………そうか。みんな、いろいろ思う事はあると思うが後半がまだ残ってる
油断する事なく戦い抜くんだいいな？」

ラブライブジャパン「はい!!」

そして数十分が経つ

『色々両チームにアクシデントがあつたようですが後半を始めたと思います!!』

サニデイジャパン

F W …… 黒澤 ルビィ、綺羅 ツバサ、鹿角 理亞

M F …… 渡辺 月、矢澤 にご

M F …… 高海 千歌、桜内 梨子

D F …… 東條 希、鹿角 聖良、南 ことり

G K …… 高坂 穂乃果

ラブライブジャパン

F W …… 園田 海未、綺羅 ツバサ

M F …… 高海 千歌、桜内 梨子、松浦 果南

M F …… 統堂 エレナ

D F …… 南 ことり、国木田 花丸、優希 あんじゅ

D F …… 矢澤 にご

G K……………渡辺 曜

(オト) 海未「……………」

(オト) ツバサ「貴方と二人でFWやるのは久しぶりね」

(オト) 海未「確かにそうですね」

(オト) ツバサ「そして、相手は」

相手のコートを見る

ルビイ&理亞「……………」

(オト) ツバサ「サニデイジャパンのダブルエースってところかしら？」

(オト) 海未「ふ、楽しみですね」

エメラ「……………」

ダイヤ「……………エメラ」

エメラ「向こうのルビイがどれほど凄いのか楽しみですだね姉様」

ダイヤ「そうですわね」

(オト) 穂乃果「……………ルビイちゃん」

サニデイジャパンコート

ルビィ「……………」

理亞「ルビィ。一点すぐに返しましょう」

ルビィ「うん、私もそうしようと思ってたよ」

ダイヤ「(お願いします理亞さん、ルビィ)」

『さあ、いよいよ後半戦スタートです!!』ピィ!!

(オト)海未「……………行きます!」

隣のツバサにパスをする

(オト) ツバサ「さあ行きましょう！」

ツバサがドリブルで上がっていく

ルビィ「はあああ！」

スライディングを仕掛ける

(オト) ツバサ「甘いわよ！海未！」

海未にパスをする

ルビィ「……………」

(オト) 海未「……………若干空いてますね。ならばいきます！」
海未はボールと共に上空へ。ボールの周りにはオーラが集まり、鋭く、尖る

千歌「!!その技は」

ことり「海未ちゃんの!!」

穂乃果「ラブアローシユート!!!」

(オト) 海未「へえ、そっちの私も使うようですね……………けど同じだと思ったら痛い目を見るかもしれませんよ!」

シユートを打つ

(オト) 海未「ラブアローシユート!!」

シユートを放つ

穂乃果「!!成る程そっちはそういうタイプか」

そう言つてゴットハンドVを両手に込める

穂乃果「うおおおお！ゴットハンドW!!!」

バチイ!!

穂乃果「……………ふう、止めたよ」

「と、止めたあ後半開始早々真ん中からのラブアローシユートを見事にキャッチしたく
!!!!」

穂乃果「……………重い。速さより重さを重視したラブアローシユートだね」

(オト) 海未「……………やはり止めますか」ニヤ

(オト) ツバサ「楽しそうね」

(オト) 海未「楽しいに決まってるじゃないですか。でもここからですよもっと楽しくなるのは！」

穂乃果「みんな反撃だよ！」

穂乃果がボールを蹴る

にこ「行くわよ！」

にこがドリブルで上がっていく

(オト) ツバサ「行かせないわよ」

「ここ」なら取って見なさい」

(オト) ツバサ「じゃあ遠慮なく!」

「ここ」無駄よ!」

「ここはツバサが来るがボールを触らせない

(オト) ツバサ「!!なにこれ」

「ここ」ここからボールを取れると思ってるの?」

「ここはツバサを躲す

(オト) ツバサ「!!」

『矢澤が綺羅を躲した!! 矢澤からボールを取るのはやはり難しいか?』

にこ「さあ!!いきなさい!ダブルエース!」

にこは理亞にパスをする

ルビィ「理亞ちゃん行くよ!」

理亞「了解」

(オト) 海未「!!あの構えは」

しゃがんだ状態で足に力を込める。今にも前に倒れそうぐらい、前のめりになりながら

ルビィ&理亞「スプリントワープGX」

一気にDFを抜き去る

(オト) 海未「曜!」

(オト) 曜「うん、任せて!!」

理亞「挨拶がわり行くわよ!」

ルビィ「了解!」

理亞は狼がボールを連続で引き裂くが如く、連撃を加える

理亞「ウルフ!」

ルビイは理亞が蹴ったボールを追って、ルビイも足に炎を溜めて飛び上がる

ルビイ「トルネード!!!」

『二人の協力的なシュートの合体!! オーバーライドだああ!!』

聖良「!!あの二人」

ダイヤ「いつの間にオーバーライドを!!」

(オト) 曜「……………はは、とんでもない威力……………けど水の壁は超えられないよ!!」

曜はステップを踏み、下から激流を呼び起こさせる

(オト) 曜「AQUARIUM!!」

協力なシュートを壁で止める

(オト) 曜「……………くっ、なかなか強いね」

バシユウ！

『と、止めたあああ！鹿角と黒澤のオーバーライドシュートを水の壁で止めた!!』

(オト) 曜「……………いいシュートだったよ！けどそれじゃあ私のAQUARIUMは突破出来ないよ」

ルビィ「……………AQUARIUMは正面から突破する。小細工はなしで！」

理亞「奇遇ね私も同じ事を考えていた」

ついに始まった後半果たしてどうなるのか？

第8話 究極のシュート

自分達のコートに戻りながら言う

ルビイ「……………理亞ちゃん」

理亞「……………なに？」

ルビイ「あれ使うね」

理亞「あれ？……………」

ルビィ「ラストリゾート」

理亞「その技は!!」

ルビィ「確実に1点を取るため……………だからお願い」

理亞「……………」

ルビィ「理亞ちゃん!!」

理亞「……………分かったわ。それにアンタの狙い分かった。ATPは温存しろって事でしょ?」

ルビイ「ありがとう理亞ちゃん!」

理亞「そのかわり絶対に決めなさいよ」

ルビイ「もちろん!絶対に決めるよ」

(オト) 曜「……………」

(オト) ことり「曜ちゃん!」

(オト) 曜「ことりちゃん！」

(オト) ことり「さあ！行くよ〜」

『なんと！DFの南が上がっていく!!』

梨子「行かせない！」

(オト) ことり「なら、力づくで通っちゃいます！」パチン!!

ことりは指を鳴らす

(オト) ことり「ワンダーゾーン!!」

梨子「!!」

梨子は危険を察知して止まろうとするが

(オト) ことり「逃がしません!!」

ことりが範囲内に梨子を入れる

梨子「!!」

梨子は身動きが取れなくなる

(オト) ことり 「少し止まっててください!」

梨子 「な!これは」

ことり 「!!まさかワンダーゾーンを動きながら使用しているの!」

聖良 「!!そんな事が出来るんですか!」

ことり 「ことりはあんなの出来ない、動きながらのコントロールがまだ出来ないから
……………相手はコントロールが完璧という事!!」

穂乃果「……………やっかいだね。動くワンダーゾーン」

(オト) ことり「……………でも、疲れるからね。千歌ちゃん！」

(オト) 千歌「はい！」

ことりからのパスを受け取る

(オト) 千歌「行くよ!!」

千歌「行かせない!!」

(オト) 千歌「そっちの千歌!!」

千歌「ここから先は行かせないよ！」

(オト) 千歌「……………そよ風ステップ」

相手の横をまるで風かのように通り過ぎる

千歌「!!」

(オト) 千歌「隙だらけだよ！」

(オト) ツバサ「千歌!!」

(オト) 千歌「ツバサさん！」

(オト) ツバサ「ナイスパスよ！千歌」

千歌のパスかツバサに渡る

(オト) ツバサ「さあ、見せてあげるわ違う世界のツバサの力を！」

『おおっと！ラブライブジャパン一気にゴール前まで来ているぞお!!』

聖良「させませんよ！」

ガキン!!!

聖良「……………スノーエンジェル」

『と、止めたあああ！ゴール前まで来たいた綺羅を鹿角がスノウエンジェルで凍らせてぞ!!』

(オト) 海未「……………」

聖良「さて、ボールを」

パキン!!

(オト) ツバサ「……………」

聖良「なっ！」

(オト) ツバサ「残念だったわね聖良」

『な、なんと綺羅！スノウエンジェルをまともに受けたがもろともしていない!!』

(オト) ツバサ「返してもらおうわよ」

スライディングで聖良からボールを取る

(オト) ツバサ「……………さてと、今度こそ邪魔は居ないわね」

シュートを打つ

(オト) ツバサ「……………はっ！」

ボールを蹴って2つにしてボールを上打ち上げる、そしてツバサもそれに追いつくように飛び上がる

(オト) ツバサ「ダブルショット!!」

2つのボールを両足のオーバーヘッドで蹴る

穂乃果「……………」

(オト) ツバサ「目をつぶっている？」

穂乃果「はあああああああああ！」

ゴットハンドVを両手に込める

穂乃果「ゴットハンドW!!」

止めようとする

穂乃果「!!っ、強い」

穂乃果は圧されている

(オト) ツバサ「……………残念だけど。貴方には止められないわ」

(オト) 穂乃果「く、うううう止めないと！私が！「穂乃果さん！」!!」

なんとルビイが穂乃果を後ろから支えていた

穂乃果「ルビイちゃん!!」

ルビィ「……………止めますよ！」

穂乃果「うん！はあああああああ！」

（オト）ツバサ「……………嘘でしょ」

穂乃果&ルビィ「……………」

穂乃果は（オト）ツバサのシュートを受け止めていた

『と、止めたあああ！シュートで押し込まれると思いきや後ろから黒澤が高坂を支えて

ゴールになるのを阻止したあああ！』

穂乃果「ハアハアハア、ありがとうルビイちゃん」

ルビイ「はい！……………穂乃果さんボール渡してもらっていいですか？」

穂乃果「うん……………まさか、ここから攻めるつもり？」

ルビイ「……………はい、絶対に1点返します」

穂乃果「……………わかった。任せるよ！」

ルビイにボールを渡す

ルビイ「……………行くよ」

ルビイは髪留めを外す

(オト)海未「髪留めを外した？」

ルビイ「……………」

ダイヤ「……………使うのですわね」

真姫「……………やりすぎちゃダメよルビィ」

(オト) ツバサ「コート上で髪留めを外すなんて余裕ね！」

ルビィにスライディングをしかける

だが

(オト) 海未「!! ツバサ危ないです！」

(オト) ツバサ「あ、熱い!!」

(オト) ツバサはスライディングを途中で止める

ルビイ「髪留めを取らないと焼け焦げちゃうから……………」
「ゴゴゴゴ

エメラ「……………」

(オト) ダイヤ「……………」

(オト) 海未「!!何ですか、その姿」

ルビイの髪は揺れ、赤い巨大なオーラを放っていた。目も赤くなっている

ルビイ「ATP!!ここから反撃だよ！」

エメラ「!!なっ」

(オト)ダイヤ「……………とんでもないエネルギーですね」

ルビイ「……………」ゴゴゴゴ

(オト)ツバサ「凄い熱量ね。けどそれだけでは無意味だよ！」

もう一度、スライディングを仕掛ける

ルビイ「……………」ゴゴゴゴ

スカッ

(オト) ツバサ「なっ！」

ルビイ「……………まず一人」

(オト) 海未「!!あのスレスレでスライディングを躲した!？」

そして一気に真ん中までボールを運ぶ

ルビィ「……………」

(オト) 海未「つつ!!なんて熱さと速さですか!？」

(オト) ことり「……………」

ルビィ「……………」やっぱり面倒だなワンダーゾーン」ゴゴゴゴ

理亞「ルビィ!!」

ルビイ「……………理亞ちゃん！」

理亞にパスを出す

(オト) 海未「なっ！ここでパスですか!?!」

(オト) 曜「ことりちゃん!!」

(オト) ことり「任せて！」

理亞「……………」

聖良 「理亞！無茶です！」

理亞 「はあああああああああ！」

理亞は突っ込んでいく

(オト) ことり 「ワンダーゾーン!!」

(オト) ことりはワンダーゾーンを発動させる

(オト) 海未 「……………!!しまったことり！それは罠です!!」

理亞「さあ、ワンダーゾーンは引きつけた決めなさいよ！ルビイ」

ルビイにパスを出す

ルビイ「ナイスパスだよ！理亞ちゃん」

（オト）海未「!! 曜！」

（オト）曜「任せて！絶対に止めるから」

ルビイ「……………ふう」

ルビイはA T Pを解除する

エメラ「解除した？」

(オト) ダイヤ「……………何をやる気なんですか？」

ルビイ「まさかこの試合で使う事になるなんて思わなかったよ……………
はあああああああああああ！」

ルビイの真上には巨大なオーラの塊があった。そしてその塊は、強風とルビイから溢れるオーラを吸収している

(オト) 穂乃果「!!」ガタ

結城「まさか……………な」

真姫「はあ……………」やれやれ

真姫「ほんと、無茶するんだから」

周りの空気をボールに集めるそしてそのボールをルビイは

ルビイ「ふうううう！」

その空気の塊のボールを飛び上がり下に叩き落とす

ルビィ「ぜい!!!」

ボールに先回りして左足でスピンをかける
そしてオーラを力をため続ける

ルビィ「はあああああ! ATP!!」

ため終わりもう一度ATPを発動させる

ルビィ「……………!!」

そのシュートはフィールドを、大地を揺らした

ルビィ「ラストリゾート!!」ドガアアアア

ラブライブジャパン「!!」

ドガアン ドガアン ドガアン

ボールは弾むたびに轟音と共に地面を粉々にし、縦横無尽に駆け回る。
周りの地面を巻き込みながら、確実にゴールに迫っている

(オト) 海未「……………」

(オト) 曜 「このシュートは!!!でも私の水の壁は超えられないよ!!!」

ステップを踏む、激流を呼び起こす!

(オト) 曜 「AQUARIUM!!」

ルビイの放ったボールがAQUARIUMに飛び込んでいく

(オト) 曜「!!な、なんて威力飲み込めな……………い」

次第に水の勢いは弱まっていき(オト) 曜は吹き飛ばされる

(オト) 曜「うあああああ!!」

ルビィ「……………まずは1点」ゴゴゴゴ

バシュー……………ン

『ゴーーーーール!!な、なんと最強の壁であったAQUARIUMを超えて黒澤のラストリゾートが炸裂したあああああ!』

(オト) 曜「……………そんな、私の水の壁が」

結城「……………まさか、ラストリゾートが使える選手がいるとはな」

(オト) 穂乃果「そうですね。私も驚きました。けど一番驚いているのは」

(オト) 海未はまだまだ本気じゃない？そして青き龍とは？

次回……………片鱗が少し見える!?

第9話 紅き流星と青き龍

9話 紅き流星と青き龍

『さあ紅き流星ごと、黒澤ルビイがラストリゾートで1点を返して2—3となったぞ試合はどうなるのか!?!』

(オト) 海未「紅き流星ですか……………」

海未は思い出していた自分にも似合うな名をつけられていたことを

ラブライブジャパン 過去

(オト) 海未「はああ！」

バシユーーーーーン

(オト) 海未「……………ふう」

(オト) 穂乃果「凄いシユートだよ！海未ちゃん！」

(オト) 海未「いえ、私はまだまだですよ」

(オト) 穂乃果「そんな事ないよ！海未ちゃんは！凄いよ海未ちゃんのシュート穂乃果止められないもん」

(オト) 海未「それは、穂乃果にとって私のシュートは相性が悪いからです。同じ土俵なら間違いないく穂乃果に負けますよ」

(オト) 穂乃果「そんな事ない!!」

(オト) 海未「!!穂乃果」

(オト) 穂乃果「海未ちゃんは凄いよ!!なんでもできるし!かっこいいよ!」

(オト) 海未「穂乃果……………」

(オト) 穂乃果「それにね試合中の海未ちゃんは「青き龍」見たいなんだよ!!」

(オト) 海未「青き龍……………私が」

(オト) 穂乃果「海未ちゃんは凄い!!だからもっと自信もって!!」

現在

(オト) 海未「……………なんか懐かしい事を思い出しましたね。行きますか!」

『さあ後半勢いに乗っているサニデイジャパンに対してラブライブジャパンはどう戦うのでしょうか!ラブライブジャパンからのキックオフです』

(オト) ツバサ「海未！」

(オト) 海未「……………行きますよ」

ドリブルで上がっていく

(オト) 海未「……………」

ルビイ「ハアアア！ ATP!!!」ゴゴゴゴ

(オト) 海未「面白い技ですね！それ」

ルビイ「…………… (オト) 海未さんに褒められるなんて光栄です」ゴゴゴゴ

(オト) 海未「そうですか……………ですが負けませんけどね」

ルビイ「こつちこそです」

(オト) 海未「はああああ!!!」

ルビィ「うらあああああ!!!」

二人はぶつかり合う

(オト)海未「……………貴方は本当に強いですねルビィ……………けどそれでも私には及びません」

ルビィ「!!!」

徐々に(オト)海未が押し始める

(オト) 海未「はあああああ!!!」

ルビィ「!!」ゾクッ

ルビィは(オト)海未の中の何かに気づく

(オト) 海未「……………散りなさい!」

ルビィを吹き飛ばす

ルビィ「かはっ！」

理亞&真姫&ダイヤ「ルビィ!!」

(オト)海未「止めてみせなさい!私を」

にこ「上等よ!一気に止めて見せるわ!」

聖良「にこさん待ってください!!」

にこ「聖良?」

聖良「複数人でも今（オト）海未さんを止めるのはおそらく難しいでしょう」

にこ「じゃあどうするのよ」

聖良「絶対障壁です」

にこ「!!」

希「たしかに絶対障壁なら止めらめるかも!!」

ことり「でも（オト）海未ちゃんほどの選手ならすぐに対策を考えてくるよ！」

聖良「……………ことりさんの言う通りです。完全に止めることが出来ないのは分かっています。だから少し前の位置から絶対障壁を発動させて相手の動きを足止めして離れたところからシユートを打たせるんです」

にこ「成る程ね。でも（オト）海未がそれまで待つてくれるとは思えないわ……………」

千歌「……………私に任せてください!!」

にこ「千歌！」

ことり&希「千歌ちゃん！」

聖良「千歌さん!!」

千歌「私と梨子ちゃんと月ちゃんです。少しだけ時間を稼ぐだから聖良さんとみんなで絶対障壁を！」

にこ「……………分かったわ。任せるわよ千歌！」

千歌「はい！」

(オト) 海未「……………ん？ (後ろに選手が4人固まった何かのタクティクスですか)」

月「考えている暇なんてないよ！」

月が詰めに行く

(オト) 海未「……………ふっ」

だが海未は軽々と躲す

(オト) 海未「……………貴方達では私は止められない！」

梨子「やってみないと分かりません！」

梨子はしやがみこむような姿勢をとる

梨子「アインザッツ!!」

梨子は海未のボールをカットしようとする

(オト) 海未「無駄です!!」

梨子を吹き飛ばす

梨子「きやああああ!!」

美奈 「普通のドリブルで必殺技を吹き飛ばした!？」

(オト) 海未 「私は絶対に止められませんよ」

千歌 「はあああああ!!」

『おっと! 園田が2人を躲す中果敢にも高海が園田のボールをカットしようとするぞ!!』

(オト) 海未 「……………」

だがそれを海未は軽々と躲す

千歌「まだまだ！」

一度躲されてもまた海未のボールを取ろうとする

(オト) 海未「……………甘いです」

また躲す

千歌「まだまだ!!」

千歌はもう一度仕掛ける

(オト) 海未「しつこいですね」

千歌「……………!!」

(オト) 海未「!!なっ」

もう一度躲すが後ろからすかさずボールを取ろうとする

千歌「……………負けない。私たちは!!!絶対負けないっ!!!」ジジジ

(オト)海未「!!まさか貴方」

聖良「千歌さん……………ゾーンに入ってますね」

ことり「ゾーン!!」

美奈「見せてあげて千歌この時代の力を」

(オト)海未「……………分かりました」

後ろに下がる

千歌「……………」

(オト)海末「エメラにあの時おそれた事を言つときながらこの私がこんなようではダメですね……………かかってきなさい千歌。本気で抜きます」

結城「!!あいつ」

(オト)穂乃果「……………あの目は本気ですよ」

(オト) 希「海未ちゃんの本気かあ、久しぶりやな〜」

(オト) 海未「……………行きますよ」

ドリブルを始める

千歌「……………」

千歌は海未を止めに行く

(オト) 海未「……………」

千歌はゾーン入って最高の状態だったのだが

(オト) 海未「……………それでも私には届かない」

千歌「!!」

既に(オト) 海未は千歌を抜き去っていた

(オト) 海未「……………まだまだですね」

そして(オト) 海未はドリブルを続ける

千歌「くっ！早すぎる」

聖良「千歌さんよくやってくれました！行きますよ！必殺技タクテイクス!!!」

『絶対障壁!!』

(オト) 海未「……………成る程3人が一度に来なかった理由は時間を稼ぐためなんです
ね」

千歌「……………」

(オト) 海未「とはいえ千歌は本気で取りに来ていた。ふふ」ニヤ

(オト) 海未は絶対障壁を前にして笑う

(オト) 海未「おそらく向こうの聖良の狙いは絶対障壁で私からボールを取ることではない。遠くからシュートを打たせる事でしようね」

ドリブルを止める

聖良「(……………さあ打って来てください!! 私たちはシュートブロックをして穂乃果さんに繋げます!!)」

(オト) 海未「……………あの技を使えるのは貴方だけじゃないんですよ? ルビィ」

あるシュートの構えをする

理亞「!!嘘でしょ」

美奈「ま、まさかあれは!?!」

ダイヤ「ルビィの!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出す

(オト) 海未「はあああああ!!!」

そしてそして飛び上がってそのエネルギーの塊の抱え込むように下に蹴る

(オト) 海未「ふうっ
!!!!!!」

下に蹴ったエネルギーをスピンをかけるように左足で蹴る

(オト) 海未「ぜい!!!!!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る

(オト) 海未「ラストリゾート!!」ドガアンンンン!

く
ルビイのラストリゾートと同様何度も地面にバウンドしながらゴールに向かってい

聖良「な、この力は!!耐えられない」

にこ「な、なんて威力なの」

ピシッ!

希「……………げ、限界や!!」

ことり「……………」

パキン
!!!!!!!

聖良&にこ&希&ことり「うあああああ!!」

『な、なんと必殺技タクティクスを吹き飛ばしたぞ!!!』

穂乃果「これ、ルビイちゃんの2倍……………いやそれ以上かも」

ルビイ「!!!……………」

穂乃果「ルビィちゃん!？」

ルビィ「……………」ゴゴゴゴ

既にルビィはATPを発動しておりゴール前まで戻ってきていた

ルビィ「止める!!止めて見せる!!」

ルビィは(オト)海未のラストリゾートを蹴り返す

ルビィ「くうううううう!!!」

理亞「!!!」

ダイヤ「……………ルビィ!!」

ルビィ「つ、強い。なんて強さ」ゴゴゴゴ

(オト)海未「……………無駄ですよルビィ。貴方でも止められやしない」

ルビィ「……………ご、ごめんみんな」

ルビィはラストリゾートごとゴールに吹き飛ばされる

穂乃果「……………くっ！」

バ
シ
ユ
ウ
!!!!!!

ルビィ「……………」

穂乃果「強すぎる……………」

『き、決まったああああああ！青き龍こと園田のラストリゾートが炸裂!!!黒澤ことゴールに向かっていったあああああ!』

海未は後ろを向いて

（オト）海未「……………これが私の力です」

ルビィ「……………なんて力」

穂乃果「……………凄い」

(オト) ツバサ「ナイスシュートよ海未」パン！

(オト) 海未「ツバサ……………ありがとうございます」パン！

結城「まさか……………海未がラストリゾートを使うとはな」

(オト) 希「……………」

まさかの（オト）海未もラストリゾートを使える!? 果たして試合はどうなってしまうのか

第10話 力の差

ルビィ「……………」

サニデイジャパン「ルビィ！（ルビィーちゃん！）」

皆んながルビィの元に駆け寄る

ルビィ「……………とんでもない威力だった」

理亞「自分のラストリゾートと比べてどうなのよ」

ルビィ「……………」

穂乃果「多分、向こうの海未ちゃんのリゾートはルビィちゃんのリゾートの威力より上だよ」

サニデイジャパン「!!」

真恋「美奈!!このままじゃ本当に折れるよみんなが!」

美奈「……………」

真恋「さつきはなんとか穂乃果ちゃんがああ言ってくれたらよかったけど。実力差がありすぎる!!」

美奈「……………」

ルビィ「……………相手のラストリゾートを打たなくする方法がひとつだけあります」

サニデイジャパン「!!!」

英玲奈「そんな事が出来るのか!?!」

ルビィ「はい、確かに向こうの海未さんのラストリゾートはとんでもないですけど私

のラストリゾートをぶつければかなり威力は落とせます」

真姫「ダメよ！それは！………貴方の足はまだ完治してないのよルビィ!!」

ルビィ「………分かってるよ真姫ちゃん、だからルビィがDFに回って打たせないようにするんだよ」

聖良「!!成る程それならば防げるかもしれません」

ルビィ「だから、打ってきてても一回だと思う」

真姫「……………」

理亞「……………途中で交代したら許さないからね」

ルビィ「……………分かってる」

『さあ後半が始まり互いのチームに点を取り合うが差は縮まらず2―4です！果たしてサニデイジャパンは逆転する事が出来るのか？』

(オト) 海未「成る程。ルビィをDFにしましたか」

『サニデイジヤパンはF Wの黒澤はD Fに変えてきました。5バックです!!』

(オト) ツバサ「……………あの子分かってるわね」

結城「成る程、ラストリゾート封じというわけか」

ダイヤ「ルビイがD Fをやるのは久しぶりですね」

美奈「そうね……………」

ピー!!

(オト) 海未「……………」

パスを出す

(オト) ツバサ「行くわよ」

理亞「行かせない!!」

(オト) ツバサ「邪魔よ!」

ツバサは急劇にスピード上げる

(オト) ツバサ「shocking
slash!」

理亞「!!」

(オト) ツバサ「どんどん行くわよ！」

『おおっとここで綺羅が上がっていく』

(オト) 果南「ツバサ！」

(オト) ツバサ「おっやっと上がってきたね果南！」

(オト) 果南「うん！私も攻めるよ！」

千歌「はあああああ!!」

(オト) ツバサ「果南!」

(オト) 果南「ナイスパ……………!」

バシユ!

千歌「通さないよ!」

『おおっと!……ここで高海がボールをかつとした!!!』

千歌「みんな上がろう!!」

梨子「ナイスカット!千歌ちゃん」

(オト) 果南「……………返してよ」

千歌「!!」

気がつくのと隣に果南が来ていた

梨子「は、早い!」

月「なんてスピード!？」

(オト) 果南「返してもらおうよ千歌!!」

千歌「……………」千歌は後ろを向く

(オト) 果南「隠しても無駄だよっ!」

取ろうとする

千歌「リバーズZスラッシュ!」

(オト) 果南「!!後ろを向いたまま必殺技を!?!」

『なんと!!リバースズラツシユだああ!』

千歌「よし!行くよ!」

梨子「千歌ちゃん!!」

千歌「梨子ちゃん!」

梨子にパスをする

梨子「よし!」

千歌「梨子ちゃんあれを！」

梨子「わかった！」

『『神のタクトF I』』

梨子「まず月ちゃん！」

月「任せて!!」

パスを出す

梨子「次！理亞ちゃん!!」

理亞「はい！」

パスが繋がる

梨子「最後ツバサさん！決めてください！」

理亞「決めて!!」

ツバサ「ふふ、任せて」

『おおつと再び神のタクトF Iでゴール前だ!!』

(オト) 曜「もう一点も上げないよ！」

ツバサ「……………」

ダイヤ「あのツバサさんの集中状態は！」

英玲奈「ゾーンだな」

(オト) 希「……………」ゾーン」

ツバサ「月！やるわよ!!」

月「了解！」

ツバサ「流星ブレード!!」

(オト) 曜「……………いや違う」

(オト) 曜が言った通りツバサの流星ブレードはゴールに向かわず別の方向に行っていた

そして(オト) 曜は先程自分の必殺技を技と発動させられていたのを思い出し必殺技発動を止めた

月「ブルースターダスト!!」キラキラ

そしてツバサの流星ブレードに追いつくため月はブルースターダストを発動して流星ブレードに追いつく

月「ザ・エクスプロージョン!!」ドガアンン!!

流星ブレードを打ち返す

ツバサ「もつともつと重くよ!」ピュン!!

月「分かってる!!」ピュン!!

蹴り返し続けて威力を貯めてそして

轟くのは轟音

吹き荒れるのは嵐

(オト) 穂乃果 「……………来る」

2人の本気のシュートがゴールに向かう

ツバサ&月 「コズミックスブラスター!!!」

(オト) 曜 「……………もう点はあげないって言ったよね!」

曜はステップを踏んで激流を呼び起こし水の壁を作る

(オト) 曜 「AQUARIUM!!」

コズミックスプラスタとAQUARIUMがぶつかり合う

(オト) 曜 「はあああああ!!!」

ツバサ 「……………ここまでは成功よ」

月 「うん、あとは」

(オト) 曜「くっ！ぐぎぎぎぎうらあ!!!」

AQUARIUMでコスミックスプラスタを弾き飛ばす

(オト) 千歌「と、止めた!!」

(オト) 海未「あの二人の技があっさり飛ばされますか?.....」

ボールがラインを割りそうになる

ツバサ「.....さあ決めなさい」

誰がボールを取る

ツバサ「理亞!!」

理亞「!!」

(オト) 曜「!!」

(オト) 千歌「!!」

結城「まさかコズミックスプラスタは囷だったのか!？」

(オト) 希「……………」

理亞「はああああ!!」ゴゴゴゴ

(オト) 海未「しかも理亞!!それはルビィの!!」

理亞はすでにATPを発動させていた

理亞「決める!!」ゴゴゴゴ

シュートの構えに入った理亞。

空中へ飛び、両足にエネルギーを詰め込み、渾身の……ドロップキック!!!!

理亞「Awaken the beast!!!」

理亞の渾身のシュートがゴールに向かう

(オト) 曜「くっ!!」

(オト) 曜はステップを踏んで激流を呼び起こそうとするが

(オト) 曜「!!っっ」

こけてしまう

結城「……………(オト) 曜といえどあのAQUARIUMを連発していたんだ。体力は限界だな」

(オト) 曜「と、止める!絶対!!」

ゴール前の飛び出してボールを体で止めに行く

理亞「!!」

(オト) 曜「くっ………がはっ！」

だが (オト) 曜は簡単に吹き飛ばされる

理亞「あと一点!!」

この時サニデイジャパンの誰もがゴールしたと思っていただが

(オト) 穂乃果「……………ナイスだよ (オト) 曜ちゃん」

(オト) 希「もうすぐで決められるところやったね」

(オト) 海未「よくやってくれました(オト) 曜」

ドガア
ンンン
ンン
!!!

サニデイジャパン「!!」

サニデイジャパンが見たのはゴールに入ったボールではなく

ゴールに入る前に止めた（オト）果南だった

(オト) 果南「……………」

『な、なんとキーパーが倒れAwaken the beastがゴールに入ったと思いきや!!松浦がそれを阻止したぞ!!!!!!』

(オト) 果南「……………ふう、危なかった」

理亞「嘘でしょ!!」

(オト) 果南「ほいっと!!!」

果南はボールを外に出す

ピー!!

(オト) 曜「か、(オト) 果南ちゃんありがとう」

(オト) 果南「こつちの方こそ、ありがとうね(オト) 曜。貴方が体を張ってくれてなかったら間に合わなかった。ありがとう」

(オト) 曜「本当にすごいよ、果南ちゃんは……………」

結城 「選手交代!!!」

『おおっと！ラブライブジャパンここで選手交代だ！』

(オト) 果南「曜、後は私達に任せてゆっくり休んでね」

(オト) 曜「ありがとう……………果南ちゃん」

(オト) 曜をベンチまで連れて行く

(オト) 曜「ハアハアハア」

(オト) 穂乃果 「ナイスファイトだよ! (オト) 曜ちゃん!!」

(オト) 曜 「はい……………後はお願いしますね穂乃果さん!」

(オト) 穂乃果 「うん! 任せて」

『さあ交代という事で!! キーパーの渡辺に変わって……………高坂だあああああ!』

サニデイジャパンベンチ

美奈 「……………ついに出てきたわね」

海未「……………」

真姫「海未!!」

花陽&花丸「海未ちゃん!!」

海未「……………私は倒れていたんですか」

真姫「ええ、そうよ!!」

海未「試合はどうなっているんですか!!」

真姫「2―4私達で負けている……………そして今向こうの穂乃果が出てきたわ」

海未「!!!」

『さあこれで両キーパーが高坂となったああ!!!面白い展開になってきました!!!』

(オト) 穂乃果「♪♪♪♪♪」

理亞「……………」

ルビィ「理亞ちゃん!!」

理亞「ルビィ!!!」

ルビィ「もう一度あれを打とう」

理亞「……………小手調べってことね」

ルビィ「……………ルビィ達に余裕はないけれど向こうの穂乃果がどれほどなのか知りた
い」

理亞「分かったわ」

(オト)穂乃果「……………成る程ね。ことりちゃん、花丸ちゃん、にこちゃん、あんじゅ
ちゃん!!ちよつといい?」

『さあ交代も終わったところで試合再開です!!』パイ!!

月「理亞ちゃん!!」

理亞「……………行くよ」

ルビィ「うん……………!!」

なんと相手のゴール前はキーパー以外誰もいない

(オト) 花丸「本当に大丈夫かなあ？」

(オト) ことり「大丈夫だよ!穂乃果ちゃんなら!」

(オト) にこ「そうよ、穂乃果を信じなさい」

(オト) あんじゅ「そうね!」

理亞「……………これは」

ルビイ「……………相手も同じことを考えていたのかも。なら理亞ちゃん遠慮なくいこう
!!」

理亞「そうね」

(オト) 穂乃果「さあこい!!」

理亞は狼がボールを連続で引き裂くが如く、連撃を加える

理亞「ウルフ！」

ルビイは理亞が蹴ったボールを追って、ルビイも足に炎を溜めて飛び上がる

ルビイ「トルネード!!!」

『おおっとこれは!!後半の最初にも見せた鹿角と黒澤のオーバライド技だあああああ
!』

(オト) 曜「後半最初の技!!……………けど

(オト) 穂乃果ちゃんには意味ないかな」

(オト) 穂乃果「きたね！シユート」

すると穂乃果は手を上に掲げる

(オト) 穂乃果「ゴツトハンド!!!」

シユートが穂乃果に手に収まる

バシユウ!!

穂乃果「ふう、いいシュートだったよ!!」

『と、止めた!!高坂がオーバライド技であるウルフトルネードを簡単に止めたあああ!』

理亞「ルビィ!!今のは」

ルビィ「……………まさかそこまで簡単に止めるなんて!?!」

美奈「まさか。ただのゴットハンドで止めきるなんて……………」

真恋「……………」

果南「……………」（私でもわかるあの穂乃果はまだまだ本気じゃない）点が取れる気がしない」

（オト）穂乃果「さあ!!反撃だよ!!」

（オト）穂乃果がボールを蹴り上げる

中盤まで飛ぶ

(オト) 果南「ナイスパスだよ！穂乃果！」

海未「DFです!!守りきりましょう!!!」

ベンチから声を出す

サニデイジャパン「海未！（海未ちゃん！海未さん！）」

海未「時間があります!!だから一本止めましょう!!」

サニデイジャパン「おお！」

(オト) 果南「おお！向こう気合入ってるね！……けど気合だけではどうにも出来ないよ！」

ドリブルで上がって行く

千歌「行かせない!!」

(オト) 果南「じゃあ止めて見なよ」

千歌と(オト) 果南の攻防が繰り広げられる

千歌「!!取れない」

(オト) 果南「そっちの果南と比べるとダメだよ!」 シュン!

千歌を抜く

(オト) 果南「ふふ」

MFを一人抜く

梨子「行かせない！」

(オト) 果南「はっ！」

上に飛び上がる

梨子「!!それは」

まるで道があるかのように上に飛び上がり梨子を躲す

(オト) 果南 「スカイウオーク」

ピヨーン！ピヨーン！

(オト) 果南 「ほいっと」

地面に降りる

『おおっと帰ってきていたMF2人を抜き去ったぞ!!!』

「ことり」「これ以上は行かせません!!」

(オト) 果南「……………」バチイ

ことり「ワンダーゾーン!!」

(オト) 果南「……………」ゼロヨン極」

クラウチングスタートでワンダーゾーンを一気に抜き去る

ことり「?!?!」

海未「こ、ことりのワンダーゾーンを抜いた!？」

美奈「あの雰囲気まさか!？」

月「ツバサさんあれは!？」

ツバサ「……………ゾーンね。それも私と同じで自由に使える」

(オト) 果南「さあ!! 誰でも来なよ!」

(オト) 果南がドリブルで上がって行く

聖良&希「止める!!」

(オト) 果南「……………釣れたよ！決めちゃって海未!!」

海未にパスを出す

(オト) 海未「ナイスパスです！」

聖良&希「!!」

『再び園田と高坂が対一だああああ!!』

穂乃果「こい！海未ちゃん」

(オト) 海未「……………さて、ラストリゾートを打つとモーション中にルビイに追いつかれますからね。ならば!!」

シュートの体制に入る

海未「……………でりゃ!!」

ボールに鋭い一閃を入れる

海未「菊一文字!!!」

菊の花から出た鋭いボールがゴールに向かう

ルビィ「!!くっ間に合わない「ルビィちゃん!!」!!」

穂乃果が叫ぶ

ルビィ「穂乃果さん!？」

穂乃果「任せて! 止めて見せるから」

穂乃果は叫ぶ

ルビィ「……………分かりました」

(オト) 海未「止めるですか……………ふふ大きく出ましたね穂乃果」

海未「穂乃果!!!」

ことり「穂乃果ちゃん!!」

穂乃果「絶対に絶対に止めるんだっ!!!」

両手に愛は太陽の炎を込める

美奈「！それはまだダメよ！穂乃果ちゃん!!」

真恋「それに日本を出るまでは使わないって約束したのに……………」

海未「……………無茶してでも止めるのがほのかですよ……………」

穂乃果「……………本当はダメだけど絶対に止めなくちゃいけないんだっ！
はああああああああ!!」

両手をクロスして飛び出す

(オト) 穂乃果「!!」

結城「愛は太陽でもゴットハンドWでもないな」

(オト) 希「……………」

千歌「穂乃果さん……………止めろっ
!!!!!!!」

穂乃果「ゴットハンド
!!!!!!」

穂乃果「……………」

バシユウ
!!!!

穂乃果「止めたよ!!」

第11話 戦いの結末

『とっ止めたあああああああ！初めは止めることができなかつた園田の菊一文字を
新必殺のゴットハンドXで見事にキヤッチした!!』

穂乃果「止めたよっ!!」

(オト)海末「穂乃果貴方は本当に凄いですよ違う時代でも同じ時代でも。けれどその技
は体の負担が大きいのでしょうか？」

穂乃果「ハアハアハア、そのとうりだよ海未ちゃん。うぐっ！………けどここは絶対に止めないといけなかったなかつたから！」

（オト）海未「その覚悟見させていただきましたよ!!」

穂乃果「………頼んだよ!!穂乃果はボールを蹴り上げる

ルビィ「ありがとう穂乃果さん。私達は必ず決めて見せるっ!!」

理亞「ルビィ。やるわよ!!」

ルビィ「うん、理亞ちゃん」

ルビイ&理亞「はあああああああ!!!」

(オト) 穂乃果「……………いいね!!二人とも熱いよ!最高に!」

ルビイ&理亞「ATP!!!」

『ここで!サニデイジャパンダブルエースのATPだあああ!!!』

穂乃果「お願い二人とも……………」

二人は一気に上がって行く

(オト) 海未「止めますよ!!! 絶対に!!!」

ラブライブジャパンは二人を止めようとする

ルビィ&理亜「はああああ!!!」

る
だが二人の連携は完璧であり。誰もボールに触れることができずゴールまで運ばれ

ルビィ&理亜「うおおおおお!」

(オト) 穂乃果「さあ！来てよ！止めて見せる」

ルビィ「二人の力を一つにするんじゃないくて」

理亞「混ぜる!!!」

ルビィ&理亞「クロスファイア」

!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

二人のシュートがゴールに向かう

2日後 ルビイの部屋

ルビイ「……………」

理亜「……………ルビイ」

ルビイ「私達は負けたんだね」

理亞「……………うん、負けたわそれも私達のシユートも防がれて」

ルビィ「クロスファイア……………あれなら決められるそう思っていた……………けど」

理亞「向こうの世界の穂乃果さんは強かった。私達よりも遥かに」

ルビィ「うん……………」

2日前

ルビイ&理亞「クロスファイア!!」ドガアンンン!!

『「ここ」で黒澤と鹿角のシユートだあああああ!』

(オト) 穂乃果「……………強いねこのシユート。でも止めるよ」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

(オト) 海未「……………」

(オト) 穂乃果「うらあああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!!」

(オト) 海未「!!……………まさかその技を使うとは……………全力なんですネ」

(オト) 穂乃果「はあああああああ!」

そしてそのシュートを止める

バシユウ
!!!!

『と、止めたああああ黒澤と鹿角の最高のシュートクロスファイアを夢なき夢は夢じやないで止めたぞ!!!!!!』

理亞「……………う、嘘でしょう」

ルビィ「私と理亞ちゃんのシュートが……………」

理亞「……………悔しい」ポロポロ

ルビィ「……………そんなのルビィもだよ!!」ポロポロ

二人は抱き合う

ルビィ&理亞「うああああああ!!」

こうしてサニデイジャパンとラブライブジャパンとの戦いは2―4という結果で幕を閉じた

結城「……………」

(オト) 希「……………」結局エメラちゃんもダイヤつちも出しませんでしたね」

結城「ああ、けど穂乃果を出すことになったのは予想外だった」

(オト) 希「……………」彼女達は強くなる。必ずもつともつと。それまではウチらも努力しないといけません」

結城「ああ、そうだな……………」しばらく練習して世界で優勝したあいつらともう一度戦おう」

(オト) 希「……………ええ、その時は

ウチの出番があるのも期待してますよ」

2つの世界のサッカー
完？

違う世界彼女達

それぞれの特訓

サニデイジャパンとの戦いから2週間後

ハアハアハア

一人の少女がサッカー場で練習をしていた

「ハアハアハア………ハアアアアア!!!」

ボールを上にあげる

「うおおおおりやああ!!」

回転しながら飛び上がり、足に力を込める

「りやああああ!!!」

そしてボールを蹴る

バシューン!!

ドシューーン

「ハアハアハア、くっそ!」 地面に拳を叩きつけて言う

彼女はある技の特訓をしているのだが一度も成功せずにいた

「な、何が足りないの。私は出来る筈よ! 私は……………」

少女は焦っていた。サニデイジャパンとの試合の時は散々だった事、相手の力を見くびってシュートに全力を出さなかった事。そして止められてコートを去った事に

「ハアハアハア」

ここに居たんですね!!

「!!」

声に気がつき声がした方を向く

「姉様……………」

「エメラ……………」

エメラ「な、何をしに来たの!!」

「……………」

エメラ「!!なっ」

ダイヤはボールを投げて回転しながら飛び上がる

ダイヤ「……………!!」

炎を纏った足で蹴る

エメラ「!!」

エメラめがけてファイアトルネードが打たれたのだ

エメラ「!!はああああ」

エメラはそれを蹴り返す

バシユーン!!

ダイヤ「……………」タツ

エメラ「何するんですか！姉様!!」

ダイヤ「……………悩んでますねエメラ」

エメラ「!!」

ダイヤ「……………私でよければ聞きますよ」

エメラ「な、悩んでなんてない」

ダイヤ「ふふ、素直じゃないですねエメラ」

エメラ「……………ふん」

ダイヤ「一度休憩しませんか？ずっとやってるんでしょ？」近くのベンチを指差す

エメラ「分かりました」

近くのベンチ

ダイヤ「……………この前の試合の事ですね」

エメラ「……………はい、私は全力を出すどころかなめてしまった。情けないです」

ダイヤ「……………そんな事はありませんわ」

エメラ「!!」

ダイヤ「私も正直、優勝していないチームなどされているだろう。そう思っていました、

けれどサニデイジヤパンは強かった」

エメラ「姉様……………」

ダイヤ「……………だからエメラの気持ちは分かります」

エメラ「……………」

ダイヤ「エメラ。これからは私も練習に付き合いますわ」

エメラ「そ、それは」

ダイヤ「……………私は考えていることがありますわ、それはエメラのトルネードと私のトルネードの合体です」

エメラ「!!!」

ダイヤ「それをサニデイジャパンの方々との試合の時に使いたいです」

エメラ「姉様……………」

ダイヤ「……………さあ、特訓しますわよ！」

エメラ「はい！姉様!!」

—————

「行きますよ！穂乃果!!」

穂乃果「こい！海未ちゃん!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出す

海未「はあああああ!!!」

そしてそして飛び上がってそのエネルギーの塊の抱え込むように下に蹴る

海未「ふうっ」

!!!!!!!!!!!!

下に蹴ったエネルギーをスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい」

!!!!!!!!!!!!

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る

海未「ラストリゾート!!」ドガアンンンン!

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

穂乃果「いいねえ。海未ちゃん!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああああああ!!!」

飛んでくボールを一回転して両手で挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!」

バチイイイイイ!!!

穂乃果「くっ………うおおおおお！」

バシユーーーーーウ

穂乃果「うん、凄いね！海未ちゃんのラストリゾートは!!」目をキラキラさせていう

海未「ありがとうございます、穂乃果の夢夢も凄いですよ」

穂乃果「えへへ、そうかなあ」

海未「……………それにしても夢夢を使わせた向こうのルビイと理亞は凄いですね」

穂乃果「そうだね！」

海未「……………確かにATPと呼ばれる技を使用していましたよね」

穂乃果「うん、なんか私が読む漫画の界○拳に似てたよ」

海未「あの技興味深いですね」

穂乃果「そうだね！」

海未「……………さて、私は向こうのルビイと理亞みたくあんな状態にはなれないならば。
このままで彼女達を倒します」

穂乃果「……………」

海未「さて、穂乃果、受けてもらいたい技があります」

穂乃果「受けてもらいたい技？」

海未「はい、新技です」

穂乃果「!!」

海未「……………少し前から使えるようになりましたがまだ一度も見せたことありません」

穂乃果「本当!!みたいみたい!!」

海未「では、行きますよ!穂乃果!!」

バシユーーーーー

穂乃果「な、何!? 今の」

海未「……………ハアハアハア、どうですか? これが私の全力です」

穂乃果「……………す、凄い! 凄すぎるよ!!! 海未ちゃん!!!」

海未「……………さ、流石に連発はきつそうですけどね」

穂乃果「それでもこれは誰も止められないよ！」

海未「ええ、そうだと嬉しいですね」

穂乃果「ありがとう海未ちゃん！私も新技作るよ！」

海未「ふふ、楽しみにしてますよ！」

[.....]

別のグラウンドでは

「ハア!!!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

(オト) 真姫 「P s y c h i c A r t s !!!」

回転したボールを上打ち上げる

ボールは回転しながらゴールに向かう

バシューシューシューン!!

「…………足りない、まだまだ!!」

バツ!!

「P s y c h i c A r t s !!!」

バシューーーーーーン!!

「……………」

真姫は感じていた今のままではダメだと自分が持っている技は通用しなかった、ならば進化させるべきだと

「くっつ!!!」

「p s y c h i c …… A r t s
!!!!」

バシユ————ン!!!

「ハアハアハア」

真姫は p s y c h i c A r t s を何百発も撃っていたためかなり疲れている

「何が何が足りないの私には」

地面にへたれこむ

ドガン!!!

「!!!」

音がして立ち上がるとすぐそばまでボールが飛んできていた

「くっ！ハアアアアア!!」

なんとかそのボールを蹴り返す

「っ、強い!!」

吹き飛ばされる

「だ、誰よ!!」

「……………これがラブライブジャパン代表の西木野 真姫かあ。がっかりだなあ」

黒で全身を覆っている人が言う

真姫 「!!なんですって!」

「う……………私は思った事を言っただけ」

真姫 「くっ……………」

「勝負しようよ」

真姫 「勝負？」

「うん、真ん中から始めてゴールを5回決めた方が勝ち、これでどう？」

真姫 「……………分かったわ、やってやろうじゃない」

—————

「さあ、勝負するわけだけど。貴方が勝ったら私に何をしてほしい？」

真姫 「……………私が勝ったら。侮辱の撤回、それとフードを取りなさい」

「いいよ、まあ勝てるとは思わないけどね」

真姫 「!!随分な自信ね」

「……………さあ、始めようどつちから行く？」

真姫「……………そつちから来たら？」

「分かった。じゃあ行くよ」

真姫「……………」

「……………」

真姫「てやあああ
!!!!!!」

真姫がフードの人にスライディングを仕掛ける

「……………遅いよ」

シュツ！

真姫「!!!」

スタツ！

「まだまだだね」

フードの人は軽くかわしてドリブルをする

真姫「くっ!!!」

真姫はすぐに追いかける

「いいねえ、その姿勢。最後までそれで来てよ！」

真姫「調子にのるなっ！」

再度スライディングを仕掛ける

「……………」

シュタツ！

真姫「!!」

フードの人はジャンプしてかわしそのまま空中でシュートを打つ

バシューーーーーーン!!

真姫「なっ!!」

「ふふ、一点だね」

真姫「くつ。一点くらいどおってことはないわよ!」

真ん中まで戻る

「さあ、いつでもかかってきて!」

真姫 「言われなくとも!!」

真姫はドリブルを始める

「……………」

真姫 「うおおおお!!」

「甘〜」

ザシュー!!

真姫 「!!」

「とった〜」

真姫の足元にはボールはなくフードの人がボールを持っていた

真姫「なっ！」

「ふふ、甘いねえ」

真姫 014 フード

真姫 「ハアハアハアハアハアハア」

「……………やっぱりこの程度だったんだね」

真姫 「ハアハアハアハアアアア。う、うるさい」

「がっかりだよジャパンの人がこんなにも弱いとは」

真姫 「黙れ！黙れ!!」

ドリブルをする

「また同じパターンか」

真姫 「メロディウエーブ!!」

「!?何」

フードの人を抜く

真姫「ザマア見なさい」

「……………やるねえ。けど甘いよ」

真姫の周りに雪を出現させる

真姫「!!」

「……………スノーハレーション」

真姫「くっ！」

真姫は眩い光に包まれる

真姫「!!ぐあああああ」

そして吹き飛ばされる

ドサッ

真姫 「く、くそお！」

「……………そっちの攻撃は終わり。これで最後だね」

真姫 「……………終わらないわよ」

「無理だよそれじゃあ、私には勝てないよ」

真姫 「うるさい!!!」

「貴方じゃこの先はもう無理だよ」

真姫「!!」 プッン!!!

「止めてみなよ！」

フードの人は圧倒的なスピードで真姫を抜き去る

真姫「……………」

「さあ、これで決めるよ」

空中に瞬間移動して飛び上がる

「デイズスターブレイク!!!」

ボールに闇の力を込めて蹴る

ゴゴゴゴゴ!!!

真姫「……………」

!?!?
┌

ド
カ
ッ
!!!!!!!!!!

真姫「……………」

なんとフードの人のデイザスターブレイクを真姫は足で受け止めていたのだ

「ふふふ、それだよそれ!! 待ってたよ! それが発動されるのを私は待ってた」

少し笑いながら言う

真姫「……………」

真姫の目はサニデイジヤパンの時と同じように銀色の輝きを放っていた。

戦う日は近づいていく

「それだよ！それを待ってたんだよ！！」

真姫「……………」

「ふふふ、さあ見せてその力を！！」

真姫「……………」

真ん中に行く

「さあはい！！」

真姫「……………」

「……………!!」

真姫「……………遅い」

真姫はすでにぬき去っていた

「はやっ—」

真姫「……………」

バシュー————ン!!!

真姫「……………まず一点」

「さっきまでとは全く違うなあ」

真姫「……………」

「いいねえ！その姿勢」

真姫「…御託はいいさっさとかかってきなさい」

「ふふ、ちょいとばかり強めに行くよっ！」

ドリブルで仕掛ける

真姫「……………」

ピシユン!!

「!!速っ！」

真姫「……………迅撃」

「……………」

真姫があつという間にボールを奪う

真姫「……………次は私」

「面白いなあ真姫ちゃん!!もつと私を楽しませてよ」

バシューーン!!

シュートが決まり 4対4

真姫「……………」

「やるね、まさかここまでなんて」

真姫「……………これを止めて私の勝ちよ」

「ふふふ、あーハッハッハッハッ！」

真姫「……………何を笑ってるの？」

「いやあ、久しぶりにこんなにワクワクする戦いが出来て本当に嬉しくて楽しいんよ」

真姫「……………」

「ふうふう」

真姫「……………本気出したらどう？」

「……………言われなくとも見せるよ私の力をね」

真姫「!!」

空気が変わる

「行くよ」

真姫 「つつ!! あああああ!!! 真姫はボールを取りに行く」

「……………LOVELESS World」

パチン!! カチツカチツブウゥン

真姫 「……………」

「……………」

タツタツタツタツ

「……………この技はヘブンズタイムとは訳が違う。あれは暗示けどこれは本当の時止め

……………」

指を鳴らす パチン！

ブーン

真姫「!!!」

「これがLOVELESS WORLDや」

真姫を抜き去る

真姫「……………甘いわよ!」

瞬時に切り替えゴール前に立つ

「……………流星やな、その諦めない心」

真姫「……………」

「けど、そろそろ限界やろ？」

真姫 「……………ハアハア」

真姫の無考の極意は消えかかっていた

真姫 「……………つつ!!」

「……………これで終わりや」

指を鳴らしてボールを蹴り上げてボレーシュート

「……………」

バチュン
!!!!

真姫「……………」と、止める！」

「無理やで、例えばその力があっても

このシユートは無敵やから」

バ
シ
ユ
ー
ン
!!!

真
姫
「!!!」

ボ
ー
ル
は
ゴ
ー
ル
に
入
っ
て
い
た

「……………これが私の力や」

真姫「……………」

ドサツ！

真姫は倒れこむ

「……………2回目では流石にコントロールは無理かあ」

そう呟く

真姫「」

「……………けど、使いこなせるようになる可能性は見えてきたね。後はあなた次第よ真姫

ちゃん」

謎のフードの人はその場から去る

真姫「」

絵里「……………!!にこあれは」

にこ「……………何よえ!!!真姫!!」

グラウンドを通りかかった絵里とにこが真姫を発見する

絵里「!!真姫しつかりしないさい!!」

にこ「つつ!何があつたのよ!?!」

真姫「」

絵里「……………!!身体が熱い」

にこ「何ですって!!……………まさかこの子無考の極意になっていたんじや!!」

絵里「……………ありえるわ、けど一体誰が」

真姫「……………ん」

絵里、にこ「真姫!!」

真姫「……………エリー、にこ」

絵里「何があつたの!？」

真姫「!!あのフードの人は？」

にこ「フードの人？ 私達が来た時には誰もいなかったわよ」

真姫「……………そう」

絵里「真姫一体何があつたの!？」

真姫「……………」

先程起きた事を話す

絵里「そんな事が……………」

にこ「……………そんな実力者がどこにいるの、とんでもない選手じゃない!？」

絵里「それにLOVELESS WORLD……………とんでもない技ね」

にこ「時を止めるなんて普通じゃないわよ！何者なのよ」

絵里「……………過去に希が世界大会の時にヘブンズタイムを使っていたけど、それを超えるLOVELESS WORLD……………恐ろしいわね」

真姫「ええ、おそらく無考の極意の私より実力は上よ」

にこ「……………とにかく、アンタは休みなさい真姫」

真姫「……………」

にこ「アンタがずっと練習しているのは知ってるし気持ちも分かるけどオーバーワークよ！」

真姫「……………分かってる」

絵里「……………（それにしても何者なのフードの人は）」



ラブライブジャパン合宿所

結城「……………」

結城はラブライブジャパンとサニデイジャパンの試合を振り返っていた

結城「……………（勝利は問題なく掴めた、だが少し悔りすぎたかもしれないな）」

コンコン

結城「どうした？」

「……………入っていいですか？」

結城「……………ああ」

ガチャッ

「失礼します」

結城「お帰り、希」

希「はい、監督」

結城「どうだったサニデイジャパンは？」

希「ええ、確実に成長してます。間違いなく次戦う時はとんでもないことになっていくでしょうね」

結城「……………そうか」

希「はい……………それに向かうの大会はこの世界よりレベルが高いと感じました」

結城「……………なぜそう思った？」

希「ラストリゾートを止める者が既に居たんです」

結城「なに、ラストリゾートを止めるだど!？」

希「はい、大変驚きました」

結城「……………成る程とんでもない選手がいるんだな」

希「……………」黙って頷く

結城「そうか……………」

希「それと、向こうの世界に少しだけ茶々を入れてきました」

結城「なんだと!？」

希「……………ダメなのは分かってたんですが」

結城「でも、歴史は変えてはダメなんだぞ？」

希「分かっています。けれど……………」

結城「まあ大丈夫だろう、帰るときに何も起きなかったんだろ？」

希「はい……………」

結城「という事は勝敗までは変わってないという事だ」

結城「……………ビデオを見て振り返ってみて思ったことがある、サニデイジャパンの

黒澤 ルビィ、そして鹿角 理亜はまだまだ未完成だ」

希「……………でしようね」

結城「ああ、おそらく向こうも気づいていると思うがまだまだ伸びるし上がある」

希「ふふ、とんでもない事になりそうやね」

結城「それで、お前の本当の本気を見る事が出来る気がしてな、とても楽しみだ」

希「…………ウチの本気」

結城「正直俺にも見せた事ないよな？」

希「…………」

結城「お前のシユート技はディザスターブレイクともう一つしか見たことないからな」

希「まあ、そうですね」

結城「お前だけの技をまだ見せてもらってない」

希「……………一つだけ言います、私の本気のシユートはラストリゾートよりも遙かに上で次元が違う、無敵の技です。もしこれを止めるようなチームが現れたのならばその

チームは時空最強ですよ」

結城「……………そんな技があるのか」

希「……………さつき、使いましたよ」

結城「!!なんだと!?!」

希「……………けどやっぱり止められる事は無かった」

結城「……………そうか」

希「みんな頑張つて特訓してましたよ。エメラちゃんも海未ちゃんも穂乃果ちゃんも真姫ちゃんもみんな」

結城「……………」

希「だから私が本気を出す事はともかくウチらが負ける事ない！」

結城「はっ………頼もしいねほんと」

希「はい、勝ってみせます」

結城「ああ………頼んだぞ」

希「結城さん、一つお願いがあります」

ラブライブジャパン合宿所



真姫「……………」

絵里「……………真姫」

希「エリチ」

絵里「希！」

希「……………真姫ちゃん元気ないみたいやね」

絵里「……………そうね」

希「何かあったんやろか？」

絵里「グラウンドで練習中にフードの人が現れて、戦いに敗れたみたいよ」

にこ「しかも、無考の極意を発動しても勝てなかった相手だって言ってたわ……………」
「どんだけ化けもんなのよフード」

希「……………」

希は真姫に近づいていく

絵里「…あ！希！」

希「……………真姫ちゃん」

真姫「……………希」

希「大丈夫？」

真姫「……………大丈夫よ」

希「……………無考の極意で悩んでるん？」

真姫「!!」

希「……………大丈夫、真姫ちゃんやったら必ずものにできる！絶対やで！」

笑顔で言う

真姫「希……………ありがとう」

希「まだ、彼女達と戦うまで時間はあるんや！一緒に強くなろう！」

真姫「そうね、くよくよしてたらダメよね。頑張るわ！」

立ち上がる

希「さっ！グラウンド行こか！」

真姫「うん！」

こうして2つの世界が再び戦う日まで特訓を続けるのだった

未知の襲来編

特訓とSOS

グラウンド

真姫「ハアハアハア」

ドリブルしながら走る

花丸「行かせないぞら！」

DFが立ち塞がる

真姫「……………」

海未「真姫!!」

横から海未が上がってくる

真姫「海未!!」

バシユン!

海未にパスをする

海未「よつと……………ハア!!!」

シュートする

穂乃果「……………ほっと！」

バシユツ！

穂乃果「ナイスシュート海未ちゃん！」

海未「ふう」

花丸「海未さん流石ズラ〜」

真姫「助かったわ、海未」

海未「……………真姫、もう少し早くパス出来ましたよね？」

真姫「……………ええ、そうね」

海未「先日前に結城さんにも言われたじゃないですか！考えてはいけないと」

真姫「……分かってるわよ」

海未「まあ、難しいですよ、

真姫「……」

海未「ですが、あの試合の時よりも上手くなってますよ真姫」

真姫「本当!？」

海未「ええ！」

真姫「でも、もっと上手くなるわ」

海未「その息です！真姫」

真姫「もう一回！お願い」

海未「分かりました」

タツタツタツタツ

果南「真姫、気合入ってるね！」

希「そうやね、頑張ってるなあ」

にこ「一時期はどうなるかと思っただけどね」

希「ウチは真姫ちゃんならこうなってくれるって思ってたから」

にこ「……………そう」

希「……………けど、真姫ちゃん以外にももつともつと上手くなってもらわないといけない」

果南「私達も含めてね」

希「そりゃな」

にこ「……………」

結城「……………果南、希、にこ」

果南、希、にこ「監督!!」

結城「……………頼んだぞ!」

果南、希、にこ「はい！」

結城「……………みんな！練習を中断して集合してくれ！！」

そして全選手が集まる

海未「何が始まるんでしょうか？」

絵里、ツバサ「……………」

穂乃果「もしかして新メンバーとかか!？」

ことり「それは、流石にないんじゃないかなあ……………」

結城「みんなよく聞いてくれ、今日から暫くの間果南、希、にこがチームを離れることになった」

!!!

結城 「詳しい事情は言えないが一週間程で帰ってくると思う」

穂乃果 「みんな……」

果南 「少しの間寂しくなるけどみんな練習をちゃんとやってね！」

海未 「分かってますよ」

にこ 「にこが居ないからってサボるんじゃないわよ！」

理亞 「サボるわけじゃないですよ」

希 「………任せたでエリチ」

絵里 「ええ、分かってるわ」

3人は合宿所を去っていく

結城「さあ練習をやるぞ！」

数十分後

曜「さっ！いくよ！」

真姫「曜！」

曜「真姫ちゃん！」

ゴールから真姫にパスを出す

真姫「!!」

ボールをトラップする

ツバサ「行かせないわよ」

ツバサがマークする

真姫「……………ハア!!!」

ボールを左右から蹴りつけてボールに凄まじい回転をかける、そしてそのボールを上高く蹴り上げる

真姫「psychic Arts!!!」

ツバサ「!!このタイミングで!!」

ボールは上に高く打ち上げられて相手のゴールに向かう

真姫「さあ!決めて!」

海未「ナイスパスですよ!真姫!」

そのパスに一番早く反応していた海未がボールに追いつく

ことり「穂乃果ちゃん!!」

穂乃果「任せて!!」

真姫「海未!!」

海未「任せなさい！」

ボールの周りにはオーラが集まり、鋭く、尖る

海未「ラブアローシュート!!」

相手のゴールに向かう

穂乃果「ふふふ!!来たね」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「夢なき夢は!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢じゃない!!」

海未「……………流石穂乃果ですね」

穂乃果「うおおおおお！」

バシユツ!

穂乃果「……………いいシュートだよっ!海未ちゃん」

ことり「ナイスだよ!穂乃果ちゃん!」

彼女達は5対5のミニゲームをしている

穂乃果「さあ!反撃だよっ!」

ことり「うん！」

真姫「行かせないわよ！」

ことり「……………wonder zone!!」

真姫「!!!」

wonder zoneは範囲に入った者の動きを止めるチート級の技なのだが

真姫「……………超えて見せる」

海未「!!!」

聖良「真姫さん!!無茶です！」

なんと真姫はwonder zoneに自ら向かって行く!?

ことり「ふふふ、向かってくるなんてね」

真姫「ハアアア!!」

ことり「……………食べちゃうよ?真姫ちゃん」

ゾクッ!!!

真姫「!!くっ」

wonder zoneのテリトリーに入った瞬間真姫は動けなくなる

ことり「残念だったね真姫ちゃん♪」

真姫「くっ……………」

ことり「さあ攻めますよ！」

真姫「……………」

ギラッ！

ことり「!!!」

ことりは何かに驚き突然パスを出す

真姫「くっ……………」

倒れる

ことり「真姫ちゃん!!大丈夫?」

真姫「ハアハア、ええ大丈夫よ」

聖良「今のは！」

海未「……………間違い無いですね、無考の極意が発動しかけていました。」

穂乃果「……………す、凄いことりのちゃんのwonder zoneに抗った」

ことり「真姫ちゃん、凄いね」

真姫「ハアハア、私は何もしてないわよ」

ツバサ「……………気づいていないようね」

海未「……………私分かったかもしれませんが、真姫が無考の極意を発動できるきっかけが」

ツバサ「!!それは本当!」

海未「はい……………ですがこれを真姫に伝えると意識してしまうかもしれませんので言いませんが」

ツバサ「……………成る程ね」

ことり「……………真姫ちゃんから一瞬凄い圧を感じた」

真姫「……………まさか、私」

海未「……………真姫!」

真姫「海未……………」

海未「……………ずいぶん危険なことにしますねほんと」

真姫「……………wonder zoneに立ち向かえるようになったら色々なことに対応できると思って」

海未「……………成る程、けど怪我しては元も子もないですからあまり無理はしないでくださいね」

真姫「…うん、わかってる」

絵里「……………言った通りね」

ツバサ「そうね、普通の練習では間違はなく完成に近づかないわね」

絵里「……………」

ツバサ「ふふふ、完成したらどれほどのものか楽しみね」

エメラ「……………」

理亞「無考の極意……………」

結城「真姫ならば必ず完成させられる、あいつならな」

エメラ「…………監督は真姫に凄く肩入れしてますよね？」

結城「ああ、そうだな、それくらいあいつに期待してるからな」

エメラ「……………」

結城「でも、俺が集めたみんなもすごいと思ってるし、最強だと思ってるから」

エメラ「そうですか」

ブーブーブーブー

携帯が鳴る

結城「誰のだ？」

エメラ「真姫のですね」

理亞「誰だろ？……凛か」

エメラ「真姫は今5対5やってるから理亞替わりに出てあげて」

理亞「分かりました……」

ピッ！

凛『真姫ちゃん!!』

理亞『あのね、凜今真姫は『助けて!!』!!』

エメラ「助けて!?!」

凜『い、今音ノ木坂で………!!!』

理亞「りん?凜!凜!」

ぶーぶーぶーぶー

理亞「き、切れた」

エメラ「何やら嫌な予感がするな」

凜の身に何があったのか!?

次回、
フードの戦士達

フードの戦士達

理亞「……………くっ」

エメラ「……………こんな事をしている場合ではないわね。皆んな
!!!!!!」

フィールド「!!」

エメラ「緊急事態よ！来て！」

10人がベンチに集まる

海未「!!凜からSOS!？」

理亞「はい……………助けてと言われて事情を聞こうとしたら電話が切れて」

真姫「……………穂乃果、ことり、海未!!」

穂乃果「分かってる！」

ことり「音ノ木坂だよね？」

海未「行きましよう!!」

絵里「私も行くわ！」

ツバサ「それじゃあ、真姫、穂乃果、海未、ことり、絵里任せるわよ、私達は全員連れて音ノ木坂に向かうわ!!」

絵里「了解!」

結城「……………ついに動いたか」



音ノ木坂グラウンド

凜 「離すにや!!!」

「……………離す?」

花陽 「り……………凜ちゃん」

「離すわけないでしょ?この子は計画に必要なんだから」

凜 「何を訳わからないこと言ってるにや!」

「理解する必要はないわ、時期に分かることだし」

凜「!!!
くっ」

ボールを足下に置く

花陽「り、凜ちゃん!!」

凜「かよちんを……………」

シュート体制に入る

凜「離すにやあああ!!!」

タイガーショットを打つ

花陽「!!」

「!?何」

「任せて」

凜「!!」

「……………」

凜「!!なんで何もしないの」

バゴン
!!!!!!!

「……………」

なんとボールがキャッチされていた

凜 「!!り、凜のタイガーショットをいともたやすく」

「凜ちゃん！危ないでしょーいきなりシユートなんか撃ったら」

凜 「……………し、仕掛けてきたのはそつちにや!!」

「やれやれ、どうするの？キャプテン」

「……………」

「何か言つてよー」

「まあまあ、キャプテンにどうこう言わなくても。私がやり返すからいいでしょ?」

花陽 「!?何をするんですか!？」

「少し静かにしててね花陽ちゃん」

花陽 「り、凜ちゃん!逃げて!!」

凜 「……………逃げないにや!凜はかちんを守る!!」

「……………幼なじみっていいよね、本当に」

凜、花陽「!!」

「……………行くよ!」

シユート態勢に入る

凜「くっ、くるならくるにや!!!」

「伝来……………」

右足に力を貯める

花陽 「凜ちゃん
!!!!!!」

凜 「……………くっ」

「宝……………刀
!!!!!!」

凜目掛けて撃つ

凜 「こ、こんなシュート蹴り返してやるにやあああ!!!」

花陽 「凜ちゃん!!!」

凜「タイガー……………シヨット

!!!!!!!」

伝来宝刀を蹴り返す

凜「ぐ、つ、強い!!」

「へえ、蹴り返すのかあ。まあ無理だよね？」

凜「ぐつ……………くそおおお」

花陽「凜ちゃん……………」

凜「くうううう!!」

凜は全力を出すのが押し返せない

凜「も、もう限界にやあああ……………」

「……………残念や」

凜「にやああああ!!!」

吹き飛ばされる

花陽「り、凜ちゃんああああ!!!!」

ドサツ!!

凜「

花陽 「り、凜ちゃん」

「さてと、邪魔は居なくなつたね」

「さ、戻るわよ時間も無いんだし」

「ああ、そうだね」

待つにや！

5人「!!」

花陽 「り、凜ちゃん
!!!!

凜 「ハアハアハア」

よろよろになりながら凜は立つ

凜「ま、待つにや！」

「へえ、まだ立つんだ」

凜「……………凜はかよちんを守るだにやあ!!」

「……………どうするキャプテン？」

「立ち上がれないようにやれ」

「……………分かった。さあ凜ちゃん」

シュート態勢に入る

花陽「に、逃げて！凜ちゃん」

凜 「い、嫌だかよちんを助けるんだ！」

「なら、少し眠っててね！」

先ほどと同じく伝来宝刀を撃つ

凜 「!!!」

どんどんシュートが凜に近づいていく

凜 「……………かよちんごめん」

「ラブアロー!!!」 「p s y c h i c」

「シュート!!!」 「A r t s
!!!」

「何!!!」

ドガアンンンンン
!!!

煙がたつ

凜「……………い、今の技は！」

穂乃果「凜ちゃんお待ちせ！」

ことり「助けに来たよ！」

凜 「穂乃果ちゃん！ことりちゃん！」

「来たか!!待っていたよ」

真姫 「今のシユートは……………」

海未 「ええ、とんでもない威力ですね」

花陽 「穂乃果ちゃん、ことりちゃん、海未ちゃん、真姫ちゃん、絵里ちゃん!!」

「へえ、5人で来たんだ？」

絵里 「……………貴方達は何をするつもり？」

「……………言う意味あるかな？」

絵里「そう」

真姫「花陽を離しなさい！」

「離せって言われて離す奴がいると思う？」

真姫「!!」

海未「……………花陽を連れ去って何をするつもりですか!!」

「言わないって言ったよね? まあ一つ言えるとなれば私達の計画の手伝いをしてもらうだけだよ」

穂乃果「……………ねえ、勝負しようよ?」

ことり 「穂乃果ちゃん!」

「勝負?」

穂乃果 「そうだよ!今そっちは5人、こっちも5人いる。だから5対5しようよ?」

「はあ?なんでそんな勝負を「いいよ」!!キャプテン!」

「受けてあげるよ、その勝負。そっちが勝ったら花陽ちゃんは諦めてあげる。けど私らが勝ったら花陽ちゃんは連れていくよ」

穂乃果 「分かった、やろう!」

???

G K
.....
穂乃果

D F
.....
ことり

M F
.....
真姫
.....
絵里

F W
.....
海未

ラブライブジャパン

F W …… フード

M F …… フード …… フード

D F …… フード

G K …… フード

真姫 「……………」

絵里 「真姫もしかして」

真姫 「分からないけど、もしかしたら」

絵里 「そう……………」

「意外ね、まさか勝負を受けるなんて」

「そう？この勝負は大切よ、この後のためにも」

「そうね」

ベンチ

凜「……………」

凜も出るよ！

え？

だめだよ！凜ちゃんボロボロだし

嫌だ！凜も

凜！！

!!!

黙ってみてなさい、私達が花陽を助け出しますから

で、でも

そんなボロボロで全力が出せるの？私達に任せて！

………分かった

凜「お願い。みんな」

穂乃果「1点先に取った方でいいかな？」

「どろろっ」

海未「余裕ですね」

「ボールもそちらからでどろろっ」

海未「後悔しても知りませんよ？」

真姫「一気に行くわよ」

海未「ええ」

海未がボールを蹴る

真姫「さあ！行くわよ！」

ドリブルで上がっていく

「……………」

「……………」

海未「なっ！」

真姫「……………舐めてるの！」

海未「真姫!!落ち着きなさい」

真姫がドリブルで上がっていく

海未「……………何か変ですよ!!」

真姫「……………関係ないわ撃つ!」

シュート態勢に入る

「さあ、来なよー!」

真姫「フォルテシモV3
!!!!!!」

音の旋律のシュートを撃つ

「……………へえ結構な威力だね」

海未「V3!?いつも間に」

穂乃果「行けるよ！真姫ちゃん！！」

「……………」

バシユン
!!!!!!!

真姫「……………!!なっ嘘でしょ？」

「……………」

海未「真姫のシュートを指一本で!？」

GKは真姫のフォルテシモを指一本で止める

真姫「……………」

「いいシュートだよ、まあ私には通用しないけどね」

絵里「……………圧倒的ね」

「さあ反撃行くよー！」ボールを前に蹴る

真姫「……………そこには誰も」

海未「いや！違います来てます！！」

真姫「!!」

「へへ、反撃だよ！」

真姫を抜き去る

真姫「何!？」

海未「止めます！」

手から矢を取り出す

海未「アーツ!!!」

「邪魔よ！」

風が巻き起こる

海未「!?」

海未は動きを封じられ抜かれる

「ほらほらどんどん抜いていくよ!」

絵里「行かせないわよ」

「……………ゼロヨン」

とんでもないスピードで抜き去る

絵里「は、早い!!」

「さ、後は2人」

「ことり」「ここからは通さない!」

「……………いや抜くね！」

抜こうとする

ことり「wonder zone!!!」

「!!……………体が」

ことり「少し止まっています」

ボールを取る

穂乃果「ことりちゃんナイス！」

ことり「海未ちゃん！」

海未「ナイスです！」

パスを取る

海未「さあ、これならどうですか？」

空に飛び上がりボールに力を込める。

そしてボールの周りにはオーラが集まり、鋭く、尖る

海未「神速ラブアローシュート!!!」

ことり「神速ラブアローシュート!?!」

穂乃果「あれは、海未ちゃんがラブアローシュートをスピードに特化させたバージョ

ンー！
」

海未「さあ！これが止められますか？」

ピシユン
!!!!!!!

ドガアンンンンンンンン
!!!

「……………」

海未「なっ！あれを足で」

「……………」
遅こよ

ボールを止めて言う

海未「くっ！」

真姫「はあ!!!」

絵里「行かせない！」

3人が同時にスライディングする

「……………邪魔」

全員を抜き去る

真姫、絵里、海未「!!」

穂乃果「!!何が起きたの!？」

ことり「こ、ここは行かせない! wonder zone!!」

「……………」

パチン!!

ことり「……………」

「無駄だよ」

ことり「!？」

穂乃果 「え？ことりちゃんか抜かれて」

「後は君だけだね」

穂乃果 「くっ！と、止めるよ！」

「……………まあ絶対無理だけど」

パチン！！

穂乃果 「!!」

急に目の前にボールが来ていた

穂乃果 「こ、これは!？」

反応出来ずボールごとゴールに入れられる

穂乃果「かはっ!!」

ドサっ!

海未、ことり「穂乃果! (ちゃん)」

真姫「い、今のはまさか!?!」

絵里「……………あれが真姫の言っていた消えるシュート」

「……………1対0私達の勝ちだね」

穂乃果「くっ!くっ!くっ!おお!!」バン!

地面に拳を当てる

「まあ、約束は約束だからね花陽ちゃんは連れて行く」

凜 「待つにゃー！」

「……………まだ立つの？」

凜 「つ、次は凜が相手だよー！」

「……………やっても結果は変わらないよ」

「諦めなさい、今の貴方達じゃ私達には勝てない」

凜 「うるさい、うるさいうるさいにゃあー！」

「……………やれやれ仕方ないな」

シュート態勢に入る

「キャプテン！これ以上は」

「口で言っても分からないなら仕方ないでしょ」

凜「くっ!!」

「私のシュートを止められたら諦めてあげるよ」

凜「の、望むところにや！」

海未「やめなさい凜!!これ以上は二度とサッカーができない体になります!」

凜「凜は、かよちんを守るんだにや!!!」

「……………」

花陽「もうやめて!!!」

花陽が叫ぶ

穂乃果、ことり「花陽ちゃん!」

真姫、海未「花陽!」

絵里「……………」

凜「かよ……………ちゃん?」

花陽「もうやめて、凜ちゃんもこれ以上気づいて欲しくないの!」

「……………素直についてくるか？」

花陽 「……………」 コクン

黙ってうなづく

凜 「なっ！」

穂乃果 「は、花陽ちゃん……………」

花陽 「私は大丈夫だから」 笑顔で言う

「行くわよ、花陽もこう言っている事だし」

「そうだね、本人が行くって言うてるからこれ以上攻撃する必要はないね」

「……………ラブライブジャパンよまた会う事になるだろう。その時は楽しみにしてるね」

海未「このままままと逃すと思いますか？」

海未はボールを蹴る

「!!」

海未「真姫！絵里！」

真姫、絵里「了解」

「流石にあのシュートを撃たれたら隙が出来て花陽ちゃんを取り返されるかもしれない
!!急いで!」

「分かってる!!」

海未「でりや!!!ハアアアア!!」

闇の力を加えて空中で乱打乱打そして下に叩き落とす

真姫、絵里「!!!」

そして左右に真姫、絵里が入って空中から海未がかかと落としでボールを蹴る

海未、真姫、絵里「soldier strike!!!!」

3人の強烈なシュートが飛んでいく

「準備できたよー!」

「それじゃあね、ラブライブジャパン」

ビシユン
!!!!!!!

バシユーーーーーン!!!

ゴールに入る

海未「!!くっ逃げられました」

真姫「あの一瞬で何が」

凜「……………かよちゃん
!!!!!!!!!!!!!!」

謎のフード達により花陽は連れ去られてしまった。果たしてこれからどうなっ
てしま
うのか？

次回、作戦会議

作戦会議

海未「……何故花陽が狙われたのですか!!」

穂乃果「海未ちゃん！気持ちは分かるけど落ち着いて！」

海未「落ち着いていられますか！花陽が拐われたんですよ！」

一同「……………」

花陽が連れ去られた後、一同は凜を連れて合宿所に戻ってきていた

海未「私探しに行つてきます!!」

ことり「海未ちゃん!!見つかるとはいいよ!」

絵里「ことりという通りよ!闇雲に探して見つかるとは行くわけがないわ」

海未「それでも助け出さないと行けません！」

結城「海未！落ち着け！」

海未「!!か、監督」

結城「向こうで何があつた？」

真姫「一番詳しく話せるのは凜ですが凜は今医務室にいます。かなりボロボロで今花丸と聖良と理亜が看病してます」

結城「そうか……敵は何人だった？」

絵里「フードを被っていたので顔などは分かりませんが5人でした」

結城「フードで5人か……」

ツバサ「……………何か知ってるんですか？」

結城「……………ついさつき、お前らが帰ってきて少ししてから俺の知り合いから連絡が入ってた」

携帯の画面を見せる

「結城!! さつき東京の方で津島 善子を見かけたんだけど誰かに連れて行かれたぞ!」

一同「!!」

真姫、エメラ、エレナ「!! 善子!!」

穂乃果、ことり、千歌、曜、あんじゅ「善子ちゃん!!」

海未「……………くっ! 善子までも」

梨子「善子ちゃん!!そんな……………」

ダイヤ「……………善子さん」

結城「……………目的はなんなんだ」

エレナ「監督!その後どうなったんですか?」

結城「善子を捕まえたと思ったら消えたそうだ」

一同「!?!?」

真姫「花陽の時と同じだ……………」

海未「……………何が目的なんですか!!」

結城「……………」

聖良「対策を立てませんか？」

一同「!!聖良（ちゃん、さん）」

真姫「凜の容体は!?!?!」

聖良「だいぶ、良くなっていますよ、真姫さんに言われた通りにしたので」

真姫「ありがとう」

ツバサ「んで、さっきの対策を立てるとは？」

聖良「次から何か会った時は全員でいきましよう、戦えるように」

ツバサ「成る程！試合形式にしてしまえば90分あるわね」

エレナ「それだけの時間があれば対策は立てられそうだな」

聖良「はい、なので今分かってることを話してもらえますか？」

真姫「分かっていることと言ってもほとんど無いわよ？」

聖良「無いよりマシですよ」

「凜が話すよ」

一同「!!」

凜「……………」

海未「り、凜！大丈夫なのですか!？」

理亞「ごめんなさい姉様どうしてもって凜が」

聖良「謝ることないですよ」

真姫「り、凜！貴方自分がどれだけ傷ついているか分かってるの!？」

凜「……………分かってる、けど凜はみんなにお願いしたいの」

真姫「お願い？」

凜「ラブライブジャパンの皆さん、かよちんを救ってください。お願いします」

頭を下げる

一同「……………」

凜「……………」

ポン

凜「!!」

穂乃果「任せて！私達が必ず取り返すから」

凜「穂乃果ちゃん」

真姫「任せなさい、けど凜は休んでなさいよ」

凜「真姫ちゃん……………ありがとう！」

聖良「……………凜さん相手の事を教えてもらっていいですか？」

凜「うん！勿論だにゃ！」



???

「……………順調ね」

「ああ、そうだね」

コーヒを飲みながら言う

「そういえばキャプテンは？」

「……………さあ？また向こうにでも行ったんじゃない？気になるって言うてたからさ」

「……………そう。本当に暇なのよね」

「奇遇だね私も暇だよ本当に」

「もう少し待ってよ」

「!!」

「ごめんね、勝手に出かけて」

「別にいいのよ……………今に始まった事じゃないし」

「ありがとう」

「んでどんな感じなの？」

「……………確実に成長してるよみんなね」

「そっかあ、いいねいいね楽しみだよ」

座っている椅子を揺らしながら言う

「でも、まだまだなんですよ？」

「まあ、そうやなあ」

「……………これ以上強くする必要本当にあるの？」

「あるよ、必ず!!」

「……………そ」

「キャプテン!!」

タツタツタツタツタ

走ってくる

「……………準備できた？」

「はい!揃いました!!」

「了解、もうすぐいくよ、先に行っててね」

「はい!」

「それじゃあ行こうか」

「おっけい！」

「んーやつと体動かせるわね」

凜「これくらいだにゃ！」

聖良「……………全く正体は分からないんですね」

海未「言える事があるとすれば一つ、彼女たちは強いという事」

真姫「それは間違い無いわ」

ツバサ「……………ことりの wonder zone に引っかからずに抜くとは」

結城「何かしていた事とかなかったのか？」

ことり「……………指パツチンをしていたような」

エレナ「指パツチン？」

ことり「うん、それに気づいた瞬間私は抜かれていた」

花丸「それって!!」

エメラ「まるでヘブンスタイムみたいね」

一同「!!」

絵里「……………希の技よ!?!ヘブンスタイムは!」

ツバサ「……………確かにヘブンスタイムだと思うが恐らく違うだろう、あれは暗示であり風が巻き起こる。知っている限り希しか使えないからな」

絵里「そっか……………」

曜「…一つ分かるのはヘブンズタイムより強力な技という事だね」

ツバサ「……………」

ことり「あのフードの人の技はおそらく完全に時間を止めてるよ」

一同「!!」

結城「……………まさかそんな事ができる奴がいるとはな……………」

ツバサ「それはとんでもないわね」

絵里「止められる方法は無いに等しいでしょうね」

真姫「いや、あるわよ」

ツバサ、絵里「!?」

真姫「使えなくさせるのよ」

穂乃果「使えなくさせる?」

真姫「ええ、そんな強力で時間をいじれる力なんだから連発は出来ないだろうしそれに負担もとんでもないと思うの。だからあえて使うような状況に追い込むのよ!」

千歌「成る程!それなら止められるかも!!」

エレナ「だが相手に使わせる状況に追いやる事が出来るのか?」

ことり「私がMFに上がればいいんだよね」

穂乃果「それもそうだけど」

海未「相手がそういう事をしてくると予想してくると思います、相手は相当の実力者です。」

結城「……………いずれにせよいつかは正面攻略をしないといけないな」

一同「……………はい」

結城「が……………問題はそれだけでは無いだろう」

真姫「G K……………」

理亞「真姫のシュートを指一本で止める……………」

海未「……………おそらく、今の私の技では決められないでしょうね。見せている技では」

穂乃果「あの技なら！絶対に決められるよ！」

海未「……………そうかもしれませんが、あのゴールキーパーは相当ですよ、それにまだ完全に完成してないですから」

真姫「ラストリゾットを超えているのね」

海未「……………はい、そうですね」

絵里「楽しみね」

ダイヤ「……………」

エメラ「姉さま、私のあの技なら」

ダイヤ「……………破れるかもね、けどまだ未完成でしょ？」

エメラ「試合中に完成させる!!」

ダイヤ「……………」

結城「次奴らがいっつ現れるか分からんからな、お前達には新タクティクスの練習をしてもらう」

一同「!!」

結城「ひとまず、今日は体を休めて明日から練習をする!!しっかり休めよ!」

一同「はい!!」

医務室

凜「……………かよちん」

真姫「大丈夫よ凜！あの子は無事よきつと」

穂乃果「そうだよ！花陽ちゃんなら大丈夫だよ」

凜「……………」

海未「……………ひとまず、貴方は自分の傷を治す事を考えなさい」

凜「……………それは分かってるよ。けど」

真姫「……………花陽を取り返しても貴方がボロボロだったから悲しむわよ花陽」

凜「!!」

真姫「だから貴方は早く治るように休みなさい」

凜「そうだね。ありがとう！真姫ちゃん」

プルプルプルプル

絵里「もしもし?」

希『エリチ！そっちはどう？』

絵里『今少し大変な事になってる』

希『……………大変な事ねえ』

絵里『希とにこと果南がいないから私達でやるしかないけど結構大変よ』

希『そっかあ、でも大丈夫だよ、みんななら』

絵里『そうね、頑張るわ』

希『じゃあ、切るね。ツバサつちとエリチ頼んだで』

絵里『ええ!!』

明日からタクティクスの練習を始める!!

筈だったのだがある二人に届いたメールによってラブライブジャパン達はさらに追

い込まれる事となる。

次回、最悪の再開

最悪の再開

合宿所、会議室

一同「ルビイ（ちゃん）がきえた!?!」

結城「ああ、今朝俺とダイヤの元にダイヤの母から連絡が来てな、ルビイと連絡が取れないって」

海未「……………何故ルビイが」

ツバサ「……………おそらく狙われたのね奴らに」

一同「!!」

結城「おそらく、花陽、善子と同じだろうな。連れ去られた可能性が高い」

真姫「くっ!!ルビィまでも!」

結城「ちなみに浦の星の5人と聖良と理亞は先に浦の星に向かった。最後に連絡があつたのは浦の星だったらしい」

穂乃果「なら!穂乃果達もすぐに行かないと!!」

海未「そうです!早く行きましょう!!」

絵里「海未！穂乃果！このまま行ったら前と同じ結果よ！」

穂乃果、海未「!!」

エレナ「最悪戦わなくともルビイだけでも

取り戻す作戦を考えるべきだ」

海未「それはそうですが!!」

ことり「結城さん」

結城「なんだ？」

ことり「ここに居る全員に新タクティクスを教えてくださいませんか」

一同「!？」

海未「一刻を争うのですよ!!」

ことり「だからだよ!もし戦わないといけない状況になったどうするの?ここままじゃ勝てないよ!」

海未「!!」

ツバサ「それに結城さんに車で送ってもらおうとして、一台では全員乗れないだろうだから呼ぶ時間で練習できるわ」

結城「……………元々それを考えていたからな。とつくに連絡を回してある。だからグラウンドに行くぞ!!」

一同「はい!」

一方ダイヤ達は

ダイヤ「お母様！」

ダイヤ母「ダイヤ！それに皆さんも」

千歌「ルビイちゃんは!？」

黒澤母「……………あの子ね昨日に浦の星で練習してくるって言ったきり帰ってこないのよ携帯も繋がらない……………」

ダイヤ「ルビイ……………」

花丸「ルビイちゃんに変わった様子はありませんでしたか？」

黒澤母「……………なかつたですよ」

ダイヤ「……………」

聖良「浦の星には行きましたか？」

黒澤母「……………いえ、まだ行ってません」

理亞「決まりね、姉様浦の星に行きましょう！」

花丸「理亞ちゃん!!」

理亞「……………話からするに可能性は浦の星が一番高いわ!!」

ダイヤ「確かにそうですね」

千歌「じゃあ、結城さんには浦の星と言っておくね」

ダイヤ「お願いします」

黒澤母「……………今から学校まで送りますね」

ダイヤ「いいんですか!？」

黒澤母「……………私に出来ることは送る事くらいです。ルビイを助け出すのは皆さんに任せます」

理亞「……………絶対に探し出して見せます」

黒澤母「それじゃあ車を出すので玄関で待っていてください」

ダイヤ「(無事でいて下さいルビイ)」

合宿所

結城「以上が新しいタクティクスの説明だ」

ツバサ「……かなり力のいるタクティクスだね」

海未「でも、面白いですね。それが成功すれば一気にいけますよ」

絵里「逆に失敗すれば危ない事になりかねないからね」

穂乃果「大丈夫だよ！失敗しても私達がゴールを守るんだから。ね？曜ちゃん」

曜に向かって言う

曜「勿論だよ！ゴールは任せて!!」

拳を合わせる

結城「それと穂乃果！」

穂乃果「はい！」

結城「お前には究極のGK技を覚えてもらう」

一同「!!」

穂乃果「究極のGK技ですか!？」

結城「ああ、俺が高校時代。考えついた技で俺がGKじゃなかったから出来なかった技だ」

穂乃果「ど、どんな技なんですか!!」

目をキラキラさせて聞く

結城「一言で言えば上から降り注ぐスターよような技だ」

穂乃果「上から降り注ぐスター……………」

結城「が、とてもコントロールと力のいる技だ……………」

穂乃果「使いこなして見せます!!」

結城「その息だ!」

絵里「監督…………GK技と言いましたね?」

結城「おう、言ったな」

ツバサ「と言うことはFW技、MF技、DF技もあると言うことですよね?」

結城「ああ、勿論ある。だか昔のままじゃなくアレンジを加えようと思った技もあるからそれはまた俺が決めた人に習得してもらおう」

ツバサ「そうですか……………」

真姫「……………」

結城「……………真姫、そう慌てるなお前はまず無考の極意を身につけないといけないだろ？」

真姫「そうですね……………」

結城「階段は一つずつ登るものだろ？」

真姫「まあ……………」

結城「まず今は必殺タクティクスだ……………俺は穂乃果に必殺技の説明するからみんなはタクティクスをやってみてくれ」

一同「はい!!」

結城と穂乃果がグラウンドを離れる

エレナ「まずどうする?」

ツバサ「まずはDFなしでゴール前からやってみましょう」

絵里「蹴るのは海未かダイヤかツバサか理亞かエメラだけど、ダイヤと理亞は居ないから海未かツバサかエメラね」

ツバサ「じゃあ私が行くわ」

海未「……それでは私がパスを受けます」

ツバサ「それじゃあ!行くわよ!」

「準備はいい？」

「勿論!!」

「はあ、まさか私がキャプテンとはねえ」

「でもキャプテンになれる実力は持ってたんだから自信もって!!」

「……あ、ありがとう」

少し顔を赤らめる

「でも楽しみだね。戦うのが」

「そうね」

「お、準備は終わったみたいやね」

「ぼ、ボス！」

「そろそろ到着するみたいやから。みんな配置について」

「了解!!」

「……………」

「どうした？」

「私の力通用するかな？」

「……………そんな事かあ、大丈夫だよ」

「ボスが言うなら、安心です」

「さあ！行ってこい！」

「はいっ！」

一方ダイヤ達は

黒澤母「……………」

ダイヤ「……………お母様」

黒澤母「どうしました？」

ダイヤ「……………前にルビィがある技の特訓を始めたと言っていましたよね」

黒澤母「ええ、言ってたわね。急に始めたからびっくりしたわ」

聖良「……………ダイヤさんもしかして」

ダイヤ「ええ、もしかしたらその技が関係しているのかもしれないわ」

理亞「どう言う事？」

ダイヤ「少し前、お母様から聞いた後に監督にも聞いたんです技について」

千歌、曜、梨子、花丸、理亞、聖良「!!」

ダイヤ「監督はこう言っていました『ある技に対する技』だとそしてその技の威力はとんでも無いと」

花丸「ある技に対する技？」

「ダイヤ「はい、なので敵はこの技を狙っているのかも」

聖良「という事は奴らは私達をサッカーで叩き潰そうと考えているという事ですね」

ダイヤ「それが一番考えられます」

千歌「それは防がないと!!」

ダイヤ「……………ルビィ」

黒澤母「さあ、着きましたよ!」

浦の星の校門に着く

ダイヤ「ありがとうございます!」

黒澤母「ええ、みなさん。ルビイをお願いします」

一同「はいっ！」

ダイヤ「それでは行きましょう!!」

千歌「あ！待ってここは2手に分かれない？」

聖良「それはいい考えですね！」

千歌「私と曜ちゃんと梨子ちゃん、ダイヤさんと花丸ちゃんと聖良さんと理亞ちゃん
で」

花丸「了解ズラ!!」

理亞「でも本当にいいの？前みたいに急に襲ってきたら」

梨子「確かにそれは……………」

ダイヤ「では、ルビイを見つけたり、何か起きたときは電話を鳴らしましょう。グラ
ウンド集合にして」

千歌、曜、梨子、花丸、聖良、理亞「了解！」

こうして二手に分かれる

ダイヤ「さて、行きましょう」

花丸「あてはあるズラ？」

ダイヤ「ひとまず、部室に行こうかと思っています」

聖良「成る程、可能性はあります」

ダイヤ「……………」

理亞「……………何か不気味ね」

聖良「理亞も感じましたか、私もこの学校に来てから変な感じがします」

ダイヤ「……………」

花丸「……………何かあるかもしれないズラね」

理亞「でも、行くしか無いわよ」

花丸「うん」

部室

ガチャギイー

ダイヤ「……………電気もついていませんわね」

パツチ

花丸「……………静かズラ」

聖良、理亞「……………」

ダイヤ「……………ここには居ないですわね」

花丸「!!ダイヤさん!これを見て」

花丸はロツカーを指す

ダイヤ「!!これは」

ロツカーにはルビイの靴が入っていた

理亞「靴くらい入ってるんじゃないの?」

ダイヤ「いえ、ルビイは毎回靴を家に持って帰ります。臭いとかをすぐく気にする性格ですからだから、ここに靴が置いてあるという事は。ここに来ているという事です!」

聖良、理亞「!!!」

ダイヤ「この事はグラウンドでは無いですわね……………」

花丸「お、屋上かもしれないズラ！ダイヤさん」

ダイヤ「確かに有り得ますわね！行きましょう!!」

4人は屋上に走る

「……………」

が、4人は気付けなかった屋上に走って行った瞬間部屋に入った者がいる事に

屋上

ダイヤ「ハアハアハア」

ガチャン!!!

ダイヤ「……………い、居ないですわ」

花丸「ハアハアハア」

聖良「……………ルビイさんはどこに？」

理亞「!!あれは」

理亞は何かを見つける

理亞「これ!!ルビイの携帯よ!？」

ダイヤ、花丸、聖良「!!!」

理亞「なんでここに落ちているのよ!」

聖良「……………考えられるのは一つここで奴らに拐われたという事」

花丸「……………遅かったズラ」

ダイヤ「……………くっ、ルビィ」

理亞「……………完全に手掛かりが無くなったわね」

ダイヤ「ルビィ!!どこですか!!」

聖良「……………一旦千歌さん達と合流してこの話をしましょう」

花丸「……………そうだね」

ダイヤ「……………」

理亞「……………」

そしてダイヤはふとグラウンドを見る

ダイヤ「!!」

そしてダイヤは何かを見つける

花丸「?ダイヤさん」

ダイヤ「……………!」

ダイヤは走り出す

花丸、聖良「ダイヤさん!」

理亞「ダイヤ!」

ダイヤ「ハアハアハア」

聖良「……………どこに向かっているんでしょうか!?このままでは逸れてしまう」

理亞「このままじゃ相手の思うつぼだわ!。姉様!花丸行こう!!」

聖良「その前に千歌さん達に連絡を……………」

3人はダイヤを追いかける

ダイヤ「ハアハアハア」

ダイヤは階段をどんどん降りていく

ダイヤ「ハアハアハア」

階段を走って上がり。そして今走って下がっているためとてもしんどいが決して足を止めない

ダイヤ「ルビィ！ルビィ！」

外に出る

ダイヤ「ルビィ！！！！」

そしてダイヤはグラウンドで着く

ダイヤ「ハアハアハアハアハアハア」

流石に疲れたか、グラウンドで少し手を膝につける

ダイヤ「……………」

少し休憩し前を見る

ダイヤ「……………!!! あ、あれは！」

グラウンドの真ん中に赤い髪の少女がダイヤと逆方向を向いていた

ダイヤ「や、やっと見つけましたわ！ルビィー!!」

走っていく

花丸「ハアハアハア、グラウンドまで来たズラ」

3人も追いつく

聖良「……………!!二人とも真ん中の赤い髪の人を見てくださいあれってまさか!?!」

理亞「……………間違いない!ルビィよ!!」

3人も走っていく

ダイヤ「ルビィ!!」

赤い髪「……………」

ダイヤ「無事ですか!?!ルビィ」

赤い髪「……………」

ダイヤ「心配したんですよ」

赤い髪「……………」

バサア!!

ダイヤ「!!な、何なんですかそのユニホームは」

赤い髪「……………」

今までに見たことのないユニホームを着ていた

花丸「あ、あれは何ズラ」

聖良「……………嫌な予感がします」

ダイヤ「……………る、ルビィ!!それは何ですの。」

赤い髪「……………久しぶりだねお姉ちゃん」

そう言つて振り向く

ダイヤ「ルビィ!!」

ルビィ「……………」

理亞「……………何か変よ!」

花丸、聖良「!?!」

千歌「ハアハアハア」

千歌達も遅れて到着する

曜「聖良さんが慌てていたから急いできたけど……………!!あれは」

梨子「る、ルビィちゃんよね?けどあんなユニホーム見たことない!!」

ダイヤ「ルビィ!!探してんですのよ!」

ルビィ「……………そつか探してくれたんだありがとね」

ダイヤ「さあ、お母様も心配しています早くかえ」

ルビィ「帰らないよ」

ダイヤ「なっ!……………どれだけ心配していると思つて」

ルビィ「うるさい、お姉ちゃん」

ダイヤ「!?!」

花丸「ルビィちゃん!?!」

ルビィ「……………私はずっと思っていたんだ、何で日本代表になれなかったのか。それがずっと悔しくて、ずっと練習してたんだよ」

拳を握って

ルビィ「けど、ボスは教えてくれた。ルビィが弱いんじゃない、選ばなかった監督が悪いんだって」

ダイヤ「ルビィ……………」

ルビィ「だからね、今日はお姉ちゃんに勝つよ!!」

パチンっ！

ビシユン!!!

ルビィが指パッチンするとフードの選手達が現れる

一同「!?」

そして一齐にフードを取っていく

聖良「こ！これは!？」

理亞「ついに顔を見せたわね!？」

「……………」

千歌「……………」

曜「千歌ちゃん……………ルビイの横の二人雰囲気は誰かに似てない？」

千歌「……………!!!まさか」

「昔の情けない自分を叩きのめし」

フードを取る

花丸「!!善子ちゃん!」

聖良「善子さん!!」

理亞「……………」

「証明する、私達が優れている事を」

フードを取る

千歌、曜、梨子「花陽ちゃん!!!」

ルビィ「私達のチーム、アドバンチュールがね!!」

ダイヤ「ルビィ……………」

最悪の形で再開を果たしてしまった。
どうなってしまふのか。

次回 別人の強さ

アドバンチュール戦「別人の強さ」

ルビィ「私達アドバンチュールが相手だよ!!」

ダイヤ「る、ルビィ……………」

善子「……………残念ねダイヤ。私もルビィも花陽も自分を変えるつもりはないわ、私達はアドバンチュールとして貴方達を叩きつぶす」

ダイヤ「……………何があつたんですか」

善子「……………さつきルビィが言った通りよ私達はボスに選ばれたそしてボスに賛同したのよ」

理亞「……………そんな事で私達との事を無かつたことにするの?」

花陽「……………」

理亞「応えなさい!!」

ルビィ「……………私達はアドバンチュール……………ラブライブジャパン勝負だよ」

ルビィ達はベンチに向かう

ダイヤ「る、ルビィ!!」

ルビィを追いかけようとする

ガシツ!

聖良「……………今は耐えてくださいダイヤモンドさん」

ダイヤ「耐えられるものですか!!ルビイは操られているのです!!絶対に」

千歌「……………」

花丸「……………」

理亞「……………ねえ」

花丸「どうしたの?理亞ちゃん?」

理亞「ルビイの雰囲気。どこかで見たことあるわよね?」

花丸「……………雰囲気ズラ?」

理亞「うん」

花丸「……………」

アドバンチュールベンチ

ルビィ「……………」

善子「勝負とは言ったけどどうするの？まだ向こうは7人しか居ないわよ」

ルビィ「……………もうすぐ来るよ」

善子「それは本当？」

ルビィ「うん、ここに来るよ、みんなが」

ラブライブジャパンベンチ

一同「……………」

理亞「どうするのよ!!」

聖良「落ち着きなさい理亞!!」

理亞「落ち着いてなんかいられないわよ！ルビィが操られているのよ！」

聖良「そもそも操られているのか分かりませんよ！自分の意思と言っていましたし」

理亞「……………私は助ける！絶対に」

ダイヤ「……………」

理亞「ダイヤ!!」

聖良「理亞。落ち着きなさい!!」

ダイヤ「……………理亞さん、一旦落ち着きませんか？先程は私も混乱していましたが一度落ち着かなければ……………」

理亞「それは分かってるわよ……………けど」

花丸「どうするズラ！」

ダイヤ「もうすぐ来ますわ」

理亞「……………」

キイイイーーーーー
!!!!

一同「!!!」

ルビィ「来たね……………」

海未「皆さん!!お待たせしました!」

千歌、曜、梨子「海未さん!!!」

エレナ「遅れてすまない」

聖良「いえ、ナイスタイミングでしたエレナさん」

エレナ「……………」相手を見る

エレナ「成る程ななんとなく状況は分かった」

あんじゅ「まさかあの子達が敵になるなんてね」

真姫「……………花陽」

千歌「あれ?みんなは?」

エレナ「エメラと絵里とツバサと穂乃果とことりは遅れてくる」

梨子「……………主力がないのね」

ダイヤ「けど、11人これで戦えますね」

ルビィ「……………（全員いないなああの二人は仕方ないとして……………何してるんだろ
う？）」

善子「ふ、11人揃ったわね。それじゃあやりましょう」

ダイヤ「ええ、勝負ですわ！」

理亞「監督は？」

真姫「監督は少し遅れてくるわ」

理亞「!!何」

真姫「というわけで監督は不在よ。そのかわり」

「私が来たよ」

一同「!!」

海未「送ってくださいあってありがとうございます美麗さん」

美麗「いえいえ、旦那の頼みだしね」

一同「美麗さん!?!」

美麗「ごめんね、監督じゃなくて」

ダイヤ「い、いえ。メンバーを送っていただいておりますわ」

美麗「私はこれくらいしか出来ないからね」

理亞「……………監督のお嫁さん」

美麗「一つだけ旦那から伝言があるわ、「お前らの全力を尽くせ！」だって！」

一同「はい!!」

ラブライブジャパンがユニホームに着替える

ルビィ「……………審判がないなあ」

美麗「あーそれなら私に任せて」

ルビィ「!？」

美麗「……………これを押せばいいのかな？」懐からボールを取り出す

カチツ！

ブオン！

「な、な、な、またどこかのグラウンド？」

美麗「よろしくお願いします」

「おう！任せとけい！」

ルビィ「……………」

「さあ！監督不在のラブライブジャパン対アドバンチュールの戦いが今始まります!!」

ラブライブジャパン

FW……黒澤ダイヤ……園田海未○……鹿角理亞

MF……西木野真姫……統堂エレナ

MF……高海千歌……渡辺曜

DF……優木あんじゅ……国木田花丸……鹿角聖良

GK……渡辺曜

アドバンチュール 監督???

FW……苗代 安美……津島善子

MF……小泉花陽

MF……り・カヤ……丸山知里……闇崎 玉

D F …… 浜崎 美咲 …… 白石 浴衣 …… 田中 幸子

D F …… …… 黒澤ルビイ○

G K …… …… 山西春香

海未「キャプテンは私なんですわね」

エレナ「ああ、穂乃果、ツバサ、絵里がない今お前に任せるべきだと思つてな」

海未「分かりました。精一杯やります」

美麗「……………相手は強いよ。頑張つて」

善子「さあ、一発目からドカンと行こうぞ」

ルビィ「……………善子ちゃん」

善子「何？」

「それではキックオフです!!」ぴー!!

海未「行きますよ! ダイヤ!」

海未はダイヤにパスを出す

ダイヤ「さあ、速攻で……………」シユン!!!

海未「!!なっ」

理亞「は、早い」

ルビィ「ボールは貰うねお姉ちゃん」

ダイヤ「!!ルビィ」

ルビィがパスをあつというまにカットする

「な、なんととんでもないスピードで開幕のパスをカットしたぞ!!」

ルビィ「さあ、行くよ！」

「黒澤ルビィが上がっていく!!」

美麗「……………止めれるの？みんな」

ルビィ「ふふ、いい感じだね！」

千歌「行かせないよ！」

ルビィ「……………邪魔だよ！」

自身に風を纏う

千歌「!!くっ」

ルビィ「疾風ダッシュ!!」

千歌「うわあ
!!!」

「疾風ダッシュで高海を吹き飛ばしたああ！」

エレナ「くっ！まずい」

ルビィ「さあ、行くよ」

ドリブルを止めてボールを上にあげる

ダイヤ「!!まさかその技は」

ルビィは炎の力を足に貯めて回転しながら上にかかる

ルビィ「ファイアトルネード!!!」

あんじゅ「!!す、すごい威力」

曜「任せて!!」

あんじゅ「曜!？」

ボールがゴールに向かう

曜「!!」

曜はステップを踏んで激流を呼び起こす

曜「はあああああ!!! AQUARIUM」

水の壁でシュートを止める

ルビィ「……………流石にきついな」

曜「うおおおおお！はあ！！」

ボールは威力を失って落ちる

曜「……………ルビイちゃん、簡単に点はあげないよ！」

ルビイ「……………そうこないとね」

あんじゅ「曜ちゃん!!」

曜「了解！あんじゅちゃん!!」

あんじゅにボールを渡す

ルビイ「へえ、DFのルビイを抜けるの？」

あんじゆ「ええ、抜くわ！」

あんじゆは矢のようなポーズをとる

あんじゆ「shocking slash!!!」

ルビィ「!!」

ルビィを抜き去る

あんじゆ「千歌ちゃんの仇よ」

エレナ「あんじゆ!!こつちだ」

あんじゆ「ええ、分かってるわよ!エレナー!」

エレナ「よし」前を向く

エレナはそれと同時にある事に気がつく

エレナ「FW3人行くぞ!!!」

海未、理亞、ダイヤ「!!!」

エレナ「ピーー!!」

エレナは笛を吹いて七色のペンギンを呼び出す

エレナ「皇帝ペンギン7!!!」

「おー!つと自陣からのローングシュートだ!!!」

善子「!?しまった見られていたのか隙間を」

エレナのシュートはまっすぐゴールに向かっていく

山西「そんな距離のシュートなど簡単に」

エレナ「いや、これはただのシュートじゃないぞ」

山西「!!」

エレナ「これはシュートチエインだ!!」

海未「ダイヤ、理亞!!ぶっつけ本番ですが行きますよ!!」

理亞「もしかしてあれ!？」

ダイヤ「出来ますよ私達なら」

理亞「分かった!」

海未「ピーーーー!!」地面からペンギンを呼び出す

海未「皇帝ペンギン!!!」

ボールをペンギンと共に蹴る

そしてダイヤと理亞がサイドから

ダイヤ&理亞「2号!!」

左右からボールを蹴る

「な、なんとお!!さらに皇帝ペンギン2号でチェインだ!!」

山西「!?くっこの威力は「ファイアーカット!!」!!」

誰かが飛ばした火の衝撃波がシュートに当たり威力を落とす

山西「これなら止められるね！」

手を前に十字を描く

山西「孤月十字掌!!」

ボールを吹き飛ばす

そしてボールがラインを割る

海未「くっ、一体誰が」

煙が晴れていく

ルビィ「……………今のシュート中々だね海未さんエレナさん」

海未「……………貴方のブロック技で威力を落としましたんですね。」

ルビィ「はい、そうですよ」

ダイヤ「……………ルビィ」

??? 「ふふふ、面白い戦いになりそうだね」

遂に始まったアドバンチュール対ライブジャパン果たしてどうなるのか

……………

次回、拮抗の実力

アドバンチュール戦「拮抗の実力」

ラブライブジャパン対アドバンチュール

前半5分 0対0

「さあ、開始から猛攻に次ぐ猛攻!!お互い攻めるもどちらもゴールを割る事をできませ
んでした!!さあここからどうなるのか!」

ダイヤ「……………」

海未「ダイヤ!」

ダイヤの肩に手を置く

ダイヤ「!!海未さん!」

海未「今は集中するときですよ」

ダイヤ「!!……………分かってますわ」

海未「見せてあげだらいいんじゃないですか?ダイヤの力を」

ダイヤ「海未さん……………」

海未「さあ!こちらのボールです行きますわよ!」

そう言つて背中を叩いてスローインの場所に行く

ダイヤ「今は……………やるしかないですわ!」

「さあ、ラブライブジャパンのスローインです!!」　びーー!

海未「ダイヤ!!」

ダイヤにパスをする

ダイヤ「!!行きますわよ!」

そうやってボールを上に向けて足に火の力を貯めて回転し飛び上がる

ルビィ「来たね!お姉ちゃん!!」

ダイヤ「見なさい!ルビィこれが本場のファイアートルネードですわ!!!!」

ゴールに向かう

ルビィ「私が止めてあげるよ!お姉ちゃん」

と言いボールに向かっていく

ダイヤ「……………」

ルビィ「はああ!!!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!!ぜい!!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアーカット!!!」

ボールに激突する

海未「!?あれはさっきのシュートの威力を弱めた技!!」

ルビィ「うらああああ!!!」

ダイヤ「……………強いですね」

ルビィ「うらああ!!!」

ボールを吹き飛ばす

ルビィ「さすが本場だね……………けどお姉ちゃんのシユートじやファイアーカットは超えられない」

ダイヤ「……………純粋な力勝負では負けますね、貴方の努力は分かりましたわ」

ルビィ「？」

ダイヤ「けれど、知恵は私の方がありますよ」

ルビィ「!!なつまさか」

ダイヤ「……………このシユートは初めから決めに行つたわけじゃないですわ。わざと弾かせるように打つたんですのよ」

ルビィ「!!」

ルビィがボール弾いた先には

理亞「ナイスよ!ダイヤ」

ルビィ「り、理亞ちゃん!?!」

「な、なんとお!!弾いた先には鹿角だああああ!!完全にフリーだぞ!」

山西「いー!」

理亞「一点貫うわよ！」

ドリブルを止める

理亞「はああああ!!!」

ボールをどンドン凍らせていく

理亞「うらああああ!!!」

バキン!!!

理亞「……………はっ！」

ボールを上を蹴り上げる

あんじゅ「あれは!？」

聖良「理亞の一人の必殺技ですよ………完成したんですね」

理亞「ふっ!」

理亞もボールと共に上上がる

理亞「喰らえ!」

理亞は凍ったボールをオーバヘッドで下に叩き落とす

理亞「エターナル!! ショット!!」

ガギャン!!!

一同「!？」

「超強力なシュートだああ!!」

山西「くっ!!止めて見せる」

自分の前に十字を描く

山西「孤月十字掌!!!」

十字のエネルギーをボールに当てる

山西「くっ!!!この威力は!?!」

理亞「……………」

地面に着地した理亞はゴールを少し見ると何かを確信したように背を向ける

山西「ぐああああ!!!」

バシユン!!!

「ぐ、ゴール！均衡を破ったのはラブライブジャパンの鹿角理亞だああああ!!!新必殺でゴールを貫いた!!!」

理亞「……………」

ダイヤ「お見事ですわ！理亞さん」

理亞「ありがとうダイヤ」

パン！ハイタッチをする

聖良「出来たんですね！必殺技」

理亞「はい！姉様！」

ゴールに戻っていく

美麗「見事ね……………さ、これでどう動くか」

ルビィ「くつ、やられたルビィがお姉ちゃんにムキになり過ぎていた……………」

善子「……………以外とダイヤは冷静ね。予想外だわ」

ルビィ「うん、もっと混乱してくれろと思ってたんだけど」

善子「でも、これで闘いがあるじゃない？ね花陽」

花陽「そうだね。善子ちゃんもキャプテンもここからだよ！」

ルビィ「……………分かってる」

ダイヤ「……………ルビィこれで分かりましたか私達の力が？先程の発言も取り消す気に
「ならないよ」!!」

ルビィ「なんで取り消さないと行けないの？ルビィはあの人を信じてるあの人こそが
……………まあいいや、お姉ちゃんもう何もさせないよ」

ダイヤ「……………そうですか。帰ってきたらたつぷり説教させていただきますわね」

ダイヤはポジション戻る

善子「……………少し頭は冷やしたようね」

ルビィ「うん、ごめんね」

花陽「まだ時間はある。まずは一点を返すよ」

ルビィ「うん!!」

「さあ、勢いに乗って先制点を取ったラブライブジャパン。これに対してアドバンチュールはどう攻めるのか！キックオフです!!」

善子「さあ、行くわよ！」

ボールを渡す

苗代「花陽ちゃん！」

後ろの花陽にボールを渡す

花陽「ありがとう安美ちゃん」

前を向く

花陽「……………行くよ」ギロツ

ドリブルを始める

海未「行かせませんよ!!」

花陽「……………海未ちゃんが相手かあ、少し前なら考えられなかったなあ」

海未「かかってきなさい花陽、私が止めて貴方を連れ戻してみせる」

花陽「そつかあ……それは無理だよ」

海未「!!」ゾグッ

海未は何かを感じだ得体の知れない何かを

花陽「だって海未ちゃんでは止められないから」

海未「……喰らいなさいアーツ」

シュイン
!!!!

海未「?!?!」

花陽「散ってください」

海未の周りにはオリオンの星々が輝いていた

花陽「……………イクス・オリオン」

ドガン
!!!!!!!

ダイヤ「?!?!?
」

理亞「な、何今の爆発」

エレナ「!!海未!!」

「な、なんとお!!とてつもない爆発が起きたぞ!!!園田は無事か?」

花陽「……………」

花陽は気にせず上がっていく

あんじゅ「エレナ！ひとまずDFを！」

エレナ「分かってる!!」

ダイヤ「海未さん!!!」

爆風の中から海未が顔を出す

海未「くっ凄まじい威力ですね。視力が一瞬無くなりました……………」

ダイヤ「くっ！」

花陽「……………」

ドリブルで上がる

千歌「行かせない!!!」

千歌がスライディングを仕掛ける

花陽「……………イクス・オリオン」

千歌の周りにオリオンの星々が輝いていた

千歌「!!!」

ドガン
!!!!!!!

梨子「千歌ちゃん!!!」

花陽「さあ任せたよ!安美ちゃん!!!」

安美「ナイスパスです!!」

一気にゴール前だ!!

聖良「行かせま「おつと」!!」

善子「見てなさいそこで!!」

曜「止める!!」

安美「……………行くよ」

「ボールを上蹴り上げ一回転そして自身も飛び上がりもう一度ボールを蹴り上げもう一度一回転して目にも止まらぬ速さでボールを蹴る

安美「百烈ショット!!!」

無数のボールがゴールに向かう

曜「止めるよ！」

曜はステップを踏んで激流を呼び起こす

曜「はあああああ!!! AQUARIUM」

水の壁でシュートを止める

曜「!!お、重い」

安実「……………渡辺曜ちゃん貴方の弱点は知ってるよ」

曜「くつ……………うおおおおりや!!!!」

さらに水を激しくする

安実「!?」

曜「決められてたまるか!!!」

ボールを弾き飛ばす

ダイヤ「……………よかった」

海未「いや、違う!!曜!!それが相手の狙いです!!」

善子「さあ、一点目貫うよ!!」ギロツ

曜「しまった!!」

ボールを取って上に瞬間移動する

善子「ディザスターブレイク!!」

闇の力を込めて打つ

そしてボールは地面を這いずってゴールに向かう

曜「くっ、くそお!!!」

ステップが間に合わないと考えたため別の技を選択する

曜「はああああ!!!」

地面から水を持ち上げ力を溜める

曜「マジンザ・ウェーブ!!」

善子「……………」

曜「はああああ!!!」

ボールをキツチしようとする

善子「……………やるわね、曜。けどそんな不充分の必殺技で止められると思う?」

曜「!!くつ……………もう限界……………うわあああああ」

バシユン
!!!!!!

「ゴール!!!アドバンチュールがあつという間同点ゴールを決めたぞ!!!」

善子「よし、ナイスよ花陽」

花陽「ナイスシュート善子ちゃん」

自陣へ戻っていく

曜 「くっ！くそお!!!」

あんじゅ 「曜ちゃん、どんまい」

曜 「ごめんなさい、私あの弱点はずつと言われてきていたのに」

聖良 「悪いのは曜さんだけです、私達も花陽さんのイクス・オリオンに気を取られてました。ごめんなさい」

花丸 「……………花陽ちゃん」

梨子 「千歌ちゃん大丈夫!？」

エレナ 「何がおきたんだ!？」

千歌 「……………イクス・オリオンが発動した瞬間目の前が真っ暗になって視力が失われ

たから動けなかった」

梨子、エレナ「!!」

千歌「……………恐ろしい技だよ」

ルビィ「二人とも凄いよ！」

善子「ルビィ貴方もあれくらい連携しなさい!!」

花陽「そうだよ、一人でやるものじゃないでしょ？」

ルビィ「……………うん、分かったありがとう」

美麗「……………イクス・オリオンとんでもない技ね」

美麗はサッカーは見たことしかない。実際にやったところは一度もないだがそれでも分かるほどのとんでもない技だった

美麗「……………それに多分あの技は……………」

海未「……………先制したのに取り返されてしまいましたか」

ダイヤ「まだまだ時間はあります。確実に一点を取りましょう！」

理亞「そうね」

エレナ「……………」

真姫「エレナ」

エレナ「真姫どうした？」

真姫「……………向こうはまだまだ小手調べで来るはず」

エレナ「だろうな」

真姫「……………なら、前半もう一点取って。後半にあれでもう一点もぎ取らない？」

エレナ「あれをやるといふのか!?! 私達だけでも全く完成しなかったんだぞ!?!」

真姫「……………悔しいけど今のままじゃアドバンチュールとは恐らく互角いえ、それ以上よ向こうは。ならこつちも腹をくくらなければ勝てない」

エレナ「……………そうだな真姫の言う通りだ。前半は後20分全力で一点を決めて守り抜こう」

真姫「ええ、それで行きましょう!!」

海未「……………」

真姫「海未!!」

海未「真姫!?!」

……………

海未「分かりました。任せてください」

「さあ、前半も残り20分再び振り出しに戻されたラブライブジャパンはどうするのか!? ラブライブジャパンのキックオフです!!」

ヒーロー!

海未「!!」後ろにパスを出す

真姫「じゃあ行くわよ!」

真姫がパスのモーションに入ろうとした瞬間

善子「スクリュードライバー!!!」

海未「!!!」

一同「!!」

ルビィ「やらせないよ p s y c h i c A r t s は」

エレナ「真姫!!」

真姫「……………甘いわよ」

真姫は咄嗟にパスをやめドリブルでスクリュードライバーをかわす

善子「!!なっ」

ルビィ「!!あの体制から止めた」

真姫「……………弱点をそのままにしていると思う?」

真姫「はああああ!!!」

誰も邪魔がないところでモーションをする

真姫「!!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「p s y c h i c A r t s !!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールは海未の方に向かう

真姫「……………決めなさいよ!海未!!」

果たして真姫の作戦通り前半にもう一点入れて2対1にする事は出来るのか。そして新タクティクスとは!?

次回 真姫の作戦

アドバンチュール戦 「真姫の作戦」

真姫「行くわよ!!」

ボールに左右から蹴り付けて回転をかけて上に打ち上げる

真姫「psychic Arts!!!」

ボールが選手達の頭上を通っていく

真姫「決めなさいよ海未!!」

海未「……………任せてください」

ルビィ「通さないよ、ここからは」

海未「……………通りますよ誰が相手でもね」

急激にスピードを上げる

ルビィ「！」

海未「スプリントワープ」

ギョーン！ギョーン！ギョーン！ギョーン！

とんでもないスピードで進む

ルビィ「……………やるね」

海未「……………ナイスです真姫。このまま打ちますよ!!」

ボールが海未に渡る

海未「……………ふうう!!」

ボールが下に落ちると同時に自分も目を閉じて超スピードで蹴る

海未「でりゃあ!!!」

そして菊の花から超強力なシュートが放たれる

海未「菊一文字!!」

ゴールに向かう

山西「……………さつきより凄い威力だね。でもまだまだだよっ!」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ
!!!!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

ルビィ「あれを使わないとその技を出さないといけないほどの威力なんだ……」

海未「……………やばそうですね」

山西「賢者の力を喰らえ!!」

そして盾のようなものが浮かび上がった片手をボールに向ける

山西「W i s e s h i e l d」

ボールに直撃する

海未「……………」

山西「はあ!!」

ギョルルルル

ボールが止まる

「と、止めたああああ!! 渾身の園田の菊一文字が止められたぞおお!!」

海未「……………止めますか」

真姫「……………まあ想定内ねエレナ行くわよ」

エレナ「ああ」

山西「残念だったね」

ルビィ「……………春香ちゃん!!」

山西「了解！ルビィちゃん！！」

ルビィにボールを渡す

ルビィ「さあ、そろそろ逆転を「いいえ、まだ私達のターンです」！！」

矢がルビィの周りに飛ぶ

海未「アーツドロー！！」

そしてルビィからボールを奪う

ルビィ「何っ！」

海未「……………」

『点が入れられた所まで遡る』

真姫「海未、次速攻で一点を決めるわよ」

海未「速攻ですか出来るんですか？」

真姫「まず、キックオフで後ろにボールを回してそれで私が p s y c h i c A r t
sでゴール前まで打つわ」

海未「!!でも善子は狙ってきますよ、それに貴方の弱点も相手は……………」

真姫 「弱点の部分については心配しないでいつまでも私が放っておくと思う？」

海未 「……………ふふ、そうですね。任せてください決めますよ」

真姫 「……………それとラストリゾートはまだ使わないで欲しい」

海未 「……………何故ですか？」

真姫 「あの技は強力だし凄い技けど、負担も大きいわ」

海未 「……………負担の事から心配なく、もう使い慣れてます」

真姫 「……………ラストリゾートを進化させた技もあるでしょ？」

海未 「……………知ってるんですね」

真姫 「ええ、穂乃果から聞いたわ、その技のためにもまだ温存すべきよ」

海末「……………分かりました。けどあのキーパーなら十分菊一文字でも決まると思いますよ」

真姫「……………いや、あのキーパーは何かを隠してるわ」

海末「!!」

真姫「決まればいいけど、決まらなかつたときはもう一度相手からボールを奪って3人技である soldier strike をねじ込むわよ!」

海末「!!でもあれは私と真姫と絵里の技じゃないですか!?!」

真姫「心配しないで本家よりは劣つてしまふかもしれないけど3人で打てるようにするわ必ず」

海末「……………分かりました。任せますね真姫」

真姫、エレナ「海未!!」

後ろから真姫とエレナが走ってくる

海未「さあ!!真姫、エレナ行きますよ!!」

真姫「ええ!」

エレナ「ああ!!」

海未「はああっ!」

ボールに闇の力を込める

海未「うらあああああ!!!」

そして上にボールを打ち上げて空中のボールを乱打乱打乱打

海未「……………ぜい!!」

一回転して蹴った後地面すれすれに叩きつける

さらに海未、真姫、エレナは足に力を込める

そしてその力をエレナは左足に、真姫は右足に海未は右足に込める

海未、真姫、エレナ「soldier strike
!!!!」

エレナが左から真姫が右から海未がかかと落としてボールを蹴る

ゴゴゴゴゴゴ!!!大地おも揺らすシユートがゴールに向かう

理亞「……………絵里の時の方が威力は断然上ね」

ダイヤ「けど、これなら決められますわ」

ルビィ「凄い技だね、初っ端の皇帝ペンギンコンボ以上かも……………」

山西「……………」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「はああああ!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

山西「W i s e s h i e l d」

盾のようなものが浮かび上がった片手をボールの方に向ける

山西「……………ぐっ」

海未「……………絵里が居ないとはいえsoldier strikeですよ?止められるわけが」

山西「……………ふふ」

ギョルルルルルル

海未「……………まさか」

山西「……………」

ギョルルルルル……………

山西「残念だったね」

「な、な、なんと、止めたあああああ
!!!!!! soldier strikeを見事に止めたぞ
!!」

真姫「……………まさか soldier strikeが止められるなんて!?!」

海未「くっ、あのキーパー……………」ギリッ

エレナ「……………」

山西「ふふふ、結構な威力だけどそれじゃあW i s e s h i e l dは破れないよ」
ルビィ「凄いよ！春香ちゃんナイスセーブ」

山西「ありがとうルビィちゃん。さあ前半も時間ない事だしもう一点取ってきてね」
ルビィ「任せて」

そう言うと山西はルビィの前にボールを投げる

エレナ「ボールは渡さんぞ」

エレナがボールに向かう

山西「……………考えなしで投げると思う？」

エレナ「!!」

ルビィ「……………疾風ダツシュ」

ルビィは急激にスピードを上げてボールを取りエレナを吹き飛ばす

エレナ「ぐああああ!!」

真姫、海未「エレナ!!」

ダイヤ「エレナさん!!」

ルビィ「さあ、次は誰かな」

ダイヤ「行かせませんわ！ルビィ!!」

ルビィ「ふん、お姉ちゃんか」

ダイヤ「ここからは絶対に通さない」

ルビィ「……………お互いの癖を知ってるからめんどくさいな」

するとルビィはジャンプする

ダイヤ「しまった！」

ルビィ「知里ちゃん!!」

パスを出す

丸山「ナイスだよキャプテン」

ダイヤ「!!しまった気を取られましたわ」

丸山「さてと」

千歌「通さないよ!」

丸山「いや、通るね!!」

すると丸山はリ・カヤ、黒崎と縦一列に並び本気のスピードで千歌を吹き飛ばす

千歌「ああああ!!」

丸山「無影走破」

丸山「花陽ちゃん!!」

花陽にボールを渡す

花陽「さて、そろそろ決めどきだね」

あんじゅ「まだ、居るわよ」

あんじゅと聖良と花丸が構える

花陽「……………さっきのあの技を見てまだ向かってきますか？」

聖良「貴方の技は凄いけど対抗出来ないこともないですよ」

花陽「じゃあ、見せて貰いましょうか!!」

ドリブルであんじゅを抜きにかかる

花陽「……………どいてくださいね」

あんじゆの周りにオリオン星々が浮かぶ

花陽「イクス・オリオン!!」

ドガンンンンンン!!

花陽「さあ、抜いて「誰を抜くって?」!!」

あんじゆ「残念だったね!花陽」

あんじゆは花陽からボールを取ろうとする

花陽「……………オリオンはまだ輝く」

あんじゆ「!!」

ドガンンンンンンン!!!

再び爆発が起きる

花陽「……………」

聖良、花丸「あんじゅさん!!!!」

花陽「……………頼んだよ!善子ちゃん!!」

花陽は抜かずにパスを出す

善子「あんたの技エグいわね本当……………まあこれで決めるわよ!」

上にボールを持ったまま瞬間移動する

善子「散りなさいディザスター!!ブレイク!!」

曜「くっ……………」

善子「さあ、どうする曜!! AQUARIUMで弾いて百烈ショットで決められるか、マジン・ザ・ウエーブで私に決められるか選びなさい」

真姫「いや、決まらないわよ」

聖良「真姫さん!!」

花丸「真姫ちゃん!!」

真姫「やらさないよ」

善子「なっ、真姫!？」

真姫「はああああ!!!」

デイズスターブレイクを蹴り返そうとする

真姫「す、凄い威力ね……………うわああああ!!」

真姫は吹き飛ばされる

曜「ありがとう真姫ちゃん、これなら止められる」

曜は下からなぞるように水を上に打ち上げて魔神を作り出す

曜「マジン・ザ・ウェーブ!!」

そして水のマジンでボールを止める

善子「……………」

曜「決めささないよ!!!」

善子「…………ちつやるわね」

曜「ハアアアアア」

バシユウ!!!

「と、止めたああ渡辺な先止められなかったデイズスターブレイクを止めたぞ!!」

ピツピー—————

「おつとここで前半が終了だスコアは1対1の同点です。果たして後半はどうなるのか!?!」

曜「ハアハアハア」

真姫「ナイスよ囉」

囉「いや、真姫ちゃんが止めてくれなかったら危なかったよ、ありがとね」

真姫「……………ええ」

ルビィ「……………1対1かぁ」

花陽「予想通りというよりは少し相手が頑張ったかな」

善子「真姫が進化してるわね聞いていた話と少し違うわ」

ルビィ「……………後半はあれを使ってもいいかもね」

花陽「あれかぁ、いいんじゃない？」

善子「……………使わなくても私達は負けないわよ」

ルビィ「……………そうかもしれないけど、今日は圧倒的に勝たないとね……………」

果たしてルビィが言うあれとは？

そして後半はどうなるのか!?

次回 ヒートアップする戦い

アドバンチユール戦「ヒートアップする戦い」

前半終了のハーフタイム中

ラブライブジャパンベンチ

美麗「みんなお疲れ様」

一同「ありがとうございます」

美麗「ごめんね、ちゃんとした指示出来なくて」

海未「いえ、ここに連れてきたただけただけで十分ですよ」

エレナ「とはいえ、監督が居ないのは厳しいな、それに穂乃果やツバサが居ないのもきつい」

真姫「……………監督は私達だけでも勝てると思ってるから遅れてきているんだろうと思うけど予想以上に危険ね」

あんじゅ「それに海未ちゃんの技やsoldier strikeが決まらないとなると相当危ないわ」

エレナ「いや、本来のsoldier strikeなら決められるはずだ私が入っ

たことによつて威力が下がった」ググ 拳に力を入れる

真姫「それもそうだけど初めてやってあそこまで出来たんだから凄いわよエレナは、自分を攻めることはないわ」

エレナ「真姫」

海未「真姫の言う通りです、エレナは悪くないむしろあの場面で一撃で決めれなかった私が悪いのです」

理亞「……………確かに私達が決めないと行けない。ですよね姉様」

聖良「ええ、確かにFWである理亞、そしてダイヤさん海未さんは決めないといけません、けれど私達もサポートをしますなので3人には遠慮なくシユートを打ってください」

海未、ダイヤ、理亞「!!!」

千歌「そうだよ！後ろは任せて！」

曜「次こそは止めてやるであります！」

梨子「ボールも必ず運んで見せますから」

ダイヤ「千歌さん、曜さん、梨子さん……………」

花丸「ルビィちゃんを元に戻すんでしょう？理亞ちゃんならできるズラ！」

理亞「花丸……………」

海未「皆さん、ありがとうございます。けれど気合だけでどうにかなる相手でもないです」

あんじゅ「このままではジリ貧になって不利なのはこっちよ、相手は私達のデータが

ある」

エレナ「そこでだ、後半は開始早々に新しいタクティクスの練習をしたい」

浦の星組&聖良、理亞「新しいタクティクス!？」

真姫「ええ、来る前に結城さんが教えてもらった」

エレナ「今から説明をする、後半直後一度試してみても2回目では本気でタクティクスを狙うぞ！」

一同「うん!!!」

アドバンチュールベンチ

ルビィ「ふう、思ったよりやるねみんな」

善子「これだけメンバーが欠けていて互角かあ、あいつらも凄い練習してたのね」

花陽「確かにそうだね」

ルビィ「でも後半は圧倒しないといけない」

山西「ゴールなら大丈夫だよ全部入れささないから」

ルビィ「……………」

??? 「使えばいいじゃない」

ルビィ、善子、花陽、山西、他メンバー「!!」

??? 「今のままじゃ互角よ？それを使えば圧倒出来るわ必ずね」

ルビィ「……………はい、分かっています」

善子「……………」

??? 「それに後半の途中には必ず残りのメンバーも来る。使わなければ勝てないぞ」

ルビィ「……………」

花陽「ルビィちゃん」

??? 「私からは以上」

そう言つて監督は座る

ルビィ「……………分かりました」

???

「……………」

「何みてるの？」

「……………」

謎のフードをかぶった少女は何も喋らず何かを見ている

「ああ、確か今試合してるんだっけ？」

「うん」

「どれどれ……………1対1かあなるほどまあそんなもんか」

「……………でもフルメンバーじゃないからね」

「そっか、でもアドバンチュールにはあれがある。だから圧倒的に勝つよ」

「まあ、それはそうだけど」

ガチャ

「アンタ達、何してんの？」

黒髪の少女が入ってくる

「私はゆったりしながらこれを見てるよ」

画面に指を刺す

「……………そう、私はグラウンドに居るから飽きたら来なさい、手伝ってもらおうから」

「はいはい、わかってるよ。気が向いたらねー」

「ふん」

ガチャ！

「……………ふう、さてと私はグラウンド行こうかな」

「ふふ、行ってあげるんだね」

「まあ暇つぶしだよ。こんなんじや体も鈍るしね」

ガチャギイイ

「……………」

また画面に顔を戻す

「さあ、まもなく後半が始まるぞ!!」



真姫「……………成功するかしら」

エレナ「分からないけどこれしか今は方法が無いからな」

真姫「そうね」

海未「……………決めて見せます必ず」

ルビィ「……………何か仕掛けてるみたいだね」

善子「まあ、私に任せなさい。一点もぎ取ってくるわよ」

花陽「善子ちゃん次は誰も邪魔が入らなようにするね」

善子「ありがとう花陽。シユートブロックされなければ曜には止められないわ」

ルビイ「……………」

「両チームポジシヨンチェンジは無しです！ではアドバンチュールボールからキックオフです！」 ピー——

善子「花陽」

花陽「ナイスパスだよ善子ちゃん」

再び善子から花陽と言う陣形が出来る

海未「……………」

花陽「向かってきますか海未ちゃん」

海未「……………」

だか海未は花陽の素通りする

花陽「なっ！」

善子「何っ!？」

ルビィ「……………何か企んでるねやつぱり」

花陽「……………関係ありません、ゴールに向かうだけです」

花陽がドリブルを始める

千歌「行かせない!!」

花陽 「また、千歌さんですか」

千歌 「次こそは止める！」

花陽 「私は誰も止められませんよ」

千歌 「はああああ!!!」

スライディングを仕掛ける

花陽 「……………イクス・オリオン」

千歌の周りにオリオンの星々が浮かぶ

ドガンンンンンン!!!

花陽「言ったでしょう？無理だと「いえ、これ以上は絶対に行かせない」!!!」

「アイスグランド」

パキン
!!!!

花陽「!!」

聖良「凍りなさい」

善子「!!」

ルビィ「花陽ちゃんが止められた!?!」

「な、なんとお！遂に小泉を止めたあああ」

聖良「ここまででは作戦通り行きますよ!」

果たしてタクティクスは成功し点を決める事が出来るのか？

次回 圧倒的な力

アドバンチュール戦「圧倒的な力」

聖良「行きますよ!!」

「な、なんとおおお!!今まで誰も止める事が出来なかった小泉のイクス・オリオンを見事に止めたぞおおお」

善子「ちっ、まさか花陽が止められるなんてね」

善子はすかさずボールを取りに行く

聖良「……………」

善子「!!何よこれ」

善子がフィールドを見ると真ん中に選手が誰もいない状況になっていた

聖良「それじゃあ行きますよ!!」

ルビィ「……………何が始まるの」

聖良「理亞!!」

端から端へのパス

バシユン!!!

理亞「!!」

そして少し斜め端にパス

理亞「エレナ!!」

バシユン!!

エレナ「ナイスだ理亞」

善子「な、なによこれ」

パスが繋がっていく

エレナ「梨子!!」

梨子「はい!」

ルビィ「嫌な予感がするね」

梨子「千歌ちゃん!!」

千歌にパスを出す

千歌「よつと」

花陽「……………見たい事ないよこんなの!？」

千歌「聖良さん!!」

バスが通る

「どんどんとパスが繋がって行く!!」

聖良「さあ、仕上げですよ真姫さん!!!」

【少し前の合宿所】

結城 「まず、真ん中をある程度開けて左右に広がる。そして右にいる奴がボールを持つところから始まる」

真姫 「真ん中を開ける!?!それではもし取られた時に!!」

穂乃果「大丈夫だよ！真姫ちゃん！私は絶対に止めるから」

真姫「……………穂乃果」

結城「いや、こつちがサイドに広がれば向こうもサイドに広がるだろう」

ツバサ「相手もつられるって事ですネ」

結城「それで真ん中は空いたからこれを使う。」

穂乃果「成る程!!」

結城「そしてここからが内容だ。まず、右でボールを持つ選手が左にいる選手にパスを出す、そしてその左にいる選手は斜め右にいる選手にパスを出す」

ことり「でも、距離が遠かったらパスも狙われるんじゃない？」

結城「そこはパスを強く早くする事でカバーする」

絵里「成る程、それならとられないかもしれないね」

結城「そしてこれを6人目がボールを持つまで続けるんだがここからが重要だ。まず6人目は選手は真姫で固定だ」

真姫「!!」

結城「そして、7人目の選手は重いボールを蹴る事ができるメンバー。例えば、ダイヤ、理亞、エメラとかだな」

絵里「6人目と7人目が重要なんですね」

結城「ああ、ここがしつかりしないとパスが飛ばせないからな。7人目は出ている時のメンバーで考えて決めて欲しい、だが6人目は真姫じゃないとダメだ、真姫ほど正確に強く蹴れる人間は居ないからな。それに7人目にもよるが P s y c h i c A r t

Sでパスをするのもありだ」

真姫「psychic Artsで!? 5人分の威力+ですよ!? 流石にだれも……」

海未「私か果南かツバサなら蹴れますよ」

真姫「本当!」

結城「まあ、そうなればだれも止めれる事なくゴールまでパスできるだろうな」

ツバサ「このタクティクスはパスなんですな」

結城「ああ、必殺タクティクス《王の一閃》だ!!」

穂乃果「王の一閃かあ、かつこいいですね!!」

結城「ああ、それともう一つ。この技は何度も使える技じゃないと思う流石に何度も

使えば警戒される、それは頭に入れておいて欲しい。だからパスを受ける人は必ず決めるという覚悟を持って必殺技を打って欲しい」

一同「はい!!!」

真姫「聖良!!」

聖良「真姫さん!!」

弾丸パスをする

善子「!!何よあの威力」

ルビィ「パスの威力じゃないよ!？」

真姫「……………行くわよ!!!ダイヤ!!」

ダイヤ「はい!」

真姫は飛んできた弾丸パスにさらに自分の力をのせてダイヤに向かって飛ばす

ダイヤ「行きますよ!必殺タクティクス!!!《王の一閃》!!」

力が込められたボールを蹴る

ダイヤ「く、なんという威力ですか……………」

真姫「ダイヤ!!」

ダイヤ「……………ぐうううう、ハアアアアア
!!!!」

バシユン
!!!!!!

ダイヤはボールを蹴るがボールが上に飛んでしまう

「おーつと!?!これは失敗かあ!?!」

善子「……………ただのこけおどしだったのね」

飛んでいるボールを善子がトラップする

一同「?!?!」

ルビィ「善子ちゃん!!」

善子「そんなボール蹴れる訳ないでしょ!!」

ザツ!

善子「そろそろ逆転させてもらうわよ」

ドリブルで上がっていく

真姫「まずいわ!!ゴールがガラ空きよ」

曜「……………」

善子「覚悟しなさい曜!!決めるからね!!」

真姫「!!みんなもう一人のFWをマークよ!!」

聖良、あんじゅ、花丸「了解!!」

安実「!?!?
!?!」

「おーっとF Wである苗代安実が3人にマークされたぞー!!」

善子「……………関係ないわよ。私が決めるだけ!!」

ギョーン!!!

空中に瞬間移動して闇の力を溜める

善子「ディザスターブレイク!!!」

「再びディザスターブレイクだああああ!!」

善子「さあ!どうする曜!!。今度は真姫も居ない貴方しか居ないのよ!!」

曜「……………止める、絶対に止めてみせるっ!」

曜はステップを踏んで激流を呼び起こす

曜「はあああああ!!! AQUARIUM」

水の壁でシュートを止める

善子「学習してないのね曜それでは止められないと貴方でも分かってる筈よ!」

曜「……………だから乗り越えるよ!!今の自分を!!」

すると曜は自らがAQUARIUMの水の壁の中に入っていった

善子「!?!」

「な、なんと渡辺!!自らが作った水の壁の入ったぞおおおおお!!」

曜「うわああああああああ!!!」

バツシヤア!!!

善子「……………ふふ、ここまでとは思わなかったわよ曜」

バシユウウウウ

曜「ハアハアハア、止めたよみんな」

「と、止めたああああ!!先程止められずに弾いてしまったシュートを見事身を挺してキヤツチしたああああ!!!」

千歌、梨子「曜ちゃん!!!」

曜「えへへ千歌ちゃん、梨子ちゃんやったよ」

花陽「……………自らが水に入る事でAQUARIUMの力に自分の力を上乘せした」

ルビィ「曜さんにあんな芸当が出来るなんて……………」

???「やるね。まさかそんな荒技で弱点を補うなんてふふふ」

美麗「よかった。曜ちゃん」

真姫「曜!! 貴方凄いわよ!」

曜「ありがとう真姫ちゃん」

ダイヤ「……………ごめんなさい。曜さん私のせいで」

曜「謝らないでダイヤさん。ダイヤさんは全力でやった。さっきのタクティクスは難しいよ……………一発で成功は無理だろうし、だからダイヤさんのせいじゃないよ」

ダイヤ「曜さん……………」

曜「私は止めたよ!!だから一点取ってきてねダイヤさん!!」

ダイヤ「はい!!曜さん!!」

ルビィ「善子ちゃんどんまい……………」

善子「強いわね。曜はもしかしたら今の私達じゃもう決められないかもしれない……………」

ルビィ「……………使うしかないよね」

善子「……………」

善子は黙る

花陽「ルビイちゃんは嫌なんだよね使うの？なら使わなくてもいいんじゃないかな、まだ相手が優勢じゃないし。それにまだシユート技はある」

ルビイ「……………いや、使おう。これ以上は……………」

花陽「……………ルビイちゃんが言うなら」

善子「……………仕方ないわね」

ルビイ「次にこつちボールになったら使うよ」

花陽、善子「うん」

曜「さあ、反撃しよう!!千歌ちゃん!!」

千歌「うん!!」

パスが通る

善子「行かせない!!」

千歌「どいて!!」

風の流れにのってブロックを避ける

千歌「そよ風ステップ!!」

真姫「千歌!!」

千歌「真姫ちゃん!!」

真姫「ナイスよ!!」

花陽「行かせません!!」

真姫「……………抜く!」

真姫は花陽を抜きにかかる

花陽「……………!!」

真姫はこの時自分では気付いていないがとてつもない集中力を発揮していた、その集中力は僅かな隙間も見逃さない

シュン!!!

真姫「超える!!」

「な、何が起こったんだ!?瞬間的に小泉を抜いたぞ!!」

真姫「ダイヤ!!」

ダイヤにパスが渡る

ダイヤ「……………」

ルビィ「行かせないよ!お姉ちゃん!!」

ダイヤ「……………ルビィ。姉として妹に負けるのは恥ずべき事だと思います。けれど。私達チームは負けない!!」

ダイヤはパスをする

ルビィ「!？」

海未「……………いきますよ!!」

「なんと園田と山西の一体一だあ!!」

山西「さつき soldier strike 止めたの忘れた？ 貴方一人じゃ勝てないわよ?。」

海未「それはどうでしょうか？あの soldier strike は本当の威力じゃなかった……それに私の本気もまだ見せてませんよ!!」

そう言つてある技の構えをする

海未「ハア!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る

海未「ラストリゾート!!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

ルビィ「……こ、この技は!?!」

山西「!!くつそれでも私のW i s e s h i e l dは無敵よ!!!!」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ!!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

そして盾のようなものが浮かび上がった片手をボールに向ける

山西「W i s e s h i e l d」

ボールに直撃する

海未「……………」

山西「ぐううう」

海未「……………」黙ったまま自分のゴールの方を向いて歩き出す

山西「さ、さっきの s o l d i e r s t r i k e より威力が……………く
そおおおおおおお
!!!!」

海未「……………散りなさい」

山西「うわあああああああ!!!」

バシユン
!!!!!!

「ご、ゴール!!園田海未の必殺技ラストリゾートがゴールに突き刺さったぞ!!!」

海未「……………」

理亞「海未!!」

海未「少し舐められていたみたいなんで少し本気で打ちました」

ダイヤ「……………（やっぱり海未さんは凄いエースストライカーですわ）」

ルビィ「……………」ギリツ！

山西「と、とんでもない威力ねあのシュート」

ルビィ「そうだね……………けど、もう絶対にシュートは打たさないしそれにもう相手の攻撃時間はないよ」

山西「!?ルビィちゃん」

ルビィ「……………アレを使うよ」

山西「!!アレを使うの!?!」

ルビィ「……………キャプテン命令よ」

山西「……………分かったよ」

理亞「あとは守り抜けば勝てる！」

聖良「……………」

エレナ「……………真姫感じるか？」

真姫「ええ、エレナも感じた？」

海未「……………何かありますね、絶対」

理亞「……………」

美麗「……………」

ボールが中央に来る

ルビィ、花陽、善子「……………」

ダイヤ「……………や、やばいですわね」

ラブライブジャパンの顔が険しくなる

善子「……………行くわよ」

「さあ再びラブライブジャパンがリードで2対1です。それではアドバンチュールのキックオフです!!」ピー

善子は横にパスを出す

ルビィ「……………」

するとルビィたちはポケットから何かを取り出す

海未「!!なんですかあれ」

ルビィ「……」

そしてアドバンチュール全員がそして取り出したそれをベルトのような所にはめる

エレナ「は、はめたぞ!？」

真姫「嫌な予感がするわ……………DF、GK!!警戒を」
シユン
!!!!!!

エレナ、千歌、梨子「?!？」

真姫「……………何が起き」

バシユン!!!

真姫「え？」

真姫は後ろを振り返る

善子「……………」

ボールがゴールに入った音がしたので

曜「……………は？」

コロコロ

「……………ぐ、ゴール？キックオフから一瞬のうちにボールがゴールに入ってたああああ!!これで点数は2対2の同点です」

花丸「な、何が起こったの？」

聖良「……………一瞬だけかろうじて見えました。キックオフをしてベルトに何かをはめ

た瞬間善子さんが仲間からボールを取り一瞬で真姫さんの位置まで行って抜き去り。その場からシュートを打ったように見えました」

額には凄い汗が流れている

あんじゅ「どうなってるの！」

ダイヤ「ルビィ……………なんで力を」

ルビィ「……………手を抜いていた事お詫びします。けど見せてあげるよ私達の本当の力を」

ダイヤ「ぐっ……………」

理亞「ど、どうするのよ!!この状況」

海未「……………私と真姫で攻めます!!もう一点返しますよ！」

ダイヤ「ほ、本当に出来ますの？」

海未「わかりません。けどやらないと分からないので！」

ダイヤ「……………そうですわね」

「さ、さあ急な展開に審判の私もついて行けてませんがラブライブジャパンのキックオフです！」ピー!!

理亞「海未!!」

海未「行きますよ!!」

ギョーン!ギョーン!ギョーン!ギョーン!

とんでもないスピードで進む

海未「スプリントワープ!!」

理亞「流石の海未には誰もついて来れない!!」

ダイヤ「いや、違う!!動いてないだけです!!」

海未はスプリントワープをしたが誰一人として動いていなかったのだ

海未「舐められたものですね!!」

さらにドリブルで上がっていく

ルビィ「……………流石は海未さん……………でもね。止めますよ?」

次の瞬間ルビィは海未の目の前まで近づいてきていた

海未「!?!」

ルビィ「さあ、そっちの攻撃は終わりだよ！」

ボールを取ろうとする

海未「……………来ると思いましたよ絶対にね」

そう言うのと既にボールはなくなっていた

ルビィ「!!」

海未「さあ!! 決なさい真姫!!」

真姫にボールが渡る

真姫「ハア
!!!!!!」

ボールに左右から蹴り付けて回転をかけて上に打ち上げる

真姫「psychic Arts!!!」

今回はパスとしてじゃなくシュートとしてゴールに飛んでいく

ルビィ「……………」

山西「……………」

真姫「!!まさか何もしないの!?!それじゃあ直撃する」

バシユウウウウ!!!

山西「……………」

真姫「なっ!嘘でしょ」

山西はなんと p s y c h i c A r t s を指し本で止めていた

山西「……………つまらないな」

真姫「くっ!!」

ルビィ「……………残念だったね海未さん今のはわざと後ろに出させたんですよ貴方に打たれたら万が一がありますから」

海未「……………」

そこからは一方的だった

ルビィ「……………行くよ」

相手にボールが渡るたび

バシユン!!!

2対3

ダイヤ「ど、どうすれば!!」

無論考える時間を与えてくれるはずもない

バシユン!!!

2対4

理亞「このままじゃ!!何もできない!!」

足搔いても足搔いても。触れる事すら出来ず

バシユン!!!

2対5

エレナ「DFを固めるんだ!!せめてゴールまで辿り着けないようにするだ!!」

どんな指示も

バシユン!!!

2
対6

曜「くそおおお!!!なんで見えないの!!」

どんな意志も

バシユン!!!

2
対7

真姫「私達はここまでなの?.....」

意味を為さなかった

バシユン!!!

後半30分

ラブライブジャパン2対15アドバンチュール

ラブライブジャパン「ハアハアハア」

ラブライブジャパンはほとんど全員が満身創痍に対して

善子「……………」

安実「……………」

花陽「……………」

ルビィ「……………」

山西「……………」

誰一人として息を切らしていない。まだ余裕があるのだろう

ダイヤ「ハアハアハア」

海未「ダイヤ……………次私にボールを渡して」

ダイヤ「え？」

海未「私にボールを渡して
!!!!!!」

ダイヤ「!!わ、分かりましたわ」

「さあ、ほとんど何も出来ていないラブライブジャパン。ここからどう巻き返すのか？
キックオフです!!」ピー!!

海未「……………」

海未にボールが渡る

ルビィ「……………来るね」

海未「くらいなさい!!」

海未はラストリゾートの構えを取る

ルビィ「みんなどいてね!ルビィが止めるから!!」

ルビィはゴールが前で立ち塞がる

海未「……………ぶっ飛ばしてあげますよ!!」

海未はもうすぐエネルギーを貯め終え打つ準備に入ろうとする

???「そこまでだ!!」

するとアドバンチュールの謎のフードがいう

ルビィ、海未「!？」

???「もういい、目的は達成した。それにこれ以上は意味がない」

ルビィ「……………分かりました」

理亞「!!逃げるの!ルビィ!!」

ルビィ「逃げる？勘違いしないでほしいなこの試合は私達の勝ち同然。もうこれ以上は意味がない」

理亞「くっ……………」

ダイヤ「……………」

ルビィ「…………お姉ちゃん何にも言わないんだね…………あつそつか。そのていたらくじや何も言えないもんね」

ダイヤ「……………」ギリィ

アドバンチュールのメンバーはベンチに集まる

???「さらばだラブライブジャパン。君達とはまた会うだろう」

ピシユン
!!!!!!

アドバンチュールとフードは消えていった

次回、完全敗北

完全敗北

キイイイーーーー

穂乃果「試合はもうとつくに始まっていますよね！」

結城「ああ、時間的にもう後半だと思う」

ことり「早く行かないと!!」

ツバサ「それはそうと何故エメラは来なかったんだ？」

絵里「……………あの子は凜を見とくつて言ってたわ。本当は会いたくないんだと思うけど」

結城「……………その件については戻ってから全員に話そうと思うエメラについて。だから今は試合の方が重要だ」

駐車場に止めてグラウンドに向かう

穂乃果「でも変じゃないですか？試合なら音がする筈……………」

ことり「……………!!あれはみ、見て下さい!!」

ツバサ、絵里「!!」

結城「……………酷いな」

結城達は目を疑った

グラウンドを見ると全員が倒れている。

そして点差も2対15でボロボロに負けていたのだ

穂乃果「2対15!?!何があつたらそんな数字が……………」

海未「……………」

穂乃果「う、海未ちゃん!?!」

海未が目の前にまで来ていた

海未「……………ごめんなさい私がいながら」

頭を下げる

ことり「何があつたの!?!」

結城「……………ボロボロだなみんな」

海未「……………本当にすみません。監督」

美麗「……………来るの遅いわよ結城」

結城「……………すまない美麗」

真姫「結城さん!？」

結城「……………一旦合宿所に帰るぞ!!動ける者は車に乗り込んでくれ。動けない者は動ける人で余裕がある奴が運ぶんだ!!」

一同「はい!!」

ラブライブジャパンとアドバンチュールの戦いは2対15という完全敗北で幕を閉じたのだった



???

「終わったみたいだね」

「うん、もう直ぐ帰ってくると思うよ」

ガチャ

「もう帰ってくるんでしょ？あの子達」

「うん」

ガチャ

「ただいま帰ってきたよー」

「お帰り。どうやった？」

「見てるくせに〜」

「圧勝やったね」

「まあ、そうですね」

ガチャ

ルビィ、善子、花陽、山西「戻りました」

「お帰り。どうだった？」

ルビィ「……………ボス」

「何？ルビイちゃん」

ルビイ「……………アンプル解除してくれませんか？」

「……………」

「ルビイ！あんた何言ってるの？アンプルを解除だなんて今日の試合圧勝したんでしょ？ならばその意味は「あります!!」!!」

ルビイ「ありますよ。今日は圧倒的に勝てかかもしれないけどラブライブジャパンなら直ぐに強くなる!!」

「……………成る程、ルビイちゃんの言い分は分かった」

「!!あんた承諾する気!?!」

「……………私もルビイちゃんのお気持ちわかる気がするなあ」

「!!あんたも!!」

善子「今日思ったの!ラブライブジャパンはもつともつと強くなるなら私たちも強くなりべきだって」

花陽「そうです!今は圧倒的でも1週間もすれば別人に変わる……………そう思います!」

山西「そうだ!だから私達も強くなりたいだからアンプルを解除しなければ私達はもつと強くなれない!」

ルビイ「だからお願いします」

4人は頭を下げる

「……………」

「……………私ね元々考えたんだよアンブルを解除しようって」

「なっ！それは本当!？」

「……………思っていたより時間がない事。それとおそらくラブライブジャパンなら直ぐにこのレベルまで来れると思ったから考えていたよ」

「……………そうなんだ、まあ私は賛成だからいんだけど」

「勿論私も賛成だよ!!」

「賛成してないのは貴方だけだよ？」

「……………し、仕方ないわね乗ってあげるわよ」

「……………ふふ、ありがとう。さっじやあるビイちゃんアドバンチュール全員を練習所に集めて」

ルビイ、善子、花陽、山西「はい!!」

ガチャ!!

「それにしても2対15かあ。結構な点差だね」

「けど、相手全員が全員反応出来てなかった訳じゃなかったよ」

「へえ、例えば?」

「海未ちゃんとかは初めから付いて行けていたし。ダイヤちゃん、真姫ちゃん、エレナちゃんも徐々について来れるようになっていた」

「成る程ね」

「試合中に慣れていっているという事は次戦ったら完全について来れると思う」

「確かにその通りだよね」

「……………次戦うときは互角以上かもしれないね」

「そうなれば私達が出るだけだけどね」

「そうだね」

「……………ふふ、楽しみだね、それじゃあ私は練習場行ってくるよ」

ガチャ

「今度私も見に行こうかしら」

「まだ姿を見せちゃダメだよ？」

「それくらいは分かってるわよ」

外

「……………!!ゲホゲホゲホ」

咳き込む

「……………忙がないとね」

フードの人物は練習上に向かう

ラブライブジャパン合宿所 医務室

結城「……………わざわざありがとうございます。優奈さん」

優奈「気にしないでください。娘がお世話になってますから」

西木野優奈……………西木野真姫の母である

結城「……………いえいえ、僕は何もしてませんよ」

優奈「……………それにしてもこの子達はともかく凜ちゃんは少し重症ね、サツカーでこ

ここまでダメージを受けるとは」

結城「ええ、本当に恐ろしい奴らですよ」

優奈「ひとまず、ここのメンバーは任せてください。凜ちゃん以外は明日には大丈夫だろうし」

結城「お願いします。」

ギーラーバタン

合宿所、センタールーム

海未、真姫、ダイヤ、エレナ「……………」

絵里「怪我がなかったのは4人だけなのね」

海未「はい……………すみません」

ツバサ「それは私達のセリフよ。遅れてごめんなさい」

穂乃果「私の特訓が時間をかけすぎたせいだよ。ツバサさん達は悪くない」

ツバサ「いや、そんな事はないわ！甘くみていた私達も同罪よ」

絵里「ええ……………」

ことり「でも、何があったの？普通じゃあんな事にはならないよ！それにあのフードの奴らじゃなかったんだよね？」

真姫「ええ、ルビィ、花陽、善子率いるアドバンチュールっていうチームだったわ」

エメラ「……………あいつが敵」

ダイヤ「……………花陽さん、善子さん、そしてルビィ。とんでもなく上手くなつてましたわ」

エメラ「……………ルビィが上手く？」

ダイヤ「ええ、力だけで言うならば私よりも強いかもしれないわ」

エメラ「あいつが……………」ギリィ

真姫「……………何をされたのかも何も分からなかった」

穂乃果「2対15なんて普通はありえないよね？何があつたの？」

海未「実は……………」

先程の試合の内容を伝える

ことり「!!後半まで互角だった!?!」

海未「はい、後半の最初の方まではチームの総合力としては互角でした。なので2点入れる事が出来た、ですが急にアドバンチュールが早くなり誰も止める事が出来ませんでした」

絵里「急に？」

ダイヤ「一応、ベルトに何かを付けようとしていたのは見えました。がそれ以上は……」

穂乃果「何かを付ける？もしかしてドーピング!？」

ツバサ「いや、それは無いと思うわ穂乃果、ドーピングは基本飲んだりするもの。だからドーピングでは無いと思う」

穂乃果「確かに!!そっかあドーピングでは無いのかなあ」

ことり「可能性は低そうだよね」

真姫「……………」

ツバサ「……………」でもベルトに何かを付ける？よく分からないわねそれは」

エレナ「ああ、謎は多い」

ガチャ

結城「みんないるな」

一同「結城さん!!」

結城「ドーピングと聞こえたが何があったんだ？」

海末「実は戦いの途中で相手がベルトに何かをつけたんです。その途端相手が早くなりました」

結城「……………成る程な。俺も分からないがそんな事があったのか」

海末「……………はい」

結城「……………みんな今日はひとまず休んでくれ。疲れを取るのも大事だし」

一同「はい!!」

一同が自分の部屋へと向かう

結城「……………話を聞いた感じによれば。おそらく自分達の力をそれに入れてベルトに入れる事でその力を使う事ができると言う訳だろうけど、何故そんな事が出来る？普通はそんな芸当できないはずだ……………」

そう言つてケータイに手をかける

結城「……………」

そう言つて誰に電話をかけたのは誰も知らなかった

真姫の部屋

真姫「……………（惨敗だった、一瞬で点を決められ、そして私の p s y c h i c A
r t s も指一本で止められて。私の全力が何一つ通じなかった。もつともつと練習し
ないと）」

すると真姫はボールを持って外に出ようとする

ピーーンポーーンインターホンが鳴る

真姫「!!」

結城《俺だ、少しいいか?》

真姫《結城さん!?!……………どうぞ》

ガチャ 扉を開ける

結城「お邪魔するぞ。あ!真姫お前今練習に行こうとしただろ!!今日は辞めとけ。お前の気持ちも分かるが確実に体を疲れてる。休むんだ」

真姫「……………分かりました」

結城「……………まあ休めと言いなながら部屋に行くつてるのも変だよなw」

そう言つて笑う

真姫「結城さんが来ると言うことはかなり大事な話ですよね？」

結城「……………ああ、究極の技の話だ」

真姫「!？」

真姫は驚いていた今日の昼に結城から究極の技。その話とは到底思つていなかったからである

結城「この技はF.W・M.F・D.F・G.K.合体技とある、俺は誰にどれを覚えさせるか完全に決めた。つて事でお前にはF.Wの究極の技を覚えてもらおうと思つてる」

真姫「私がF.W技を!？」

結城「ああ、本来なら海未やエメラに覚えさせるのが正しいが、俺はお前にかけてみ
たくなつた」

真姫「……………どう言う技ですか？」

結城「実はなF W技に関してはまだイメージすらも完成してない……………まだまだ未完成
の技だ」

真姫「!!!」

結城「そしてこの技を使いこなせるだろうと思つたのはお前だ、真姫、お前が完成さ
せるんだ！究極の技を」

真姫「……………私が完成させる」ワクワク

結城「真姫！お前にはその技を完成させるための練習を明日からやってもらおうと

思ってる」

真姫「!!!」

結城「俺が教える究極の技の中で1番の難易度でありそして体への負担も一番だ。そのためお前にはもつともつと練習をしてもらわなければならぬ」

真姫「……………」

結城「今、真姫が抱えてる事が多いのは分かってる。けどこの技はお前が覚えるべきと俺は思ってる」

真姫「結城さん」

結城「……………ひとまず、その事を今日は伝えたかった。また練習内容は明日言うよ」

ガチャ

真姫「……………究極の技」

そう呟いて。真姫はベットに転がる

真姫の究極の技とは？そしてここからどうなるのか？

次回 究極の技その1

究極の技その1

アドバンチュール戦の次の日

真姫の部屋

真姫「」

ガチャン!!

真姫「?!?!」

結城「おはよう!真姫」

真姫「……………勝手に開けないでください、結城さん」

結城「すまんすまん」

笑いながら言う

真姫「インターホン鳴らしてくれたら起きますよ。なのにマスターキー使ってまで起こさなくても」

結城「穂乃果はもう練習してるぞ」

真姫「!？」

結城「あいつは朝5時にグラウンドに行ったぜ？」

真姫「……………負けてられないわね」

結城「だろ？じゃあ着替えて出てきてくれ、お前用のメニューを教える」

真姫「分かりました！」

ガチャ

結城「……………（正直技になるかは真姫次第どんな技になるかも真姫次第だからな。今真姫には……………）」

結城は真姫の部屋を見つめる

数時間後

ミーティングルーム

ガチャ

海未「おはようございます」

ツバサ「おはよう、海未。珍しいわね海未が朝練しないなんて」

海未「中学の時からきめていたことなんです。試合があつた次の日は休むようにして
るんです」

ツバサ「そうなんだ」

海未「休みのも大事なので」

ダイヤ「その信念が海未さんの強さなのかもしれないね

海未「……………そうかもしれないね」

エレナ「練習する時はちゃんとして練習しない時はきちんと休む、一見普通の事だがとても大事な事だ……………」

絵里「本当凄いわね海未って」

海未「そんな事ありませんよ。穂乃果は毎日してますし練習量でいえば私よりはるかに上です。」

ことり「穂乃果ちゃんは誰よりも負けず嫌いで努力家だもね」

海未「ええ！そうですね」

ガチャ

結城 「おはよう」

海未、ことり、絵里、ダイヤ、ツバサ、エレナ 「おはようございます！」

結城 「穂乃果と真姫とエメラ以外は揃ってるな」

海未 「結城さん、千歌達は？」

結城 「今日1日は休んでもらう予定だ、次いつ来るとはわからないとはいえ、休めるのも大事だからな、海未お前なら一番わかるはずだ？」

海未 「……………たしかにそうですね」

ツバサ 「結城さんエメラは？」

結城「あいつなら凜の看病をしてる。練習までには来るって言ってたし問題はない」

ツバサ「そうですか……」

ダイヤ「では、今からは何を？」

結城「……次アドバンチュールと戦うまでに作戦とかとにかく出方を決めたい
と思つてな、今いるメンツで話し合いをと思つている」

絵里「それならみんないた方がいいのではないですか？それに穂乃果と真姫も居ない
ですし」

結城「言い忘れてたが穂乃果と真姫は特訓中だ」

海未、ことり、絵里、ダイヤ、ツバサ、エレナ「!!」

結城「覚えて欲しい必殺技があるからな」

絵里「究極の必殺技ですね」

結城「ああ、F W、G Kの必殺技をそれぞれやってもらってる」

ダイヤ「……………究極の必殺技」

結城「残りはM F、D F。そして合体技の3つだが……………ここにいるメンバーの一人に一つを任せようと思う」

海未、ことり、絵里、ダイヤ、ツバサ、エレナ「!!」

全員が驚愕する

結城「M F技だ、究極の技の中では一番難易度が低いが素質を持っていないとできない技だ……………」

海未、ことり、絵里、ダイヤ、ツバサ、エレナ「……………」

結城「……………お前に任せるぞ」そう言つて肩に手を置く

結城「ダイヤ!!」ポン

ダイヤ「!!わ、私ですか!?!」

海未「良かったですね、ダイヤ!」

ダイヤ「でも、この中では一番才能が……………」

ツバサ「何言ってるのよ!ダイヤ!!貴方も才能を持つてるわ、いえラブライブジャパンのメンバー全員が持っているわよ!」

ダイヤ「ツバサさん……………」

真姫「華麗で美しいサッカー。そして時には熱く燃えるようなサッカーをする、それがダイヤ貴方よ!!」

ダイヤ「真姫さん……………ありがとうございます」

結城「つてな訳だ。お前にはその両方の力を使って技を覚えてもらう」

ダイヤ「両方……………」

結城「……………華麗に炎の舞を踊る、そして舞が終わった瞬間炎をフィールドに向け一気に炎の道を作り出し駆け抜ける、そんな技だ」

ダイヤ「……………」ゴクリ

結城「……………技の名は『炎帝』と言う。俺が現役時代唯一完成まで行った技だ、まあやったの俺じゃないけどな」

ダイヤ「炎帝……………」

結城「この技は次のアドバンチュール戦までには完成させてもらう」

ダイヤ「……………成る程時間がないって事ですね」

結城「ああ、次は奴らが来るかもしれないから……………なんとも言えないが近いうちに再戦かもな」

ダイヤ「『炎帝』なんとしても習得して見せます!!」

結城「よく言った!」

海未「ダイヤ、練習ならいつでも手伝いますから言ってくださいね」

ダイヤ「ありがとうございます、海未さん」

絵里「いいわねえ、究極の必殺。羨ましいわ」

ツバサ「まだ合体技が残ってる。それに究極の技じゃなくても自分で納得が行く技を作ればいい」

絵里「確かにそうね。ふふ、ツバサらしいわね」

ツバサ「ふふふ」

結城「……………アドバンチュールを攻略するためにはダイヤの『炎帝』の完成、そして必殺タクティクス『王の一闪』の完成は必須だからな、本当に頼むぞ」

一同「はいっ!!」

結城「そしてもう一つ。次のアドバンチュール戦はツバサ、ことりはベンチに居てもらう」

一同「?!?」

海未「な、何故ですか!?!結城さん二人が居れば勝つ事ができるはず!!」

結城「……………今回の試合、ただ勝つだけでは駄目だ。少ししたらサニデイジャパンとの試合もある。そのためにはこのチームも成長していかなければならない。だから一旦、二人は下がっていてもらう。もちろん、やばくなったら出てもらうが。基本は出さない」

海未「ですが!」「海未ちゃん!!」!!ことり

ことり「大丈夫だよ、みんな上手いし!凄いから勝てるよ!私とツバサちゃんが居なくても!」

海未「ことり……………」

ツバサ「本当は出たいのよ？私もことりもでも、それ以上にみんなには成長して欲しいしダイヤの炎帝も見てみたいし今回の試合は見たいの。だから私達は出ない、でも負けない、絶対にね」ニツと笑う

ダイヤ「ツバサさん……………」

エレナ「はは、ツバサらしいな。まあここまで言われてるんだからな負けられないよ我々は」

海未「そうですね」

結城「と、いう事だ。二人にはとりあえず観ていてもらう。という事でいいな？」

全員が頷く

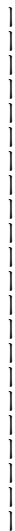
結城「よし、フォーメーションとかは全員揃ってから言うとして今日は練習をやろう。だが普通の練習じゃない、ダイヤのための練習だ」

一同「!!!」

ダイヤ「私のためですか？」

結城「ああ、今からグラウンドでダイヤに形を教えるみんなついて来てくれ」

30分後



結城「ハアハアハア、こんな感じだ」

ことり「す、凄い。これでも完成じゃなかったんですか!？」

結城「ああ、おれには繊細さが足りていないからな、だから成功はしていない出来ているように見えるが失敗だ」

ダイヤ「(私にこんなとんでもない技を習得する事が出来るのでしょうか?)」

結城「ハアハアハア……………だかなダイヤ、お前なら絶対に完全な『炎帝』を使う事が出来はずだ、こっからはみんなの協力、そして指示通りに動いてもらう。頼んだぞダイヤ」

ダイヤ「はいつ!!」

エメラ「……………監督遅れてごめんなさい」

結城「お、来たなエメラ。凜はどうだ？」

エメラ「そろそろ大丈夫だと思う。結構元気になってますよ」

結城「そうか、じゃあエメラ昨日お願いしたら事やつてくれ」

エメラ「了解です」

ダイヤ「……………」

エメラ「私が姉様のDFをします」

ダイヤ「エメラがDFを!？」

エメラ「……………さあ、来て下さい姉様」

海未「……………エメラがDF?」

結城「昔エメラはDFをしていたからな、ダイヤの特訓相手にピッタリだ、それに」

ことり「それに?」

結城「エメラはダイヤの癖とかを分かっている、簡単には抜けないだろう」

海未「抜けない?」

結城「ああ、初めは抜けなくていい、少しずつ、突破口を開いていくきコツを掴むんだ、『炎帝』の発動タイミングを」

ことり「一週間で出来るのかな?」

結城「ダイヤなら出来ると俺は信じている」

ツバサ「……………楽しみね」

30分後

ダイヤ「ハアハアハア」

エメラ「姉様、まだ行けるよね？」

ダイヤ「ハアハアハア、当たり前でしょうエメラ」

エレナ「ふっ」

海未「す、凄い。エメラは一度も抜かせてない」

ツバサ「……………癖だけじゃこんな完璧は出来ないわよ……………結城さん何かしましたね？」

結城「……………さあな」

ことり「(絶対に何かしてるよね結城さん)」

結城「が、エメラを抜く事が出来れば大きく近づく筈だ。完成にな」

ダイヤ「!!」

ダイヤはドリブルを仕掛ける

エメラ「おっと!!」

だがエメラが阻む

ダイヤ「……………!!」

エメラ「!!」

一瞬の隙をつき抜こうとする

ダイヤ「なっ!？」

エメラ「姉様、残念ですが分かってますよ」

ダイヤ「くっ!何故今不意をついたはずなのに」

エメラ「……………不意をつく、判断を遅れさせる。サッカーに置いて大事な事です。私

もそう思ってた、けどそれだけじゃあ本当の強者には勝てない!!」

ダイヤ「……………」

エメラ「姉様は静と動のスイッチが極端すぎる。だからよまれてしまってます」

ダイヤ「……………極端」

エメラ「それを克服するための練習ですから。私のシユートの練習もして欲しいですから姉様、早く究極の技のコツを掴んでください!!」

ダイヤ「……………そうでしたわね。分かっていますよ!」

再びドリブルを続ける

結城「……………こっちは大丈夫そうだな。海未こっちは任せるぞ」

絵里「結城さんはどこに？」

結城「真姫と穂乃果は見てくる、そしてちゃんと休憩を取れよ!! 休むのは大事だから」

一同「はいっ！」

ザツザツザツ

ダイヤ「……………やってみせますわよ!!」

真姫
「ハア
ハア
ハア
ハア」



真姫は走っていた

真姫「（この練習は何なの？穂乃果は下でジャンプの練習と空中でのキャッチ技の練習をしているみたいだけど私は……………」

朝に遡る

「ガチャ

真姫「準備できました。結城さん」

結城「よし、じゃあついてきてくれ」

結城について行く

ある体育館

結城「さ、ここだ」

真姫「!!穂乃果」

結城「と、言うわけで上に行くぞ」

真姫「上?ですか」

結城「ああ」

階段を登る

結城「……………この上の体育館一周が200mある。この一周を俺がいいと言うまで続けてもらう」

真姫「!?」

結城「が、30分したら10分以上は休憩を取ってくれ、それが終わったらまた走る。それを俺がいいと言うまで続けてくれ」

真姫「……………わ、分かりました」

「

言われてから4時間が経過していた

真姫「ハアハアハア、走る事が今私に必要な事なのか……でも、今は信じるしかないわね結城さんを」

真姫は走り続ける

それを結城は見ていた

結城「……………真姫は大丈夫そうだな」

こうして穂乃果、真姫、ダイヤは究極の技を覚えるために練習を続けていく

次回アドバンチュールを越えるために

アドバンチュールを越えるために

練習を始めた次の日

真姫「ハアハアハア」

真姫は昨日から続けてずっと走り続けていた

真姫「ハアハアハア、いつまでやるんだろ」

穂乃果「真姫ちゃん!!」

いつの間にか穂乃果が自分の隣にまで来ていた

真姫「穂乃果!?!」

穂乃果「練習は一旦中断だよ、今からアドバンチュール戦に向けての話だって」

真姫「そう……分かった」

そう言つて真姫は走るのをやめる

穂乃果「じゃあ行こっか!」

真姫「待ちなさい!穂乃果!!」

穂乃果「?」

穂乃果を静止する

真姫「シャワー浴びた？」

穂乃果「いや？浴びてないけど……」

真姫「浴びましよ、朝から何時間も練習してるんだから。会議室に汗を持ち込むのは良くないわよ」

穂乃果「でもみんな待っている!!」

真姫「大丈夫よ、それくらい。早く入るわよ！汚いほうが嫌よ！」

穂乃果「分かったよ！真姫ちゃん」

穂乃果は真姫に引つ張られながらシャワールームに走っていく

会議室

ツバサ「ふわあああ」

あくびをしながら会議室に入る

エレナ「お、ツバサ!!来たな」

あんじゅ「おはよ〜」

ツバサ「エレナ、それにあんじゅ!!おはよ」

あんじゅ「昨日動けなかったから元気が有り余ってるわ〜」

エレナ「まあ、そうだろうなでも私達も昨日はダイヤのパックアップだったからあまり激しい運動はしてないな」

ツバサ「うふふ、楽しみね」

聖良「おはようございます!!」

理亞「ここに来るの久しぶりに感じる」

エレナ「お、鹿角姉妹だ」

ツバサ「理亞大丈夫？ 貴方が出ていた中で一番ダメージ大きかったって聞いてたけど」

理亞「大丈夫、1日休めたから」

ツバサ「そう……………」

聖良「それにしてもすいません、昨日は休ませてもらって」

エレナ「大丈夫だ、かなり激しい試合だったしそれに休む事も大事だしな」

聖良「エメラから聞きましたがダイヤさんの練習をみんなですていたんですよ」

ツバサ「ええ、そうね。楽しみだわ、ダイヤが完成させるのを」

聖良「そうですね」

エメラ「……………おはよう」

聖良「エメラ!!」

エメラ「聖良姉さん、理亞おはよう」

聖良「おはようございます」

理亞「おはよう」

ツバサ「昨日相手している感じどうだった？」

エメラ「姉様は少しずつ対応し始めました。けどそれじゃあ駄目なんですよね」

エレナ「対応してはだめ？」

エメラ「はい、また詳しく言いますが対応しようとするればする程この技の完成は離れるので」

あんじゅ「監督もえげつない技を覚えさせようとするのね」

エメラ「でも、姉様なら出来るはずです」

ツバサ「そーいやダイヤはエメラ？」

エメラ「姉様なら朝から絵里さんと海未と朝練に行くと言っていました。でもさっき帰ってきたたのでシャワーだけ入ってもうすぐ3人で一緒に来ると思います」

ツバサ「そう、あとは浦の星2年組と花丸。そして穂乃果とことりと真姫だけね」

エメラ「花丸とことりなら今凜の所に居ますよ、もうすぐ来ると思う凜も連れて」

ドタドタドタドタ

千歌「遅れました!!!」

千歌と曜と梨子が走って入ってくる

エレナ「まだ集まってないから大丈夫だよ」

曜「ハアハアハア、よかったあ」

梨子「千歌ちゃん!!みんな集まってるわよ!」

千歌「で、でもまだみんな集まってない」

梨子「関係ないっ!!!」

千歌「ひいひい」

エレナ「なんか、似たような光景を過去にも見たことあるような気がする………」

ツバサ「これであと穂乃果と真姫だけね分からないのは」

エメラ「二人も朝練しているんじゃないですか?」

ツバサ「確かにそうだなあ。じゃあそろそろくるか」

タツタツタ

海未、ダイヤ、絵里「遅れました!!」

絵里「あれ？まだ全員来てないの？」

エレナ「ああ、来てないな」

絵里「よかったあ」

ダイヤ「私達よりも遅い人達が居たんですね」

海未「……………」

エメラ「姉様」

エメラがダイヤの前に行く

ダイヤ「エメラ」

エメラ「自分でどう思ってるの？」

ダイヤ「まだまだです」

エメラ「……………なら安心しましたよ」

海未「どういう事です？」

エメラ「ふふ、それは私と練習してる所を見れば分かるよ海未」

海未「……………」

カツンカツンカツン

ことり「大丈夫？凜ちゃん」

凜「大丈夫にや！ことりちゃん」

花丸「む、無理はダメズラよ！」

凜「本当に大丈夫だよ」

一同「凜ちゃん!!（凜）」

凜「みんな心配かけてごめんなさい」

海未「凜……その松葉杖は!？」

凜「これはことりちゃんが1日でも早く治せるようたためにつてだから少し捻挫してるだけにや」

絵里「そんな怪我であの時よく立っていられたわね」

凜「あの時はかよちんを助けなきやつて無我夢中で」

ツバサ「愛の力つてやつかしら」

エレナ「愛の力なのか!？」

ツバサ「分からないけれど、それくらい好きなのは側から見ても分かるわよ」

エレナ「確かにそうだな」

千歌「ことりちゃん、本当に凜ちゃんは大丈夫なんですか？」

ことり「うん、無理しなければ2週間くらいで治ると思う」

千歌「そうですか」

曜「じゃあ凛ちゃんに無理をさせないように頑張らないといけないね」

千歌「うん！そうだね」

梨子「あれ？穂乃果さんと真姫ちゃんは？」

海未「あの二人も朝から練習してたみたいです。もうすぐくると思います」

離しなさい！穂乃果！！

みんな待ってるんだよ！！急がないと

こんなに走ったら一緒じゃない！！

ドタドタドタドタ

海未「噂をすればですね」

穂乃果「ほら!!みんな来てるよ!」

真姫「!!急に走らないでよ穂乃果」

ツバサ「うふふ、朝から騒がしくていいわね」

海未「穂乃果、真姫」

穂乃果、真姫「?!?!」

海未「……………」ゴゴゴゴ

海未から鬼のようなオーラが伝わる

凜「や、やばいやつにやあ」

ことり「う、海未ちゃん落ち着いて!!」

海未「……………練習はどうですか？」

真剣な顔で言う

一同「……………」

海未が怒ってなかったからかみんなかなり驚いている

穂乃果「え、ええつと」

結城「穂乃果と真姫なら凄い頑張ってるぞ」

一同「!!結城さん!？」

結城「遅れてすまない」

海未「……………頑張ってるんですね。なら安心しました」

結城「ああ、究極の技のため、そして無考の極意のためにもな」

ツバサ「無考の極意……………」

エレナ「何が発動するトリガーかわかっているんですか？」

結城「……………いや、分らん。がしかし真姫に今やらせていることは体力、そして身体を作ることだ無考の極意を長い間発動させるためにも重要だろうと俺はよんでいる」

絵里「……………成る程ね」

結城「これは穂乃果にも言える事だが二人には許容範囲を超えて練習してもらっていない。それほど究極の技が難しく。消耗が激しい技だからな」

結城の説明に皆が納得する

ダイヤ「結城さん私のは」

結城「ダイヤの技に関してはお前一人では完成しない」

ダイヤ「!!」

結城「まだ、お前が答えを出すまで詳しい事は言えないが決してお前が一人練習で完成する技ではないと言うことだけは覚えておいてくれ」

千歌「……………一人で覚えられない技？」

梨子「二人技とかじゃないんですよね？」

結城「ああ」

ダイヤ「必ず乗り切って見せます」

結城「その息だ!!と、いう訳で今日から3日間は主に全体ではダイヤの練習をする。もちろん個人の時間も取るぞ」

ツバサ「と、いう事は4日後は作戦会議」

結城「ああ、で5日後は自由練習で行こうと思ってる」

海未「その後は？」

結城「……………まだ決めてないな作戦会議抜きでのダイヤの練習と自由練習を回す感じで行こうと思ってる」

海未「分かりました」

結城「という訳でミーティングは終わりだ……………」

エメラ「さあ、姉様行くよ！」

ダイヤ「わかってますよエメラ」

外に行く

結城「さあ、これからどう化けるか楽しみだねえ」

メンバー全員が復帰しミーティングが終わり練習に入る……………果たしてダイヤは究極の技を完成させられるのか？そして一人で完成させる事が出来ないの意味とは？

次回 裏で蠢く闇

裏で蠢く闇

ラブライブジャパンが全員でミーティングをしている頃

???

ルビィ「ハアア!!」

ある技の練習をしている

花陽「す、凄いエネルギーですっ！」

善子「…………やるね、ルビィ」

ルビィ「まだまだだよ、全力に体が慣れてない。もつともつと強く出来る」

花陽「……………まだイケチャウノ!？」

善子「……………（それにしてもルビィのこの力は）」

ルビィ「今度は海未さんも本気でくるだろうしツバサさんや絵里さんも出てくるだろうしね」

花陽「確かにそうだね」

善子「……………」

山西「はいはいはい」

手を叩きながら3人に近づく

山西「熱くなってるのは分かるけどもう一度圧倒的差で勝つんでしょ？なら余計にオーバーワークは駄目だよ」

ルビィ「……………あつそつかあ」

花陽「山西さんありがとう!!」

山西「いえいえ、私としても負けたくないんでね」

善子「……………（本当に凄いわこの子も。いいわねなんか）」

ルビイ「戻ろつか花陽ちゃん、善子ちゃん、春香ちゃん」

こうして部屋に入っていく

プルプルプルプル

「もしもし?」

「やあ元気かい?」

「お! ○ちゃん! 元気だよ」

「……………気になる情報を仕入れてね」

「気になる情報？」

「うん、それは」

ガチャ

「!!ご、ごめんまた後で掛け直すよ」

「え、ちよつと!! ○ちゃん!？」

ツーツー

「……………まだ大丈夫なのかな？けど危ない事になる前に伝えないと」

電話した主はそう呟く

???

ルビィ、花陽、善子、山西「戻りました!!」

「お、お帰り! どう?」

ルビィ「いい感じですよ。もうすぐ完成すると思います」

「そっかあ」

花陽 「今でも十分凄い威力だよ!!」

山西 「ああ、いくら彼らの成長が早いといえどあの技は止められないだろ」

善子 「……………」

「ふふ、そっかあそれは楽しみだね」

ガチャ

「あら、あんた達帰ってきてたのね」

「お、おかえりみんな」

ルビィ「ボス……」

ボス？は4人の身体をじつと見る

「ふむふむ、みんな前よりも凄くなってるね!!」

ルビィ、花陽、善子、山西「!!」

「次の試合も楽しみにしてるよ」

「もちろん私も楽しみにしてるからね」

ルビィ「全力で行きます」

善子「……………」

「今日はもう休みなさい。あんた達が朝から練習してるのはちゃんと見てるから」

ルビィ「……………○○さん」

「……………特にルビィあんたは足が疲れてる早く休みなさい」

ルビィ、花陽、善子、山西「ありがとうございます!!」

そう言つて部屋を出て行く

「素直じゃないねえ」

「うるさいわね／＼／＼」

「まあそう言うところが可愛いもんね」

「……………／＼／＼」

「あつ黙った」

「ふ、ふん!! 私は寝るから」

バダン!!!

強く扉を閉める

「あはは、可愛いね本当に」

「うん、そうだね」

「私は寝る前に軽く運動してこようかな」

「程々にね」

「分かってるよ〜」

パタン

「……………ふう」

椅子に座る

ピツピツピツ

「……………聞かないとね」

プルプルプルプル

『はい?○○○です』

『お、出てくれたたごめんねお昼は』

『○さん!! いえいえそちらも忙しいでしょうし仕方ないですよ』

『ありがとう、それで本題なんやけどお昼の時に言おうとしてくれてたのってなんなん?』

『!! 大事な事なんだよ!』

『……………』

『悪魔って知ってる?』

『悪魔?』

頭を傾げる

『うん、私も最近聞いたんだけど。人間に寄生して力を奪う悪魔っていうのが居るみた

「いなんだ」

「恐ろしいね……」

「うん、だから伝えておこうかなと思つてまだ見た人は居ないみたいだけど。もしかしたら既に誰かに寄生してるかもしれない」

「!？」

「だから○ちゃんも気をつけてね」

「ありがとう」

「僕も調査今している所だから何か分かったら連絡するね」

「了解です」

ツーツーツー

「……………悪魔かあ」

そう呟き、椅子から立つ

「私も寝ようかな」

ガチャ、キイイイ

悪魔の話は電話した二人以外にも

「……………」

盗み聞きしている者が居たのであつた

ミーティングから3日後

ダイヤ「ハアアアアア!!」

エメラ「!!」

ダイヤとエメラが一对一をしていた

エメラ「くっ!」

ダイヤ「……………」

結城「へえ……………4日間でここまで来れるとはな」

ツバサ「抜く事は増えてますけどまだ止められてますよ？」

結城「いや、この練習は抜くのが目的じゃない。ダイヤが自分で気付く事が出来るかの練習だ」

ツバサ「気付くための？」

海未「……………（結城さんの初めの時からずっと言っている気付く事が目的……………それがどういう事なのか）」

海未は見つめながら考える

ダイヤ「くっ（どうすればいいのですか、気付く事が大事？全く答えが浮かびません

わ」

エメラ「そんなに考えてるととるよ！」

エメラがスライディングを仕掛ける

ダイヤ「!!」

ボールを取られる

エメラ「……………油断大敵。考えてたら駄目だよ姉様」

ダイヤ「……………」

エメラ「……………私はもうすぐあの技を完成させられる。姉様も応援してくれていたあの技が」

ダイヤ「!!」

エメラ「負けたくないでしょ？なら本気で来て！」

ダイヤ「分かってる！」

結城「!!」

千歌「曜ちゃん、梨子ちゃん!!」

曜「千歌ちゃんも感じた？」

梨子「ダイヤの中の何が目覚めた？」

一同がダイヤに注目する

エメラ「さあ、来てよ姉様!!」

エメラは構える

ダイヤ「……………」スッ

エメラ「!?!」

なんとダイヤは目を閉じる

あんじゅ「エレナあれって!!」

エレナ「……………ああ。ツバサが覚醒する時にもあつたな」

ダイヤ「……………」

するとダイヤは目を瞑つたまま、ステップを踏む

エメラ「!!」

結城「……………ふふ、大きく近付いたな」

ダイヤ「……………」

ダイヤは何も考える事なく華麗なステップを踏んでいた

ダイヤ「……………!!」

エメラ「……………あ、あっ!？」

ダイヤはステップを踏みながら自らを熱くしていった

ダイヤ「ハアアアア!!」

目を開けて熱さを身に纏って直進を貫く

エメラ「!?」

エメラは吹き飛ばされる

エメラ「ぐああああ!!」

ダイヤ「……………」

シユン!

ダイヤ「ハアハアハア」

一同「?!?!」

ツバサ「……………」と、とんでもない技ね今の」

海未「ええ、とてつもない熱さを感じた……………」

ことり「あれが炎帝!？」

ダイヤ「ハアハアハア、わ、私出来ましたの?」

結城「ダイヤ、合格だぜ身体が理解したな」

ダイヤ「身体が理解した……………」

エメラ「姉様は隙が出来たら抜こう、こうしたらこう動くからこうしようと思つと考
えているでしょう?」

ダイヤ「は、はい」

エメラ「だから初めは出来なかつたのよ考えたら駄目。無意識に体に反応させるの」

ダイヤ「……………成る程、そう言う事だったんですね」

結城「だが大したもんだたったの4日でここまで来れるなんて凄いぞ」

ダイヤ「ありがとうございます」

結城「さあここからはその感覚を誰が相手でも使うための練習だ。忘れるなよその感覚を」

ダイヤ「はい！」

その後練習するもエメラとやった時のようにはいかず一度も成功しないまま次の日を迎える事となる

次の日

ミーティングルーム

ダイヤ「……………」

海末「ダイヤ、昨日は一度しか出来ませんでした。今日こそはもつともつと出来ますよ！」

ダイヤ「……………そうですね」

絵里「そうよダイヤ落ち込んでちゃ駄目、結城さんが貴方なら出来ると思って究極の技を貴方に託したのもつと自分を信じなさい！」

ダイヤ「絵里さん……………ありがとうございます！」

ツバサ「ミーティングの後相手するわよ」

ダイヤ「ありがとうございます！ツバサさん」

エメラ「……………」

結城「さあ、ミーティングを始めるぞ」

凜を含む全員の姿勢が前に向く

一同「……………」

結城「前は間に合わなくてすまなかった。だから美麗に頼んでキャラバンを持ってきてもらったこれで一度に20人以上連れて行けるから全員行ける。だから前みたいなのは起きない」

千歌「よかったあ」

曜「穂乃果さんやことりさんが居れば勝てるよ！絶対」

結城「その件だがアドバンチュール戦は穂乃果、ことり、絵里はベンチで見ているらう」

千歌、曜、梨子、あんじゅ、エレナ、聖良「!!」

結城「とつても大事な試合なのは分かっているだが今回の件はチャンスでもある、今回のフードの件の前に戦う予定がある奴らが居るはずだ」

海未「ふふ、そうですね」

真姫「負けられないわ!!」

結城「その息だ、という訳でスタメンを発表する」

一同「……………」

結城「G K…曜!!」

曜「はいっ！」

結城「DF……………花丸、聖良、あんじゅ!!」

花丸、聖良、あんじゅ「はい！（ずらっ！）」

結城「MF、絵里、千歌、真姫、梨子!!」

絵里、千歌、真姫、梨子「はいっ！」

結城「そしてFW……………ダイヤ」

ダイヤ「はい！」

結城「海未!!」

海未「はいっ!!」

結城「そして……………エメラお前だ」

エメラを指差す

エメラ「?!?!」

結城「以上だ、理亞、エレナはいつでも出られる準備をしておいてくれ」

理亞、エレナ「はい!」

エメラ「何故私が!!」

結城「……………今回のアドバンチュール戦勝つ為にはお前が必要だ」

エメラ「言いましたよね? 私はルビイと同じフィールドに立ちたくないと!!だから今

回は出たくないと!!」

一同「!!」

ダイヤ「それはどう言う「姉様は黙ってて!!」……………エメラ」

結城「……………」

エメラ「結城さん何故……………」

結城「言った通りだお前が必要なんだ。勝つ為にはお前が」

エメラ「つつ!!!」

ダン!!

タツタツタ

ダイヤ「エメラ!!!」

走って何処へ行く

結城「……………」

千歌「ダイヤさん、エメラちゃんとルビイの間に何があつたの？」

梨子「前に聞いても教えてくれなかつたですよね？」

曜「教えてよ。私達仲間だよ？」

ダイヤ「……………」

穂乃果「ダイヤちゃん教えてほしい。今後の為にもエメラちゃんの為にも」

ダイヤ「……………」

結城「ダイヤどうする？俺はある程度は知ってるが詳しくは知らない説明するかどうかはお前に任せる」

聖良「ダイヤさん、私からもお願いします、エメラがどう思っていたのか同居していた私としても知りたいです」

理亞「……………私も知りたい」

ダイヤ「……………分かりました。いつかは話さないといけないと思ってました。ですが3人集めてから話したかったです。がこうなってる以上話さないといけませんね。エメラについて」

次回 エメラの過去

エメラの過去【サッカーとの出会い】

ダイヤ「話したいと思いますエメラの過去について」

ツバサ「………私も気になってる事があったわエメラについては」

あんじゅ「そうね、UTXの時から言ってたわよね」

ツバサ「ええ、そうね」

エレナ「……………何故黒澤家の血筋なのに北海道に居るのか」

ツバサ「……………当時は驚いたわ」

千歌「私もラブライブジャパンになって初めて知りました。ダイヤさんにもう一人妹がいた事に」

花丸「……………当時ルビイちゃんに聞いた事があつただけですがすぐに話を逸らして来たズラ。それ以来聴かないようにしていたけれどやっぱり気になっていたずら」

ダイヤ「……………本当に黙っていてごめんなさい。ルビイとエメラの為にも話したく無かったので」

花丸「い、いや！ダイヤさんが謝らなくても」必死に言う

ダイヤ「……………エメラがこうなってしまったのは黙って見ていた私の責任でもありません」

そう言ってみんなの前に行く

ダイヤ「小学校からの話になります」



小学生の頃私達は仲が良く昼休みは学年は違いましたがずっと3人で遊んでいました。

るびい「待て〜」

えめら「ふふ、るびいに捕まえられるかな？」
るびいはえめらを捕まえる為追いかけていた

るびい「……………」

えめら「こつちだよ〜」

るびい「!!あ、だいやおねえちや」

だいや「るびいこつちですわ」

るびい「…………おねえちゃ!!」

るびいはダイヤに向かって走っていく

だいや「ふふ」

るびい「…………!! たっち」

だいや「るびいにまけましたわ」

えめら「!!おねえちゃん!?!」

だいや「さーて次はえめらのぼんですわよ」

えめら「うっ………」

だいや「いきますわよ!!」

と言った感じで昔は3人で鬼ごっこをしてました。この頃は3人ともサッカーは
やった事がなくて見た事もなかったのです。

そしてそんな日々が1年続いた後少しずつ変わっていきました。

るびい「えめらおねえちゃ!!」

えめら「おっ！きたねるびい」

るびい「だいやおねえちやまだ？」

えめら「るびい。今日はお姉ちゃんはこないよ」

るびい「え！なんで？」

えめら「同じクラスの人達に誘われたんだって、初めは断ろうとしていたけど。私がるびいを見るからって言ったから」

るびい「……………おねえちや」

えめら「だからふたりで遊ぶよ！」

るびい「……………うゆ」

こんな感じでルビイとエメラは2人で遊んでいました。エメラなりの優しさだったのでしよう私が同級生とも仲良く出来るようにと自分にも同級生に友達が居ただろうのに。

それから週に2回ぐらいしか私はルビイとエメラと遊ばなかった。エメラに甘えてしまったのですわ、そしてそんなある日

るびい 「……………」

えめら 「るびい？」

るびい 「だいやおねえちやの所に行く!!」

えめら「!?るびいそれはだめ」

るびい「いやだ!いくもん!」

えめら「駄目だよ!お姉ちゃんの同級生も居るんだよ!!」

るびい「関係ない!!」

少し泣きながら走っていく

えめら「ちよつとるびい!!」

るびいが泣きながら走っていく

コロコロコロ

えめら「るびい!!危ない!!」

るびい「へ？」

前を見るとボールが目の前まで近づいて来ていた

るびい「びっ！」

足元にボールが当たる

えめら「大丈夫？るびい!!」

えめらがるびいに追いつく

るびい「……………大丈夫」

「ごめんね、ボールが飛んで行っちゃって」

えめら「!!（あの時お姉ちゃんと話していた人だ）」

だいや「かなんちゃん取りに行ってくれてありがと!!るびい、えめら!?!」

「へえ、この子達がだいやの妹さんかあ」

「ベリキュートだね!」

えめら「……………」キツ!

「ごめんね、急に色々言われたらびつくりするよね。私はまつうらかなん」

「わたしはおはらまりだよ!」

えめら「……………」

だいや「私の大事な友達ですよ」

るびい「おねえちや!!」

だいやの所に行く

だいや「……………」

抱きしめる

かなん「わたしたちがだいやを奪っていたのかな」

まり「かもしれないね」

ルビイ「おねえちや—————!!」

だいや「ごめなさいね、るびい」

えめら「……………」

かなん「だいや、これからは5人で遊ぼっか！」

だいや「!?」

まり「うん、それがいいわ！」

だいや「いいんですか？」

まり「もちろん！こんなにキュートな妹と遊べるなんて羨ましいよ！だからまりとかなんもはいる！」

えめら「……………」

かなん「……………えめらちゃん」

えめら「!?」

かなん「少しかがんで言う

かなん「いいかな?私とまりも入って」

えめら「……………いいよ」

かなん「やったあ!!」

るびい「おねえちやこれからは一緒に遊べるの!？」

だいや「ええ」

るびい「やったあ」

えめら「…………お姉ちゃん何をしてたの？」

だいや「…………私達はサッカーをしました！」

これがルビィとエメラにとっての果南さんと鞠莉さんの出会い。そしてサッカーとの出会いですわ

るびィ「おねえちゃ!!」

だいやにパスを出す

だいや「うまいです、るびい!!」

えめら「お姉ちゃん!!」

だいや「えめら!!」

えめらにパスを出す

えめら「……………」

かなん「決めさせないよ」

えめら「……………まりちゃん!!」

かなん「!?!」

まり「NICEよ!えめら」

後ろからまりが出てきてシユートを打つ

バシユーン!!

えめら「ナイスシユートまりちゃん！」

まり「よくみてたね、えめら!!すごいよ」

えめら「えへへ」

るびい「えめらおねえちやすごい」

だいや「すごいですわね。えめら」

5人でサッカーを始めて数週間であつという間にエメラは上手くなり果南さん、鞠莉さんともすぐに仲良くなりました。そしてある日

かなん「さあ、きょうもよろつか！」

まり、えめら「おー！」

だいや「……………ふふ、（もう意気投合してる）」

「かなんちゃん！」

かなん「ん？クラスの!!」

「勝負しない？サッカーで」

まり「いいね！勝負燃えてきたよ！」

えめら「勝負……………」

「2回決めた方が勝ちでどう？」

だいや「望むところですよ」

るびい「び、びい」

だいや「大丈夫ですよ、るびい」

遊びですが5対5をする事になりましたわここから大きく私達の運命は動く事に

なります。

「ボールはこっちからでもいい？」

かなん「うん！いいよ！！」

「じゃあ行くよ！」

真ん中からボールをける

「パス！」

「よつと、さあどう攻め「もらうよ！」！！」

「だいや「!?えめら」

えめら「えへへ、とれたよ」

「い、いつの間に!?!」

えめら「いくよ!」

えめらは上がっていく

「と、止めて!」

「行かせない!」

えめら「あまい!」

えめらは一人を抜き去る

「!?!早い」

かなん「す、凄いえめらちゃん」

るびい「かつこいい」

えめら「楽しい……………」

「いかせないよ!!」

「ゴールは決めさせないよ」

えめら「……………よつと!」

横にパスを出す

まり「NICEよ!えめら!」

「!!」

かなん「う、上手い」

だいや「えめら、すごい」

まり「さあ、決めるわよ」

「!!」

まり「パス!」

「!!しまった」

えめら「はああああ!!!」

バシユン!

えめら「やったあ!!」

まり「NICEシュートよ!えめら!」

「……………す、凄い。確かえめらちゃんって3年生だよね」

「かっこいいなあ」

だいや「す、凄い」

るびい「えめらおねえちや凄い」

えめら「えへへ、もう一点決めるよ」

「……………勝りたいね絶対」

「うん、だからえめらちゃんには自由にさせないよ」

再び真ん中でボールをける

「さあ、行くよ」

パスをする

えめら「もう一点貰うよ」

ボールに向かおうとする

「おっと！いかせないよ!!」

えめら「!!」

「これ以上えめらちゃんには何もさせないよ」

えめら「……………」

まり「まずいえめらが!!」

「よそ見してていいの?」

だいや「!?!」

一気にゴール前に行かれる

かなん「決めさせないよ」

「……………はあ!!」

シュートを打つ

かなん「ふっ！」

ボールを止める

「くっ、止められるなんて」

かなん「ふふふ」

えめら「これは何もできない」

だいや「どうすれば」

るびい「おねえちゃん」

だいや「るびい？」

るびい「次はるびいが攻めるよ」

だいや「!?」

るびい「任せて」

だいや「……………」（初めてみますわるびいのこんな顔）

かなん「さあどうするか」

るびい「かなんしやん！」

かなん「!?るびいちゃん」

だいや「かなんちゃん！」

目配せしてくる

かなん「……………分かった、お願いねるびいちゃん！」

るびい「……………」

「あんまり強く行ったら駄目だよ2つ下だし怪我したら大変だから」

「分かってる」

そう言つてボールを取りにいくいく

この時正直私を含めて全員が取られると思つたと思います……………ですがそんな事は
ありませんでした。

るびい「……………行くよ」

なんとるびいは取りに来た人を冷静に交わす

かなん、まり、えめら、だいや
「?!?」

るびい「1人目」

「は、はやい!!」

ドリブルで上がっていく

「止めるよー!」

もう1人がルビイを止めにかかる

るびい「……………!!」

またもや綺麗にかわす

るびい「2人目」

「き、決めさせないよ」

るびい「……………」

るびいはゴールキーパー相手にも怯まず突っ込んでいく

だいや「るびい!!」

るびい「……………」

「くっ！行かせない」

慌てて飛び出す

るびい「……………」

まり「……………す、凄い」

かなん「またかわした」

るびい「……………3人」

キーパーを交わしてボールをゴールに入れる

だいや「……………るびい」

えめら「るびい……………凄」

「な、何今の凄い！凄いや！るびいちゃん!!」

るびい「ハアハアハア」

この時感じました。エメラ、ルビイにはサッカーにおいてとてつもない才能を秘めていると言う事を

「ねえ、サッカーのクラブに入らない？」

かなん、まり、だいや、えめら「クラブ!？」

「うん、みんな上手いしもつと上手くなれるよ!!絶対凄いチームになる!」

るびい「……………クラブ?」

私達は同じ学年の人にクラブを進められました。当時は嬉しかったですよ。クラブの子達に入らない?と言われたのですから。

私達は入る事にしましたそのクラブにそしてその後のある事件が起きるなど知らずに

次回へ続く

エメラの過去【二人のストライカー】

だいや、えめら、るびい、かなん、まり「今日からよろしくお願いします」

「ああ、よろしく」

あの時クラブに進められたため私とエメラとルビイも果南さんと鞠莉さんは5人揃ってサッカークラブに入りました

「私の名前は渡辺智和と言う。別に呼び方は好きにしてくれる監督でも智和さんでも気軽に呼んでくれ」

だいや、えめら、るびい、かなん、まり「はい！」

智和「早速練習に参加してもらおうと思うけどいいかな？」

まり「はい！お願いします！」

智和「いいね！！元気なのは大歓迎だよ」

そう言つてグラウンドに行く

智和「みんな今日からクラブに入った黒澤ダイヤちゃん、ルビイちゃん、エメラちゃん、松浦果南ちゃん、小原鞠莉ちゃんだ！仲良くする様に」

「はーい！」

「入ってきてくれたんだね！」

まり「もちろんです！！あんだけ言つてくれたらね」

「これなら県大会も行けそう!!」

智和「そうだな、人数もいい感じになってきたし大会ももしかしたら勝てるかもな。みんな次の大会は勝つぞ！」

「おお!!!」

智和「だがすまない、今日は船の仕事がある、代わりにキャプテンの月に任せてあるだから曜の指示を聞くようにな」

「はい!!」

月「じゃあ!みんな練習始めるよ!」

「お!!」

月「あ、そういうば自己紹介がまだだったね。僕は渡辺月って言うんだよろしくね」

だいや「もしかして監督はお父さんですか？」

月「いや、お父さんではないけどいところって感じかな」

かなん「そうなんだ」

月「初日だから軽めにしようと考えたけど凄くやる気が伝わってくるよ。いつも通りの練習をしようと思うんだけどいいかな？」

まり「のぞむところよ！」

かなん「そうだね楽しみだなあ」

えめら、るびい「……………」

月「それじゃあ、この服に着替えてきてね。このクラブのシャツだよ！」

5人にシャツを渡す

そして着替え終わる

月「おつ、きたねそれじゃあ練習を始めよう!!まずは—————」

月「……………て感じでいつも基礎練習やってるよ」

かなん「お、思ったよりきついね」

まり「そうね、遊びとは違うわ」

だいや「それはそうでしょうクラブの練習ですよハアハアハア」

えめら「ハアハアハア」

るびい「……………うゆ」

月「毎日やっていけば慣れるよ。今日はこれで終わろつか!」

かなん「まあ頑張っっていけばいいだけだよね!」

まり「そうよ!かなんの言う通りよ!」

月「ふふ、頼もしいね」

こうして私達はクラブチームに入って練習をして行きました。毎日みんな練習する日々はとっても楽しかったです。特に2年は何もなかったので私達と果南さんと鞠莉さんが6年生、エメラが5年生、ルビイが4年生になるまで飛ばします

黒澤家

だいや「明日から最終学年ですわね」

えめら「そっかあお姉ちゃん小学校ラストの1年かあ」

るびい「悲しいよ〜」

だいや「クラブも6年生いっぱいまでですわ。寂しいですわね」

えめら「なら今年の大会は県大会優勝以上だね！」

るびい「うん、そうだね」

だいや「るびいもえめらも本当にサッカー上手くなりましたね」

えめら「確かにるびいなんか昔はまともにボールを蹴れなかったもんね」

るびい「ぴい、けど上手くなったのはだいやお姉ちゃん、えめらお姉ちゃん、かなんちゃん、まりちゃんのおかげだよ」

だいや「るびい……………」

えめら「……………ふふ。るびい、お姉ちゃん!!頑張ろうね」

るびい、だいや「うん!!」

6年生最後の大会

智和「今日から始まる大会で3年生は最後だ。8人ともよくついて来てくれたな」

「いえいえ!先生の教えてがあったからですよ!」

まり「そうですよ！」

かなん「本当にありがとうございます」

智和「…………ふ、嬉しい事言ってくれるじゃねえか」

月「ふふ」

智和「今回は初戦から強えぞ、相手は沼津のクラブチームだ」

えめら「関係ないですよ、私達なら勝てる」

るびい「うん！」

智和「ふ、頼もしいこと言うねダブルストライカー」

だいや「えめら、るびい。今日も点を取りますわよ！」

えめら、るびい「うん!!」

「……………」

智和「さあ、勝つぞ！」

おおお
!!!!!!

こうして大会に臨みました。

みんなも気合十分でいい雰囲気ですタートできたと思います。

試合

後半40分

月「ハアハアハア、時間がないね」

敵「貰うよ！」

ボールを奪いに行く

月「……………かなんちゃん！」

かなん「了解!!」

パスが渡る

敵「行かせるか！」

かなん「……………ふっ」

敵を交わす

敵「!？」

かなん「さあ！だいや！」

だいやにパスを出す

だいや「ナイスです！」

前を向く

だいや「……………」

るびい「くっ」

えめら「……………」

だいや「(ふたりともマークが付いてるならば)」

だいやはドリブルで上がる

敵キーパー「止めて！」

敵「了解!!」

るびいといえめらのマークマンがだいやに向かってくる

るびい「……………」こくん

えめら「……………」こくん

だいや「……………」（つれましたわね）さあ！決めるんですよ！るびい！えめら！

前に少し浮かしてスループスを出す

敵「!?」

敵キーパー「!?しまった」

るびい、えめら「ハアアアアア!!!」

ボールに追いつく

月「決めろ！二人とも!!」

えめら「行くよるびい！」

るびい「うんお姉ちゃん！」

左右からボールを蹴る

えめら、るびい「うりやあああ!!!」

だいや、かなん、まり「いけえええ!!」

敵キーパー「!!」

ボールを受け止める

敵キーパー「くっ………強い。これが5年と4年の力なのか!?………うわあああああ」

ゴール!!!

るびい、えめら「やったああ!!」

だいや「ナイスシュートです!!えめら、るびい!!」

二人を抱きしめる

月「ふふ、凄いね」

かなん「うん、姉妹って羨ましいなあ」

月「でもかなんちゃんは二人居るじゃん」

かなん「まあ、いるけどサッカー興味ないしそれに本当の姉妹じゃないしね。羨ましいなあ」

月「あはは、それもそうだね」

ピッピッピッ
!!!

内浦KB vs 沼津KBは1対0の接戦で内浦KBの勝利です!!!

こうして初戦を突破してどんどん勝ち上がって行きました。結局県大会優勝までは行けませんでした。が今までで一番良かったと思つてます。

大会が終わり

智和「みんなお疲れ様よく頑張ったな。けど残念な事に今日をもつて6年生の8人は今日で引退だ本当に今日までありがとう。5人に関して1年生の時から6年間よく頑張ったな」

「いえいえ！智和先生が居たからですよ！」

「先生以外だったら辞めてますw」

智和「はは、そうか。そして4年生の時に入って来てくれた。だいや、かなん、まりもありがとうな」

まり「本当にありがとうございました監督。貴方のおかげでだいやとかなんとえめらとるびいとそしてみんなと楽しい時間と苦しい時間を共有する事が出来ました」

かなん「そして、期待してくれてはじめての時から出してきてくれてありがとうございます本当にサッカーがもつと大好きになりました」

だいや「しんどい練習もありましたけど、先生も熱心に教えてくれて、そして最後まで諦めない姿勢を教わる事ができました本当にありがとうございました」

智和「俺も君達が最初の6年生で良かったよ本当にありがとう」

月「私からも一言良いですか？」

智和「ああ」

月「……………1年生の時から居た5人の皆さん本当にありがとうございました。先輩方が居なければ次の年私は入っていなかったと思います。一緒にサッカーをする事が出

来て凄く嬉しかったです。そしてだいやさん、かなんさん、まりさん4年生の時に入つて来てくれてありがとうございます。3人とも入る前から凄く上手くて練習したらどこまで上手くなるんだろうとワクワクしてました。やっぱ凄く上手くなって驚きました。中学校になつてもおそらく続けると思うので楽しみにしています。8人の先輩方本当にありがとうございます」

パチパチパチパチパチパチ

智和「月ありがとう。という訳で話はこれくらいにしてみんなでご飯食べに行こう!!」

「やったああ!!!」

これで私と果南さんと鞠莉さんは引退しました。本当にサッカーをする事が出来て良かつと思つています。

ダイヤ「ひとまずこれが私と果南さんと鞠莉さんが引退するまでですわ」

海未「ここまで話だといひ話で終わりますね」

ツバサ「ええ、そうね」

結城「ちなみに付け足すと5人とも優秀選手賞を貰ってたからな」

一同「!!!」

千歌「すっ、凄い」

梨子「聞いてただけだけどルビイちゃんとエメラちゃんは当時から相当なストライカーですよ」

結城「ああ、当時高校3年だった俺の耳にも入るほどだった。まあ智和さんから聞いたんだけどな」

曜「パパを知ってるんですか!？」

結城「ああ………そうだったな智和さんは曜お前のお父さんだもん」

ダイヤ「!!曜さんのお父さんだったんですね」

曜「うん、当時私はサッカー興味無かったからね知らないのも無理ないよ、まあ月ちゃんもガチだったけど」

穂乃果「果南ちゃんって昔はGKしてたんだね!!」

ことり「本当だ！試合の時はMFになってるけど初めはGKだよね」

ダイヤ「ええ、智和さんにMFをやってみないかと言われていましたからね、そこから変更しました」

絵里「あの高い瞬発力はキーパーの経験のなせる技という事なのね」

真姫「……………凄いわね」

エレナ「話の途中で悪いがダイヤが引退した後何かあったんだな」

難しい顔をしたエレナが言う

ダイヤ「ええ。ですがここからは私が聞いた話がほとんどになります」

千歌「……………」

花丸「……………ルビイちゃんエメラさん」

結城「……………」

ダイヤ「次の話ですが秋の新人戦まで話を飛ばします」



秋の新人戦

私達は当然ベンチも入れないので観客席から応援しようとお観客席に来ていました

だいや「楽しみですね！」

かなん「うん！メンバーどうな感じなんだろう」

まり「まりの的には……………」

「だいや「おっ！配置に着くみたいですよ！」

かなん「へえ、ほとんど5年生の子だね。相変わらず月ちゃんもキャプテンかあ。その中にえめらそしてるびいもいるよ！」

「だいや「当然ですわ！」

「まり「でも陣形がかわってるね、私達がいる時は3-3-4-1だったのに今は2-4-4-1になってる」

かなん「えめらとるびいがトップだね」

「ピー!!!

「まり「練習に行かないようにしていたからどれだけ上手くなってるかも楽しみだね」

月「……………さあ!!行くよ!」

だいや「前と同じく月ちゃんがゲームメイクしてますね」

かなん「だね……………おっ!」

月「さあ!!攻め時だよ!るびいちちゃん!」

月はるびいにパスを渡す

るびい「ナイスパス!」

「行かせない!!」

るびい「……………」

るびいは華麗にDFを交わす

るびい「……………」

かなん、まり「!?」

だいや「……………数段早なってる!？」

るびい「えめらお姉ちゃん!!」

えめらにパスを出す

えめら「ナイスだよ!るびい」

えめら「行くよ!」

なんとえめらはボールを抱えて飛び上がりシュートを打つ

えめら「ハアアアアア!!」

ドガン!!!

敵キーパー「!!」

バシユン
!!!!!!

ゴール
!!!!

かなん「い、今のつて」

まり「うん、炎は出ていなかったけどあれは間違いない」

だいや「ファイアトルネード!?!」

えめら「やったあ！」

るびい「えめらお姉ちゃん凄い!!」

月「今のはファイアトルネードだよ!!」

えめら「炎は出てないけど、家でずっと練習してたら出来る様になった!!」

月「さあ、まだまだ攻めよう!!」

えめら、るびい「うん！」

かなん「す、凄いほんの数ヶ月の間に何が起きたの!？」

まり「二人はどこまで上手くなるの!!」ワクワク

「だいや」………本当に凄い、えめら、るびい」

びー—————!!

敵「くっ！まさか必殺技を持っているなんて聞いてないよ!？」

敵「まだ一点だとりか「もらうよ」!!」

だいや「!!はやっ」

まり「………恐ろしい変化したね、るびい」

るびい「さあ、行こう!!」

えめら「開幕ボール奪い久しぶりに見たわね。初めて5対5した時以来」

るびい「えへへ、見ててねえめらお姉ちゃん」

るびいが上がっていく

月「るびいちゃん!!」

るびい「!!月ちゃん!!」

月にパスを出し、走って上がる

敵「と、とめろ!月を止めるんだ!」

月「ふふふ、パス」

敵「!?!」

えめら「ナイスパスだよ!月」

敵キーパー「打たせるなよ!」

敵「分かつてる」

えめら「……!!いけえ、るびい!!」

敵「!!」

るびい「うゆ!!」

敵キーパー「1年下の人に入れられるものか!」

るびい「………行くよ!」

だいや「!!(あの目)」

るびい「ハアアアア!!」

なんとするびいもえめらと同じくボールを抱えて飛び上がる

かなん「?!?!? 嘘でしょ」

まり「まさか、るびいも」

だいや「……………天才です。えめらもるびいも」

るびい「うわあああああ!!!」

敵キーパー「さつきより威力が」

バシユン
!!!!!!!

あつという間に2点のゴールを決めた、えめら、るびいその後の試合でも得点し

5対0という圧勝の形で勝利を収めた。

えめら、るびいの名前はスタジアムだけでなく静岡中いや全国まで届いていたのかも
しれない。

そしてこの日から二人は静岡最強のダブルストライカーと呼ばれるのであった

次回に続く

エメラの過去【サッカーを失った日】

黒澤家

だいや「二人とも凄いです!!」

えめら「えへへ」

るびい「見に来てくれてありがとうね」

結局見に行った日は全勝、しかも圧倒的な点差をつけて。明日は県大会の準決勝と決勝となっていました。

だいや「二人なら近畿大会そして全国も夢じゃありませんよ!!」

えめら「そ、そんな事はないよお姉ちゃん」

るびい「全国はもつともつと凄いや」

だいや「ですが。えめらとるびいは全国レベルですよ！」

えめら、るびい「お姉ちゃん……………」

だいや「だから明日からの試合も勝てます!!自信を持って行ってくださいね！」

えめら、るびい「うん！」

そして私達は次の日も内浦KBの試合を観に行きました。そして準決勝は3対0で勝利、昨日の疲れが残っているようにも見えました。次の決勝も勝ってくれると思っていました。

ですが、2対3で内浦KBは負けてしまい、県大会を優勝する事は出来ませんでした。

試合後スタンド

だいや「えめら!!!」

走って下に行く

かなん「だいや!？」

まり「……………まさか負けるなんてね。それにえめらが味方とぶつかるなんて」

かなん「負けた事もそうだけど。味方とぶつかるなんて普通はないよね」

まり「……………私達も行く!!」

内浦KBの控え室

るびい「ご、ごめんなさい。るびいが慌ててしまって」

月「るびいちゃんが謝る事はないよ!! 3人にマークされたらいつも通り動くのはしんどいよ、昨日の疲れもあつたし」

るびい「うう」ウルウル

少し泣きそうになっている

えめら「るびい、ごめんね。私が怪我しちゃったから」

るびい「違う！えめらお姉ちゃんせいじゃない」

「本当にごめんなさい、えめらちゃん」

えめら「……………いいよ、謝らなくてお互い焦っていたんだ仕方ないよ」

「ごめんなさい」

頭を下げる

月「……………」

智和「とにかくえめらは今から私が病院に連れて行く。それとあんまり頭を何度も下げちゃダメだ、仕方ない事もある。今日はみんな解散だ!!」

ガチャっ
!!!

だいや「えめら、るびい!!」

智和「だいやちゃん!!」

月「だいやさん!!」

えめら、るびい「お姉ちゃん!!」

だいや「大丈夫ですか!?!えめら!!」

えめら「大丈夫だよおねえ、痛ただ」

だいや「えめら!?!」

智和「動いたらだめだよ！」

えめら「はい」

ガチャ

かなん、まり「みんな!!」

智和「3人とも来てくれていたのか」

月「ありがとう、かなんちゃんまりちゃん」

智和「とにかく今日は解散だ。俺はえめらちゃんを病院に連れて行く」

だいや「私も乗っていいですか？」

かなん、まり「お願いします」

智和「……………でかい車で来てよかったよ。了解だ3人乗ってくれ、もちろんるびいちゃんも月もだ」

病院に行つてエメラを見てもらうと膝に少し怪我を負っていましたけど2週間程で治る怪我だったので良かったです。ですが本人達はとっても悔しかったです。勝っていた試合なのにと……………

えめら「少しの間、迷惑かけちゃうね」

だいや「迷惑なんて思わないわ！」

るびい「そうだよ!!」

えめら「お姉ちゃん、るびい」

かなん「私達も助けられる事があれば助けるからね」

まり「うん、もちろんです！」

えめら「ありがとう……」

だいや「飲みのも買ってきますわね」

ガラガラ

だいや「……………」

自販機を見つける

月「お義父さん!!」

だいや「!!」

慌てて角に隠れる

智和「……………」

だいや「……………」(あれは月ちゃんと智和さん)

月「あの接触は絶対に普通じゃない!!おかしいよ!」

だいや「!!」

智和「……………」

月「あんな接触普通ありえる？おかしいでしょ!!!」

智和「……………月」

月「……………今年入ってきた時からおかしいと思ったたんだよ！あいつはわざとやった
「いい加減にしろ!!」!!」

智和「……………もしこの事がえめらちゃん、るびいちゃん、だいやちゃん耳に入った
らどうするつもりだ」

月「!？」

智和「……………俺も月と同じ事を想ってたけどなそれは口にしたらダメだ。もし今後同
じような事があれば。何とかする、いや起きそうになれば俺がなんとかする」

月「……………お義父さん」

だいや「……………」

聞きたくない話を聞いてしまい頭がおかしくなりそうでした。これがわざとだとすれば絶対に許さないと心に決めた瞬間でもありました。

かなん「だいや？」

だいや「……………」

まり「だーいーやー」

「だいや「!!かなんさん、まりさん!」」

かなん「どうしたの?角に隠れて」

だいや「い、いえ。何もありませんわ」

ホクロをかく

まり「……………何か隠してるねだいや」

だいや「……………」

かなん「……………解散してから聞くよ。あまり聞かれたく無い話でしょ?」

だいや「……………」コクン

黙って頷く

まり「と、言うわけでひとまず飲み物買えて無いんでしょう？行こう」

だいや「はい……………」

結局その日は智和さんの車で隠家まで送ってもらった事になって夕方だったのでかなんさんとまりさんと会う事はありませんでした。

次の日、驚く事が起きました

黒澤家

ピンポン

黒澤母「はい？」

ガラガラ

「えめらちゃんは居ますか？」

黒澤母「……………!!もしかしてサッカークラブの!？」

保護者「はい、そうです突然すいません。えめらちゃんを呼んでもらえませんか？」

黒澤母「はい！分かりました」

えめらの部屋

えめら「……いてて」

だいや「大丈夫ですか？えめら」

えめら「うん、大丈夫だよ」

ガタガタガタ!!

るびい「お姉ちゃん、クラブの!!」

えめら「？」

だいや「……まさか!!」

下に降りる

「えめらちゃん!!」

えめら「!? 珠理」

珠理の母「この度は怪我をさせてしまつて本当に申し訳ございません」

頭を下げる

えめら「!! あ、頭を上げてください」

珠理「本当にごめんね。えめらちゃん」

えめら「……………見ていなかった私も悪いですし。とにかく頭を上げてください」

二人は頭を上げる

珠理の母「本当に申し訳ございません」

黒澤母「頭を上げてください。事故と聞いていますし、故意じゃ無いでしょう？」

珠理「は、はい！」

だいや「……………」

えめら「……………珠理。待ってて早く治してサッカーに戻るから」

珠理「うん、本当にごめんね。えめらちゃん」

るびい「るびいは明日から練習行くからね」

珠理「うん、待ってるよ」

だいや「……………」

珠理「……………だいや先輩。ごめんなさい本当に」

頭を下げる

だいや「!!」

珠理「……………私の事が信用できないかもしれないかもしれませんが、これからはえめらちゃんを支えていきたいと思っています」

だいや「……………珠理ちゃん、そんな事ないですよ」

珠理「!？」

だいや「これからもえめら、そしてるびいの事をよろしくお願いします」

手を握る

珠理「はい！ありがとうございます」

ガラガラ

るびい「珠理ちゃんってあんなにしつかりした人なんだね」

えめら「うん、大事な友達だよ」

だいや「……………」（月ちゃんの考えすぎだったのかもしれないね）」

この日、謝りに来た事で私は珠理さんがわざとやる様な人には見えませんでした。それにあんなにしつかりしている人だったので……私は信じる事にしました珠理ちゃんそしてみんなの事を

その後私は内浦中学校に果南さんと鞠莉さんと入学をしてサッカー部に入部した事もあり内浦KBを覗く事も試合を見に行く事も出来ていませんでした。ですが家に帰ればエメラとルビイの3人でその日あった事を話し合っていた日々は今でも覚えてい

ます。

ですが思っても居ませんでした。そんな日々が終わりを迎える事になるなんて

新学期が始まって1ヶ月が経った日

ガチャ

ダイヤ「ただいま帰りました!!」

……珍しく玄関にルビイとエメラが出迎えてくれない事に違和感を感じながら家に入って行きました

ダイヤ「……………何かあったのでしょうか？」

「あのフォーメーションの時はこう動くって言われたでしょ!!」

「そうだよ、でも空いていたから行った！それが悪いの？」

「もし取られていたらどうするつもりだったの!!最悪な形でカウンターを喰らってたかもしれないでしょ!!」

「それを取り返すためのDFでしょ!!」

「チームメイトにどれだけ負担がかかるか分かる？その自分勝手で!!」

「何で？負担かけて何が悪いの？FWの私は点を取るのが仕事だよ！無理してでも行く

べきだよ」

「違う!!FWの仕事はチームを勝たせる仕事だよ!!それは分かって!」

「……………」

バタン!!!

「るびい!!」

しばらく静粛が訪れる

ガラガラ

ダイヤ「!!えめら一体何があつたんですか!!」

えめら「お姉ちゃん……………」

暗い顔のまま言う

えめら「……………今日ね、練習試合で沼津KBと試合をしたの。試合は何事なく終わっただけどるびいが強引に行く場面が多かったからちよつと注意したの、そしたら向こうは納得が行ってなかったみたいで今みたいに……………」

えめらは瞳に涙を溜める

ダイヤ「……………えめら」

ギユツ

えめら「!!お姉ちゃん!？」

ダイヤ「姉妹なんですから喧嘩くらいします。明日の朝謝ればいいんです」

えめら「……………ありがとうお姉ちゃん」

今思えば私が明日に謝ればいいと言った事が間違いだったかもしれません。ルビイの頭を冷やしてからと考えた私がダメだったのです。次の日には手遅れだったのですから

次の日の朝

リビング

ダイヤ「おはようございます、お母さん」

黒澤母「おはようございますダイヤ」

ダイヤ「……あれ？食器が2人分しかない？」

黒澤母「ルビイならすでに家を出ましたよ」

ダイヤ「!？」

黒澤「友達と朝練してくるって言ってましたよ」

ダイヤ「……………（嫌な予感がしますわね）」

だっだっだっだっ

えめら「お姉ちゃん!!るびいが居ないよ!」

ダイヤ「えめら……………」

黒澤母「えめらなら友達と朝練に行きましたよ。珍しいわね」

えめら「……………るびい」

ダイヤ「……………」

私はこの時後悔しました。昨日すぐに謝らせていればこんな事にはならなかったのではないかと。私のせいだと

その日の夜

「ダイヤ………鞠莉さんありがとうございます。鞠莉さんの家に来させてください」

鞠莉「ノープログラムよ」

果南「……………今日集めた理由は昼間話してくれた事についてだよね？」

ダイヤ「ええ、えめらとるびいの事ですわ」

果南「……………たしかにダイヤの言う通り二人が喧嘩するのは一度も見たくないね」

鞠莉「そうだね」

ダイヤ「……………」

果南「……………あの二人は間違いなくサッカーにおいては超天才だからね。お互いの意見がぶつかる事もある」

鞠莉「そうかもしれないけどやっぱり変よね。今まで喧嘩をした事ない姉妹が急にし

たら」

ダイヤ「……………何かクラブであつたとか？」

果南、鞠莉「……………」

プルプルプルプル

ダイヤ「……………!!」

果南「誰？」

ダイヤ「……………月さんですわ」

ピツ

ダイヤ『もしもし？』

月『お！繋がった久しぶりだねダイヤちゃん』

ダイヤ『久しぶりだね月ちゃん』

果南『月かあ！』

鞠莉『久しぶりですね〜！』

月『!!果南ちゃんと鞠莉ちゃんもいるんだ!!ちょうどよかった』

ダイヤ『……………』

月『……………かなり大事な話だよ』

ダイヤ、果南、鞠莉「!!」

月『……………お義父さんが監督をやめたよ』

ダイヤ、果南、鞠莉『智和さんが!?!』

月『正式には船の仕事が忙しくなるから代わりにお願いしたみたい』

ダイヤ『……………そうなんですね』

月『うん、でも私は心配だよ』

果南『……………そうだよね』

月『……………』

ダイヤ『……………月ちゃん聞きたい事があるんだけどいい?』

月『うん、何?』

ダイヤ『クラブで、るびいとえめらはどうですか？』

月『……………ダイヤちゃんも気付いたんだね。よくないよ、それどころか話すらしないよ何があつたか分からないけど。しかもえめらちゃんが話に行っても無視してる』

ダイヤ、果南、鞠莉『!!』

月『……………何があつたか分からないけどどうしたらいいだろう。あの二人が噛み合わないとまずいよ』

ダイヤ『……………えめら、るびい』

月『ごめんなさい、私も話しかけようとしたけど怖くて話せなかった……………』

ダイヤ『月さんが謝ることは謝る事はありませんわ。私が両方と話してみます』

月『!!ありがとうダイヤちゃん』

ダイヤ『ごめんね、迷惑かけて』

月『いやいや、僕もお世話になってるから大丈夫だよ！また見に来てね！』

ダイヤ『うん、勿論』

果南『またね！月』

鞠莉『またね〜』

ツーツーツー

ダイヤ「……………」

果南「どうするのダイヤ？」

ダイヤ「今から帰って話します」

鞠莉「ふふ、ダイヤらしいね」

ですがその日家に帰ってルビイとエメラと話そうとしましたがルビイは寝ていて、エメラは話してくれませんでした。

そしてそれから暫くは話す事ができませんでした。

そしてルビィとエメラと全く話せないまま1ヶ月が経ったある日

黒澤家

ダイヤ「……………」

るびい「……………」

えめら「……………」

あの時以来私達姉妹は話さなくなってしまう食事の時も静かになっていました。

るびい「ご馳走様」

自分の部屋に行く

えめら「……………」

ダイヤ「……………」

えめらと二人になる

えめら「……………ご馳走様」

自分の部屋に行こうとする

ダイヤ「……………えめら！」

えめら「お姉ちゃん……………」

ダイヤ「話があります部屋に来てください」

えめら「……………分かった」

ダイヤの後ろに付いていく

ダイヤの部屋

ガラガラ

ダイヤ「……………座って」

えめら「……………」

ダイヤ「……………えめら何でそんなに苦しそうなんですの」

えめら「……………」

ダイヤ「答えなさい!! えめら!!」

えめら「……………」ポロポロ

えめらの額から涙が流れる

えめら「……………」お姉ちゃん私どうしたらいいの」

ダイヤ「……………」えめら」

えめら「……………」喧嘩したあの日かかるびいが無視してくるようになったの。お姉ちゃんに言われた通りに謝ったよけど「そんな思ってもない言葉聞きたくない」って言われて苦しかった。そしてその時くらいから他のメンバーとも仲良く出来なくなつて、今話せるのは月ちゃんくらいで……………」

ダイヤ「……………」

えめら「しかも、新しい監督が来たんだけど。その監督はるびいの事はずっと可愛がって、私の事は全くの無視で。失敗したら凄く責められてチームメイトにも責められて。もうどうしたらいいか分からないよ」

ダイヤ「えめら……………」

えめら「……………助けてお姉ちゃん」

ダイヤ「……………えめら、話してくれてありがとう」

えめらを抱きしめる

えめら「!!」ポロポロ

ダイヤ「……明日の放課後クラブを観に行きます。だから待っていてください」

えめら「……ありがとうお姉ちゃん」

ダイヤはえめらをさらに抱きしめる

ダイヤ「……………」

ですが次の日。私が内浦KBに行く事は愚か、えめらが内浦KBに行く事は二度とあ

りませんでした。

そして、えめらは

内浦を去りました。

エメラの過去【エメラの結末】

合宿所

ダイヤ「…少し休憩させてください」

ダイヤは少し泣きそうになっていた

花丸「……………ダイヤさん」

海未「ダイヤどう言う事ですか!?!次に日に何があつたと言うのです!!」

ツバサ「……でも当時天才と言われていたエメラの事が少しわかった気がするわ」

エレナ「ああ、そうだな」

穂乃果「でも、次に日に話せば絶対に仲直り出来たよね!!ルビイちゃんもその話は絶対に聞こえてる筈」

ことり「………そもそも、思ったんだけど。何でルビイちゃんは喧嘩した次の日から無視を始めたの?」

あんじゅ「そうよ!おかしいわよ。ルビイちゃんは素直な子よね?無視なんかする筈がない!!」

ダイヤ「………喧嘩していた日の夜、ルビイの元にクラブの子から電話があったみたいです」

一同「?!?!」

ダイヤ「私もルビィからエメラが内浦を去った後に聞いた話です」

るびいの部屋

るびい「……………えめらお姉ちゃんの事何にも考えられてなかったな」

プルプルプルプル

るびい「誰だろ？」

ピッ

るびい「もしもし?」

「るびいちゃん?」

るびい「その声はクラブの!」

「珠理です!夜遅くにかけてごめんね」

るびい「珠理ちゃん!!どうしたの?」

珠理「今日さえめらちゃんと喧嘩してたでしょ?だから大丈夫かな?とって」

るびい「うん、大丈夫だよありがとう」

珠理「あとね、言いくいだけど。えめらちゃんが最近るびいちゃんの文句を言ったよ」

るびい「!!」

珠理「動きが自分勝手、私についてこない、いざと言う時に遅い、うざいって」

るびい「……………そうなんだ」

珠理「酷いよね！妹なのにそんな事言つて私は最低だと思うよ！」

るびい「……………うん」

珠理「でも、気にしなくていいよ私が守るから」

るびい「……………珠理ちゃん」

珠理「だから気にしないでね」

るびい「ありがとう」

珠理「それとさ明日から私と朝練やらない？」

るびい「いいの!？」

珠理「もちろん、仲間でしょ！」

るびい「うん！ありがとう」

珠理「それじゃあ朝待ってるね」

――

ダイヤ「というか電話があつたみたいですよ」

絵里「……………エメラが悪口を言っていたのは嘘よね？」

ダイヤ「ええ、あり得ませんわ。月さんにも確認したら珠理さんと話しているところは見た事ないって言っていました。それにエメラはそんな事を絶対に言わない」

ツバサ「……………成る程、話が見えてきたわ」

海未「……………怪我の件からおかしいと思っていました。やはり珠理はわざと怪我をさせようとぶつかったんですね」

一同「?!?!」

ダイヤ「海未さんの言う通りでしょうね珠理さんは間違いなくわざと割り込んで怪我をさせた」

花丸「確かに繋がるかもしれないけど何のためにそんな事を!？」

ダイヤ「……………それは」

真姫「エメラを内浦KBから追い出すためよ」

一同「真姫ちゃん（真姫）!？」

真姫「ずっと黙っていたけど、考えていたの。何故エメラが居なくなる程の事が起きたんだろうってでもその二つで繋がったエメラを辞めさせたかったからよ」

ダイヤ「……………正解です」

真姫「やっぱりね、けどダイヤ」

真姫はダイヤの目の前まで行く

真姫「あんた何二人を1ヶ月も放置してるの？」

穂乃果、ことり、海未、絵里、凜「?!?!」

ツバサ「真姫落ち着きなさい！」

真姫「黙ってて」

真姫は本気で怒っている

ダイヤ「……………その事に関しては本当に反省してます」

真姫「反省した所で時間は戻らないのよ！ダイヤ!!」

海未「辞めなさい!!真姫!!」

真姫を掴む

真姫「離しなさいよ！海未！！こいつはダイヤは危ない状況と分かってないながら何も言わなかったのよ！！」

海未「ダイヤもすぐに言いたかった筈です！！当時の状況になってみないと分からないじゃないですか！！目の前でそんな事が起きたらすぐに貴方は動けるんですか！！」

真姫「！！……………」

ダイヤ「……………海未さん、真姫さんを離してあげてください。真姫さんの言う通りですから」

海未「……………」

真姫を離す

真姫「……………」

ダイヤ「……………私は臆病です。一度は話しかけようとしても怖くて壊れるのが怖くて話に行けなかった聞いてあげられなかった。姉失格です」

真姫「……………ダイヤ。強く言ってごめんなさい」

ダイヤ「謝る事ないですよ真姫さん。言っている事は正しいですから」

千歌「ダイヤさん、エメラちゃんが話してくれた次の日何があったの？」

梨子「2度クラブに行く事はなく内浦を去ったのも変ですし、教えてください」

ダイヤ「……………分かりました」

ふうとため息をつく

ダイヤ「……………エメラが去るきっかけになった話をしたいと思います」

黒澤家

ダイヤ「……………朝ですわね」

リビングに行く

えめら「お姉ちゃんおはよう!!」

ダイヤ「おはよう!えめら」

朝のえめらはいつもとより元気でした。私に話して聞いてくれたからなのかはわかりませんが

えめら「……………ちゃんと謝れるかな」

ダイヤ「……………大丈夫ですよ、私がついてるから」

えめら「お姉ちゃん……………」

ダイヤ「だから安心して学校に行って！」

えめら「うん」

笑顔で言う

ダイヤ「絶対に救ってませます」

内浦第一中学 昼休み

ダイヤ「今日、クラブの方に行ってきます」

果南「部活はどうするの？」

ダイヤ「事情を説明したら休んでいいと言われました」

鞠莉「そう………私も行こうかしら」

果南「だめだよ、ダイヤに任せよう」

鞠莉「……………そうね、寂しいけどねダイヤがいないと」

果南「……………えめらちゃんとするびいちゃんの事お願いね」

ダイヤ「うん、任せて」

放課後

ダイヤ「果南ちゃん、鞠莉ちゃん行ってきます」

果南「うん、頑張ってるね」

鞠莉「いい報告待ってるよ！」

ダイヤ「うん」

学校を出る

ダイヤ「……………待っていてくださいえめら」

走る

ダイヤ「……………」

プルプルプルプル

ダイヤ「?誰でしょう」

ピッ

ダイヤ『もしもし?』

月『ダイヤちゃん！ルビイちゃんが!!』

ダイヤ『え?』

月『ルビイちゃんが階段から落ちて大怪我を!!』

ダイヤ『……………は?』

ガチャン!!!

携帯を落とす

月『とにかく内浦の病院に来て!!』

プツ
ツーツーツー

この時頭が真っ白になりました。ルビイが階段から落ちて大怪我。本当に驚きました、おかしくなりそうでした、何でそんな事に。そして私は急いで病院に向かいました

内浦総合病院

ダイヤ「ハアハアハア」

看護師「ルビイちゃんのお姉さんですか」

ダイヤ「はい!!そうですルビィは!!」

看護師「今手術室です!他の人も来てますので早く行ってあげてください。3階です
!」

ダイヤ「分かりました!」

急いで行く

3F

ダイヤ「……………」

ふざけるな!!!

ダイヤ「!!」

怒鳴り声が聞こえて来る

ダイヤ「……………何が起きて」

角から覗く

月「いいかげんにしてください監督!!」

ダイヤ「(月さんそれにえめら、珠理さん、新しい監督!?)」

えめら「……………」

月「えめらがそんな事をする筈が無い!!」

監督「でも、珠理が証言してるぞえめらが、るびいを階段の上から突き飛ばしたと」

ダイヤ「は?」

えめら「……………」

月「いや！嘘ですよそれは、だってえめらちゃんは今学校に残るって言っていたし何よりあんなに妹想いの子がそんな事する筈が無い!!」

珠理「……………」グスングスン

監督「……………」辛いよな珠理。嘘だって言われて」

月「なっ!」

えめら「私はしていません」

監督「黙れ、無能が」

えめら、ダイヤ「!？」

監督「お前の魂胆は分かっているぞ、るびいちゃんに嫉妬していた。最近はずっとそうだった。そしてるびいちゃんがいなければ自分が一番と考えたわけだ」

えめら「違う、私は」

ダイヤ「ふざけないでください!!!」

私は飛び出しました

監督「……………黒澤ダイヤか」

ダイヤ「えめらがそんな事する訳がないでしょう!!!えめらの事は私がよく知っています!!」

珠理「グスン ダイヤさん、えめらちゃんはずっと憎んでいたんだよルビイちゃ「貴方は黙ってて!!」」

ダイヤ「好き放題言ってくれますわね。やっていない絶対に絶対に」

えめら「……………」

監督「まあいい、黒澤エメラお前がやった事だいつか天罰が下るだろう。そしてお前は二度とクラブに来るな。そして黒澤ダイヤお前もな」

えめら「……………は、はい」

ダイヤ「……………えめら」

月「……………ならば、僕も辞めさせて貰います。こんな嘘を吐く監督。そしてチームメイトが同じなんて恥ずかしいです」

監督「……………勝手にしろ」

ダイヤ「……………ひとまず帰っていただけますか？姉妹の私達だけで十分ですので」

監督「それは困るね。嘘を本人に言われたら困る、だから帰らないよ」

プチン！

この時私の中で何かが切れました

ダイヤ「……………いい加減にしろよお前」

監督を殴ろうとする

黒澤母「やめなさい!!」

黒澤母が止める

えめら「お母さん……………」

ダイヤ「……………」

殴ろうとするが留まる

黒澤母「……………とりあえず、詳しい話は後日聞きます。なので帰ってください、監督さん」

頭を下げる

監督「……………」

黒澤母「……………また目覚めた時には連絡します」

監督「……………分かりました。珠理帰るぞ」

珠理「……………はい」

二人は帰っていく

えめら「……………」ポロポロ

ダイヤ「えめら!!」

えめら「……………もう、何かなんだかわからないよ」

泣き崩れる

ダイヤ「……………必ず私が守って見せます」

月「私もえめらちゃんを守るよ」

えめら「……ありがとう」

黒澤母「……………」

そして手術室の上の手術中のランプが消える

医師「……………」

黒澤母「先生!!手術は!!」

医師「成功しました。ですが両足とも神経をやってしまってもう二度とサッカーは出来ないかもしれませぬ。そしてもう一つしばらくは目覚めないかもしれませぬ」

ダイヤ「……………そんな」

えめら「るびい……………」ポロポロ

月「……………るびいちゃん」

最悪でした。もう二度とルビイがサッカー出来ないかもと聞いたときは胸が張り裂けそうで苦しかったです。3人揃ってもう2度とサッカー出来ないのかと思うと本当に悔しくなりました

夜黒澤家

ダイヤ「……………えめら寝れそうですか？」

えめら「……………」首を振る

ダイヤ「それでは一緒に寝ましょうか」

えめらを抱きしめる

ダイヤ「大丈夫です、大丈夫ですよえめら」

数日後

ダイヤ「……………最近は本当に眠れないですわね」

コンコン

ガチャツ

えめら「…………お姉ちゃんおはよう」

ダイヤ「おはようえめら」

えめらはるびいが入院してからずっと部屋にいる。学校には事情を説明して了承を貰っている、本人は行くと言っていたけど止めました。流石に今のえめらの精神状態では危ないと思ったから

えめら「……………学校頑張つてね」

ダイヤ「うん」

黒澤母「ダイヤ!!えめら!!大変よ」

ダイヤ「お母さん？」

黒澤母「る、るびいが目覚めたわ!!」

ダイヤ、えめら「!!!」

その報告を受けて私達はお母様の車で内浦総合病院に行きました

ガラガラ

ダイヤ、えめら「るびい!!!」

るびい「あ、お姉ちゃん」

黒澤母「大丈夫？ルビイ？」

るびい「お母さん、ありがとう大丈夫だよ」

黒澤母「そう、じゃあ私は先生のところに行つて来るわね」

ガラガラ

るびい「……………学校もあるのにごめんね」

ダイヤ「るびいためなら一日くらい問題ないよ」

るびい「……………ありがとうお姉ちゃん」

えめら「……………」

ダイヤ「……………少しお手洗いに行ってきますわね」

ガラガラ

るびい「……………何にしに来たの」

えめら「……………るびいごめんね、私るびいの気持ち考えられてなかった」

頭を下げる

るびい「……………」

えめら「……………」

るびい「頭を上げてお姉ちゃん」

えめら「……………」

るびい「るびいもごめんね、お姉ちゃんの気持ち考えてなかった。本当にごめん」

えめら「るびい……………」

るびい「……………けどね、ごめん」

もうえめらお姉ちゃんの顔見たくないの」

えめら「え？」

るびい「……………さつき電話がかかって来たの珠理ちゃんから。私を階段から突き落としたのえめらお姉ちゃんなんだよね？」

えめら「え、それは」

るびい「……………私がえめらお姉ちゃんを無視していた事は本当にごめんね。るびいも

悪いけど、もうえめらお姉ちゃんとは一緒にいられない、許せないんだ」

えめら「……………そっかあ」

るびい「……………」

えめら「…………るびいと私とお姉ちゃんですツカをした日々は楽しかったなあ」

るびい「うん、それはそうだね」

えめら「……………」

るびい「でも、それはあの時でお終い。さようなら

えめらお姉ちゃん」

ドアの外

ダイヤ「……………どうして」ポロポロ

私は話を全て聞いていました。気になってしまったので、嫌な予感が当たってしまいました。

そして夜

ダイヤ「えめら？」

えめら「……………」

ダイヤ「本当に言ってますの!？」

えめら「うん、誰も私を必要としてくれないしもういいかなって」

ダイヤ「そんな！月ちゃんも私も果南ちゃんも鞠莉さんも貴方の事大好きですよ！
それになるびいも本当は」

えめら「……………もう聞きたくない、るびいの名前は」

ダイヤを睨みつける

ダイヤ「!!」

えめら「……………ここには居たくないよ」

ダイヤ「で、でも!!」

えめら「……………智和さんの教え子の人がある場所に連れて行ってってくれるって言うてるの。だからそこに行こうかなって」

ダイヤ「そんな、えめら!!」

えめら「月ちゃんと果南ちゃんと鞠莉ちゃんにはごめんなさいって言つといてお姉ちゃん」

カバンを閉める

えめら「……………それじゃあ。もうすぐ智和さんが迎えに来てくれるから行こうかな」

カバンを背負う

ダイヤ「……………えめら」

えめら「……………またいつか会えるよ絶対、サッカーは多分やめないから大会で会おうね」

ダイヤ「そんな!!待ってくださいいえめら!!」

えめら「……………さようならおね……………姉様」

こうしてえめらは黒澤家を去って行きました

どこに行ったかも分からなかったため、智和さんに連絡したけれど智和も知らないと言うので誰もえめらの居場所は分かりませんでした。

函館聖泉の選手。鹿角エメラという名前で出て来るまでは

今やるべき事

ダイヤ「……………これが話のエメラ、ルビィ、そして私の過去です」

一同「……………」

全員が黙る

ダイヤ「……………」

花丸「……………許せないズラ」

拳に力を込める

凜「花丸ちゃん……………」

曜「一ついい？」

ダイヤ「なんですか？」

曜「その時エメラちゃんを函館に連れて行ったのって」

曜は結城の方を向く

結城「ああ、俺だ」

一同「結城さんが!？」

結城「……………高校1. 2年の時智和さんにはお世話になっていてな、3年生になってからも内浦を去ってからもちよくちよく智和さんの元を訪れてたんだ。そんな時にお願ひされたんだ」

ダイヤ「エメラのことですね」

結城「ああ、智和さんから話を聞いてすぐに承諾したよ、そして俺はエメラを連れて函館に向かった。そんな時に聖良と理亜の母に出会ったんだ」

聖良「……………それから結城さんはたまに来てくれましたもんね」

結城「ああ、聖良と理亜にはある程度エメラについて話したりしたな」

聖良「はい、聞いた当時はとても驚きましたよ、まさかそんな酷い事をする奴がいる

なんて」

理亞「……………珠理」

結城「そして、エメラの希望で名前を鹿角エメラに変えたんだ」

ツバサ「でも、今は戻ってますよね？」

ダイヤ「はい、私が戻って来てくださってお願いしました」

聖良「私もお願いしました。本当の姉妹の所に戻りなさいって」

理亞「エメラは本当にいい人だから居て欲しいと思ったけどでも本当は黒澤家に戻りたいと思ってると思ったから」

ダイヤ「……………あの時は助かりました」

千歌「……………あの時聖良さんと理亞ちゃんとエメラちゃんが私達のことを知っていたのはそう言うことだったんだね」

聖良「はい、黒澤ルビイという名前を見た時にこのグループには後から黒澤ダイヤも入ってくるだろうと思っていましたから」

千歌「……………そっかあ」

海未「結城さん、その珠理という人と監督？だった人はどこに行っただんですか？」

結城「……………分からない」

海未「分からない？」

結城「ああ、あの事件での俺と智和さんは真相を調べるため。探したが急に消息をたっただ」

一同「?!?!」

結城「何故か分からない、本来なら消す必要性はないが……………」

一同「……………」

結城「気になる事もあると思うが一旦この話は置いておこう。今はアドバンチュールに勝つことが最優先だ……………」

一同「……………」

結城「…………まあ、とはいえ身に入らないのは分かる」

ふうとため息をつく

結城「……………なら、アドバンチュール戦に勝ったら俺が知ってる事を全て話そう」

一同「!?」

結城「だから、もう一度集中するんだみんな」

千歌「……………結城さん、私はそんな事がなくても全力ですよ」

拳を握る

千歌「……………ルビィ、善子ちゃん、花陽ちゃんが操られているんです。今助けるべきは彼女達ですから」

結城「……………千歌」

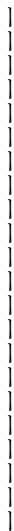
真姫「過去の事も気になるけど今はアドバンチュールよ、だって救える方を先に救わないと」

絵里「真姫の言う通りね」

結城「みんなグラウンドに来てくれ!!
今日はタクティクスを完成させよう!!」

一同「はいっ!!」

その日の夜
グラウンド



「ハアハアハア」

ボールを蹴っている者がいた

「うらあ!!」

ボールを上に向けて自身も回転してシュートを打つ

ばしゅん!!

「ハアハアハア」

着地する

「……………完成しない。なんで」

「頑張ってるんだね、お姉ちゃん」

「!!お前は!?!」

「……………こっそり見に来たけどやっぱり話したくて」

「……………ルビィ」

ルビィ「……………怖い顔しないでよ、エメラお姉ちゃん」

エメラ「……………あんたの目的は何?」

ルビィ「目的?」

エメラ「みんな、操られてるとか、弱みを握られてるとか言ってるけど。違うでしょ?」

ルビィ「……………ふーん」

エメラ「私はアンタが嫌い。だって人生をめちゃくちゃにされた、まあけどそのおかげで姉さんと理亞と函館聖泉のみんなに会えたけど」

ルビイ「……………」

エメラ「私が黒澤に戻ったのも姉様のためだから。ルビイアンタのためじゃないよ」

ルビイ「……………そう」

エメラ「……………これ以上話すことはない」

ルビイ「……………本当にごめんね、エメラお姉ちゃん」

エメラ「今更遅いよ。もう、遅いんだよ」

睨みつけながら言う

ルビィ「……………2日後、私達はここに来るよ」

エメラ「ふん、敵にくる日を言うんだ。みんなに知らせようかな」

ルビィ「……………別にいいよ、言うなら言うで構わないよ。でも勝つのはルビィ達アドバンチュールだから」

エメラ「……………そう。でも次は死んでも勝つから」

ルビィを再び睨む

ルビィ「……………エメラお姉ちゃん出るの？」

エメラ「……………みたいだね。けどルビィは海未が倒してくれる」

ルビィ「ふふ、大した自身だね」

エメラ「逆に聞くけど、あの理不尽なくらいの天才にルビイ勝てると思ってるの？」

ルビイ「……………ふふ、どうだろうね」

エメラ「成る程。あんたには何かあるみたいだね。策が」

ルビイ「楽しみにしててね」

エメラ「……………」

ルビイ「じゃあね。エメラお姉ちゃん」

去っていく

エメラ「……………」



次の日

グラウンド

真姫「……………」

エレナ「……………ツバサあれは」

ツバサ「ええ、私が真姫に教えたわ」

あんじゅ「……………ツバサが昔からやってる集中するための方法」

真姫は目を瞑り足を組んで座る

ツバサ「……………真姫みたいな色々考えて動くプレイヤーにはいいと思つてこの前の試合の後に教えたんだ」

海未「……………真姫には無考の極意がありますからね。コントロール出来ていませんがその状態になつた時の為にも大事ですよあれは」

ツバサ「ええ、そうね」

真姫「……………」

ダイヤ「ハアハアハア」

エメラ「いい感じだね、姉様。これなら近いうちに完成するよ」

ダイヤ「ええ、そうですね……」

エメラ「何か自分の中で足りてない何かがあるの？姉様」

ダイヤ「……ええ、そうですね」

エメラ「……大丈夫ですよ。姉様ならきつとできる」

ダイヤ「……ふふ、ありがとうエメラ」

笑顔で答える

エメラ「いえいえ、姉様のためだから」

ダイヤ「エメラ、私はこれからもう一つ練習があるのでエメラも練習してください」

エメラ「もう一つの技？」

ダイヤ「ええ、昨日お願いされました。即興ではありますが」

エメラ「そっかあ、頑張ってね姉様」

ダイヤ「ええ、ありがとう」

穂乃果「いい感じだよ!! 曜ちゃん」

曜「そうですか!？」

穂乃果「うんうん!!これならきつとアドバンチュールにも通用するよ!」

曜「……………」

穂乃果「曜ちゃん。自信持って!曜ちゃんはすごいキーパーだよ!」

曜「ありがとう、穂乃果ちゃん!!」

穂乃果「それにしても曜ちゃん荒ぼい技を前から考えてたんだね」

曜「うん……………サニデイジャパンに負けた時から考えてたんだ、すぐに弱点を見つけてられたしね」

穂乃果「……………この技なら!曜ちゃんは勝てるよ!」

曜「ありがとう、穂乃果ちゃん!!勝つてみせるよ。そういえば穂乃果ちゃんは毎日特

訓してるよね？やっぱり必殺技のため？」

穂乃果「うん、そうだよ監督に言われてね。今回の技は生半可じゃ成功しないから……」

曜「……………穂乃果ちゃんなら出来るよ！世界一に導いたキャプテンなら！」

穂乃果「……………うん、完成させるよ絶対」

対戦が迫る

次回 再戦アドバンチユール

再戦アドバンチュール

エメラ「……………」

朝、エメラは気を張り詰めていた。アドバンチュールが来ると言われていたからである

エメラ「今日は勝つ、絶対に」

服を着替えてグラウンドに出る

エメラ「……………」

ボールを蹴る

エメラ「……………」

気を張り詰める

エメラ「……………!!」ボールを上上げる

回転しながら飛び上がる

エメラ「ファイアー!!」

エメラ「トルネード!!!」

ゴールに向かって打つ

エメラ「……………!?!」

エメラはゴール前に何者かが近づいた事に気づく

「……………ふつ、W i s e s h i e l d !!!」

バチい
!!!!!!

エメラ「……………来るかアドバンチュール」

「いいシュートだね!!流石ルビィちゃんのお姉さん」

エメラ「……………」

ルビィ「……………また会ったねエメラお姉ちゃん」

エメラ「ルビィ……………」

花陽「ふふ、今日も叩きのめしに来たよ」

善子「くくく、さあ楽しい勝負を期待してるわ」

エメラ「……………」

結城「来たな、アドバンチュール」

エメラ「結城さん!？」

真姫「この前のリベンジさせてもらうわよ」

エメラ「みんな!？」

後ろを見ると全員が来ている

ダイヤ「……………さあ! エメラ! 行きましよう!!」

エメラ「……………うん、姉様行こう!!」

??? 「さあ、始めようか」

『さあ!!ここに再び、ラブライブジャパンVSアドバンチュール!!因縁の戦いが今始まろうとしているぞーーー!!』

結城「……………」

美麗「どう、勝てると思う?」

結城「さあな、けど勝てない事はない

美麗「……………みんな次第って事ね」

穂乃果「みんな頑張って」

ことり「……………ツバサさんどう思う?」

ツバサ「……………私的是はまだ相手の方が上よ」

ことり「……………」

ツバサ「結城さんの言う通りよ、彼女達次第ね」

凜「みんなあ!!!頑張つてにや!!!」

ラブライブジャパン 監督 結城

F W……………黒澤ダイヤ……………園田海未……………黒澤エメラ

M F……………西木野真姫……………桜内梨子……………高海千歌

M F……………絢瀬絵里○……………

D F … 優木あんじゅ … 国木田花丸 … 鹿角聖良
G K … … … … … 渡辺曜

アドバンチュール 監督 ???

F W … … … 苗代 安美 … … … 津島善子

M F … … … … … 小泉花陽

M F … … … リ・カヤ … … … 丸山知里 … … … 闇崎 玉

D F … … … 浜崎 美咲 … … … 白石 浴衣 … … … 田中 幸子

D F … … … … … 黒澤ルビイ○

G K … … … … … 山西春香

『さあ!!前回と同じくアドバンチュールボールからスタートです!!』

善子「……………」

ルビィ「……………」

花陽「……………」

ダイヤ「……………」

エメラ「……………」

真姫「……………」

『ピー!!!』

善子「花陽!!!」

花陽「……………行くよ! 必殺タクティクス!!」

手を上から風を呼び込むように仰ぎそしてそれを足にまで持っていきオーロラを生み出す

アドバンチュール『オーロラウェーブ』

結城「!？」

美麗「こ、これは」

結城「な、なぜこのタクティクスが!？」

ツバサ、ことり、穂乃果、凜「!!」

エメラ「な、何!?これ」

ダイヤ「……………め、目が眩む」

絵里「……………き、きついわねこれ」

『な、なんとおーラブライブジャパンが苦しみ始めたぞ!』

海未「……………ハアアア!!!」

海未は無理やり花陽に突撃する

花陽「……………流石は海未ちゃん、これにも動じないとはけど無理だよ」

花陽「は、あの構えをとる」

海未「アーツ!!」

花陽「そんな状態じゃ無理だよっ!!!」

周りにオリオンの星々が浮かぶ

花陽「散ってください。イクス・オリオン」

ドガンンンンンン

穂乃果、ことり「う、海未ちゃん!!!」

花陽「無駄だったね、海未ちゃん」

パスを出す

善子「さあ、決めるわよ！」

瞬間移動して飛び上がる

善子「デイザスターブレイク!!!」

闇の力を纏うって打つ

エメラ「くっ、み、見えない」

シュートがゴールに向かう

曜「……………（勝つ為には未完成だけどあの技をやるしかない!!）」

「アインザッツ!!!」

曜「!?ま、真姫ちゃん!!」

真姫「くっ、ううあああ」

真姫が吹き飛ばされる

曜「ありがとう真姫ちゃん!!」

曜は下からなぞるように水を上に打ち上げて水の魔神を作り出す

曜「マジン・ザ・ウエーブ!!」

曜「ハアアアアア!!」

水の魔神でボールを止める

曜「くう、ハアハア。ありがとう真姫ちゃん」

花陽 「な、なんで!? 真姫ちゃんがゴール前まで戻ってるの!」

海未 「ふふ、簡単な話ですよ」

花陽 「!? 海未ちゃん」

海未 「初っ端に何かしくるだろうと思ってましたので事前に言っておいたんですよ、何かされた瞬間にゴール前に戻ってと」

花陽 「と、言う事は海未ちゃんは!」

海未 「ええ、時間稼ぎですよ」

につと笑う

ルビィ 「……………やられたね。やっぱり簡単には勝てないかあ」

結城「……………何故、あのタクティクスを……………」

ツバサ「結城さん、知っているんですか？」

結城「……………ああ、あのタクティクスは禁じられたタクティクスだ」

ツバサ、ことり、穂乃果、理亞、エレナ、凜「!？」

結城「……………（何故あれを知っている）」

真姫「……………曜」

曜「真姫ちゃん？」

真姫「……………私がカバーできるのはここまでよ、次からはおそらく1対1になる。だから貴方次第よ」

曜「……………うん、分かってる」

真姫「私は信じてるわ、曜が止めてくれるのを」

そう言っつて元の位置に戻る

曜「……………自分を超えて見せる」

『さあ、いきなり激しくなっている今回の試合、ここからどうなるのか?』

絵里「さあ、反撃よ。そしてやるわよあれを」

真姫「一発打ち込んでね海未!」

海未「はい、絶対に決めます」

花陽「何か来るね」

ルビィ「……………」

ゴールキーパーのキック

曜「聖良さん！」

聖良「はい！」

真姫「こつちよ！聖良」

聖良「真姫さん!!」

真姫にパスを出す

真姫「……………行くわよ！」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「p s y c h i c A r t s !!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールはセンターラインに向かう

ダイヤ「皆さん行きますよ!!」

ルビィ「……………」

端から端へのパス

そして少し斜め端にパス

善子「一回見たタクティクスが通用すると思う？甘いわよ！」

善子はパスカットを狙う

エメラ「……………ふん」

再びパスを戻す

善子「!？」

千歌「……………エメラちゃん!!」

再びパスをエメラに戻す

善子「なっ！」

エメラ「貴方がやったのはこのパスの威力を増加させたただけだよ善子」

そう言つて次のパスを出す

花陽「で、でも！威力が大きい分蹴れない！」

ルビィ「……………蹴るのは」

そして真姫までパスを出す

真姫「……………さあ！！行くわよ絵里！！」

絵里「ええ、きなさい！！」

真姫「ハアアアアアア！」

ボールを蹴る

絵里「……………うらああああ！！！」

7回分の威力がこもったボールを蹴る

ルビィ「……………これは成功する」

絵里「くらいなさい必殺タクテイクス!!」

ラブライブジャパン「『王の一閃』」

8人分の威力が込められたボールが真っ直ぐにゴールへと飛んでいく

善子「くっ!」

とんでもない威力に思わず善子は避けてしまう

海未「さあ、道が開きましたね!」

ルビィ「……………」ニヤア

次回
破られた切り札

再戦アドバンチュール「破られた切り札」

前回のサツカー

ルビィの言う通りの日にアドバンチュールが合宿所に来る。そしてラブライブジャパン対アドバンチュールの2回戦目が始まる!!

海未「さあ、行きます!!」

海未は『王の一閃』のパスを受けてゴールにドリブルで上がっていく

真姫「決めなさい海未!!」

エメラ「海未なら決めるよね（けど、この違和感は何なの？ルビイから何か異様な感じがする）」

絵里「……………」

ルビイ「……………」フツ

ルビイは少し笑っている

海未「……………行きます!!」

ドリブルを止めてある構えをする

海未「ハア!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る

海未「ラストリゾート!!!!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

『園田海未のラストリゾートだあああ!!!』

結城「……………さあどうなる」

ツバサ「……………」

海未「ルビィ、貴方にこのシユートが止められますか!?!」

ルビィ「……………あははは」

ルビィは何故か笑う

海未「……………何がおかしいんですか?」

ルビィ「ついにこの時が来たなって」

真姫「……………!?まさか」

ルビィ「ハアアア!!!」

自分の右足に紫のオーラを纏う

ルビィ「ラアア!!」

ルビィは自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛んできた海未のラストリゾートを打ち返す。そして飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

ルビィ「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように右足で蹴る

ルビィ「うらあああ!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を左足で蹴る

ルビィ「ラストリゾートD!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

ダイヤ、エメラ「な、なっ!!」

浦の星組&鹿角姉妹「ルビィちゃん（ルビィ）があなの」

音ノ木坂&UTX「ラストリゾート!?!」

海未「……………私のラストリゾートが打ち返され」

ドガンンンンンンン!!!

真姫「う、海未!!!」

海未は吹き飛ばされる

海未「……………」

絵里「か、カバーよ!!」

絵里はボールに向かう

聖良「止める!!」

千歌、梨子「行かせない!!」

ルビィ「……………無駄だよ」

ドガンンンンンンン
!!!!

絵里、聖良、千歌、梨子「うわああああ」

曜「くっ！止める!!」

曜はステップを踏んで激流を呼び起こす

曜「はあああああ!!! AQUARIUM」

水の壁でシュートを止める

曜「く、くうううう!!!」

激流の力をも凌駕する力がぶつかる

ルビィ「……………」

ルビィは黙ったまま、自陣に戻る

曜「この威力は!!海未ちゃん以上……………うわああああ」

バシユン
!!!!!!

『ゴ、ゴール!!!園田が放ったラストリゾートになす術がないかと思いきやその威力に+してラストリゾートDで打ち返したああああ!!!』

結城「まさか、ルビィがそこまでレベルを上げるとは……………やるな○○○○」

ことり「……………海未ちゃんのラストリゾートが……………」

ツバサ「……………初めてじゃない？海未が明らかに負けるなんて」

理亞「……………勝てるの。私達」

穂乃果「……………」

穂乃果だけは黙って海未を見続ける

真姫「海未!!大丈夫!!」

海未「……………」

海未は黙っている

絵里「海未」

海未「……………ごめんない、打ち返されてしまいました」

真姫「……………気にしないで海未！まだ一点よ」

ダイヤ「そうです！まだまだ逆転できますよ」

エメラ「……………な、何故ルビイがラストリゾートを!!」

海未「……………私も驚いています。しかも威力は私のより上」

立ち上がる

海未「……………凄い努力をしたんでしょうねルビイは」

エメラ「……………」

善子「凄いねルビィ、あの海未のシユートを打ち返すなんて」

ルビィ「……………ふふ、ありがとう花陽ちゃん、善子ちゃん二人のおかげだよ」

花陽「……………でも、反動は大きいでしょ？ルビィちゃん」

ルビィ「うん」ブルル

善子「そりやあんなシユートを打てばそーなるわ」

ルビィ「でも、これで相手は簡単にシユートは打てなくなった」

善子「……………確かにね」

ルビィ「……………（さあどってくるラブライブジャパン）」

???

「ふふふ、流石だね海未ちゃん。ルビイちゃんが居なければ確実に決めていただろうね。けど今のルビイちゃんは強いよ?」

「ラストリゾートDかあ、凄い技だよね」

「もともとは貴方に覚えさせるつもりだったのにな」

「うん、そうだねでも私はごめんだよ。私には私で覚えたい技があるし」

「そつかあ、残念だね。まあけどルビイちゃんがやってくれたから満足だよ」

「さあここからどう動くのかな〜ラブライブジャパン」

「楽しみだね」

――

ボールが中央に置かれる

海未「……………」

ダイヤ「……………海未さん、どう攻めましょうか？」

海未「……………」

ダイヤ「……………（やはりダメージは大きいみたいですね。ならここは私が）次はエメラと私で攻めますなので後ろからカバーをお願いします」

海未「……………分かりました」

『さあ、嵐のようなゲーム展開の中アドバンチュールがいきなり一点をもぎ取った。ここからどうなるのか!? ラブライブジャパンのキックオフです』 ピー——

海未「……………」

ダイヤ「……………エメラ!!」

エメラ「!!」

ドリブルで上がっていく

苗代「行かせない」

エメラ「……………通るっ!」

エメラは上にボールを打ち上げて氷を作り出す

それを相手の素性に落とす

エメラ「アイスバラガン!!!」

無数の氷の水塊が相手を襲う

苗代「!？」

苗代の周りに刺さり苗代は動けなくなる

『ここでもエメラが前に出るぞ!!』

ルビィ「……………来たね。エメラお姉ちゃん」

エメラ「通るよどいて!!」

エメラはルビィを抜きにかか

ルビィ「ふふふ」

エメラ「……………」ゾクッ

エメラはルビィから何かを感じる

エメラ「姉様!!」

ダイヤ「ナイスパスです!!」

山西「さあ、待ちくたびれたよ！打ってきて!!」

ダイヤ「言われなとも!!」

ドリブルを止めてボールを上にあげるそしてダイヤも炎の力を足に貯めて回転しながら上上がる

ダイヤ「ファイアトルネード!!」

炎のシュートがゴールに向かう

山西「ふふ、そんなんじゃ決まらないよ」

手を前に十字を描く

山西「孤月十字掌!!!」

十字のエネルギーをボールに当てる

山西「ハア!!!」

ドガン!!!

ボールは吹き飛ぶ

『キーパー「これを弾いた」』

エメラ「……………これで決める!!」

ボールの飛んだ所にエメラが追いつく

山西「!?」

エメラ「ハア!!!」

片目を抑えて闇の力をためる

エメラ「シャーク・ザ・デープ!!」

サメの力を纏ってボールを蹴る

山西「へえ、流石はルビィちゃんのお姉ちゃんだね!!!」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ
!!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

山西「W i s e s h i e l d
!!!」

ボールに直撃する

山西「……………ハアアア!!」

ギユルギユル

山西「……………」

『と、止めたああ!!2度のシユートを完全にとめたぞおおおお』

山西「……………中々の威力だよ、エメラちゃん。けどうちのキャプテンよりは下かな」

エメラ「ちっ……………」

ルビィ「……………そんな技使えるようになってたんだねエメラお姉ちゃん」

エメラの方を向いて言う

エメラ「……………」

ルビィ「けど、それじゃあルビィには……………勝てないよ！」

ルビィは山西からボールを貰ってエメラを抜きにかかると

エメラ「行かせない!!」

ルビィ「……………疾風ダツシユ」

ルビィは急激にスピードを上げてエメラを抜く

エメラ「!？」

ルビィ「……………勝てないよ、エメラお姉ちゃんでは」

『黒澤、一気に抜き去る』

ダイヤ「!!行かせませんよ!」

ルビィ「……………」

パスをする

ダイヤ「!?しまっ」

花陽「さあ、行きます！」

花陽が上がる

千歌「行かせない!!」

自身に風を纏う

千歌「はあ!!!ウインドロー!!」

風になり相手からボールを奪う

花陽「!？」

千歌「やらせないよ！」

『高海!!小泉からボールを奪い窮地を救った!!』

千歌「梨子ちゃん!!」

梨子「うん!!」

前を向く

梨子「……………」

絵里「梨子!!」

梨子「えりさ」「貰うね梨子ちゃん!!」

絵里、千歌「は、早い!？」

ルビィ「……………」

スライディングでボールを奪う

『な、なんとお!! 黒澤ルビイが上がってきていた!!!』

ダイヤ「速すぎますわ!？」

エメラ「……………ルビイ」

ルビイ「……………さあ! 花陽ちゃん!!」

花陽「ありがとう、ルビイちゃん」

ドリブルをする

聖良「行かせません!!」

フィールドを滑る

聖良「すうーうっ!!」

飛び上がる

聖良「アイスグラウンド!!!」

そして足を叩きつけて氷を張り巡らせる

花陽「……………」ニッ

聖良「笑った?」

花陽「はあ!!!」

飛び上がる

聖良「逃がしませんよ！」

花陽「……………散ってください!!」

花陽が飛んだ上からオリオンの星々が輝く

花陽「イクス・オリオン」

ドガン
!!!!!!!

聖良「なっ私の氷を破壊した!？」

花陽「前の闘いから何も学ばないとも思いましたか? 聖良さん」

聖良「くっ、花陽さん……………」

花陽「……………」

キーパーの一对一となる

曜「……………花陽ちゃんかあ。いいよ来い！」

穂乃果「曜ちゃん！油断しないで！！」

花陽「行きます」

花陽はボールを上を蹴りあげる

花陽「!!!」

自分の頭上に何かを浮かばせる

花陽「星々の逆鱗!!」

数々の隕石をボールに当てる

花陽「流星群」

ピカン!! シュンシュンシュンシュンシュン!!

『超強力なシュートだああああ!!』

曜「……………」

バ
シ
ユ
ン
!!!!!!!

『ゴ、ゴーール。な、なんとDFの黒澤に続いて、MFの小泉までもがゴールを決めたぞ!!!』

曜「……………（動けなかった。私怖いのかな）」

千歌、梨子「曜ちゃん!!!」

曜「千歌ちゃん梨子ちゃん……………」

絵里「……………花陽がシュート技!？」

真姫「……………」

凜「……………あんなかよちん、かよちんじやなよ」

ことり「驚いたね。まさか花陽ちゃんがあんなシュート技を持つてるなんて……………穂乃果ちゃん？」

穂乃果「……………」

善子「あんた、そんな技使えるんだね」

花陽「うん、頑張って練習しました」

善子「…………やるわね、花陽」

ルビィ「…………このままじゃ前と同じだよ？アドバンチュール」

ダイヤ「……………」

エメラ「姉様……………」

ダイヤ「…………海未さんのラストリゾートも通じない、曜さんでは止められない。どうすれば」

エメラ「……………」

結城「……………この試合鍵を握っているのは。お前らだそダイヤ、エメラ」

次回
突破口

再戦アドバンチュール 「突破口」

???

「いきなり、2点かあ、これは今回も勝ちかもね」

「……………」

「いきなり力を解放させたのはやり過ぎだったんじゃない？」

「……………いや、それじゃアルビイちゃんがラストリゾートDを打つことは出来ないよ。あれは本気だから打てる技」

「成る程けど海未ちゃん。さつきから静かじゃない？」

「確かにね」

「ふふ、ここから楽しみなあ」

「………うん、そうだね」

スタジアム

結城「……………」

ツバサ「結城さん。私とことりと穂乃果を出した方がいいんじゃない」

結城「……………大丈夫だ」

ツバサ「海未も止められたんですよ!? どうやって」

結城「ツバサ、心配するな。まだ大丈夫だ、それに海未はまだ何かを隠してる」

ことり「隠してるって!？」

穂乃果「海未ちゃんは大丈夫だよ。ことりちゃん、ツバサさん」

結城「……………」

ダイヤ「……………」

エメラ「……………」

海未「……………」

絵里「……………海未、あの技で行きましょう」

海未「……………soldier strikeですか？」

絵里「ええ、あれなら決められる筈」

海未「……………確かにそうかもしれないですね。けどここで使うっても状況は変わらな
いと思います」

絵里「!？」

海未「……………なのでsoldier strikeはまだ封印しておくべきです」

絵里「……………海未がそう言うなら分かったわ……………けどまさか負けたままで無いわよ
ね？エースストライカー」

海未「……………当たり前でしょう」

絵里「……………なら信じるわ海未」

海未「……………ダイヤ、エメラ」

ダイヤ、エメラ「？」

海未「今回の試合の突破口を見つけるのは貴方達ですよ」

ダイヤ、エメラ「!?」

絵里「!?海未」

海未「二人とももつと出来るはずですよ？もつと力を出してみてください。そしたら今のアドバンチュールにも負けない筈です!!」

ダイヤ「海未さん……………」

エメラ「……ええ、海未の言う通り。私も姉様も負けない、あいつらに勝ってみせる」
エメラはアドバンチュールを睨みつける

ルビィ「……………そう来なくちや」ニヤツ

花陽「流石だね、みんな」

善子「ここからが本当の勝負よ」

ルビィ「そうだね」

『さあ、試合が20分が経ち点数は0対2という一方的な試合になってしまっているぞ
!!果たしてここからどうするのか!?!』

エメラ「姉様行こう!」

ダイヤ「ええ!エメラ」

ピー

ドリブルで上がっていく

善子「貰うわよ!!」

エメラ「……………海未!!」

バックパスをする

海未「行きますっ！」

がら
しゃがんだ状態で足に力を込める。今にも前に倒れそうなくらい、前のめりになりな

海未「スプリントワープ!!!」

善子を抜き去る

善子「!？」

ルビィ「……………流石ですな海未さん」

海未「当たり前でしょう？私はストライカーですよ？」

ルビィと一対一になる

ルビィ「……………さあ、来てください」

海未「……………ふっ」

ルビィ「何がおか!?!」

真姫「油断大敵よ!!ルビィ」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「p s y c h i c A r t s V 2 !!」

花陽「進化した!?!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールはゴールへと向かう

真姫「さあ、行きなさい！黒澤姉妹!!」

ダイヤ、エメラ「!!」

Psychic Artsがダイヤ、エメラの前に落ちる

ダイヤ「あれ、行きますわよ！エメラ」

エメラ「いいの？私で姉様」

ダイヤ「黒澤家の技です！」

エメラ「……………そっかあ分かった！」

ボールを上蹴り上げて二人が外側から炎を纏って飛び上がる

ルビィ「……………その技は」

ダイヤ、エメラ「ファイアトルネード!!」

そしてダイヤは右足、エメラは左足でボールを蹴る

ダイヤ、エメラ「DDD!!!」

『ファイアトルネードDDDだあああ!!!』

ルビィ「……………やらせないよ!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「ぜい!!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!」

シュートにぶつける

ルビィ「くっ……………凄い威力だね」

ファイアトルネードDDはファイアカットをもろともせずゴールへと進んでいく

ルビィ「……………任せたよ!」

山西「任せろ!」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ
!!!!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

山西「W i s e s h i e l d !!」

ボールにぶつける

山西「くうううう、負けるかあああ」

ギョルルルル

山西「……………ふう、危なかった」

『と、止めたああ、ファイアトルネードDDをファイアカットのサポートがありながらだ
が見事にキヤッチしたあああ』

ルビィ「……………流石だね」

山西「ふふ、私が止められないと思った？」

ルビィ「いや、信じてたよルビィは」

山西「……………けど、あんな技連発されて止められる気はしないからもう一点決めてきてよ！」

ルビィにボールが渡る

ルビィ「さあ、行くよ！」

ドリブルで上がる

ダイヤ、エメラ「はああああ!!!」

スライディングを仕掛ける

ルビィ「……………」

空中に飛び上がりそれを交わす

ダイヤ、エメラ「!?」

ルビィ「花陽ちゃん!!」

花陽「任せて!!」

花陽にボールが渡る

花陽「さてと、打とうとかな」

ラブライブジャパン「!?」

花陽はボールを上蹴りあげる

花陽「!!!」

自分の頭上に何かを浮かばせる

花陽「星々の逆鱗!!」

数々の隕石をボールに当てる

花陽「流星群」

ピカン!! シュンシュンシュンシュン!!

絵里「任せなさい!!」

絵里は体の分身を作る

絵里「はああああ!!!」

その分身が一体ずつ流星群のボールを蹴る

絵里「ロシアンブロック!!」

花陽「無駄です!!そんな威力では流星群は止められません」

絵里「くっ………うわあああああ」

絵里は吹き飛ばされる

「絵里!!!」

真姫「アインザッツ!!!」

ボールを蹴り返す

真姫「……………くっ、この威力はああ」

曜「……………真姫ちゃん」

真姫「考えるのよ！曜！！」

真姫は曜に向かって叫ぶ

曜「真姫ちゃん!？」

真姫「今、キーパーは貴方なのよ!!」

曜「……………うん!」

真姫「任せたわよ……………うわあああああ」

真姫は吹き飛ぶ

曜 「私に出来ることをする!!」

曜は下からなぞるように水を上に打ち上げて水の魔神を作り出す

曜 「マジン・ザ・ウエーブ!!」

ことり 「!?その技じゃ止められな「大丈夫だよ!!」穂乃果ちゃん!」

穂乃果 「大丈夫、曜ちゃんには考えがあるから」

曜 「ハアアアアア!!!」

シユートを掴む

花陽「…………やるね。けど止められないよ！」

曜「……………にひひ、それはどうかなハア!!!」

なんと右にずらそうとしている

花陽「!？」

曜「……………ふふふ、ゴールに入れなければいんだよ」

穂乃果「……………いい作戦。けど曜ちゃんが持つか」

曜「……………くううううう」

花陽「……………流星群は止められないよ！」

曜「……………ダイヤさん！エメラちゃん!!」

ダイヤ、エメラ「了解!!」

そういうと共に左からボールを蹴る

ダイヤ、エメラ「ハア!!!!」

曜「……………ハア!!!」

ドガン
!!!!

ピーーー!

ボールがラインを割る

曜「ハアハアハア」

花陽「……………わ、私のシユートを止めるなんて」

ルビィ「ふふ、そう来なくちゃ」

『な、なんと渡辺!!超強力のシユートである流星群を黒澤姉妹の力を借りて外にふきとばしたぞおおお!!』

曜「……………あ、ありがとうダイヤさん、エメラちゃん」

ダイヤ「いえいえ、よくぞあそこまで食い止めてくれました」

エメラ「……………あの発想はなかった。凄いわね曜」

曜「にひひ」

穂乃果「曜ちゃん!!凄いよ!」

曜「ありがとう!!穂乃果ちゃん!!!」

穂乃果「……………今の曜ちゃんにならできるよ新技!!」

曜「!?穂乃果ちゃん」

穂乃果「曜ちゃん、自分を信じて!!!」

曜「……………ありがとう穂乃果ちゃん」

ダイヤ「……………次必ず一点を決めてきますだかその後のゴールは任せましたよ」

エメラ「曜が止めたら勝てるよ」

そう言つて二人は位置に戻る

曜「……………うん、任せて」

ルビィ「……………花陽ちゃん、流星群は強いよ、今回はみんなが一斉に守ったから決められなかっただけで、本来なら決まってる！」

花陽「ルビィちゃん……………」

善子「そうね、相手は決めきれほどの力は今ない。もう一度取り返してもう一点決めるわよ」

花陽「うん！」

この絶望的な状況の中ライブジャパンは突破口を見つける事ができるのか!?

前半残り10分

次回 激しく可憐な舞

再戦アドバンチユール「激しく可憐な舞」

前回のサツカー

結城、海未はダイヤとエメラが突破口という中、果敢に攻めるもゴールを破る事は出来ない。だが先程は止めることができなかった花陽の『流星群』をみんなの力でなんとか止め失点を防いだ……………

善子「……………コーナー蹴るわよ」

苗代「了解」

ピー！

善子「!!」

善子はコーナギリギリを狙う……………だが

曜「やらせないよ！」

曜はそのシュートをキャッチする

善子「なっ！」

『渡辺見事にキャッチだ！』

曜「……………」

あんじゅ「曜ちゃん、私にボールを頂戴」

曜「あんじゅちゃん!？」

あんじゅ「必ず繋げてみせる」

曜「分かった!」

『さあ、以前変わらずピンチのラブライブジャパン、ここからどうするのか? ゴールキックです』

曜「あんじゅちゃん!!」

あんじゅ「うん!」

善子「……………喰らえ」

善子は飛び上がり足に炎を纏って何度も回転する

善子「スクリュードライバー!!!」

あんじゅ「……………ふ」

あんじゅは矢のようなポーズをとる

あんじゅ「shocking slash」

圧倒的なスピードで抜き去る

善子「くつ……………」

善子の技は失敗で終わる

あんじゅ「その程度?」

善子「……………」イラッ

善子はあんじゆを追いかける

あんじゆ「……………」周り見ないとダメよ？」

善子「……………」

苗代「ちよつと善子ちゃん!!」

善子「!？」

ドダン!!!

あんじゆ「……………」甘いねまだまだ」

あんじゅはドリブルで上がっていく

??? 「不味いかもね……」

絵里 「あんじゅ!!」

あんじゅ 「絵里!!」

絵里 「さあ、行きましようか」

花陽 「……………」

絵里 「……………ふっ」

花陽 「!？」

絵里の華麗なドリブル技で花陽を抜き去る

絵里「甘いわね花陽」

花陽「くっ……………」

絵里「さあ!!行きなさいダイヤ!!」

ダイヤ「はい!」

ダイヤにボールが渡る

ルビィ「ここからはルビィが行かせない」

ダイヤ「……………」

ルビィ「この前はルビィが勝った、でも今回も……………」

ボールを取りに行く

ルビィ「ルビィが勝つよ!!!」

ダイヤ「……………!!」

ルビィを躲そうとするが

ルビィ「よつと!」

ダイヤ「……………」

ルビィを抜く事ができない

ルビィ「ふふ、こんなもんじゃ無いよねお姉ちゃん?」

ダイヤ「……………当たり前でしょう」

そう言つてダイヤはある技の構えをする

エメラ「!!……………あれをやるのね姉様」

ダイヤ「……………」

ルビィ「……………」

ダイヤ「……………!!」

ルビィ「甘いよ」

ザツ!!!

ダイヤ「……………」

『姉妹対決、 とも制したのは黒澤ルビィだあ!!!』

ルビィ「隙だらけだよお姉ちゃん」

ルビィはドリブルで上がる

ダイヤ「くっ……………」

結城「……………成る程な」

海未「止めます!」

ルビィ「……………今貴方に用はないですっ!」

ルビィは海未を抜く

ルビィ「さて、次はどう「アーツ」!？」

海未「ドロー!!」

矢をルビイの周りに打つ

ルビイ「……………はあ!!」

それをギリギリで躲す

海未「なっ!!」

ルビイ「……………知里ちゃん!!」

知里「……………」

花丸「行かせないズラ!!」

花丸はどこからか餅を出す

花丸「もちもち黄粉餅!!!」

その餅を伸ばしてボールを奪い頭の上にのせる

花丸「よつと!」

知里「なにつ!」

花丸「これ以上は行かせないズラよつ!」

そう言つてボールを前に蹴る

ルビイ「……………花丸ちゃん」

海未「ナイスです花丸!!」

海未がトラップする

ダイヤ「……………」

海未「抜いて見せなさい！ダイヤ！！」

ダイヤにパスが渡る

ダイヤ「……………！！」

ドリブルでゴールに向かう

ルビィ「行かせないよ絶対にねっ！」

ルビィが再び立ち塞がる

ダイヤ「……………」

再びある技の構えをする

ルビィ「……………無駄だよっ！」

再びボールを奪う

ルビィ「……………」

ダイヤ「……………」

『またまたボールを奪った!!!!』

エメラ「……………姉様」

ルビィ「……………」

ルビイ自身がドリブルで上がる

海未「今度こそは絶対に抜かせません」

ルビイ「……………頼んだよ」

なんとルビイはバックパスをする

千歌、梨子「!?海未さん、危ない!!」

海未「!!」

浜崎 美咲、白石 浴、田中 幸子が後ろで無影走破を発動させていた

浜崎、白石、田中「無影走破!!」

海未「くっ！」

瞬間、海未は右にバク転しなんとか無影走破を回避する

海未「……………はあ、危なかった今のは」

浜崎「……………作戦成功ですよ花陽さん!!」

花陽にパスをする

花陽「……………ナイスです」

花陽はパスを受け取り前を向く

聖良、花丸「……………」

花陽「……………私は止められない!!」

ドリブルをする

聖良「……………花丸さん、任せましたよ！」

花丸「聖良さん了解ズラ!!」

聖良「すう……………うっ!!」

飛び上がり足を地面に叩きつけて氷を張り巡らせる

聖良「アイスグラウンド!!!」

氷が花陽に向かって伸びていく

花陽「無駄ですよ!!」

飛び上がる

花陽「散ってください!!」

花陽の飛んだ上からオリオンの星々が輝く

花陽「イクス・オリオン」

ドガン
!!!!

聖良「……………」

花陽「何度同じことをやっても無駄「隙ありズラ!!」!？」

花丸「……………もちもち黄粉餅!!!」

花陽からボールを奪う

花丸「油断大敵ズラ!!」

花陽「!!!」

花丸「お願いします!!」

ボールを前に蹴る

花陽「……………聖良さん」

聖良「……………今は敵ですから言いますよ、隙だらけなんですよその技」

花陽「……………」

『ラブライブジャパン凄い!!何度でも取り返すぞ!!』

ダイヤ「……………皆さん」

海未「……………ダイヤ!!!」

ダイヤにパスを出す

ダイヤ「……………」

ルビィ「……………」

ダイヤ「……………」

ルビィ「何度やっても同じだよ！」

ルビィはダイヤからボールを奪う

ダイヤ「……………」

『粘るラブライブジャパン。だが黒澤対決で負けてしまう……………』

ダイヤ「……………くっ」

エメラ「姉様!!!」

ダイヤ「!?エメラ」

エメラ「……………姉様はどこかで失敗する事を考えてませんか?」

ダイヤ「……………失敗?」

エメラ「ええ、頭のどこかでそのイメージがあるんじゃないかと思ってます」

ダイヤ「……………」

エメラ「姉様なら出来ます！あれだけ練習して、あれだけ頑張ったんですよ!!」

ダイヤ「エメラ……………」

エメラ「……………だから」

ダイヤ「エメラ？」

エメラ「……………黒澤ダイヤ!!!!」

ダイヤ「!？」

エメラ「貴方の可憐な技を。熱い技を魅せてよ！」

ダイヤ「……………エメラ」

エメラ「……………任せましたよ姉様」

笑顔で言う

ダイヤ「……………」

エメラはボールを奪いに行く

ダイヤ「……………」ギリイ

拳を握りしめる

苗代「……………」

花丸「行かせないズラ!!!」

スライディングでボールを奪う

花丸「海未さん!!ダイヤさんに!!」

海未「ええ!!」

ボールを前に向け

海未「……………ダイヤ受け取りなさい!!!これが私たちのパスです」

ダイヤ「……………!!!」

ラブライブジャパン「ダイヤさん(ダイヤ)!!!!!!」

ダイヤ「……………」

ボールをトラップする

ダイヤ「……………」

ルビィ「……………優しいねみんなけど、それが足手纏いになる!!」

ダイヤ「……………見なさい。ルビィ」

ダイヤは構えをとる

ダイヤ「これが……………」

目を瞑る

ダイヤ「黒澤ダイヤですわ」

ルビィ「……………」ギリイ

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!ぜい!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアーカット!!!」

ダイヤ「……………」

ルビィ「喰らえ!!!」

ダイヤ「……………」

シャン!!!

ダイヤ「……………」

ルビィ「!？」

エメラ「……………ついにだね姉様」

結城「ふつ、乗り越えたようだなダイヤ」

ダイヤ「……………（集中ですわ）」

ルビィ「め、目を瞑って何で避けられる!?!」

ダイヤ「……………美しく舞う」

ダイヤはファイアカットを交わしそのまま舞を続ける

ルビィ「くっつ!!!」

ルビィはスライディングを仕掛ける

ダイヤ「……………」

シャン

ルビィ「!!」

ダイヤ「……………」

舞を続ける

ルビィ「くっ……………!?!」

ルビィはダイヤから熱を感じる

ダイヤ「……………これは結城さんから教えていた技にして」

ルビィ「!!」

ダイヤ「エメラと作り上げた究極の技ですわ!!!」

ルビィを吹き飛ばし炎道を作り出す

ルビィ「あああああ!!!」

ダイヤ「……………演舞炎帝」

『な、な、なんとお!!!!黒澤ダイヤが新必殺!!!!演舞炎帝で黒澤ルビィを抜き去ったあああ』

結城「やったな!!ダイヤ」

ダイヤ「覚えて起きなさい。ルビィ」

前を向いて言う

ダイヤ「黒澤家に必要なのは勝利のみ」

ゴールに向かう

海末「さあ、決めなさいダイヤ!!!」

ダイヤ「……………」

エメラ「姉様なら出来ると思ってたよ」

ダイヤ「ありがとう、エメラ」

エメラ「ふふ、私は何もしてませんよ」

ダイヤ「……………決めますわよ、一点!!」

エメラ「ええ、勿論!!」

ボールを上に乗り上げて二人が外側から炎を纏って飛び上がる

ダイヤ、エメラ「ファイアトルネード!!」

そしてダイヤは右足、エメラは左足でボールを蹴る

ダイヤ、エメラ「DDD!!!」

『再びファイアトルネードDDDだああああ!!』

山西「……………止めるっ!!!」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ
!!!!!!」

そして片手を上へ上げて雷をその手の上に直撃させる

山西「W i s e s h i e l d !!」

ボールに直撃させる

山西「ぐっ……………」

バチバチバチ

ダイヤ、エメラ「……………」

山西「さつきより威力が上がっている!？」

ダイヤ「これがエメラと」

エメラ「姉様の!!」

ダイヤ、エメラ「力だっ!!」

山西「……………うわあああああ
!!!!!!」

バシユン
!!!!!!

ラブライブジャパン
1対2
アドバンチュール

次回、
ぶつかり合う力

再戦アドバンチュール「ぶつかり合う力」

前回のサツカー

反撃を開始するラブライブジャパンだがゴール前のダイヤ対ルビイの対決で何度も負けてしまい何度も窮地を迎える。だがその事に応えるようにダイヤは新技『演舞炎帝』を完成させ、ルビイを抜きエメラと共に一点を返すのであった

『つ、ついに!!黒澤姉妹がWise shieldを破り1点を返したあああああ!!!』

ピッピッピッ………!!!

『ここで、前半終了です!! 一方的な試合になるかと思いきやギリギリで1点を返して1対2だああああ!! 後半はどうなるか分からないぞ!!』

アドバンチュールベンチ

ルビィ「……………」

花陽「大丈夫? ルビィちゃん」

ルビィ「……………」だ、大丈夫だよ花陽ちゃん」

花陽「……………演舞炎帝」

山西「凄まじい威力だったな。そして私もシュートを止められなかったすまない」

ルビィ「いや、春香ちゃんは悪くないよ、その前の勝負に負けてしまった私が敗因だよ」

???「後半が始まったら一気に3点取れ」

アドバンチュール「!？」

???「まだあいつらは完全にゴールを破る力がある訳じゃないその前に試合を決めるんだ」

ルビィ、花陽、エメラ、山西「……………」

???
「……………あの子達は強くなってるよ、勝ちたければ手段は考えることよ」

ラブライブジャパン

エメラ「姉様!!!」

ダイヤ「……………やりましたエメラ！ありがとうございます」

結城「ふふ、よくやったなダイヤ」

ダイヤ「ありがとうございます!!」

海未「ダイヤ、エメラ」

絵里「ふふつ、凄いわね。そろそろ動くしか無いわね海未？」

海未「……………そうですね。後半見せますよ」

絵里「楽しみね」

エレナ「ダイヤが究極の技を完成させたのはいいが勝負はまだまだ続く、しかもまだ我々は負けているぞ」

ツバサ「そうね、ここからどう行くべきか」

曜「シユートは任せて止めてみせるよ!」

穂乃果「曜ちゃんなら心配ないよ!きつと止められる」

曜「ありがとう、穂乃果ちゃん」

結城「後半相手は一気に決めにくるはずだ」

ラブライブジャパン「!?!」

結城「少なくとも3点ぐらい取ろうとしてくる筈だ、もちろんルビィのラストリゾー
トDも花陽の流星群も打ってくるだろう」

曜「……………」

結城「だから必ず油断はするな、しないとは思ってるがお前らを信じているぞ」

ラブライブジャパン「はいっ！」

海未「……………」

穂乃果「ねえ、海未ちゃん」

海未「穂乃果？」

穂乃果「何で、前半のピンチの時あの技を使わなかったの？」

海未「……………」

穂乃果「海未ちゃん、ラストリゾートDで蹴り返された時頑張ったら蹴り返せたん

じゃないかなって思ってた」

海未「……………そう、見えますか」

穂乃果「……………」

海未「出せませんでした」

穂乃果「!？」

海未「練習の時に見せましたよねあの技を」

穂乃果「うん、見せてくれた」

海未「私は本気を暫くの間封印していました」

穂乃果「うん」

海未「……………世界戦の時も、この前のサニデイジャパンとの戦いの時も本気を出す事をありませんでした。とうか出せませんでした、戦意を喪失させてしまうのではないかと、辞めてしまう人が現れるのではないかと思つて」

穂乃果「知つてる」

海未「でも、今思えば私達が戦つてきた人達はそんな事で辞める人達ではないと思ひます」

穂乃果「……………」

海未「……………もう一つ、穂乃果には言つておかないと行けないことがあります」

『さあ!!!!後半を始めようかあ!!!!』

美麗「ふふ」

『さあ、波乱と驚きの戦いがついに後半戦を迎える!!ここからどうなるのか?』

お互いポジションは変更なし

苗代「善子ちゃん、一気に攻めよ!？」

善子「……………」

苗代「……………(様子が変)」

ダイヤ「……………」

エメラ「姉様一気に行きましょう!!」

ダイヤ「勿論ですわ!」

『まもなく後半戦のキックオフです』

ピ————!

エメラ「姉様！」

ダイヤ「……………」

苗代「行かせないよ」

ダイヤ「通ります」

シャンク

苗代「!？」

ダイヤは舞を舞う

ルビィ「……………くっ」

善子「どきなさい苗代!!」

苗代「!?!」

善子は飛び上がり足に炎を纏って何度も回転する

善子「スクリュードライバー!!!!」

ダイヤ「……………甘いですわ」

シャン〜!

ダイヤ「は軽々と交わす」

善子「!?!」

ダイヤ「私の舞そして」

舞を止めて自身に熱い炎を纏う

ダイヤ「これからの道は誰も止められない」

そして急スピードで走り抜ける

ダイヤ「演舞炎帝!!!」

ボオ
!!!!

善子「あ、熱い!!」

苗代「!?」

『ふ、再び演舞炎帝が炸裂したあ!!!』

ダイヤ「ふう」

結城「あいつ完全に自分のものにしたな。やるなダイヤ」

ダイヤ「行きます!!」

ドリブルを止めてボールを上にあげる

ダイヤ「喰らいなさい!」

ダイヤは炎の力を足に貯めて回転しながら上_に上_がる

花陽「!!その位置から!?!」

ダイヤ「ファイアトルネード!!」

炎のボールがゴールへと向かう

ルビィ「血迷ったの？お姉ちゃ「シユートな訳ないでしょ？」！！」

『な、なんと黒澤エメラ前に走っていた!?!』

エメラ「甘いわねルビィ」

エメラはファイアトルネードを受け止める

エメラ「さあ、行くよ!!」

片目を抑えて闇の力をためる

エメラ「シャーク・ザ・デープV3!!」

サメの力を纏ってボールを蹴る

ルビィ「!?いきなりV3!」

山西「……………とめるっ!」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ
!!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

山西「W i s e s h i e l d !!」

ボールに直撃させる

山西「……………賢者の力を舐めるなあ!!!」

ギョルルルルル

『と、止めたああ!!』

山西「これ以上は本当にやらせない」

???「ふふ、やるね春香ちゃん、もう一つのチームのキーパーでもやっていけそうなのになあ。けどそれは無理かあ……………最強がいるから」

ルビィ「ナイスだよ、春香ちゃん!!」

山西「ありがとうルビィちゃん」

ルビィ「……………どんどん強くなってる」

山西「うん、じゃないと急にV3になんかならないよね。最悪Z、さらには∞まで到達するかも……………」

ルビィ「分かってる、絶対に点を取ってくるよ春香ちゃん！」

山西「うん！お願いね」

ルビィ「……………さてと」

前を向く

ダイヤ、エメラ「行かせない」

ルビィ「……………」

ルビィは急激にスピードを上げてエメラとダイヤを抜く

ダイヤ、エメラ「っ！早っ!!」

ルビィ「……………」

海未「……………」

ルビィ「疾風……………」

海未「アーツ……………」

ルビィ「ダツシュ！」

海未「ドロー！」

がしかし、ルビィの速さが矢を上回る

海未「……………」

ルビィ「さあ!!止めてみなよ！」

絵里「ラストリゾードD警戒よ！」

聖良、あんじゅ、花丸「了解！（ズラツ）」

ルビィ「……………」ニツ

絵里「何を笑って」

ルビィ「……………決めてね！花陽ちゃん」

絵里「!?しまっ」

聖良、あんじゅ、花丸「!!」

DF3人の頭上を越えパスが通る

花陽「任せて、ルビィちゃん」

『キーパーと一對一だ!!』

曜「……………来る」

花陽はボールを上蹴りあげる

花陽「!!!」

自分の頭上に何かを浮かばせる

花陽「星々の逆鱗!!」

数々の隕石をボールに当てる

花陽「流星群」

曜「……………」

穂乃果「曜ちゃん!!!」

曜「!?!」

穂乃果「自分を、そしてみんなを……………信じて!!!」

貴方がとめるのよ、曜

次は曜が止める!!

曜「……………うん!止めるよ!」

曜はステップを踏んで激流を呼び起こす

曜「はあああああ!!! AQUARIUM」

花陽 「貴方のそれでは止められませんよ？」

曜 「えへへ、まあ見ててよ！」

なんと曜はAQUARIUMの激流の中に入り込む

花陽 「!?」

フィールドプレイヤー 「!?」

結城 「!!思い切った事を考えたな」

穂乃果 「……………」

曜 「ハアアアアアア!!!」

どンドン激流が小さくなっていく

曜「ハア
!!!!!!」

シュピン
!!!!

水の力を両手に集める

花陽「!? AQUARIUMの力を両手に吸収した!?」

曜「……………喰らえ!」

両手を広げて水の塊を流星群のボールをぶつける

曜「水の波動!!!」

エネルギーとエネルギーがぶつかり合う

曜「うらあああああああ
!!!!」

そして地面に叩きつける

バシャーーーーーー!!!

曜「……………止めたよ!」

『と、止めたあああ。ついに渡辺が自分の力で流星群を止めたあああ!!新技水の波動が流星群を粉碎した!!!!』

花陽「そ、そんな私の流星群が!」

曜「ヨソロー!!!!!!」

ラブライブジャパンの成長は止まらない

次回、本気、怒りのR（リーズン）

再戦アドバンチユール「本気、怒りのR（リーズン）」

前回のサッカー

後半戦に突入し勢いに乗ってきたラブライブジャパン。花陽にフリーでシュートを打たれピンチになる、がしかし曜が新必殺を出し見事にキヤッチした

???

「ねえ？」

「何？」

「何でそんなに圧倒的なの？」

「え？」

相手の顔を見て困惑する

「……………強すぎだよ、海外にでも行けば？」

「な、何でそんなこと言うの!？」

「……………それは君が強すぎて面白くないからだよ」

「!!」

穂乃果「曜ちゃん!! ナイスだよっ!」

曜「えへへ、ありがとう穂乃果ちゃん、穂乃果ちゃんが色々言ってくれたり手伝って

くれてなかったら完成してなかったよ！」

穂乃果「……………うん」

花丸「凄いズラ！曜ちゃん」

曜「ありがとうね花丸ちゃん」

花丸「流星群はとんでもない威力だったズラあれを止めるなんて」

曜「うん、そうだね」

花丸「今の曜ちゃんならラストリゾートも止められるよ！」

曜「……………おそらく通常のラストリゾートならね」

花丸「……………ルビィちゃん」

曜「けど、今相手は疑心暗鬼になってる筈、ラストリゾートDも止められるかもってそのうちに同点にしてもらうよ！みんなに」

花丸「DFのまるも止めるの協力するズラ」

曜「ありがとう花丸ちゃん！」

花丸「ズラっ！」

花陽「私の流星群が……………」

ルビィ「……………予想外だね、まさか止められるなんて。ラブライブジャパン成長速度が早すぎる」

花陽「大会の時のチームではすでない、別物だよ」

ルビィ「……………私が決めるしかないかあ」

花陽「……………」

ルビィ「現状、可能があるのは私のラストリゾートD、そして善子ちゃんのシユート
なんだけど、さつきから黙ってるからなんとも言えないなあ……………」

花陽「……………」

ルビィ「とりあえず、この一回止めるよ」

花陽「うん！」

曜「さあ、上がって!!」

曜は聖良にパスをする

聖良「千歌さん!!!」

千歌「はいっ!」

花陽「行かせません!!」

千歌「……………!!そよ風ステップ!」

風の通り道の如く花陽の横を通り抜ける

花陽「!!」

千歌「梨子ちゃん!!」

梨子「ナイスパス千歌ちゃん！」

『ラブライブジャパン一気にながっていく』

浜崎「……………行かせない」

出ず
そう言うと浜崎、白石、田中は3人同じ場所に固まり、そして急に乱舞のように動き出す

梨子「……………」

浜崎、白石、田中「無影乱舞!!」

梨子「!？」

梨子からボールを奪う

ルビィ「貸して！ルビィに」

浜崎「ルビィさ「貰うわね〜♪」!？」

ルビィ「……………絵里さん」

絵里「ふふ、遅いよそんなんじやパスをさせないよ？」

ルビィ「喰らえ！」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!ぜい!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!!」

絵里「人が喋つとる時に打ってくるなんて本当にせっかちなね」

すると後ろにパスして自身は上に飛び上がりパスを交わす

ルビィ「!?」

梨子「ありがとうございます、絵里さん」

ルビィ「……………もう一回取って!」

浜崎「了解!!」

そう言うのと浜崎、白石、田中は3人同じ場所に固まり、そして急に乱舞のように動き

出す

浜崎、白石、田中「無影乱舞!!」

梨子「……………」

だが、梨子とボールが急遽消える

浜崎、白石、田中「!？」

梨子「今見たばかりの技が通用すると思う?……………それにさつきは観るためだけのよ技を」

ルビイの後ろから声が聞こえてくる

ルビイ「!？」

慌てて後ろを向く

梨子「……………バニシングメロディ」

ルビィ「!?!」

すると耳に音の旋律が聞こえる

浜崎「くっ、音が」

梨子「……………止められないよこの技は」

ルビィ「うるさい!!!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!!ぜい!!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!!」

梨子「……………まだコントロールが難しいから完全に完成してないわね、いつか完成させるわ!」

そう言つて上にパスを出す

ルビィ「!!」

絵里「やるわね梨子……………さてキーパー……………私の刃を喰らいなさい!」

すると絵里は風を集めて羽を生やす、そして一旦、地面を降り、高く飛び上がりオーバーヘッド

絵里「天空の刃!!!」

山西「……………」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ
!!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

山西「W i s e s h i e l d
!!!」

ボールに当てる

山西「はあ!!!」

ギューーーーーー

山西「……………」

『山西、絢瀬のシュートを止めたああ!!やはり賢者の力は凄まじい!!!』

山西「……………ルビイちゃん落ち着いて」

ルビイ「……………ルビイ、そんなにムキになつてた？」

山西「……………はい、少しなので冷静にプレーしたら勝てるんですから」

ルビイ「……………ありがとう春香ちゃん」

山西「さあ、力を見せてくださいルビイちゃん！」

ルビイ「うん！」

ルビィにパスが回る

ルビィ「行くよ、勝つ。ラブライブジャパンに」

前を向く

花陽「……………分かったよ、ルビィちゃん」

ザツ

ルビィがドリブルで上がる

絵里「？ルビィ以外動かない？」

千歌「!?み、みんな気をつけてタクティクスがく「もう遅い!!!!!!」!!」

花陽「行きます！必殺技タクティクス!!」

手を上から風を呼び込むように仰ぎそしてそれを足にまで持っていきオーロラを生み出す

アドバンチュール『オーロラウエーブ』

結城「!?またか」

ダイヤ、エメラ「くっ、見えない」

千歌「……………っ!」

徐々に霧が晴れていく

ダイヤ「ぼ、ボールはどこ!？」

聖良「……………!？」

ルビィ「さあ、一点貫うよ!!」

絵里「しまっ!」

ルビィ「ハアアア!!!」

自分の右足に紫のオーラを纏う

ルビィ「ラアア!!」

ルビィは自分の上にエネルギーの塊を作りだす。そして飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

ルビィ「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように右足で蹴る

ルビィ「うらあああ!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を左足で蹴る

ルビィ「ラストリゾートD!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

聖良「まだ、目が……」

あんじゅ「ま、まずいわね」

曜「……………ゴクッ、止めてみせる!!」

冷や汗を流す

花丸「マルが威力を落とすズラ!!」

曜「花丸ちゃん!？」

花丸「もちもち黄粉餅!!!」

黄粉餅をぶつける

花丸「!?な、なんて威力……………ズラア
!!!!!!」

曜「花丸ちゃん!!……………ゴールには絶対にいれささないよ!!!」

曜はステップを踏み激流を生み出した、その中に入って激流の力を両手に込める

曜「ハアアアア水の波動!!!」

両手を広げてボールにぶつける

曜「ぐぎぎぎぎぎ………」

花丸「……………頑張るズラ曜ちゃん!!!」

曜「……………オラあああああ
!!!!!!」

曜はなんと両手を上に上げラストリゾートDを受け流す形をとる

曜「ぐぎぎぎぎぎ、負けて、負けてたまるかあ
!!!!!!」

そして、ギリギリの所でなんとかラストリゾートDを上に打ち上げる

曜「つ、ハアハアハアハアハア」

ルビィ「威力を下げられたとは言え受け流された!?!」

曜「ハアハアハアハアハアハア」

千歌、梨子「曜ちゃん!!!」

穂乃果「ボールまだ生きてる!!それにゴールがガラ空きだよ!」

ラブライブジャパン「!?」

ルビィ「……………3点目もら……………」!?」

善子「……………」

ルビィ「なつ、善子ちゃん!」

善子「……………うらあ
!!!!!!」

本気でボールを蹴る

曜「……………くっ」

ゴン!!

曜「!?かはっ！」

ガンっ!!

フィールド「!?」

なんと善子の放ったシュートは曜のほおに勢いよく当たりそのままゴールポストまで吹き飛ばしたのである

曜「……………」

ドサツ!!!

『……………ゴ、ゴールこぼれ球を津島は押し込んだ!!!……………がしかし渡辺選手は大丈夫
でしょうか?』

千歌、梨子「曜ちゃん!!!」

走ってくる

??? 「くつくつくつ、それでいい」

曜「……………」

結城「ことり、ツバサ!! 曜を医務室に運ぶ準備を!!」

ことり、ツバサ「はいっ!!」

千歌「曜ちゃん、目を覚まして
!!!!!!!」

梨子「な、なんでこんな目に曜ちゃんが」

二人とも少し泣きそうになっている

花丸「曜ちゃん!!」

ダイヤ「曜さん!!」

全員が曜の元を集まる

善子「……………」

ルビィ「善子ちゃん!!!何故あんな真似を!!」

善子「……………」

ルビィ「何か言ってよ!!」

エメラ「善子なんのつもり？」

ルビィ「エメラお姉ちゃん……………」

エメラ「答えろ!!善子!!!」

善子「……………」

???「そんなに怒るな、今のはたまたまだ、狙ったわけじゃない」

エメラ「たまたま?よくそんなふざけたこと言えるね!」

善子「……………」

???「試合ではある事でしょ?仕方ない」

エメラ「……………お前、いい加減にしろよ！」

エメラが突つかかろうとする

ドンっ！

結城「エメラ、落ち着け」

エメラ「結城さん!!」

結城「……………落ち着くんだ、今は試合中だ」

エメラ「……………で、でも」

ツバサ「みんな、少し開けてくれ」

タンカを持ったツバサとことりが現れる

曜「……………」

結城「身体の傷はみてみないと分からないが、ひとまず気を失っているだけだ、みんな一旦落ち着いてくれ」

ツバサとことりが曜を運ぶ

「……………」

???「……………」

ベンチに戻る

結城「……………穂乃果キーパー頼む」

穂乃果「分かりました!!」

結城「……………奴らを問い詰めるのは終わった後だぞ、みんな今は勝つ事が大事だ!!」

一同「……………はい!」

海未「……………」

穂乃果「……………海未ちゃん」

エメラ「……………くそっ!!あいつ」

ダイヤ「落ち着きなさい、エメラ」

エメラ「姉様は腹たたな!」

ダイヤ「……………腹が立っているのは私も同じです」

ダイヤの目は怒っていた

ルビィ「……………何故、善子ちゃん」

山西「……………ルビィちゃん、考えるのは後だ、勝ってから問い詰めればいい」

ルビィ「そうだよね」

『さあ、ハプニングがありましたでしたが試合を再開します！ライブライブジヤパンは渡辺に代わってキャプテン高坂が入りました』

穂乃果「……………」

海未「……………穂乃果」

穂乃果「!?海未ちゃん」

海未「始まったらパスをください」

穂乃果「……………」

海未「……………今から点をとる」

穂乃果「!?」

海未「……………本当に変な気分です。やっと出せそうなんですよ本気を」

穂乃果「え……………」

海未「……………怒りなんですかね、曜がやられた事による。なんか今なら動きそうです身体が本気で」

穂乃果「……………そっかあ」

海未「……………だからボール下さいね」

笑顔で言う

穂乃果「……………」

『ラブライブジャパンのゴールキックからスタートです!!』

穂乃果「海未ちゃん!!!」

海未にボールが渡る

善子「……………」

ボールを取りに来る

海未「……………」

なんと海未は後ろの髪をくくり始める

穂乃果「!？」

フィールドプレイヤー「!？」

結城「……………海未、ついに解放するのか、本気を」

海未「……………」

善子「……………」

海未「……………やっと出せる本当の力を」

善子「……………」

ピシユン!!!

海未「……………」

「?!?!」

海未「スプリントワープ」

??? 「何?（見えなかったぞ今の）」

海未は超高速でドリブルで上がっていく

海未「……………」

苗代「調子にのるなあ!!!」

海未「調子に乗ってるのはお前らだ」

海未はあつという間に抜き去る

絵里「くっ、早すぎる」

エメラ「こ、これが海未の本当の本気」

花陽「くっ海未ちゃん」

海未「……………遅い」

シュン!!

海未「……………」

浜崎、白石、田中「と、止める!!」

そう言うのと浜崎、白石、田中は3人同じ場所に固まり、そして急に乱舞のように動き出す

浜崎、白石、田中「無影乱舞!!」

海未「……………邪魔」

海未は全てを交わし、ルビィとゴールの前に立つ

『あ、あつという間にゴール前だ……………』

結城「……………つ、恐ろしいな海未の本気。思わずブルツちまったぞ」

海未「……………ルビィ、貴方に止められるかな？」

ルビィ「……………（な、なんで威圧感。怖い……………けど）退かないよ！」

海未「……………そうならば、身を持って味わえ」

すると海未はある技の構えをする

海未「ハア!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!!」

ルビィ「……………!?!」

海未「……………私の本気、そして怒りを思い知れ」

ボールを上上げる

海未「うらああああ!!!」

さらにあげたボールを両足で蹴りつける

海未「ラストリゾート!!!」

矢を手から出しボールに当てるそして

海未「R（リーズン）!!!!」

矢と共にボーレシュート!!!

鋭く思い一撃がゴールに向かう

全員「?!?!」

穂乃果「……………やったね、海未ちゃん!!!」

海未「……………散れアドバンチュール」

バシユン
!!!!!!!!!!!!

ルビィ「ラストリゾートで打ち返し」

モーションに入ろうとするが

ルビィ「……………なっ、身体が動かない」

山西「……………!!」

バ
ゴ
ン
!!!!!!!

海未「……………これが私の本気です」

髪の毛を元に戻す

最強のストライカーの本気

次回、闇、そして光の覚醒

再戦アドバンチュール「闇、そして光の覚醒」

???

「な、なに今の!？」

「……………まさかそんな力を隠していたなんてね」

「……………ラストリゾートR（リーズン）」

「……………多分止められないよねあれ」

「!?」

「最強の技だよあの技は、本当に止められる人居ないと思う」

「じゃあ、ルビィちゃんはもう」

「うん、おそらく打てないと思うラストリゾートDは」

「……………」

「点数の差はあるけど。でもこの一点は大きい、すぐに2点なんか取られるよこのままじゃ」

「……………確かにね」

「それにラブライブジャパンの他の選手も常に進化し続けている、ここから一方的になるかもね」

「……………」

—————

『ゴール!!!園田海未が新必殺、ラストリゾートR（リーズン）を打ち見事にゴールを決めたぞ!!!』

海未「……………」

海未は自陣まで戻る

エメラ「……………（凄い、今までののはなんだったんだ？……………これが海未の本気）」

海未「……………ふう」

ダイヤ「海未さん、凄いですわね!!」

海未「ダイヤ！ありがとうございます」

ダイヤ「ドリブルのスピードもシュートも何もかも別次元でしたね」

海未「……………」

ダイヤ「ラストリゾートR（リーズン）はいつ完成してたのですか？」

海未「……………ラストリゾートR（リーズン）が完成したのは最近です、並の技じゃないので作り上げるのに8年かかりました」

ダイヤ「8年!？」

海未「……………その話はまた試合が終わった後にしますね」

穂乃果「海未ちゃん!!!」

海未「穂乃果、観てましたか？」

穂乃果「うん！ちゃんと観てたよ！やったね海未ちゃん！」

海未「はい、ありがとうございます」

穂乃果と拳を合わせる

エメラ「穂乃果は知っていたの？」

穂乃果「うん、練習相手になってたからね。みんなには秘密って言ってたから」

絵里「……………海未、その技がありながらなぜ撃ち返された時その技でさらに打ち返しなかったの？」

海未「……………それも試合後でいいですか？絵里。皆さんに話さないといけないことがありますから」

絵里「……………分かったわ」

ベンチ

結城 「まさか、完成したとはな驚きだな」

エレナ 「知っているんですか？」

結城 「……………ああ」

エレナ 「……………」

結城 「……………それに久しぶりに震えたぞ。とんでもないやつだ海未」

相手ベンチ

??? 「なんだ、あの技はあの威力は人間があんな威力を出せるのか!？」

拳を握りしめる

??? 「……………それに」

ある選手をみる

??? 「暴走しなければいいが……………なんか手遅れな気もする。まあ大丈夫か分かるだろうそれくらいは」

山西「……………」

膝をつく

山西「ハアハアハア」

山西は汗だらけになっている

花陽「春香ちゃん！ルビイちゃん!!」

ルビイ「……………な、なんてスピード、そしてパワー。……………私達を遥かに凌駕していた」

春香「……………ルビイちゃんがラストリゾートDで跳ね返そうとも考えれなかった……………」

花陽「初めて観たよ、あんな海未ちゃん……………」

ルビィ「きっかけは間違いなく曜ちゃんの怪我そして善子のプレーによるものだよ
ね」

春香「ああ……………そうだろうな」

ルビィ「……………私は下手にラストリゾートDを打てなくなつた」

花陽「うん、そうだよね」

ルビィ「……………それに今のキーパーは」

花陽「太陽の奇跡の守護神……………」

穂乃果「♪く♪」

春香「……………後半残り20分」

花陽「守りに入れば負ける……………だから隙を見て責めないかね」

ルビィ「うん、頑張ろう」

『さあ、波乱に次ぐ波乱!!驚きだらけのこの試合も残すところあと20分だそお!!!』

結城「……………」

美麗「結城!!」

結城「美麗!! 曜はどうだ!？」

美麗「真姫ちゃんのお母さんに診てもらってるんだけど、骨折とかの怪我は多分ないと思う、けど意識はまだ戻りそうにない……」

結城「……………そうか、そっちに居てくれ、試合が終わったらそっちに行く」

美麗「了解!!」

美麗は戻っていく

エレナ「……………なんとか大丈夫そうですね」

結城「ああ、曜も心配だが、この試合も大事だ」

エレナ「……………2対3……………」

結城「それもあるが……もうひとつある」

凜「もう一つ？」

結城「ああ……」

エレナ「……」

全員が位置に戻る

海未「……さあ、点差は一点、攻めますよ！」

ダイヤ、エメラ「はいっ！」

絵里「……………真姫」

真姫「なにエリー？」

絵里「……………善子の事どう思う？」

真姫「……………墮天使とか言うところはあるけれどあんな事をする人じゃないと私は思ってるわよ」

絵里「私も同じ意見よ」

真姫「……………ここからの善子には要注意が必要ね」

絵里「そうね」

梨子「善子ちゃん」

『さあ、アドバンチュールボールからキックオフです！』ピー!!

善子「……………」

苗代「……………（なぜ何も言わないの？）花陽ちゃん!!」

花陽「さあ行くよ！」

花陽がドリブルで上がる

海未「行かせません」

花陽「……………成る程ね」

何かを理解する、そして

海未「止まった? ……隙ありです!」

海未は自分の手から矢を取り出し、相手に投げる

海未「アーツドロー!」

花陽の周りをやで囲み奪い取ろうとする

花陽「……………」ニヤツ

がしかし

海未「!?!」

花陽「イクス・オリオン」

爆発が起きて、煙が出る

海未「何っ……………」

海未はスライディングを中断する

そして徐々に煙が晴れる

海未「!?花陽はどこですか!?!」

千歌「!?花陽ちゃん」

花陽「ふふ、イクス・オリオン」

ドカン
!!!!

海未「なっ!!」

既に海未は抜かれていて千歌も抜き去っていた

花陽「さあ、苗代さん!!」

苗代「行くよ!!」

穂乃果「こいつ!」

「ボールを上には蹴り上げ一回転そして自身も飛び上がりもう一度ボールを蹴り上げもう一度一回転して目にも止まらぬ速さでボールを蹴る

苗代「百烈ショット!!!」

無数のボールがゴールに向かう

穂乃果「止めるよ!」

すると穂乃果は手を上に掲げる

穂乃果「ゴットハンド!!!」

シユートが穂乃果に手に収まる

バシユウ!!

苗代「!?」

穂乃果「いいシユートだね!」

『高坂がいともたやすくシユートを止めたああ!!!』

ルビィ「……………穂乃果さん」

穂乃果「さあ、行くよ!!海未ちゃん!!」

海未に投げる

海未「ナイスです穂乃果!!」

花陽「行かせませんよ!!」

海未「……………はぁ!!!」

ボールから火花を散らして相手を吹き飛ばす

海未「スパークエッジドリブル」

花陽「!?!」

海未「甘いですよ！」

『スパークエツジドリブルだあああ!!園田海未、何個必殺技を持っているのか!?恐るべし』

海未「……………喰らえ」

シュートの体制に入る

海未「……………でりや!!」

凄いスピードでボールに鋭い一閃を入れる

海未「菊一文字!!!」

菊の花から出た鋭いボールがゴールに向かう

山西「入れさせないよ！」

山西は両手を合わせて力を溜める

山西「あああああ
!!!!」

そして片手を上に上げて雷をその手の上に直撃させる

山西「W i s e s h i e l d !!」

ボールに直撃させる

山西「な、威力が上がってる!？」

海未「……………」ニヤツ

山西「……………」でも負けないよっ!!!」

ギョルルルルルル!!!

山西「ハアアアア!!」

ギョルルル

山西「ハアハアハア」

『と、止めた!!!』

海未「………やりますね、前の菊一文字より遥かに威力が上がっている筈ですが」

山西「ふふ、どうも」

海未「!？」

海未は何か気づく

山西「!?」

善子「……………春香、ボールを渡して」

山西「やっと口を開いたね善子ちゃん」

善子「一点取ってくる、だからボールを渡して」

山西「……………分かった」

山西は善子にボールを渡す

???「……………」

善子「さてと、そろそろいいかな」

山西「？」

善子「今から見せてやるよ、墮天使の力を」

全員「?!？」

???「……………」

結城「墮天使の力だと？」

善子「ハア
!!!!!!」

善子は力をためる

善子「はあ
!!!!!!」

山西「!?な、何その姿」

善子「……………」ゴゴゴ

善子は黒いオーラを纏いさらに少し髪の毛も逆立っている

結城「……………」

海未「そんな、力を隠してたんですね善子。さあかかってきてください」

善子「……………」どけ」ゴゴゴ

海未「どけと言われてどく奴がいますか？」

すると海未は手から矢を取り出して投げようとする

善子「……………」無駄よヨハネにそんなもの通用しないから!!」ゴゴゴ

すると善子は手を合わせる

すると辺りに紫のオーラが撒かれる

海未「!?なにが」

善子「オールデリート」ゴゴゴ

ダイヤ、エメラ「!?海未(さん)は!？」

善子「……………」ゴゴゴ

指パッチすると海未が現れる

海未「うぐっ！」

『な、なにが起こったんだ!?!』

善子「……………」ゴゴゴ

善子はドリブルで上がっていく

ダイヤ、エメラ「はあ!!!」

二人がスライディングを仕掛ける

善子「……………無駄よ」ゴゴゴ

交わす

善子「ヨハネは誰にも止められない」

真姫「やらせないっ!これ以上は」

ボールをける

善子「……………」

真姫「くっ……………なんて力」

善子「……………お前じゃ勝てないヨハネには」

真姫「なんですすつて？」

善子「お前如きでは何も守れない!!」

真姫「!!」

善子「身の程を思い知るんだ人間！」

善子は真姫を吹き飛ばす

真姫「……………」

ドサツ！

絵里「!?ま、真姫!!!」

真姫「」

善子「……………いい力だ。これぞヨハネ!!!」

結城「……………」

千歌「ウインド!!」

千歌が立ち塞がる

善子「……………オールデリート」

千歌「!？」

千歌は消える

善子「……………」ゴゴゴ

パチン

千歌「ぐわ!!」

善子「止められないと分かっているながら無駄な抵抗をやめぬとは。本当に面白い」ゴゴゴ

花丸「マルが善子ちゃんを止めるズラ!!」

花丸が止めに行く

善子「……………我はヨハネだっ!」ゴゴゴ

花丸「!?」

バゴン!!!

花丸「くっ……………善子ちゃん」

聖良「これ以上はや」「シユートを打たせて!!」!?穂乃果さん

穂乃果「私が止める!!」

善子「……………」

絵里「くっつ!!あの感じ普通じゃない、止められるの穂乃果!?!」

真姫「」

善子「……………行くぞ、喰らえ我がシユートを」

上に飛びがる

穂乃果「!?!な、月?」

善子「くくく、こい吸血鬼」

辺りに吸血鬼が飛ぶ

善子「……………喰らえ」

ボールに闇の力と吸血鬼の力を込めてシュートする

善子「ヴァンパイアロード!!!」

打つと共に吸血鬼も一緒に飛んでくる

ギ
イ
イ
イ
!!!

絵
里
「穂
乃
果
!!!!」

真
姫
「……………!!!」

ピ
シ
ユ
ン
!!!!!!!

一同「?!?!?!」

絵里「ま、真姫!？」

真姫「……………」

目を瞑ったまま立ち上がる

結城「……………ここでの覚醒か」

真姫「……………」

シユン
!!!!!!

真姫はゴール前まで一瞬で戻る

真姫「……………ハア
!!!!!!」

ドガン
!!!!!!

??? 「ま、まさかここで覚醒するとはな」

穂乃果 「あ、ありがとう真姫ちゃん」

真姫 「……………」

真姫はヴァンパイアロードを地面に叩きつけていた

善子 「……………へええ、それが」

善子は真姫を睨みつけて言う

善子「無考の極意」

真姫「……………」

闇、そして光の同時覚醒

次回闘いの行方

再戦アドバンチュール 「闘いの行方」

???

「あ、あれは!？」

「……………無考の極意」

「あの時の……………これで3回目」

「……………今回の真姫ちゃんは「味違うと思うよ?」

「……………何故、そう言い切れるの？」

「!?」

「……………急に入ってきてるやん」

「アンタたちが夢中になってるからでしょうが」

「……………」

「んで、何でそう言い切れるの？」

「……………前回の時、無考の極意でも、勝てなかった。と言う経験がある」

「!?」

「……………へえ」

「とにかく、見ものだね、今回の真姫ちゃんは」



真姫「……………」

善子「出たわね、無考の極意……………」

穂乃果「近くで見たら分かりやすい、真姫ちゃんの目が銀色に……………」

真姫「……………」

絵里「真姫!!」

海未「!?あれは」

絵里「海未!?大丈夫?」

海未「わ、私は大丈夫です、真姫のあの姿って」

絵里「ええ、無考の極意よ!」

聖良、花丸、あんじゅ「……………」

真姫「……………」

聖良、花丸、あんじゅ「!?!」

真姫は二人に目配せをする

聖良「開けて欲しいとのことでしょう、任せましたよ真姫さん!!」

聖良、花丸、あんじゅは離れる

真姫「……………」

善子「それ、凄いでしょ、身体が勝手に動くとか？」

真姫「……………」

善子「ふふ、喋らないのね。でも安心しなさい、私には勝てない、ヨハネには誰も勝てないのよ！」

真姫「ハア」

真姫は雄叫びをあげる

絵里「くっ……………すごい咆哮」

海未「真姫……………」

善子「……………ふふ」

真姫「……………」

善子「パワーアップはそれだけ？」

真姫「…ええ、十分……………」

善子「……………なら、こっちから行くぞ！」

善子は飛び出す

善子「ボールを貰う!!」

真姫「……………」

シュン
!!!!!!

真姫は殆ど動かさず善子のスライディングを躲す

善子「!!逃げんな」

善子はすかさずボールを狙う

真姫「……………」

スカッ!

善子「!!オラオラオラオラ」

すぐに体勢を戻して奪いにかかる

真姫「……………」

だが、真姫は全てを躲す

ダイヤ「す、凄いですわあのスピードの善子さんのDFを全て躲している」

真姫「……………」

善子「ちい!!!」

すると善子は飛び上がる

善子「喰らえ！」

両手を合わせて鎌を取り出す

善子「うぐぐぐぐぐ、はあ!!!」

そしてその小さくし無数に増やす

善子「出てこい、デビル!!」

小さいデビルが無数に出てくる

善子「デスサイズデビル!!!」

小さい鎌と小さいデビルが真姫を襲う

真姫「……………!!」

シユンシユンシユンシユンシユンシユン
!!!!!!

善子「な、何!？」

穂乃果「あれだけの数を軽く躲している!？」

真姫「……………こんなもの？」

善子「ちい!!」

善子は地上に降りる、が次の瞬間

真姫「迅速」

善子「!？」

ビュン
!!!!

真姫「……………」

一同「!?」

なんと一瞬で真姫は善子を抜き去る

真姫「……………」

善子「くっ!!!」

真姫「……………」

ザッ!!

真姫はセンターラインで止まる

絵里「!?ダイヤ、エメラ真ん中を開けなさい!!」

ダイヤ、エメラ「!?」

二人は戸惑いながらもどく

真姫「……………」

すると真姫はボールを自身の胸のところの位置まであげる

真姫「……………ハア
!!!!!!」

ピアノを弾くように手を動かす

真姫「……………うらあ
!!!!!!」

そして、手を動かした後、一回転しボールを蹴る

ドガン
!!!!!!

真姫のシュートがゴールに向かう

真姫「……………」

『な、何が起ったんだ!?!、津島を抜いたと思ったら次はシュートが放たれた!!!』

真姫の放ったシュートはどんどんゴールに向かっていく

善子「!!させませんよ!!!」

なんと善子が一気に戻ってくる

ダイヤ「早いつ!」

エメラ「くっ!善子」

善子「こんなシュート打ち返すまで!!」

バァン
!!!!!!

善子「こんなシュート!!私にかかれば」

ゴォ
!!!!

善子「なっ!!何!?!」

善子は何かの異変に気づく

善子「い、威力が弱くなるどころか、つ、強くなってる!?!」

真姫「……………」

善子「そ、それでもっ!!!このヨハネが負けるはずが無いんだ!!!ヨハネがこの!!!ヨハネが!!!」

真姫「……………」

善子「ぐあああああ!!!!!!」

ドガン
!!!!!!

善子は吹き飛ばされる

山西「!?こ、こんなシュートどうや」

バシユン
!!!!!!!!!!!!!!

『ゴ、ゴールー……!!!津島に追い詰められていたラブライブジャパンだったが、無考の極意に覚醒した、西木野が窮地を救い、更に点を一点取ってついに追い付いたああああ!!!』

真姫「……………」

ダイヤ「真姫さん!!今の技は」

真姫「……………音によるシュートで、遠くから打てば打つほど威力はどんどん跳ね上がっていく、クレツシエンド……………」

エメラ「クレツシエンド……………また、とんでもない技を!!」

真姫「……………」

山西「くつ、強すぎる、あんなシュート止められない……………」

ルビイ、花陽「春香ちゃん!!」

山西「……………す、すまない。同点にしてしまった」

花陽「謝らないでよ!あのシュートは多分、止められない」

ルビイ「遠くから打てば打つほど威力が上がる技……………」

山西「……………恐ろしい技だ、もしゴール前から打たれたら……………」

花陽「ラストリゾートR（リーズン）も超えてしまうかもしれないですね……………」

ルビィ「……………いや、多分ゴール前からは打てないと思う、正直、直後ならば私のラストリゾートDで跳ね返せる威力だった。だから絶対にゴール前では打たないよ」

山西「成る程、遠くから打ってとんでもなくなるシュートか……………」

ルビィ「……………私、善子ちゃんとポジション変えるよ」

花陽「!?ルビィがFWに!？」

ルビィ「うん、この状況だから、それに善子ちゃんにはもう任せられない」

花陽「……………」

善子「ハオハアハア」

ルビィ「善子ちゃん!!」

善子「……………!!る、ルビィ」

ルビィ「私とポジション変えよつか」

善子「!?な、なんでよ!それにヨハネ!」

ルビィ「……………(さつきまでの黒いオーラが消えてる!?)……………ちゃんどできるの?」

善子「あ、当たり前でしょ!!」

ルビィ「……………分かった、苗代ちゃん、下がってもらっていい?」

苗代「分かった!!」

『さあ、ついに同点となり勝負が分からなくなったぞ!!残り10分試合はどうなるのかああ!!!』と、ここでポジションを変更だ、DFの黒澤ルビイがFWの苗代とチェンジだ!!!』

ルビイ「勝つよ、善子ちゃん」

善子「当たり前でしょ、後ヨハネ!」

花陽「……………真姫ちゃんのスピード、そして反応速度は異常です、だから一瞬で攻めきるよ!!」

ルビイ「うん!!」

善子「了解」

ダイヤ「……………どう攻めれば」

エメラ「……………たしかに、真姫の無考の極意がいつまで保つか分からないし」

真姫「……………」

ダイヤ「私達はシュートをねじ込むことを考えましょう」

エメラ「そうですね姉様」

花丸「ダイヤさん!!」

ダイヤ「花丸さん!?!」

花丸「あれをやりましょう」

ダイヤ「!?!あれを」

花丸「おそらく、ファイアトルネードDDはも通用しない、ならこの技しかないと思
うんです!」

ダイヤ「で、でもあの技はまだ未完成。一度も成功してないんですわよ」

花丸「お願いします、必ず成功させるズラ!!」

エメラ「分かったよ、私がおとりになるその間に花丸ちゃんは後ろからバレないように上がってきて」

ダイヤ「エメラ!!」

エメラ「私もこれしかないと思います姉様。それにこんな花丸は初め見る。だから私はかけてみたい花丸に！」

ダイヤ「……………分かりました。ですが花丸さん、一度しかチャンスはありませんよ！」

花丸「分かっています！」

『泣いても笑っても後10分。アドバンチュールからキックオフです!』

ピー
!!!!

善子「ルビィ!!」

ルビィ「行くよ!」

真姫「……………迅速」

ルビィ「来るっ!」

花陽「させません!!」

ルビィはバックパスをする

真姫「……………」

真姫が迫る

花陽「イクス・オリオン!!」

爆発が起きる

ドガン

!!!!!!!

真姫「!？」

予期しない、爆発に足を止める

花陽「……………ふふ」

真姫「!?」

真姫はボールがないことに気づく

一同「!?」

善子「ゴールは」

ルビィ「貰うよ!」

なんと爆発の合間に二人はゴール前で来ていた

穂乃果「任せて!!」

ルビィ「善子ちゃん、無茶振り得意だよね」

善子「ま、まさかアンタあれを!？」

ルビィ「うん、やろう!ファイアトルネード!」

善子「……………まあ、いつもなら断つてやるけど今日は迷惑かけたみたいだし、乗ってあげるわよ!」

ルビィ「ありがとう善子ちゃん!!」

善子「善子じゃなくてヨハネ!!」

二人はある構えをする

ダイヤ「!?あれはまさか!!」

ボールを上蹴り上げて二人が外側から炎を纏って飛び上がる

「ファイアトルネード!!」

そしてはルビィ右足、善子左足でボールを蹴る

「DD!!!」

エメラ「ファイアトルネードDD!?!」

真姫「……………」

穂乃果「私が止めてみせるっ!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!!」

ドカツ!!!

穂乃果「ハア
!!!!!!!」

ルビィ、善子「!!!」

穂乃果「私は負けないっ
!!!!!!!」

バスン
!!!!

『と、止めたああああ!!!高坂見事にキャッチ!!!』

ルビィ、善子「ハアハアハア」

穂乃果「さあ、逆転ゴール取ってきてね
!!!!!!」

穂乃果は千歌にボールを投げる

千歌「はいっ!!」

前を向く

花陽「行かせません」

千歌「!?」

3人に囲まれて身動きが取れなくなる

真姫「……………」

千歌「!!!真姫ちゃん!!!」

真姫「!!!」

真姫はボールをトラップし前を向く

真姫「……………喰らえ」

真姫はクレツシエンドの構えに入る

がしかし

善子「させないわよ!」

真姫「!!」

真姫はクレツシエンドを中断し、ドリブルで善子を躲す

善子「クレツシエンドは絶対に打たせないわよ」

真姫「……………?!?!」

その次の瞬間

浜崎、白石、田中は3人同じ場所に固まり、そして急に乱舞のように動き出す

真姫「……………」

浜崎、白石、田中「無影乱舞!!」

真姫「……………」

だが、真姫はそれさえも全て躲す

浜崎、白石、田中「くっ！」

真姫「……………p s y c h i c」

善子「!?ま、まさか!!」

真姫「A r t s !!!」

真姫は無影乱舞を躲しきとる共に p s y c h i c A r t s を打つ

善子「な、予備動作なしで p s y c h i c A r t s を!?! (しかも避けながら……………)
!?!ま、まさか避けながら回転をかけていたっこと!?!」

真姫「……………っ!!!」

真姫は膝から崩れる、そして銀色に輝いていた目も輝きを失う

真姫「ハアハアハア、後は任せたわよ」

p s y c h i c A r t s はエメラの方に飛んでいく

エメラ「ナイスよ真姫!!」

エメラはゴールに向かう

ルビィ「最後来ると思ってたよ! エメラお姉ちゃん!!!」

エメラ「!!ルビィ」

『な、なんとお！黒澤ルビィが戻ってきていたぞ
!!!!!!!』

ルビィ「これ以上は何もさせないよ！」

エメラ「くっ！姉様!!」

ルビィ「……………いい判断だねけど、自由にはさせないよ！」

ルビィはエメラをマークする

エメラ「くっ……………」

ルビィ「これでファイアトルネードDDは打てないよ!!」

エメラのパスはダイヤがトラップする

山西「さあ、こい!!」

ダイヤ「……………行きますわよ!!」

ダイヤは炎の力を足に貯めて回転しながら上に上がる

ダイヤ「ファイアトルネード!!!」

炎のシュートがゴールに向かう

山西「ただのファイアトルネードなら止めてみせ」「ただのファイアトルネードじゃないズラ!!」!? なっ」

ルビィ「は、花丸ちゃん!」

『な、なんと!ここで花丸が上がってきたぞ
!!!!!!!』

花丸「この試合絶対に勝つぞら!!」

すると花丸はファイアトルネードに向かって餅を投げる、そして餅に包み、自身が上に飛び上がり餅に包まれたボールを打つ

花丸「これが最後のシュートズラ!!」

ダイヤ、花丸「オーバーライド!!!やきもちスクリュー!!!」

ボールにぶつける

山西「うおおおおおおお!!!」

!!!!
「穂乃果、海未、絵里、真姫、千歌、梨子、エメラ、聖良、あんじゅ、エレナ「いけえええ

山西「くっ………くうううう!!!」

花陽、ルビィ「春香ちゃん!!」

バ
シ
ユ
ン
!!!!!!

山西「……………」

ボールはゴールラインを割っていた

『ご、ゴール!!! ラブライブジャパン勝ち越しゴール
!!!!!!!』

ピツピツピー
!!!!!!!

『試合終了!!! 4対3、激闘を制したのはラブライブジャパンだあああああ!!!』

結城「よしっ！」

花丸「やったズラ
!!!!!!!」

ダイヤ「花丸さん!!!」

エメラ「姉様!!!花丸!!!」

エメラは2人に飛びつく

激闘の決着………

次回、
明かされる
真実

明かされる真実

明かされる真実

前回のつ！サッカー!!

善子ちゃんが謎の黒のオーラに包まれ、ラブライブジャパンが窮地を迎える、がしかし真姫ちゃんが無考の極意に覚醒!!それにより窮地を救いさらに1点を決め同点になる。

残り10分の攻防の末、ダイヤちゃんと花丸ちゃんのオーバーライド必殺技「やきもちスクリュー」で見事点を決めて逆転、ラブライブジャパンはアドバンチュールにリベンジを果たしたのであった!!

結城 「ふう、勝ったか」

少しホツとする

エレナ 「真姫!!」

真姫 「ハアハアハア、やったわねダイヤ、花丸」

絵里 「大丈夫!? 真姫」

真姫 「え、ええ大丈夫よエリー」

海未 「真姫、ナイスアシストでした」

真姫「あれは身体が勝手に動いたの……でも我ながらいい判断だったと思う」

エレナ「肩をかそう真姫」

真姫「!?ありがとうエレナ」

エレナ「かっこよかつたぞ、真姫」

山西「す、すまない、みんな」

ルビィ「謝ることないよ春香ちゃん」

山西「ルビイちゃん……………」

ルビイ「ラブライブジャパンはやっぱり最強のチームだよ！流石日本代表だよね！」

笑顔で言う

山西「……………あははwそうだな」

花陽「負けちゃったね」

善子「うん……………」

花陽「でも、いい試合だった」

善子「……………」

花陽「……………善子ちゃん、曜ちゃんの事」

善子「うん謝りたい、私がやってしまったから」

花陽「……………善子ちゃん」

エメラ「それにしても姉様と花丸が必殺かあ、凄いな!!」

花丸「えへへ、マルの底力とダイヤさんの実力ズラ!」

ダイヤ「本当に成功してよかった、本番に強いですわよね、花丸さんは」

花丸「ズラっ!」

ザッザッ

ルビィ「……………」

花丸「ルビィちゃん」

ダイヤ、エメラ「……………」

ルビィ「……………この前は生意気な口を聞いてごめんなさい、ダイヤお姉ちゃん」

ダイヤ「その事ならもう気にしてませんわ！」

ルビィ「……………そして、エメラお姉ちゃん、ごめんなさい」

エメラ「!？」

ルビィ「エメラお姉ちゃんは私が嫌いだと思う、けどルビィ、エメラお姉ちゃんも大

好きだよ」

エメラ「……………」

ダイヤ「……………エメラ」

エメラ「る、ルビィ」

手を出す

ルビィ「!？」

エメラ「私もごめん、強く当たって。これからも姉妹としてよろしく」

ルビィ「うん！」

少しルビィは泣きそうになっている

ダイヤ「……………（よかったですわ）」

凜「か、かよちん」

花陽「……………凜ちゃん」

凜「正直ね、かよちんのプレー見ててびっくりしたよ……………あんな技始めてみた」

花陽「……………だよね」

凜「でもね、かつこよかった!!」

花陽「!？」

凜 「また凜とサッカーやるねかよちん！」

花陽 「うん！」

真姫 「……………ねえ、花陽」

花陽 「真姫ちゃん!? ダイジヨウブナノ!?」

エレナ 「心配するな私が支えている」

花陽 「そうなんだ……………」

真姫 「……………貴方たちの目的は何なの？」

花陽 「!？」

真姫「試合をしていて思ったの、操られてなんか無い、自分のプレーをしているって」

花陽「真姫ちゃん……………」

???「悪いがそれは言えないね」

花陽、真姫、エレナ、凜「!?」

???「帰るぞ」

花陽「で、でも……………」

???「ボスの指示でもか？」

花陽「!?」

???「早く、ルビイちゃんと春香ちゃんと善子ちゃんも連れてこい」

花陽「わ、分かりました」

凜「か、かよちゃん!!」

花陽「ごめんね、凜ちゃん。でもいつかまたサッカーしようね」

凜「!!……………うん」

花陽は走っていく

真姫「……………ボス」

エレナ「……………気になる事が増えたな」

真姫「ええ、そうね」

善子「……………」

海未「善子」

善子「!?海未さん」

海未「……………何故あのような事を？」

善子「……………それが自分にもよく分からないんです」

海未「よく分からない？」

善子「はい、あの時はその」

花陽 「善子ちゃん!!ボスが帰ってこいだって」

善子 「!?あのお方が、なら仕方ない一時退却するでしょう……………」

海未 「善子!!」

善子 「こ、この話はまたします、すいません!!」

海未 「……………」

ルビィ 「……………さてと、私達はそろそろ行かないといけないね、春香ちゃん」

山西 「うん、そうだね」

エメラ「……………ねえルビィ」

ルビィ「？」

エメラ「また、サッカー出来るわよね」

ルビィ「うん！勿論」

山西「……………行きましょう、みんな集まってるみたいです」

ルビィ「うん」

ベンチに戻る

??? 「さっさと戻るぞ」

ルビィ「はい」

ルビイはラブライブジャパンの方を向く

ルビイ「ラブライブジャパン!!!」

ラブライブジャパン「!？」

ルビイ「楽しかったです！ありがとうございます!!」

シュン
!!!!!!

アドバンチュールは消えていった

ダイヤ「……………勝ちましたわね、私達」

エメラ「うん、けれど」

花丸「謎が増えたズラ」

結城「全員集合だ!!」

集合する

結城「よくやってくれたみんな、色々話したいところだが医務室に行くぞ」

千歌、梨子「曜ちゃん!!!」

結城「……………」

医務室

ガラガラ!!

千歌、梨子「曜ちゃん!!!」

曜「」

優奈「曜ちゃんなら大丈夫よ」

真姫「ママ!」

優奈「顔に少し打撲と背中を少し痛めてるだけよ、何もしなければ2週間くらいで治ると思うわ」

メンバーがホッとすする

ツバサ「……………勝ったのね？」

あんじゅ「ええ、ギリギリの勝負だったけどね」

ことり「よかったあ」

海末「……………本当によかったと言えるかどうかは分かりませんが……………」

一同は黙る

曜「……………ん」

!?

曜「……………は」

千歌、梨子「曜ちゃん!!!」

曜「……………千歌ちゃん、梨子ちゃん……………!!し、試合は」

ダイヤ「終わりましたわよ」

曜「!?どうなったの?」

エメラ「4対3で逆転勝利したよ」

曜「そっか……………よかった」

結城「……………ふう、目が覚めてよかった」

曜「心配かけてごめんなさい」

結城「……………みんな、気になる事とか疑問に思っている事いっぱいあると思う」

一同「……………」

結城「明日、話せる事を全て話そう、エメラの過去についての事もだ」

エメラ「!？」

海末「……………私の事も明日お話しします」

結城「……………分かった、みんな今日はしっかりと休めいな!!」

「はいっ—」

プ
ル
プ
ル
プ
ル
プ
ル
プ
ル
プ
ル
プ
ル
プ
ル
プ
ル

結城『もしもし』

『お疲れ様です!!なんとか勝ちましたね』

結城『ああ、そうだな……………』

『……………結城さん今日の試合、怪しい人が二人居ましたよね?』

結城『ああ、そうだな』

『……………善子ちゃんともう一人』

結城『善子は知っているが俺も彼女の事はあまり知らないからなんとも言えないが……………何かあるのには違いないな』

『ええ、そうですね』

結城『……特定しなければ手遅れになる前に』

『はい………そういえば結城さん彼女は今どこにいるんです？』

結城『ああ、あいつには調べに行ってもらった、秋田県にな』

『秋田県？』

結城『時期に分かる………潜入行けそうか？』

『はい、○○○ちゃんには許可取りましたから大丈夫だと思います』

結城『そうか………『悪魔』には絶対に気を付けるよもしかしたらこの会話も聴かれているかもしれない』

『分かってます、既にその話も説明しました』

結城『……………サニデイジャパンとの試合も近い。あいつらも相当仕上げて来るはずだ、本来なら『悪魔』なんぞに構っている暇は無いんだけどな』

『……………そうですね、分かりました私に任せてください！』

結城『ああ、頼んだぞ』

ピッ

次の日、
作戦会議室

結城「……………」
『悪魔』か」

結城「全員揃ってるな？」

一同「はいっ！」

結城「いい返事だ」

そう言つて立ち上がる

結城「……………エメラ、お前に問う」

エメラ「な、何？」

結城「お前は小さい頃、ルビイの事を文句言ったり、そして階段から突き落とすという事はしていないんだな？」

エメラ「そんな事しない!!」

結城「……………そうか」

モニターを写す

一同「!?」

真姫「なんですか？これ？」

結城「衛星からカメラだ、ズームしていくぞ」

どんどんアップされていく

穂乃果「島が見える」

千歌、曜、梨子、ダイヤ、エメラ、花丸「あれば内浦!？」

海未「何ですって!？」

絵里「ハラショー」

結城「……………もつとズームするぞ」

どんどんアップする

ダイヤ「!!」

ガタッ!

千歌「ダイヤさん!？」

ダイヤ「まさか結城さんこれは!!」

結城「ああ、よく気付いたな。5年前の映像だ」

一同「!?5年前」

聖良「5年前って、しかもこの時期……!?ま、まさかそれは」

さらにズームがされる

ダイヤ「!?る、ルビイですわ!」

千歌、曜、梨子「ルビイちゃん!!」

エメラ「ま、まさかこれって!？」

結城「ああ」

ルビイに誰かが近づく

エメラ「5年前のルビイの階段事故の
!!!!!!」

ボタン
!!!!!!

結城「少し前、お偉いさんに助けってもらって極秘で入手した物だ。やっと証拠を手に入れた訳だ」

真姫「じゃあ!!真犯人も分かったって事でしょ?逮捕はされたの?」

結城「……………今探しているところだ」

真姫「……………そうなんですか」

結城「この件は内浦に泥を塗られたような物だからな、絶対に捕まえてみせる」

一同「……………」

結城「そして、もう一つエメラに言っておかなければいけない事がある」

エメラ「私？」

結城「ルビイは初めから嘘をついていたのに気付いていたんだ」

エメラ「え？それってどう言う意味ですか？」

結城「悪口を言っていたのもエメラがルビイを突き落としたりって言う事もエメラがやってない事は分かっていたんだ」

エメラ「じ、じゃあ何で!!ルビイは私にあんな酷い事を言ったの!!何で何でなの!!」

千歌、曜、梨子「エメラちゃん……………」

ダイヤ「エメラを守るため……………結城さんそうですよね」

エメラ「私を守るため……………」

結城「ダイヤの言う通りだ、エメラを連れていく前の時にルビイは智和にお願いしたんだ。「どうかエメラお姉ちゃんを遠くに連れて行ってくれませんか」と」

エメラ「な、なんで。なんでそんな事を」

ダイヤ「……………ルビイはスライディングの時から気づいていたのかもしれない。エメラの事をよく思っていない人がいて、エメラの事を壊そうとしているという事を」

エメラ「る、ルビィ……」ポロポロ

ツバサ「ルビィがエメラと朝練をしなくなったのも話さなくなったのもエメラに的を向けさせないため」

エメラ「!？」

海未「……納得が行きますね、ルビィは小5ながら色々考えてエメラを守るために自分が嫌われるのを構わずあの態度をとったという事ですね」

エメラ「な、なんで話してくれなかったのルビィ」ポロポロ

ダイヤ「心の優しい貴方ならそんな事しないでいいっていうと思ったからでしょう」

エメラ「……………なのに私はルビイを憎んでばかりいた……………ごめんなさい、ごめんなさい」ポロポロ

真姫「それが過去の真実……………」

結城「ああ、これが全てだ」

エメラ「ごめんなさい、ごめんなさい。ルビイいい……………」ポロポロ

ダイヤ「……………」ポロポロ

エレナ「それにしても、何故突然として消えたんだそいつらは？」

ツバサ「そこが引つかかるわね、消える必要性はないだろうに」

海未「そうですね、言い方は悪いですがエメラを排除できて相手からすれば喜ぶはず、なのにそれが終わった途端消える……………」

結城「それも問い詰めれば分かる事だろう」

理亞「絶対に許さないエメラの人生を奪ったそいつを」

聖良「落ちつきなさい、理亞」

理亞「姉様はなんでそんなにれいせ!？」

聖良「怒っているのは私も同じです」

理亞「姉様……………」

タツタツタツタツ

ガチャツ!!

「ハアハアハア」

一同「ま、鞠莉（ちゃん、さん）!？」

鞠莉「結城さん……………とんでもない事が分かりましたよ」

結城「何だ!!」

鞠莉「……………結城さんに言われた人見つけたんですよ、秋田で」

ツバサ「秋田？」

エレナ「何故そんな場所に……………」

鞠莉「それで問い詰めたんですよ、けど記憶が全く無いみたいで」

結城「記憶がない？」

鞠莉「5年前の時の1年間の記憶が丸ごとないって言っていました！」

結城「なつ、なんだと」

エメラ「……………」

ダイヤ「……………」

海未「まるで、内浦に来た1年だけ狙って記憶がないなんておかしいですね……………」

結城「!!!ま、まさか」

鞠莉「……………私も結城さんご話を色々聞いて思いました。多分思っている事は同じでしよう?」

結城「……………」汗が垂れる

真姫「結城さん?」

結城「俺は『悪魔』と過去の一件を別のものと考えていた。まさか、まさか

繋がっているのか、5年前から………今に………」

衝撃の事実、
衝撃の真実

未知の襲来編

完結

最後の調整編

フード達のネタバラシ

エメラの真実が話されてから数日後

テレビ「速報です、親子でクラブを乗っ取ろうと企み、当時小学5年生だった女の子を階段から突き落としその後自分じゃなく他の人に罪をなすりつけようとし事件を無かったことにしようとした上原山梨、上原太宰、上原珠理容疑者を傷害罪、詐欺罪の罪で逮捕しました」

結城 「……………ふっ、やっと逮捕されたか。せいせいするな」

鞠莉 「……………終わりましたね結城さん」

結城 「ああ、よくやってくれた！」

鞠莉 「はいっ！」

結城 「これで一件落着だな」

鞠莉 「そう言えば今日はバラすんですよねフードの件」

結城 「ああ、アドバンチュール戦で分かった、あいつらは隠したりしなくてもいいつてな。それに最後の調整相手のチームは作り上げてある」

鞠莉 「もーそれは本当に大変だったんですよ！」

結城 「あはは、すげえ楽しみな試合だよ本当に」

鞠莉 「ここまでするんですから絶対サニデイジャパンにwinしてくださいね？」

結城 「ふふ、当たり前だ」

会議室

穂乃果「海未ちゃん」

海未「なんですか？穂乃果」

穂乃果「エメラちゃんの話、解決してよかったね」

海未「ええ！そうですね」

穂乃果「……………海未ちゃん、言わなくてよかった自分の話？」

海未「……………はい、エメラ達に比べて私の過去は優しいものです、それにこうやって皆んなとサッカー出来るのが本当に楽しい。だから昔なんて関係ないです！」

笑顔で言う

穂乃果「……………そっかあ、なら私は何も言わないよ」

海未「……………それともう一つ、気づけた事があります」

穂乃果「なに？」

海未「私の本気の発動条件」

穂乃果「!？」

海未「……………怒りとも思いました、初めはけど違うかった」

穂乃果「なんなのそれは」

海未「はいそれは「皆んな集まってるか
!!!!!!」あ、きましたね結城さんまたこの話はま
たします」

横を向いていたのを前に向き変える

結城「皆んな聞いてくれ！エメラの件も解決した、そしてアドバンチュールにも勝てた、そこで皆んなに明かしたい事実がある」

穂乃果「明かしたい事実」

絵里、ツバサ「……………」

結城「入ってきてくれ」

ガチャ

花陽「お邪魔します」

凜「か、かよちゃん!!!」

凜は花陽に飛びつく

ルビィ「……………」

エメラ、ダイヤ「る、ルビィ!!」

ルビィ「ピッ!」

エメラ「ごめんね、本当に今まで」

ルビィ「……………ルビィこそごめんね嘘ついてて」

エメラ「あれは私のためにやってくれてたんでしょ?……………ありがとうルビィ」

ルビィ「うん、エメラお姉ちゃん」

ダイヤ「……………」グスン

善子「私には誰もこないの!!!」

千歌、曜、梨子、花丸「へー墮天使なのに寂しがり屋さんなんだ〜」

善子「う、うるさいわね」

!!!!!!!

聖良「……………と言う事はフードの選手達って」

果南「皆んな久しぶり〜」

にこ「よくやったわねあんた達」

希「皆んなの戦いぶりきっちり見てたで！」

真姫「希!!!あんたフードの!!」

希「色々煽ってごめんな、真姫ちゃん」

真姫「……………ふん知らない」

希「……………ニヒヒ」

希は真姫の後ろにそつと移動する

真姫「!?!」

希「久しぶりのワシワシや！」

真姫「きやつ！やめなさい希／／／／」

希「ニヒヒ」

絵里「はあ、いつもの光景ねもう」

にこ「お疲れ様絵里」

絵里「ほんとよ、悪役向いてるわね3人とも」

果南「そうかなん？」

にこ「意外とノリノリでやってたわよ果南は」

希「にこっちもなかなか楽しんでたで？」

にこ「まーそうだけど」

結城「お疲れ様3人とも」

にこ「花陽を迎えに行った時一番心配だったのよ。バレるんじゃないかってヒヤヒヤしてたから」

果南「意外とバレないもんだなーって思ったな」

希「うん、そうやね」

真姫「」ピクピクピク

結城「さてと、皆んな再開できて嬉しい気持ちは分かるが聞いてくれ」

一同「……………」

結城「サニデイジヤパンとの再戦のために本当の事は隠して戦ってもらっていた。皆んな大分レベルアップ出来たと思う。協力してくれて本当にありがとう。そして一週間後、最後の調整を行う」

一同「!？」

結城「ルビィ、花陽、善子。ここまで手伝って貰って本当に悪いとは思ってるんだが君たちは連れて行けない、前のメンバーで戦いたいんだ理解してくれ」

ルビイ「そんなの分かってますよ！」

花陽「みんなが上手くなってくれてそれにあんだだけサッカーさせてもらえて文句なんかありませんよ！」

善子「ええ、そうよ。でもねラブライブジャパン絶対に勝ちなさいよ!!」

結城「と、言う訳だ。これから一週間は自由とする、スタメン発表や会場等は当日の朝言う。という訳で皆んな頼んだぞ！」

ラブライブジャパン「はい！」

結城「真姫、エメラ、希」

真姫、エメラ、希「!？」

結城「少し話がある残ってくれ」

μ、sの7人

穂乃果「話があるかあ、いいなああの3人は」

海未「いい話かは分かりませんよ？」

絵里「けど、穂乃果が思ってる事も分かるわ」

にこ「あの3人は監督のお気に入りだからね仕方ないわよ、それに」

ことり「それに？」

にこ「……………いや、なんでもない」

花陽「戦って思ったことがあるの」

凜「かよちゃん？」

花陽「みんな凄いなあって、私死ぬ程努力したのに」プルプル

凜「かよちゃん……………」

花陽「みんな、凄くて凄くて」

にこ「……………何言つてのよ花陽」

そう言って頭をポンする

花陽「ぴゃあ!!にこちゃん!」

にこ「あんたサッカーいつから始めた?」

花陽「え?穂乃果ちゃんに誘われてからだから4月の終わり頃」

にこ「まだ、一年たつてないのよ?私から言わせてみればあんたも相当な天才よ」

花陽「にこちゃん……………」

凜「そうにや!かよちゃんは凄いにや!」

花陽「……………ありがとう凜ちゃん!」

穂乃果「……………よし！みんな音ノ気坂で練習しよー!!!」

海未「……………究極の技を完成させるんですね？」

穂乃果「うん！海未ちゃんのおんな技を見せられて燃えないわけがないよ！」

海未「ふふ、穂乃果らしいですね」

穂乃果「みんな行こ!!!」

A q o u r s と S a i n t S n o w

千歌「はあ、フードの選手が果南ちゃん達でよかつた〜」ほつとする

曜「確かに、本当の悪の組織とかじゃなくてよかつたね!」

梨子「悪の組織……………」

果南「みんな、凄くレベルアップしたよね!人目見たら分かるよ」

善子「くつくつくつ、それも我のおかげ」

梨子「善子ちゃん貴方はヒートアップしすぎよ!そのせいで曜ちゃんが怪我しちゃったじゃない!!」

善子「あう……………」

曜「梨子ちゃんいいんだよ、試合中だったし」

梨子「で、でも」

善子「……………曜」

曜「……………」

善子「ごめんなさい!!」頭を下げる

曜「善子ちゃん……………」

善子「本当にごめんね、わざとじゃないの。もうあんなプレーは墮天天明に誓って2度としないだから許して」

曜「……………試合があればあんな事もあるよ、

善子「曜……………」

花丸「曜ちゃんは優しいズラね〜マルなら許さないズラ」

善子「ズラ丸……………」

花丸「なーんて冗談ズラ、でも二度と怪我をさせるような事したら駄目だよ」

善子「ええ！」

聖良「それにしても、ダイヤさんそれにルビイさん解決してよかったですね」

ダイヤ「はい！犯人も捕まって、エメラとルビイが仲直りできて本当によかったです」

ルビイ「ごめんねお姉ちゃん本当の事をずっと黙っていて」

ダイヤ「……………もう、大丈夫ですわ。仕方ありません小学生の時の話ですしそれにルビイは守る為に嫌だったけどあの選択肢を取ったんでしょう？」

ルビイ「うん」

ダイヤ「よく一人で頑張りましたね」

ルビイ「!!」

少し泣きそうになる

ルビィ「うゆ！」

果南「ねえ、鞠莉」

鞠莉「なに？かなーん？」

果南「鞠莉が日本代表に入らなかったのってもしかして結城さんに言われたから？」

鞠莉「……………うん、嫌なら日本代表でもいいぞって言われたよ、でも「鞠莉のDF力は凄まじい出来れば日本代表にいて欲しい。けどお前にはやって欲しいことがあるんだ」って頭下げてまで言われたから日本代表を諦めてパパとママに協力してもらって衛星に掛け合った」

聖良「あの動画のやつですね」

鞠莉「yes！」

梨子「よく、手に入れられましたね」

鞠莉「たまたま、今の衛星の管理の人がパパの知り合いだったみたいで、事情を説明したら探してくれて見つけてくれたの」

理亞「す、凄い」

鞠莉「まあ、それが今回のカラクリってわけ」

聖良「もう一ついいですか？」

鞠莉「何？」

聖良「今回のフードの件はただ私達を強くするためのものだったんですか？」

果南「……………もう一つあったよ」

一同「!?」

果南「……………もし、仮にサッカーの凄い人達が集まるとなれば寄って来るんじゃないか? そう考えたみたいだよ結城さんは」

鞠莉「ええ、警察も常に準備してもらっていたみたいだしね」

聖良「……………成る程」

果南「と、言うことだよ。何か他に聞きたいことある?」

……………

果南「ないかあ……………」

千歌「ねえ、みんな！今から練習しようよ！」

「千歌ちゃん（千歌、ちかつち、千歌さん）!？」

千歌「一週間後に試合だよ!!止まってられないよ!!」

梨子「もう、大人しく家に帰ろう！つて言うつもりだったけど。私もボール蹴りたくなかったかな」

曜「珍しいね、梨子ちゃんが賛同するなんて」

果南「だね、聖良と理亞も行こっか」

理亞「姉様どうします?」

聖良「せっかくだし行きましょう！」

理亞「はいつ！」

千歌「じゃあ、浦の星まで競争!!」

千歌は走り出す

A—R—I—S—E

エレナ「お前も一役買っていたとはなツバサ」

ツバサ「ふふ、結構面白かったでしょ？」

あんじゅ「だから貴方は出なかったのね納得よ」

ツバサ「まあそうよ」

エレナ「みててどうだった？」

ツバサ「みんな、凄く上手くなったと思うは。世界大会、いやサニデイジャパンとの戦いから見てもとつても上手くなった。だからもう心配ない、これならリベンジマツチも負けることないわ」

エレナ「そうか」

ツバサ「けど、次の試合で課題もある、それも乗り越えられると信じてるわ」

エレナ「……………そうか」

あんじゅ「エレナ、一つ聞きたいことがあるのよ」

ツバサ「あ、私も私も」

あんじゅ「……………どうやら聞きたいことは同じっぽいから言うけど。技の特訓をしてるよね？シユート技の」

エレナ「ふふ、バレていたのか」

ツバサ「今からUTXで練習するから見せてくれない？」

エレナ「やれやれ、まだ未完成なんだがな」

あんじゅ「ふふ、完成過程が見られるのは楽しみね」

ツバサ「さあ、行くわよ」

合宿所

結城「さてと、悪いな残ってもらって」

エメラ、真姫、希「……………」

結城「とりあえず、エメラから話をしようか」

エメラ「はい……………」

結城「……………すまない」

頭を下げる

真姫、希「!？」

エメラ「結城さん!？」

結城「……当時状況を知っていながら、俺は動けなかった、助けることぐらいは出来たはずなのに」

エメラ「……………結城さん、もういいんです。私はルビイとも仲直り出来ました、それに聖良姉さんや理亜にも出会えた。だからいいんですよ本当に」

笑顔で言う

結城「……………そうか」

エメラ「はい!」

結城「……………ありがとう」

エメラ「……………」

結城「そして、エメラお前に習得して欲しい技がある」

ある動画を見せる

真姫、希「!?こ、これは」

結城「ああ、あの技だ」

エメラ「これが……………」

結城「エメラ、違う形にはなるかも知れないがお前なら完成させることが出来ると思う。いや正確に言うなら違う形になるだろう」

エメラ「……………」

結城 「一週間の間、やってみないか？」

エメラ 「……………やります!! やって見せます!」

結城 「ふふ、そう言ってくれると思ったエメラなら」

エメラ 「明日またここに来ればいいですか？」

結城 「ああ、それと。もしいいならダイヤとルビイと来て欲しい」

エメラ 「分かりました!」

結城 「おう、それと今みんな浦の星行つたんじやないか？」

エメラ 「!？」

結城 「行ってこい」

エメラ「分かりました」

真姫「エメラ、一週間後ね」

希「頑張つてな！」

エメラ「はいっ！」

タツタツタツ

結城「……………」

真姫「まさかあの技なんて」

結城「ふふ、俺から言わせてみれば。エメラはルビイと理亞の半分半分みたいな所があるからな。必ず出来るさ」

希「でも1週間」

結城「大丈夫だ、今のあいつは1人じゃない、それに頼もしい妹と姉がいるしな」

真姫「ですね」

結城「さてと、次は真姫かな」

真姫「はい……」

結城「と、その前に希に感想を貰おう、3回目の無考の極意はどうだった？」

希「やつぱり、全く違います。技を2つも完成させた。いや正確には「迅撃」は完成していたか」

真姫「……………あの時のフードが希なら。あの技は何よ！」

希「……………」

真姫「あんな技見たことない」

希「……………ウチはFWになりたかったんよ」

真姫「!？」

希「……………それで世界大会の後、そして昔から練習していた技をついに完成させたん、ウチだけの技を」

結城「希……………」

希「おっと、話がそれてしまった。真姫ちゃん、無考の極意の時感覚はどんな感じ？」

真姫「……………まず無駄な音はないわ、それに体が瞬時に反応するの。そんな感じ」

希「成る程。無、考えない、だから無考の極意かあ……………」

真姫「3回目だから、慣れたかは分からないけど、少し扱えるようにはなったと思う」

結城「まあそうだろうな、サニデイジャパンとの試合の時より無考の極意時間は伸びていた」

真姫「はっ」

希「……………でもな、真姫ちゃんの無考の極意はまだ未完成やで」

真姫「!?」

結城「はっ、あれで未完成か。恐ろしいなあ」

真姫「未完成……………」

希「もし完成させることが出来れば、F Wの究極の技も打つ事ができると思うんよ」

真姫「……………いや、それは無理よ」

希「!?」

結城「単純にまだ足りていないんだ、細かい部分が。だからいくら無考の極意を完成させた所では恐らく……………」

希「そうなんですな」

結城「ああ、おそらく1ヶ月いやもつとかかるだろう。1週間ではとてもじゃないが不可能だ、誰であろうとな」

希「なら真姫ちゃん、残りの1週間、無考の極意の練習やな」

結城「無考の極意の練習？」

希「はい、極限状態まで追い込み追い込み追い込み練習です、6日間します、さすがに1日前は休まないといけないので」

結城「…………成る程」

真姫「希…………貴方の考え乗りたい、けど明日以降3日間はエリーとにこと必殺技の練習するつもりだからごめん」

結城「!?ほお前から言っていた3人技か」

真姫「はいっ！」

希「……………もう、羨ましいな。ほんまに、なら3日間は空いてるよね」

真姫「ええ、空いてるわ」

希「分かったよ、じゃあ3日後ここに集合でいい？」

真姫「了解!!」

結城「と、言う訳で真姫は以上だ」

真姫「ありがとうございます」

希「真姫ちゃん、みんな音ノ木坂に居るから行ってくれへん？」

真姫「え、分かってるけど希は？」

希「ちよつと長話になりそうや、だから先に行つて欲しい」

真姫「……………分かったわ、先に言つてるわね」

タツタツタツタツ

希「……………」

結城「さてと、お疲れ様希」

希「ありがとうございます。結城さん」

結城「今回のフード名乗りではお前だが、よくやつてくれた。感謝する」

希「そんな、ウチは何もしてませんよ、頑張ったのはみんなですから」

結城「……………ふふ、そうか」

立ち上がる

結城「どうだ、出番ありそうか？」

希「……………正直、今のみんななら心配ないです。だから出ないと思ってるけど、サニ
デイジャパンも幾つもの壁を超えて来ているはず」

結城「そうか」

希「今のところだと出るのはDFで、ですかね」

結城「……………」

希「……………まあ楽しみですよ」

結城「そうか……………」

希「後もう一ついいですか？」

サッカーは終わらない

次回、最強の敵

最強の敵

アキバドームスタジアム

『さあ、さあ、さあ!!!超満員そして大歓声の中ついに、歴史に残るであろう世紀の戦いが
始まろうとしているぞお!!!』

観客席

善子「す、すごい。人数ね」

花陽「なんたってあのラブライブジャパンと世界の凄い選手を集めた試合だからね！
みんな観に行くに決まってるよ」

善子「それにしても相手のチームは誰もわからない。凄く面白味があるわね!!」

花陽「私予想してるんだ」

凜「凜も予想してみたよ」

善子「ふふ、このヨハネが予想している人を当てて見せようぞ!」

凜「無理にや、善子ちゃんには」

善子「ヨハネ!!」

控室

真姫 「す、凄い歓声ね」

絵里 「あら？真姫飲まれちゃったの？」

真姫 「の、ノマレテナイワヨ」

にこ 「………それにしても監督と希遅いわねえ」

海未「確かにそうですね」

ガチャ

結城「待たせたな」

「監督!!」

結城「みんな揃ったか？」

穂乃果「希ちゃんがまだです」

結城「あ、言い忘れていたが希は用事があるから後半に来るぞ」

ことり「!?そ、そんなあ」

あんじゅ「自由人だなあ希ちゃんは」

エレナ「用事ならば仕方がない、そういう事もあるからな」

ツバサ「確かにそうね」

結城「今日の相手は本当に強いぞ、世界大会の決勝戦の時の相手より数倍強い締めて
かかれよ」

「はいっ—」

千歌「結城さん、相手は誰なんですか？」

結城「……………ふふ、それは会ってからの楽しみだな」

梨子「そうなんですな」

結城「あ、それとだな出たときに観客に何かしてやってくれ。みんなお前らを見に来てるんだからな」

果南「ファンサービスかあ、何がいいかなあ」

ダイヤ「ふふ、懐かしいですわね」

エメラ「そうですねお………姉様」

聖良「どうでしょうかね」

理亞「姉様、やり過ぎないでくださいね。またデカメロンだとか○をしまえとか言われますから」

聖良「デカメロン？」

一同「(自覚ないのか…………)」

結城「それじゃあ、スタメンを発表す」

ガチャ!!

ルビィ「!!」

一同「ルビィ(ちゃん、さん)!!」

ルビィ「こ、これ!!花陽ちゃんと善子ちゃんと凜ちゃんから!!おにぎりと飲み物です」

結城「ルビィちゃんありがとう」

ダイヤ「ルビィ!!来たら駄目とあれ程言ったでしょ?」

エメラ「姉様」

ルビィ「皆さん、頑張ってください!!」

ガチャン!!

結城「んじや、気を取り直して、スタメンの発表だ。まず初めに曜。お前は今回はベ
ンチにいて貰う、中途半端な状態で出ても危ないだけだから」

曜「はい！穂乃果ちゃんお願いします!!」

穂乃果「任せて!!」

結城「んじや、まずG K穂乃果！」

穂乃果 「はいっ！」

結城 「DF!!花丸」

花丸 「はいズラっ！」

結城 「あんじゅ！」

あんじゅ 「はい！」

結城 「ことり！」

結城 「はーい！」

結城 「DFは以上……次、MF!!千歌」

千歌 「はいっ！」

結城「梨子!!!」

梨子「はい！」

結城「真姫!!」

真姫「はいっ！」

結城「そして、絵里」

絵里「はい！」

結城「さて、FW。まずツバサ」

ツバサ「はい！」

結城 「そしてエメラ!!」

エメラ 「はい！」

結城 「ラスト海未!!」

海未 「はいっ！」

結城 「以上だ！この試合、曜以外は全員出て貰う。調整試合だが本気でいけ、相手も本気で死にもものぐるい来るはずだ!!」

「はっ!!」

結城 「それじゃあ、行くぞ!!」

『さあ、間もなくラブライブジャパンが出てくる模様です!!』

花陽 「く、くるよ!!」

善子 「……………」

凜 「うん!」

『FWから紹介していくぞお!!!』

ラブライブジャパンの選手が一人ずつ出てくる

『まず先頭にいるのは!!北海道が生んだ、獣?自在に操る氷技で相手を凍てつかせる!!
函館聖泉の一年にしてエースストライカー鹿角理亞!!!』

理亞「絶対に勝つよ!」

『そして次に居るのは!!ラブライブジャパンが誇るエースストライカーにして音ノ木坂学院のエース!!当然番号も10番!!剛と静を合わせ持つ2年生にして日本いや、世界最強と言われた最強のストライカー!!園田海未!!!』

海未「見に来てくれてありがとうございます。皆さんに今日。さらなる本気をお見せ
しましょう!!!」

『そして!!初めは鹿角3姉妹と言われていたが、のちに黒澤3姉妹と言われ!!炎と氷を
操るまさに半炎半氷。実力はまだまだ未知数か?函館聖泉2年黒澤エメラ!!!』

エメラ「姉様そして、ルビイとの練習の成果を見せてやる!!」

『続いて黒澤家から!!黒澤ルビイ、黒澤エメラの姉にして炎と言えばこの人!!冷静沈着だが心には熱く闘志が燃えているっ!浦の星女学院、3年黒澤ダイヤ!!!』

ダイヤ「今日は力を見せてあげますわ!私達の!!」

『FWのラスト!!UTX高校の3柱の一人であり、様々な技を操る、ストライカー!!綺羅財閥の一人娘!!UTX高校3年、綺羅ツバサ!!』

ツバサ「見てなさい!私のプレーをね」

『MF!!まずは彼女から!!1年にして唯一MFの選手として選ばれ正確無比な動きから、「音の旋律」と呼ばれた!!音ノ木坂学院1年、西木野真姫!!』

真姫「やってみせるわ!!」

『そしてつい最近新たな力に目覚めたみたいなので注目です』

真姫「……………無考の極意」

『続いて2年生!!浦の星女学院のキャプテンであり、風を操るトリックスター。浦の星女学院2年高海千歌!!』

千歌「かんかんみかんだよ!」

『同じ、浦の星女学院の選手!!彼女の指揮は勝利の指揮「勝利の導き者」と呼ばれ、多彩な戦術を使う!!、浦の星女学院2年桜内梨子!!』

梨子「精一杯頑張ります!!」

『続きまして、3年生。日本とロシアのクォーターであり、ロシアでは過去。チームを勝利に導く「勝利のエリーチカ」と呼ばれた!!日本に来てからは音ノ坂学院で見事に勝利に貢献!!進化も続けているぞ!音ノ木坂学院3年、絢瀬絵里!!』

絵里「ハラショー!!凄い人数ね。凄い試合もみんなに見せてあげるわ!!」

亜里沙「あつ!お姉ちゃんだ!!」

雪穂「絵里さん、相変わらずカッコいい」

『同じく3年、最強の脚力とアジリティを持ちなお技も洗礼されている選手ですつ!!今日はどのようなプレーを見せてくれるのか!!浦の星女学院3年、松浦果南!!』

果南「今日の調子は大きい感じだよ!!」

『さらに同じく3年、UTX高校の3柱の1柱であり、タクティクス、さらには自身の技

で、相手を戦慄させる最強と名高いゲームメイカー、UTX高校の3年、統堂エレナ!!」

エレナ「今日もいつも通りだ」

『そしてDF!!DFも唯一一人1年生であり食べる量なら誰にも負けない。脅威な胃袋の持ち主、今日はどんな食べ物の技が出てくるのか!?浦の星女学院1年国木田花丸!!!』

花丸「お花マル!!ズラっ!」

『そして2年生、DFも2年生は一人であり、絶対的な能力で代表を勝ち取った「絶対的な守護神」とも呼ばれた最強の選手、今回も魅せてくれ!!音ノ木坂学院2年南ことり!!!』

「ことり」ふふふ〜♪ことりのおやつにしちやうぞ?」

「わーーーーー!!!」

「お、俺がおやつになる!!」

「俺に決まってんだろ!!」

凜「変な争いにゃ」

『そして3年生、またもや音ノ木坂学院!!。驚異の身体能力と異常な柔らかさで不可能な動きも可能にする、ファンタジスタ!!音ノ木坂学院3年矢澤にこ!!』

にこ「にっこにっこにー!!今日も最高のプレーをお届けするわよっ!」

『そして同じく、音ノ木坂。未知に未知を重ねた少女、これまで試合に出ているものの、本気を出したか否か不明。一度だけFWででた試合では一人で5点取ったと言われる伝説選手!!音ノ木坂学院3年東條希!!……えー只今入ってきた情報によりますと事

情により遅れるそうです』

『続きまして、UTX高校から3柱の1柱の一人でもあり。敵を殲滅させる必殺技は超強力、今日は誰が餌食になるのか!? UTX高校の3年優木あんじゅ!!!』

あんじゅ「フルハウスな試合を楽しみにね!!」

『DFラスト3年生!!。北海道から妹の鹿角理亜と共にやってきた、氷の女神!! 氷結なDFと判断力でチームを勝利に導いてきたっ! 函館聖泉高校3年、鹿角聖良!!』

聖良「今日も、楽しんでいってくださいね!!」

「あ、あれがメロンか」

「確かにしまえてないな……」

理亞「(案の定言われてる)」

『そして最後は!!ラブライブジャパンの守護神GKの紹介です!! まずは浦の星女学院、水と友達なのか!?自由自在に水の力を操る選手!!浦の星女学院2年、渡辺曜!!ですが本日は怪我のため試合には出ないそうです』

「えー」

「水の壁見たかったなあ」

曜「みんな、ごめんね〜でも絶対次もあるから!楽しみにしてて!!」

『そしてえ!最後は彼女だあ!!!ラブライブジャパンのキャプテンにして音ノ木坂学院キャプテンでもある彼女!!「太陽の奇跡の守護神」とも呼ばれており。数々のシユートを止めてきたあ!!!今日も奇跡を見せてくれ!!、音ノ木坂学院2年高坂穂乃果!!!』

穂乃果 「みんな!!フアイトだよ!」

『さあ、以上がラブライブジャパンの紹介です!!』

真姫 「相手はまだなの?」

絵里 「確かにそうね……………」

ツバサ 「……………!?!みんな上よ!!」

一同 「!?!」

ドガンンンンンンン
!!!!

「な、なんだ!？」

「爆発が起き……………」

煙が晴れていく

「……………」

そこには10人の選手が降り立っていた

「お待たせだよ、ラブライブジャパン!!」

一同「!?! つ、月(ちゃん、さん)!?!」

月「あはは、一週間ぶりだねみんな」

「随分派手な登場ね、ま、好きだけど」

浦の星「鞠莉（ちゃん、さん）!？」

鞠莉「チャオー♪1週間ぶりだね〜」

残りの人もどんだん姿を現し始める

「久しぶりだな海未」

海未「白蘭……………」

白蘭「新のストライカーが誰か教えてやる」

海未「ふ、それは私のセリフです」

「エメラ、久しぶり」

エメラ「ユリカ!？」

ユリカ「今日は思いっきりやろうね！」

エメラ「うん!!」

輝夜「久しぶりですね、黒澤さん」

ダイヤ「かぐやさん……………」

愛「元気そうで何よりですダイヤ様」

ダイヤ「今日はよろしくお願いしますね」

輝夜、愛「はい」

ツバサ「知らない顔もいるわね」

「フェイ!! ついにこの時が来たやんね!」

フェイ「そうだね、黄粉子頑張ろう!」

黄粉子「うん！」

「あれがラブライブジャパン……………」

ユリカ「みんな凄いんだよ、ハロも気になってたんでしょ？」

ハロ「ああ。けどあの子達が本当に世界最強なの？」

ユリカ「戦えばわかるよ」

「……………」

ユリカ「メイも怖い顔しない!!」

メイ「どんな相手だろうと本気で挑むだけ」

ユリカ「目がガチだ……………はあ」

月「あれ？あの子は？」

鞠莉「ユニホームに着替えてるはずだよ」

月「そつかあ……………」

穂乃果「十人しかないね」

ことり「確かに」

「……………」

ザッザッザッ

花丸「フード？」

エメラ「……………まさか」

パツ!!!
……………

ルビィ「……………」

一同「る、ルビィ(ちゃん、さん)」

花陽、凜、善子「ルビィ(ちゃん)!!」

ルビィ「よろしくお願いします!!」

ダイヤ、エメラ「受けてたつ（たちますわ）!!」

『さあさあ!!全員登場だああああ!!自己紹介から行くぞ!!』

『FW!!菜乃花フェイ!!所属は不明です』

フェイ「早くしようよ!!」

『DF!!菜乃花黄粉子!!同じく所属不明です』

黄粉子「よろしくー!やんねー!」

『MF!!天命白蘭!!所属はなにわ高校!!』

白蘭 「はつきりさせよう海未」

海未 「ふふ、これは楽しみですね」

『FW!!ユリカベオル!!ロシア出身!!』

ユリカ 「今日を熱い試合にする!!」

『MF!!ヤサカハロ!!所属はロシア!!』

ハロ 「日本の力見せてもらいます」

『DF!!イリーナメイ!!所属はロシア!!』

メイ「見せてあげるわ、私の力を」

『MF!!篠宮輝夜!!秀知院学園出身!!』

輝夜「ラブライブジャパンの皆さんよろしくお願いします」

『GK!!早坂恵!!同じく秀知院学園!!』

恵「輝夜様のため、チームの為一点も入れさせませんよ」

『DF!!小原鞠莉!!浦の星女学院出身!!』

鞠莉「今日はサイコーな試合にしましょー!」

果南「望むところよー！」

『DF!!黒澤ルビィ!!同じく浦の星女学院出身!!』

ルビィ「この前は負けたけど、今度こそは勝つよ!!」

エメラ「ええ、本気できてルビィ!!」

ダイヤ「楽しみましょう!!ルビィ!!」

『そしてキャプテン、沼津高等学園出身、渡辺月!!』

月「曜ちゃんと戦えないのは残念だけどよろしく!!」

曜「楽しみにしてるよ月ちゃんのプレイ」

『さあ、ワールドレジスタンスVSラブライブジャパンがいよいよ始まります!!』

最強と最強がぶつかり合う

次回、
S
T
A
R
T

D
A
S
H
!!

ワールドレジスタンス戦 「START DASH」

前回のサッカー!!

ついに始まる、最後の試合。相手は勝手の敵、そしてまだ知らない人達。どんな勝負になるのか!!

月「と、言う訳でラブライブジャパンよろしく!!」

月達はベンチに行く

穂乃果「みんな、凄い力を持つてるね」

海未「ええ、最高の相手ですね」

千歌「でも、私達も負けない!!」

曜「うん!」

「ふっ、いいチームだな」

結城「へへ、そう思うでしょ? 智和さん」

ラブライブジャパン「!?!」

智和「ラブライブジャパンの皆さんこんにちは」

曜「ば、パパ!!」

智和「曜怪我したと聞いていたが大丈夫か？」

曜「うん、大丈夫だよ！」

智和「今日、曜のプレーを見れないのは残念だがみんなのプレーを楽しみにしてるよ」

ダイヤ「ま、まさか智和さんは」

智和「ああ、俺はワールドレジスタンスの監督だ」

「ええええ
!!!!!!」

智和「本気で君達に勝たせてもらうよ、それじゃあよろしくね」

智和は相手のベンチに行く

曜「これって結城さんまさか」

結城「俺がお願いしたんだ」

ツバサ「でしょうね。とんでもない監督ですね」

結城「世紀の一戦とも言えるこの勝負。戦える相手はそう多くない……………」

真姫「……………」

結城「さあ、みんな勝つぞ！そしてサニデイジャパンのリベンジも返り討ちにするんだ!!」

「はい!!!」

『さあさあ、両チームの選手達がポジションにつき始めているぞ
!!!!!!』

ラブライブジャパン

F W …… 園田海未 …… 黒澤エメラ …… 綺羅ツバサ

M F …… 絢瀬絵里 …… 西木野真姫 …… 高海千歌

M F …… 桜内梨子

D F …… 国木田花丸 …… 南ことり …… 優木あんじゅ

G K …… …… …… 高坂穂乃果 ○

ワールドレジスタンス

F W …… …… 菜乃花フエイ …… …… ユリカベオル

M F ヤサカハロ 渡辺月○ 天命白蘭 篠宮輝夜

D F …… イリーナメイ …… 小原鞠莉 …… 菜乃花黄粉子

D F …… …… …… …… …… 黒澤ルビィ

G K……………早坂愛

『今回の実況はお馴染み、矢島と！』

『角間王将がお送りいたします!!!』

フエイ「ほ、ほ、ほっ」

体をほぐす

ユリカ「緊張する？」

フエイ「まあね」

ユリカ「開幕からガンガン攻めよう！監督にも言われてるし！」

フェイ「うん、そうだね！」

月「楽しんでいこう！フェイ、ユリカ」

フェイ「キャプテン、よろしく」

月「うん！よろしく！」

白蘭「まさか、貴方とチームを組む事になるとは輝夜さん……………」

輝夜「ええ、私も天命さんのようなストライカーと同じチームになれて光栄です」

白蘭「でも、FWは取られてしまった……………」

輝夜「仕方ないですよ、あの二人はとんでもないですから」

白蘭「頑張ろう、輝夜さん」

輝夜「えええ！」

愛「……………ルビィ足は大丈夫なの？」

ルビィ「平気です!!」

愛「そう。なら安心」

ルビィ「愛さんのかっこいい技期待してます」

愛「ありがとう、ルビィ」

ツバサ「ふふ、試合に出るの久しぶりに感じるわ」

海未「確かにツバサは出てませんでしたからね」

ツバサ「今日は思いっきり行っていいって言われてるからね。本気で行くわよ」

海未「ええ、じゃないと置いて行きますよ？」

ツバサ「言ってくれるねわね海未」

梨子「千歌ちゃん、絵里さん、真姫ちゃん」

真姫「何？梨子？」

梨子「一撃目、あれやりますよ」

絵里「……………梨子が言うと言うことはあれね。了解」

梨子「一気にいきましょう!!」

千歌「よし！一気に先取点貰おう!!」

花丸「今日はより気を引き締めないといけないズラ!!」

ことり「そうだね。でも後ろには最強のキーパーがいるから」

穂乃果「ゴールは任せて!!」

あんじゅ「ふふ、頼もしいわね」

果南「また出れないのかあ……………」

にこ「我慢しなさい、出番は必ずあるから」

果南「分かってるけど……………」

ダイヤ「確かに果南さんやにこさんはずっと見てたんですもんね」

にこ「ええ、少し退屈だったわ」

果南「まあいい物の見れたけどね」

ダイヤ「……………そうですか」

聖良「久しぶりにベンチです……………」

エレナ「……………」

理亞「……………早く出たい」

エレナ「必ず出番は来るぞ、理亞」

理亞「!!……………はい！」

『さあ、いよいよ始まります!!ライブライブジャパンvsワールドレジスタンス!!ワールドレジスタンスのキックオフです!!』

ピーーーー!!!

フエイ「行くよ!」

パスをする

ユリカ「ええ!!」

海未「先手必勝!!喰らいなさい!!」

海未は手から無数の矢を作り出し相手に投げる

海未「アーツドロー!!」

矢で相手の動きを止める、その隙に海未はボールを奪い取る

ユリカ「!?!」

『な、なんとお!!いきなり園田の必殺技が炸裂したあ!!!』

ユリカ「や、やられた!?!」

海未「さあ、梨子!!行きますよ!」

梨子「はい!!」

梨子にパスを渡す

梨子「行きますよ!!」

海未「配置についてください!!」

真姫、ツバサ、絵里、千歌「了解!!」

輝夜「!?これは」

梨子から真姫にパスが回る

鞠莉「こ、これはまずいですね……………」

メイ「……………」

真姫「これ、しんどのよね！ツバサ」

ツバサ「久しぶりね、この技」

絵里「さあ！千歌！！正念場だよ！！」

千歌「はいっ！！」

4人で高速でボールを回す

ルビィ「……………」

ルビィは何かを狙っている

結城「……………何か狙っているなルビィ」

梨子「さあ!!海未さん!!フィニッシュを！」

海未「喰らいなさい!!必殺タクテイク

ス！」

「『だって噫無情』」

上に打ち上がったボールを海未が地面に叩きつける

ドゴーーーーー!!

鞠莉「な、何という威力デースカ!？」

輝夜「うわあ……………」

海未「……………やはり耐えましたか、ルビィ」

ルビィ「……………ええ、ですが。くっ」

海未「……………そんなんで止められますか？」

ルビィ「止めるっ!!!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!ぜい!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「フアィアカット!!!」

海未「……………やりますねけれど、こちらとしては作戦成功なんですよっ!」

海未は横にパスをする

ツバサ「ナイスパスよ、海未」

『な、なんとお!!綺羅が上がって来ていたあああ!!!』

ルビィ「つ、ツバサさん……………」

ツバサ「先取点もら「甘い」!?!」

メイ「フエィタルソフト!!」

メイは分身し、ツバサの方に突撃してくる

ツバサ「なっ！」

ドガっ!!

メイ「……………無理よシュートなんて打たせない」

『な、なんと!!だって噫無情!!を喰らいながらもシュートを打たさずにブロックした!!!』

ルビィ「め、メイさんありがとう」

メイ「……………ナイスよ、よく時間を稼いでくれたわね」

ルビィ「!？」

メイ「……………月!!」

月「……………ナイスだよメイさん、ルビイちゃん」

ツバサ「不覚……………まさか。噫無情が」

海未「今は戻りますよ!」

月「……………さあ。行こうか」

曜「動くよ、戦術のルナティックが」

月「……………!!!」

一気にドリブルで上がっていく

千歌、梨子「通さない!!!」

月「無駄だよっ!!!」

すると月は空中を歩く

千歌、梨子「!？」

月「スカイウォーク!!!」

『空中に行き二人を交わした!!』

月「さあさあ!!どんどん行くよ!!」

さらに上がっていく

花丸「止めるズラ!!!」

花丸「……………もちもち黄粉餅!!!」

月「!!」

月からボールを奪う

花丸「返してもらおうぞら!!」

あんじゅ「ナイスカツ!!」

フエイ「まだ攻撃は終わらないよ!」

胸で手をまわし空気の塊を作り出す

花丸「!?!」

フエイ「エアー!!バレット!!」

空気の塊を花丸に蹴る

花丸「!?ズラア!!!」

花丸は吹き飛ぶ

聖良、あんじゅ「花丸ちゃん(さん)!!」

フエイ「さあ、行くよ!!」

ゴール前まで行く

穂乃果「……………こいつ!!」

フエイ「はあ!!!」

ボールと共に丸でウサギのように跳ねながら力をためて月の下でオーバーヘッド

フエイ「バウンサーラビット!!!」

生きてるかのように跳ねたボールがゴールに向かう

穂乃果「……………ゴットハンド!!」

上に手を掲げて、ボールに向けて当てる

バシユウ!!

穂乃果「簡単には決めさせないよ!」

フエイ「やっぱりね……………」

真姫「穂乃果!!」

穂乃果「任せたよ真姫ちゃん!!」

真姫「ええ!!」

ボールが渡る

真姫「行くわよ!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「p s y c h i c A r t s V 3 !!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールはセンターラインに向かう

真姫「ツバサさん!!」

ツバサ「任せなさい!!」

鞠莉「おっとく行かせないわよ」

ツバサにパスが渡る

ツバサ「……………いいえ、通るわよ!!」

矢のように急激にスピードを上げ走り抜ける

ツバサ「shocking slash!!」

『ラブライブジャパン一気にゴール前だぞ!—!』

愛「……………」

ツバサ「さあ、開幕のシュートをプレゼントよ！」

ボールを蹴つて2つにしてボールを上打ち上げる、そしてツバサもそれに追いつくように飛び上がる

ツバサ「ダブルショット!!」

2つのボールを両足のオーバーヘッドで蹴る

愛「止めます」

両手に力を込める

愛「ふう!!!」

そして両手を合わせて月夜紋章が描かれた盾を作り出し右手にこめる

愛「王家の盾!!」

振りかぶってボールにぶつける

ツバサ「……………へえ」

ギョルルルル

愛「……………」

両手でキャッチして完全にボールを掴む

『と、とめたあ!! 綺羅の強力なシュートを早坂のまるで本物の王の盾のような技「王家の盾」でシュートを止めたぞ!!』

愛「このチームのため、輝夜様のため。このゴールは割らない」

ツバサ「ふふ、やるわね……………」

開幕から激しくそして熱い戦い!!

次回、ルナティックタイム

ワールドレジスタンス戦「ルナティックタイム」

前回のサッカー!!

ワールドレジスタンスのメンバーが紹介され気合を入れるラブライブジャパン。そこに智和さんが現れ相手の監督と言うことを知る!!そして試合が始まり、お互い譲らない攻防が続く!!

『開幕から両チームともに譲らない!!』

輝夜「ナイスよ早坂」

愛「大丈夫ですか？輝夜様!!」

輝夜「私は平気よ、タクティクスには多少不覚は取ったけどね……………」

愛「そうですか……………」

輝夜「今からあれを使つて一点取るから安心して」

愛「もうあれを使うんですね……………」

輝夜「月ちゃんの指示だからね。初めから出し惜しみなしでって」

愛「そうですか……………楽しみましたよ輝夜様!!」

輝夜にパスを出す

輝夜「さあ、行きますよ!!」

エメラ「行かせない!!」

輝夜「どきなさい!!」

そう言うのと輝夜はボールを上にあげる

エメラ「!?!」

輝夜「はっ!」

輝夜自身も上に上がる

輝夜「……………月の力」

ボールを月ごと下に蹴る

エメラ「なっ! つ、月!?!」

輝夜「ルナティックレイ!!!」

『な、ななんと!!上からボールと共に月が降ってきたぞ!!!』

輝夜「……………さあ、月さん!!」

月「オーケイ。始めようか!」

すると月と輝夜は向かい合わせになる

結城「……………来る」

月&輝夜「はあああああああ!!!」

真姫「何をする気……………」

月&輝夜「はあ
!!!!!!!」

すると月と輝夜の頭上に大きな月が現れる

智和「……………ふふ、美しいなあ。さあラブライブジャパン、これに対応できるかな？」

穂乃果「な、何が起ころうとしてるの」

月&輝夜「必殺タクティクス!!!」

そう言うときスタジウムが光に包まれる

ビシュン
!!!!

千歌「う、うわあ!!!」

梨子「な、なんなのこれ!？」

光が晴れる

『な、何が起こったんだ!?!』

月&輝夜「『ルナティックタイム』」

スタジムがよるの様に暗くなり。上には大きな月が浮かんでいる

『なんだこれは!! スタジアムが突如として暗くなったぞ!!!』

月&輝夜「……………」

絵里「……………分からないけど、動かないのならこちらから行くわよ!!」

絵里は体の分身を作る

絵里「はああああ!!!」

その分身が二人に迫る

絵里「ロシアンブロック!!」

月&輝夜「……………」

グオン!!!

絵里「!!なっ」

真姫「き、消えた!?!」

グオン

月「……………」

千歌、梨子「う、後ろ!!」

絵里、真姫「!?!」

千歌「い、行かせないよ!!」

月「……………」

グオン!!!

千歌「消えた……………」

グオン!!

輝夜「……………」

果南「何が起こってるの!?!」

にこ「原理は分からないわ。けどおそらくあのタクティクスのせいね」

ベンチ「!?!」

結城「これまたとんでもないタクティクスを作り上げましたね智和さん……」

智和「……………ふふ」

月と輝夜がタクティクス発動後一気にMF4人は抜き去りDF陣にまで到着して
た

あんじゅ「消える!?ど、どうすれば」

ことり「ことりが行きます!!!」

花丸「!!」

ことり「見えなくても動けなくすればいい!!」

ことりの周りに虹の輝きが出てくる

ことり「wonder zone!!」

月「……………wonder zoneかあ」

ことり「逃がしませんよ!!」

wonder zoneのまま月を追いかける

月「……………」ニッ

ことり「捕まえました!!攻撃はしゅう!?!」

月「さて問題です。ボールはどこでしょうことりちゃん?」

ことり「!?」

あんじゅ、花丸「!?」

輝夜「今度こそ点を貰いましょうか!!」

あんじゅ、花丸も抜かれる

『気が付けば1対1だあ!!!』

穂乃果「こい!!」

輝夜「我が刃を喰らって下さい!」

輝夜は飛び上がる

輝夜「はあ!!!」

すると剣で切りける様に足でボールを蹴る

輝夜「月下乱舞!!はあ!!!」

最後にかかと落とし

穂乃果「!!」

『月下乱舞が炸裂!!!』

穂乃果「ゴールは絶対にあげないよ!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!!」

ドカツ!!!

穂乃果「ハア
!!!!!!!」

バシユウ!!!

『と、とめたあ!!!やはり日本の守護神高坂穂乃果!!強力なシュートをキャッチしたぞ!!!』

穂乃果「いいシュートだよっ!!」

輝夜「……………外してしまいましたか。しかたありませんね」

月「どんまい、輝夜さん」

輝夜「すいません、止められてしまいました」

月「大丈夫だよ!!まだ始まったばかりだからね」

輝夜「ですが、この攻めで分かりました。ラブライブジャパンはルナティックタイムをしばらく攻略できない……………」

月「だったらいいけどね」

輝夜「……………白蘭さん次の攻めで一点お願いしますよ」

白蘭「ああ、任せろ。海未にも勝ってみせる」

輝夜「ふふ、楽しみですね」

ユリカ「白蘭の技を見れるとはね」

白蘭「まずはDFだな」

『さあ、依然として月の光だけが照らされているスタジアム!! ラブライブジャパンの攻撃にも影響はあるのでしょうか?』

穂乃果「霧。面倒だね…………」

ことり「ごめんね、穂乃果ちゃん」

穂乃果「大丈夫だよ!!みんな!!今は攻略法を考えて!!今は私が一点も入れさせない!!」

「!!」

海未「穂乃果は大丈夫そうですね」

ツバサ「ええ、けれど。早めに攻略法を見つけないとギリ貧よ……………」

エメラ「……………突然消える」

穂乃果「お願いあんじゅちゃん!!」

あんじゅ「了解!!」

前を向くが相手は相手の陣地から動いていない

あんじゅ「……………」

梨子「あんじゅさん!!」

あんじゅ「梨子!!」

梨子「……………動かないという事は自分たちがDFのときは発動できない?」

月「……………」

エメラ「梨子!!」

梨子「エメラちゃん!!!」

エメラ「分からないけど攻めあるのみ!!」

エメラが上がる

海未「気をつけてくださいよ!! エメラ」

エメラ「分かってる!!」

ツバサ「……………」

ハロ「いかせないよ!!」

エメラ「通る!!!」

エメラは上にボールを打ち上げて氷を作り出す

それを相手の素性に落とす

エメラ「アイスバラガン!!!」

無数の氷の氷塊が相手を襲う

ハロ「!？」

エメラ「じゃあ一気に「もちもち黄粉餅!!」「!!」

ボールを奪われる

黄粉子「油断大敵やんね!」

エメラ「しまった!!」

海未「油断大敵はどっちですかね!!」

海未は手から無数の矢を作り出し相手に投げる

海未「アーツドロー!!」

矢で相手の動きを止める、その隙に海未はボールを奪い取る。しかし

グオン!!!

海未「!!なっ消えた」

黄粉子「後ろやんね!」

『ま、またもや選手が消えて背後にいるぞ!!』

海未「くっ、分からない……………」

黄粉子「ハロちゃん!!」

ハロ「!!」

千歌「行かせない!!」

ハロ「……………止められないよ」

グオン!!

千歌「!!」

梨子「!?また」

ハロ「じゃあ、バッチリ決めてよ白蘭!!」

白蘭「遂に回ってきたか……」

DF陣に差し掛かろうとしていた

海未「スプリントワープ!!!」

ギョングョングョングン!!

「!!」

白蘭「戻ってくると思ってたよ海未!!」

海未「ええ、勝負です!!」

白蘭「じゃあ改めてスプリントワープ!!」

海未「スプリントワープ!!!」

『同時にスプリントワープだあ!!!速いのはどっちだ!!!』

白蘭 「流石だな海未……………スピードでは互角の様だな。ならば!!!」

スプリントワープをやめて止まる

白蘭 「純粹にテクニック勝負と行こう」

海未 「望むところ!!」

海未は仕掛ける

白蘭 「はっはっはっ」

海未 「はっはっはっ (隙がない)」

白蘭「……………そこだっ！」

海未「!？」

一瞬の隙をつき抜かれる

『おおっと白蘭。見事に海未を抜き去った!!』

白蘭「さあ、私の技を受けろ!!穂乃果!!」

穂乃果「!!」

白蘭「はあっ!!!」

ボールを光、風のエネルギーの中に入れて回転させる

海未「……………穂乃果!!」

穂乃果「分かってる!!」

白蘭「喰らえ!!」

白蘭の上には台風、天候が変わるほどの力を込めて打つシュートは厄災!!

白蘭「ホワイト……ハリケーン!!神」

海未「!!（この威力はやばい）穂乃果!!!」

穂乃果「絶対止めるよ!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!!」

バチィ
!!!!

穂乃果「お、重い。こんなに重いシュート久しぶりかも……………」

白蘭「……………」

穂乃果「で、でも絶対にゴールはあげないよ!!!」

白蘭「……………流石世界のゴールキーパーだ」

穂乃果「はあ!!!」

バシユウ!!!

『と、止めたあ!!!!!!
!!!白蘭の「ホワイトハリケーン神」を見事に止め切った!!!』

海未「穂乃果!!」

白蘭「…………やるな、穂乃果」

海未「ええ、当たり前でしょう、穂乃果ですよ!」

白蘭「ふつ、本当にすごい信頼だ……………だがまだ試合は始まったばかりだ……………本当の

決着は後につけよう」

海未「ええ……………勿論です」

ザツザツザツ

輝夜「……………ルナティックタイムが無くても抜けましたわね」

白蘭「ああ、今回はだがな……………次は抜けるかわからない。試合は始まったばかりだからな」

輝夜「ふふ、そうですね」

月「予想以上だね、穂乃果ちゃんが……………」

輝夜「そうですね。ならば早いですが。あれを使いたいと思います」

月「了解……でも絶対に決めるんだよ」

愛「……………」ピロ、ピロン

愛「了解です。輝夜様」

穂乃果「ことりちゃん!!」

ことり「うん！」

ドリブルで上がっていく!!

フェイ「行かせない!!」

ことり「wonder zone!!!」

ことりの周りに虹の輝きが出てくる

フェイ「くっ!!」

ことり「少しの間止まっています!!」

梨子「ことりさん!!」

ことり「梨子ちゃん!!」

梨子「……………行きます!!」

ドリブルで上がる

海未「……………（梨子なら抜き切れる）」

白蘭「行かせん!!」

梨子「……………」

ザッザッザッ

白蘭「!?」

梨子「通りますよ!!」

ルーレットを決める

白蘭「くっ、やるな」

梨子「……………」

メイ「行かせない!!」

複数の分身を出す

梨子「……………無駄ですよ」

メイ「フェイタルソフト!!」

梨子に分身が襲う……………しかし

メイ「!？」

スカッ!

梨子「……………後ろですよ」

メイ「!?」

梨子「バニシングメロデー」

メイ「!?くっ」

メイに音の旋律が流れる

『消える音が炸裂だあ!!!』

梨子「海未さん!!」

海未「ナイスパスです!! 梨子」

ゴール前

愛「……………」

海未「行きます!!」

ドリブルを止めてある構えをする

海未「ハア!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る

海未「ラストリゾート!!!!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

白蘭「ラストリゾート!!」

『園田海未の究極のシュートだあ!!!!!!』

愛「……………」

ザッ

海未「!?」

ラブライブジャパン「!?」

結城「な、なに!?」

『な、なんとワールドレジスタンスのキーパーが飛び出したぞ!!』

海未「な、何を!？」

ルビィ「」

善子「ゴール前にルビィ!？」

花陽「という事はまさか」

凜「打ち返すんだにや!!!」

ルビィ「ハアアア!!!」

自分の右足に紫のオーラを纏う

ルビィ「ラアア!!」

ルビィは自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛んできた海未のラストリゾートを打ち返す。そして飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

ルビィ「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように右足で蹴る

ルビィ「うらあああ!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を左足で蹴る

ルビィ「ラストリゾートD!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

海未「つつつ!!!」

『な、なんとお!!!園田のラストリゾートに被せるようにラストリゾートDで打ち返したあ!!!』

海未「前は動けませんでした。けれど今回は違いますよ!!」

穂乃果、ことり「!!海未ちゃん!!」

海未「はあ!!!」

蹴り返そうとする

海未「ぐっ……………」

エメラ「無茶だ!」

海未「くっう……………」

少しずつ後ろに下がっていく

ツバサ「……………」

海未「……………おらあ
!!!!!!」

ぷちん
!!!!

海未「ルビイのシュート止めてやる
!!!!」

穂乃果「!!ま、まさか海未ちゃん」

海未「うらあ
!!!!!!」

ルビイ「!!ファイアカット!!」

ラストリゾートDのボールにファイアカットを当てる

海未「!？」

ガツン!!

ボールと海未が地面に落ちる

メイ「鞠莉!!」

メイはすかさずボールを拾いパスを回す

エメラ「海未!？」

海未「大丈夫ですよ、大した事はないですから」

真姫「DFよ!!」

鞠莉「ハロ!!」

ハロ「ナイスだ鞠莉」

千歌、梨子「はあ!!!」

ハロのボールを奪おうとする

ハロ「……………ニッ」

グオン!!

千歌、梨子「!?」

ハロ「月!!」

月「オーケイ!!」

一気に相手陣地まで上がっていく

結城「……ちとまずいな」

真姫「これ以上は行かせないわよ………」

手を大きく広げてその後手を体に当てる

真姫「アインザッツ!!!」

月「………緩いよ真姫ちゃん!!!」

グオン!!!

真姫「!?くっ」

月「………」

ことり「ゴール前固めるよ!!」

花丸、あんじゅ「了解(ずら)!!」

月「……………さあ輝夜さん!!愛ちゃん!!行くよ!!」

輝夜、愛「了解!!」

『な、なんとキーパーの早坂がここまで上がっていたあ!!!』

穂乃果「こいつ!!」

月「はあ!!!」

上にボールを蹴る

輝夜「はあ!!!」

すると剣で切りける様に足でボールを蹴る

穂乃果「月下乱舞?……………違う!!」

月下乱舞に似ているが違う……………それは切りける様に足でボールを蹴った後に月と愛がスタンバイしている!!

月「さあ、私達のシユート」

輝夜「刃を」

愛「喰らってください!!」

3人とも足から剣を伸ばしている

月、輝夜、愛「ルナティックソード
!!!!!!」

『3人技炸裂だあ
!!!!!!』

花丸「もちもち黄粉」

ことり「wonder」

あんじゅ「ジャムメン」

グオン
!!!!

花丸、ことり、あんじゅ「!?」

穂乃果「!?し、シュートも消えるの？」

月「これがルナティックタイムだよ穂乃果ちゃん」

穂乃果「止めてみせる!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!!」

ドカツ!!!

穂乃果「……………ぐう……………」

曜「穂乃果さん!!!」

穂乃果「つ、強い」

輝夜「!? 3人のシユートですよ!!」

愛「高坂穂乃果……………やはりバケモノですね」

月「だね……………けど」

穂乃果「重すぎる……………」

ザツザツ……

穂乃果「……………みんな、ごめん」

バシユン
!!!!

『ゴ、ゴール!!無敵を誇るGK高坂から渡辺、篠宮、早坂のシュート技でゴールを貫いた』

穂乃果「……………久しぶりにあんなに強いシュートを受けた」

ことり、海未「穂乃果（ちゃん）!!」

穂乃果「ご、ごめん、決められちゃった」

ことり「ことりこそごめんね何も出来なかった」

海未「私もすいません、またルビイに跳ね返されてしまいました……」

穂乃果「……悔しい。けど次は止めるよ！」

ことり「次は捉えてみせる！」

海未「次はねじ込みます!!」

結城「……いきはよし。だがこのままでは駄目だろうな」

果南「どうするんですか？結城さん」

にこ「そうよ、『ルナティックタイム』を破らない限り、勝てないわよ」

結城「……………仕方ない、予定より早いがこう!!」

エレナ「結城さん？」

結城「……………いや、まだ様子をみよう」

結城はエメラを見て言う

ダイヤ「……………エメラ」

エメラ「……………」

悔しさの中に生まれゆる闘志

前半15分

ラブライブ0対1ワールドレジスタンス

次回、
エメラの覚醒

ワールドレジスタンス戦 「エメラの覚醒」

前回のサッカー!!

お互い攻防が続く中ワールドレジスタンスが動く!! 必殺タクティクス 『ルナティツクタイム』により。翻弄されるラブライブジャパン。さらに月、輝夜、愛の3人シユート技により1点を許してしまう。ここからどうなるのか!!

ワールドレジスタンスと戦う6日前

合宿所

エメラ、ダイヤ、ルビィ「……………」

結城「来てくれたな、よしそれじゃあれん「待つてください」!?な、なんだエメラ?」

エメラ「結城さんは昨日私なら違う形でもあの技を完成させる事ができる、そう言いましたよね?」

ルビィ「あの技?」

ダイヤ「そういえばそれを聞いていませんでしたね」

結城「ちょうどいい、二人もこれを見てくれ」

パソコンを3人に見せる

「ダイヤ、ルビィ「動画？」

エメラ「……………」

ルビィ「!?あ、これライブジヤパンとサニデイジヤパンの試合の!？」

ダイヤ「ええ、そうですわ」

ルビィ「……………行くよ」

ルビイは髪留めを外す

(オト) 海未「髪留めを外した？」

ルビイ「……………」

ダイヤ「……………使うのですわね」

真姫「……………やりすぎちゃダメよルビイ」

(オト) ツバサ「コート上で髪留めを外すなんて余裕ね！」

ルビイにスライディングをしかける

だが

(オト) 海未「!!ツバサ危ないです!」

(オト) ツバサ「あ、熱い!!」

(オト) ツバサはスライディングを途中で止める

ルビイ「髪留めを取らないと焼け焦げちゃうから……………」
「ゴゴゴゴ」

エメラ「……………」

(オト) ダイヤ「……………」

(オト) 海未「!!何ですか、その姿」

ルビイの髪は揺れ、赤い巨大なオーラを放っていた。目も赤くなっている

ルビイ「ATP!!ここから反撃だよ!」



ルビィ「な、何これ、向こうのルビィ凄いい……」

エメラ「対面した時は驚いた、まさか自身を数倍強化する技があるんだと」

ダイヤ「違う世界のルビィですが、勝てるの？と思ってしまいましたからね」

ルビィ「確か、サニデイジャパンは予選が終わってすぐだったよね」

結城「ああ、想定外の強さだった……だから俺は次の戦いに興味を持ってしまった、それでお前らをもう一度鍛える事を選んだんだ」

ルビィ「それでわざわざ、アドバンチュールを作ったんですね」

結城「ああ、危機あるバトルが最も力を高めると思ったからな」

ダイヤ「……………Awaken the powerをエメラが習得する事が出来るんですか？しかも再戦はともあれ、6日後には試合ですよ」

エメラ「……………はつきり言います、無理です」

結城「……………」

ダイヤ、ルビィ「無理!？」

エメラ「実際、向こうのルビィ、理亞がAwaken the powerになつて
いるのは見たけれどそれだけじゃ足りないですし、それにルビィと理亞の顔を見てた
らどれだけ苦労したか、伝わってきたよ。だからほとんどゼロから作り出すのは無理、
ましてや6日後なんて」

結城「……………」

エメラ「けど、それとは別にやってみたい事があります」

ダイヤ、ルビィ「!？」

結城「やってみたい事？」

エメラ「諦めていました……………けど、この技を作り上げるなら今しかない!!なのでその技を完成させます!!サニデイジャパンに勝つために!!」

}

|

『前半15分が経ち、互角かと思いきや、ワールドレジスタンスのタクティクス『ルナティックタイム』によってペースを掴んだワールドレジスタンス。ラブライブジャパンも必死に守り抜くが渡辺、篠宮、早坂の必殺技『ルナティックソード』には叶わず一点を決められてしまったぞ!!ここからどうするのか!!』

海未「……………さて、どう攻めましょうか」

ツバサ「ルナティックタイムがある限りは下手には攻められない……………」

月「……………ふう、一旦解除しよう輝夜さん」

輝夜「そうですね、試合は始まったばかりですしね」

すると月が消えて、辺りに光が戻る

エメラ「解除した？」

ダイヤ「とりあえず危機は去りましたね」

果南「……………そーでもないと思うよ」

ダイヤ「!？」

にこ「こっちは何にも分かっていないのに戻されたのよ、一つでも特徴を掴む事が出来たなら別だけど今回は掴めてない。だから相手はいつでも使用できる。厄介な戦法ね」

結城「そうだな……………」

果南「……………相手、相当強いなあ、今まで戦ってきた中で一番かも」

にこ「……………ええ、私達も考えるわよ対策を」

結城「……………（どうする？エメラ）」

エメラ「……………」

海未「エメラ」

エメラ「海未、ツバサ、何本か私にシユートを打たせて」

海未、ツバサ「!？」

エメラ「お願い、1点に繋げて見せる」

ツバサ「何か、あるのねエメラ」

エメラ「……………」黙って頷く

海未「分かりました、私達も全力でフォローします!!」

エメラ「ありがとう!」

海未、ツバサ「……………」

月「……………何か企んでるね」

『ラブライブジャパンのキックオフです』

ピー!!!

海未「ツバサ!!」

ツバサ「さあ、行くわよ」

海未、ツバサは同時に上がっていく

エメラ「……………」

海未「さあ、行きますよ!!」

フェイ「行かせないよ!!」

胸で手をまわし空気の塊を作り出す

海未「……………」

フェイ「エアー!!バレット!!」

空気の塊を海未に蹴る

海未「スプリントワープ!!!」

ギョングョングョングョングン!!

フェイ「!!エアーパーレットが!?!」

海未「……………甘いですよ」

そろそろ、エメラにパスですね

海未「エメラ!!」

エメラにパスが飛ぶ

エメラ「……………!?!」

だかしかし

ルビィ「パスさせません!!」

エメラ「なっ!」

『黒澤ルビィがカットだあ!!』

ルビィ「さてと、月さ「アインザッツ!!」!？」

一瞬油断するのを狙って誰かがボールを奪う

真姫「甘いわよ、ルビィ」

ルビィ「!!ま、真姫さん！」

真姫「さあ!!エメラ!!」

今度こそ、エメラにパスが渡る

エメラ「ありがとう、行くよ！」

エメラは炎の力を足に貯めて回転しながら上に上がる

月「!!ファイアトルネードか」

エメラ「ファイアトルネード!!!」

炎のボールがゴールに向かう

愛「……………」

両手に力を込める

愛「ふう!!!」

そして両手を合わせて月夜紋章が描かれた盾を作り出し右手にこめる

愛「王家の盾!!」

振りかぶってボールにぶつける

愛 「はあ!!!」

ギユルルルル

愛 「その程度で点が決められるとでも思った?」

『早坂!!見事にキヤッチしたぞ!!!』

愛 「まだまだですね」

エメラ 「……………」

愛 「その程度ではゴールは渡しませんよ」

エメラ「……………」

結城「……………へえ（冷静そのものじゃねえか）」

愛「メイさん!!」

メイ「……………輝夜!!」

輝夜「ナイスパ「甘いですよ!!」!?なっ」

海未「……………攻撃はまだ終わりません!!」

『園田がカット!!再びラブライブジャパンのボールだ!!』

ツバサ「海未!!」

海未「……………」

海未は心配していた、本当に大丈夫なのだろうか、エメラはシュートを打つ、決めると言ったけれど本当に大丈夫なのか？

海未「…………ツバサ!!」

ツバサ「!!」

ルビィ「行かせません!!」

ツバサ「…………shocking slash!!」

ルビィ「!?!」

ルビィを抜き去る

メイ「もう、行かせませんよ」

ツバサ「……………!!エメラ!!」

メイ「!？」

エメラ「ナイスパス！」

『ふ、再び。一対一だ!!』

愛「……………」

エメラ「……………行くよ!!」

足でボールを軽く挟んで一回転させる

エメラ「吹き荒れろ!!」

そしてボールが氷を纏って上に上がっていく

エメラ「……………」

自身もゆっくり回転しながらボールに合わせて跳びシュートを放つ

エメラ「エターナルブリザード!!」

『で、出たああ!?!黒澤エメラの氷の技だああ!!!!!!』

聖良「エターナルブリザード!?!」

理亞「懐かしい……………けどその威力じゃ」

愛「ふう!!!」

そして両手を合わせて月夜紋章が描かれた盾を作り出し右手にこめる

愛「王家の盾!!」

振りかぶってボールにぶつける

愛「はあ!!!」

ギョルルルル

愛「……………」

『と、止めたああ!!、エメラのシユートが2度も止められたああ!!』

愛「その技、貴方の初めてのシユート技でしょう？舐めてるの」

エメラ「……………」

聖良「エメラは焦ってる……………」

理亞「うん、普通ならシャーク・ザ・ディープを打つ筈。でもなんで」

海未「エメラ!!何をしてるんですか!?!」

エメラ「……………」

ツバサ「そうよ、流石に可笑しいわ、なんで貴方は決まらなと分かつて打っているの？」

エメラ「……………」

真姫「私はそれでいいと思うわ」

海未、ツバサ「!?真姫」

真姫「……………なんとなくエメラがやってる事は分かる、意味があるからしてるのよね
? エメラ」

エメラ「……………うん」

海未「意味がある？」

ダイヤ「大丈夫ですわ、聖良さん理亞さん」

聖良「ダイヤさん？」

ダイヤ「……………エメラは練習しているのです、今の状況でも。あの技を成功させるために」

理亞「あの技？」

ダイヤ「……………見ていてくれたら分かりますと思います」

エメラ「……………」

エメラは落ち着いている様に見えるが少し焦っていた。成功しなかったら、どうしようか……………がしかしエメラの成功への執念がエメラの焦りを消していた

エメラ「今は考えない、私の出来ることをやる、そして必ず完成させる。それが勝つために必要なことだから」

愛「……………何かありそうですね」

黄粉子「愛ちゃん!!」

愛「頼みます!!」

黄粉子「いく、やんね!!」

海未「……喰らえ」

海未は手から無数の矢を作り出し相手に投げる

海未「アーツドロー!!」

矢で相手の動きを止める、その隙に海未はボールを奪い取る

が……しかし

黄粉子「当たらないやんね!!」

空中に居た

海未「!?それは」

黄粉子「スカイウォーク!!」

海未「躲された……………」

黄粉子「キャプテン!!!」

月「……………さあ、もういって「つめが甘いんじゃない?」!?」

絵里がパスコースに居た

月「しまっ!?!」

黄粉子「ボールは渡さないやんね!!」

もちもち黄粉餅をなんとボールに伸ばす

絵里「!？」

黄粉子「まだ、こっちのターン!!」

『な、なんと自身のパスミスを自身で取り返した!!』

絵里「くっ!!」

黄粉子「……………ルビィちゃん!!」

ルビィ「……………」

走って来ていた

絵里「来るわね」

ルビィ「疾風ダツシユ!!」

急激にスピードを上げて絵里を抜く

絵里「!？」

ルビィ「ハロさん!!」

ハロ「ナイスパス」

真姫「行かせないわよ!!」

ハロ「……………」

ボールを上を蹴る

真姫「!?!」

ハロ「黒き刻剣」

そう言つて自身も飛び上がる

ハロ「ブラックビート!!」

剣を出して地面に突き刺す

真姫「!!くっ」

刺さった瞬間、真姫は膝をつく

ハロ「……………少し止まってね」

真姫「ち、力が」

『ハロの必殺技が炸裂!!!』

ハロ「メイ!!!」

メイ「ふふ、私にボールが回ってきたね」

メイがドリブルで上がる

あんじゅ「止める!!!」

メイ「……………ふふ!!」

エラシコ、ルーレット

あんじゆ「くっ……」

メイ「もらったよ!!」

あんじゆは翻弄され抜かれる

『キーパーと一対一だあ!!!』

メイ「さあ、喰らえ!!!」

隣の地面に影の自分を生み出してそれと同時に飛び上がる

メイ「シャドー・クロスバイパー!!」

本体と影がクロスして蹴り、そのシュートはゴールに向かう

穂乃果「止めるよ!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!!」

ドカッ!!!

穂乃果「ハア
!!!!!!!」

バシユウ!!!

『と、止めましたあああ!!高坂、見事に敵のシユートをキャッチ!!!』

穂乃果「いいシユートだね!!」

メイ「……………」ニッ

フエイ「楽しそうだね」

メイ「ええ、楽しくない訳がない」

フエイ「ふふ、楽しもつか!!」

果南「流石、穂乃果ちゃん」

にこ「ここぞと言う時は止める、それが穂乃果よ」

結城「が、しかし以前こちらのピンチには変わりない。次、穂乃果まで到着したら交代だ……」

穂乃果「……………」

真姫「穂乃果!!」

穂乃果「頼んだよ!!真姫ちゃん!!」

真姫「……………エメラ!!聞きなさい!!!」

エメラ「!?」

真姫「エメラが頑張ってるのはよく分かってる!!だから、くよくよせず突き進みなさい!!!」

エメラ「真姫!?」

真姫「信じてるから、私達みんなエメラを!!」

エメラ「……………!!」

前に走る

真姫「そう、それでいいのよ!!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「p s y c h i c A r t s V 5 !!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールはセンターラインに向かう

月「!?進化した!?!」

エメラ「……………」

エメラは p s y c h i c A r t s を信じて前に走る、届く、そう思い

エメラ「……………きたっ!!」

トラップ

ルビィ「行かせない!!」

愛「ルビィ!!任せて」

ルビィ「愛さん!?!……………分かった!!」

ルビィはどく

愛「来い!!!」

エメラ「見せてやる、私の技を!!」

すると、エメラはボールを足で挟んで一回転させる

聖良「あれは、エターナルブリザード!?!」

ダイヤ「……あれをやるつもりなんですわね!!」

聖良、理亞「あれ!?!」

エメラ「……吹き荒れる……そして!!」

さつきは完全にボールが氷に覆われていたが。今回は違う!!

ルビィ「半分だけ氷?」

エメラ「燃え上がれ!!」

するとボールの半分が炎で覆われた

愛「!？」

聖良、理亞「!？氷と炎!？」

結城「……………やったな、エメラ」

エメラ「はあ!!!混ざれ!!二つの力!!!」

そしてエメラも飛び上がる

ルビィ「!!く、来る!？」

エメラ「はあ!!!!」

なんと右足に炎、左足に氷の力を込めて交差するように蹴る、そして

エメラ「喰らえ!!!」

その後、両足でボールを蹴る!!

エメラ「クロス・トルネード!!!!」

バシユン!!!!

『炎と氷が混ざったシュートがゴールむかったあ
!!!!!!』

!!
「ダイヤ「……………やりましたね、鹿角、黒澤。両方を経験したからこそ出来る技ですわ」

エメラ「……………」

愛「……………ま、まさかこんな強力なシュートが来るとは。けれど絶対に決めさせない」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリング!!」

そしてそのリングがクロス・トルネードを止める!!!

愛「はあ!!!!」

ガッ!!!!

愛「……………」

『な、な、な!!!!!!氷と炎よるシュートクロス・トルネードを早坂の新たな技アルテミスリングで止めたぞ!!!!』

愛「いいシュートだ、けれどこれじゃあゴールはあげないよ」

エメラ「……………」

ダイヤ「……………まさか、エメラ」

聖良「止められましたね……………」

理亞「凄まじい、威力だったのに」

ダイヤ「おそらく、あれは完成してない」

聖良、理亞「!？」

にこ「あれの上があるっての!?!。それかなりの威力よ!!」

果南「本当に完成じゃないのなら、間違いなく、決められる」

ルビィ「……………（練習では一度も完成しなかったのに）流石にエメラお姉ちゃん!!」

エメラ「……………」

海未「いいシユートでしたよ、エメラ」

エメラ「……………ありがとう、海未」

海未「……………納得いってないみたいですね」

エメラ「……………うん、まだいけるよ」

海未「……………ふふ、その息です!!次は決めてくださいね」

戻る

エメラ「……………」

愛「……………輝夜様!!」

輝夜「月さん、使いましょう!!」

月「了解!!」

月と輝夜は向かい合わせになる

結城「来る……………」

月&輝夜「はあああああ
!!!!!!」

すると月と輝夜の頭上に大きな月が現れる

月&輝夜「必殺タクテイクス!!」

そう言うとスタジムが光に包まれる

ビシユン
!!!!

月&輝夜『ルナティックタイム』

スタジムが夜の様に暗くなり。上には大きな月が浮かんでいる

『再び、ルナティックタイムだあ!!!』

海未「くっ、またですか」

月「さあ、もう一点取るよ!!!」

ドリブルで上がっていく

千歌「させない!!!」

スライディングを仕掛ける

月「……………」

グオン!!!

千歌「くっ……………やっぱり」

月がどどん上がつていく

月「このままじゃ、またゴールまで行っちやうよ!!」

『ラブライブジャパン、またもやピンチだあ!!!』

ことり「わ、私の wonder zoneも通用しない」

花丸、あんじゅ「……………どうすれば」

月がDF陣まで差し掛かろうとした時

エメラ「……………」

ことり、花丸、あんじゅ「!？」

ダイヤ「エメラ!？」

海未「無茶です!!」

エメラ「……………止める」

月「……………無理だよ!!!」

月はドリブルで抜きにかかる

エメラ「……………」

グオン!!!

月「……………ふふ、ルナティックタイムは止められ!？」

エメラ「……………」

月「え、なんでエメラちゃんが僕の前に」

エメラ「……………」ガッ!!

月「!?ボールが取られ」

ダイヤ「!?」

ガタン!!

結城「おいおい、嘘だろ」

曜「結城さん……………もしかして!!!」

海未「あれってツバサ。もしかして」

ツバサ「ええ、あの気迫、オーラ。そして目から出てる線。入ったわね」

エメラ「……………」

ゾーンに!!!

炎氷の女王が今覚醒す

次回、譲らない試合

ワールドレジスタンス「譲らない試合」

前回のサッカー!!

ワールドレジスタンスの「ルナティックタイム」に苦しめられる中エメラが果敢にも攻める、そんな中エメラは新必殺技「クロストルネード」を完成させるが止められてしまう。だがその後エメラに変化が!?

試合の3日前

エメラ 「ハアハアハア」

ダイヤ 「エメラ!!あと少しですよ!!」

エメラ「……………分かってます……………ハアハアハア」

ルビィ「(す、凄い汗だ)」

エメラ「はあ
!!!!!!」

エメラ「……………今日はこれで終わり」

ダイヤ「だ、大丈夫ですか!？」

エメラ「姉様……………大丈夫だよ」

ルビィ「……………エメラお姉ちゃん」

エメラ「大丈夫だから……………」

ふらふらと体を動かしながら言う

ダイヤ、ルビィ「!？」

エメラ「ちよ、ちよつと結城さんの所に行ってくる」

ダイヤ「きゅ、休憩してからでも!!」
エメラ「大丈夫……だよ」

ふらふら

監督部屋

結城「……………」

コンコン

結城「はいつていいぞ」

ガチャ扉を開ける

エメラ「し、失礼します」

結城「!?エメラお前大丈夫か!?ちよつと座れ!!氷と水出すから」

エメラ「ありがとうございます」

………

結城「落ち着いたか？」

エメラ「ゴクツゴクツ………はい、大丈夫です」

結城「どうしたんだ？エメラ？」

エメラ「一つ聞きたいことがあります」

結城「聞きたいこと？」

エメラ「はい、ゾーンについて」

結城「!？」

結城は混乱していた、まさかゾーンの聞かれるとは思ってもいなかったから

エメラ「私を作る技、クロス・トルネード。この技は今の状態でも。打つ事が出来る
と思うんです、けどその先の技を打つには何もかも足りない」

結城「クロス・トルネード………ファイアトルネードとエターナルブリザードの合体

進化技……と言うことか」

エメラ「はい……でも、クロス・トルネードは未完成なんです。 未完の技なんです」

結城「未完の技……」

エメラ「その為にも、結城さんにゾーンの引き金の引き方を教え欲しいんです」

結城「……ゾーンが何かは分かっているのか？」

エメラ「極限の集中状態ですよ」

結城「そうだ、その他にも色々ある……がしかし、誰が誰でも入れる訳じゃねえぞほんの一部の人間しか入れないんだぞ」

エメラ「分かっています……」

結城「……お前の引き金、トリガーは……」

ゾーン……それはスポーツ選手などが、稀に入ることができる領域、だがその扉は

—

硬く、並の選手では門の前に立つ事すら許されない、さらに天才でも気まぐれにしか開く事はない……………

だが、今回のエメラは自身への怒りと仲間への意思のせいか、自力で扉をこじ開ける

エメラ「……………」ジジジ

月「まさか、エメラちゃんがゾーンだなんてね。驚いたよ……………けど負けないよ!!」

月はスライディングを仕掛ける

エメラ「……………通るよ」

月「!!」

ビュン!!!

エメラ「……………」

ダツダツダツタツ

エメラは今より早く、鋭い

『は、早い!!黒澤エメラ。渡辺月を一気に抜き去り、あっという間にセンターラインだ
!!』

エメラ「……………」

月「通すな!!!」

ハロ、輝夜「くっ!!」

結城「無駄だぜ」

ダイヤ「結城さん!!」

結城「……………人間ってのは100%の力を出す事が出来ねえようになってる。リミッターがあるからな」

ダイヤ「と、言う事はエメラは」

結城「ああ、エメラはその100%を出してドリブルしている。しかもエメラクラス
のゾーンだ……………今までの数倍は早いだろうよ」

輝夜、ハロ「!?!」

ギユン!!ビュン!!

エメラ「……………」

『一気に3人抜きだ!!!』

ルビィ「こ、これ以上は絶対に行かせない!!!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!!ぜい!!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!!」

エメラ「……………!!!」

エメラは上にボールを打ち上げて氷を作り出す

それをファイアカットに落とす

エメラ「アイスバラガン神!!!」

ガキン
!!!!

ルビィ「!?ほ、炎が凍った!?!」

そして、エメラは一気にゴール前に

エメラ「……………」

愛「こい!!」

『3回目の対決だっ!!!』

エメラ「はあ!!!!!!」

ある構えをする!

「!?あ、あの構えは」

海未「まさか、ラストリゾート!？」

ダイヤ「ち、違う!!」

「!?」

エメラ「うらあ!!!!!!」

右足に炎、左足に氷を纏う

エメラ「おらあ!!!!!!」

頭上に浮き上がっている、エネルギーの塊に投げつけるように右足の炎、左足の氷を

蹴る

するとエネルギーの塊は色が赤と青が混ざった色になる

「!?」

エメラ「喰らえ!!」

そして、エメラは飛び上がり、回転しながらエネルギーの塊まで飛び上がり、オーバーヘッドを放つ

エメラ「ジ・メドローア!!!」

ギューーンピシユン!!!

赤と青の光の球がゴールに向かう

愛「……………はあ!!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリング!!」

そしてそのリングがジ・メドローアを止める!!!

愛「はあ!!!」

リングは確かにシュートを捉える……………だが

愛「ぐっ……………」

ザツザツ——

愛「こ、これ程までの威力か」

エメラ「……………」

自陣に戻ろうとする

愛「ぐう……………うおおおおお」

エメラ「無駄だよ、この技は究極の炎と氷力。止められはしない」

愛「?!?!」

エメラ「姉様……………いや、お姉ちゃん台詞使わせてもらおうよ」

愛「ぐあああああ!!!」

バシユン!!!!

エメラ「黒澤家に必要なのは勝利のみ」

『ゴ、ゴーーーーール!!! な、なんとお！黒澤エメラが新必殺技!!ジ・メドロアを完成させてついに鉄壁のキーパーからゴールを奪取したあああああ
!!!!!!』

エメラ「……………」ニツ

海未、ツバサ「エメラ!!!」

海未「よくやってくれましたエメラ!!」

ツバサ「ふふ、いいシュートだったわ」

エメラ「ありがとう!!」

ダイヤ「ふふ、いいシュートですね。エメラ」

果南「負けてられなくなっただねダイヤ」

ダイヤ「ええ!! そうですわ」

輝夜「早坂!!! 大丈夫!?!」

愛「す、すいません輝夜様。不覚をとってしまいました」

輝夜「いや、仕方ないわ。あんな威力の技、止めろと言う方が難しいです……………」

愛「ま、まさか、試合中に完成させるなんて」

ルビィ「これがエメラお姉ちゃんです!!」

愛「ルビィ!？」

輝夜「……………ふっ、ルビィさん。決められたのに目が輝いてますね」

ルビィ「嬉しいんです、今は敵だけどエメラお姉ちゃんが技を完成させたんだ!!あんなに凄い技を!!」

愛「……………そうですね。でも次は止める」

ルビィ「うん!ルビィもサポートします!!」

輝夜「……………ほんと、黒澤3姉妹。羨ましいですね」ボソつと言う

『さ、さあ!!!ラブライブジャパンが1点を取り返し、1対1で並んだぞ!!!前半も残り15分、ここからどーなるのかあ!!!』

結城「……………交代はやめだな」

ベンチ「!？」

結城「が、しかし後半になった瞬間、ここ、果南、エレナ、聖良は交代だ！」

ここ、果南、エレナ、聖良「はい！」

結城「……………ここ、ルナティックタイム破れそうか？」

ここ「……………あと数回見たら分かるかも知れません」

結城「そうか……………頼んだぞ」

ここ「はい……」

結城「……………」

フェイ「……………まさか、こんなにも早く同点にされるとね」

ユリカ「うん、想定外だよ……………でも、勝てるよ!! 私達なら!!」

フェイ「うん!! そうだね。相手はルナティックタイムを攻略出来ていない」

ユリカ「現時点で敗れるのは」

エメラ「……………」

フェイ、ユリカ「ゾーン状態のエメラのみ」

月「なら攻めるチャンスは必ずある……………」

輝夜「ええ、攻められます!!」

『ワールドレジスタンスボールからキックオフです』

ピーー!!

フェイ「月!!」

月「……………」

エメラ「……………」ギュン!!!

月「な!早っ!」

ザシュツ!!

『エメラ、ボールを奪取!!』

エメラ「……………」

ドリブルで上がっていく

フエイ、ユリカ、ハロ「止める!!」

3方向からスライディング

エメラ「……………!!」

エメラは斜め前にボールを蹴る……だが

輝夜「ナイスです！焦ってパスミスを「ミスなんかしてませんよエメラは」!?!」
ギユンギユンギユンギユン!!!

海未「私が追いつくだけですから」

輝夜「!?!」

海未「ナイスパスです!!」

メイ、ルビィ「行かせない!!」

海未「任せましたよ！ツバサ!!」

ツバサ「ナイスパスよ海未」

『綺羅がフリーだ!!!』

ツバサ「さあ、私の華麗なボールを見なさい!!」

そうやってボールを足に乗せて、上にあげる

ツバサ「フツ!!」

手を上に上げて、下ろす。すると5つの色の違うボールが現れる、そしてそのボールを頭の上で回し、色が混ざる、その光景はまさにサーカス!!

ツバサ「マキシمامサーカス!!!」

5色を混ぜ合わせたボールがゴールに向かう

愛「……………これ以上、点はあげません!!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリング!!」

そしてそのリングがマキシمامサーカスを止める!!!

愛「はあ!!!」

バチユン!!!!!!

愛「……………」

『と、止めたああ!!ラブライブジャパン、追加点ならず……………』

ツバサ「ふふ、どう？私のサーカスは？」

愛「……………やりますね、けど。もう点はあげませんよ」

ツバサ「ふふ♪」

海未「……………ナイスシュートです」

ツバサ「流石に決められなかったかあ」

海未「大丈夫ですよ、もう一点は」

エメラ「……………」

ツバサ「そうね」

愛「……………」

ルビィ「愛さん!!」

愛「ルビィ!!」

ルビィ「……………」

エメラ「……………」

ルビィ「……………疾風ダッシュ!!!」
超スピードでエメラを抜き去る
だが

エメラ「!!」

すぐさまエメラも追いつく

ルビィ「やるね、エメラお姉ちゃん」

エメラ「ルビィもね……………」

ルビィ「けどね、まだまだだね」

エメラ「?……………!?!」

後ろを向く

月、輝夜「……………」

『な、なんとお!!ボールがいつの間にか渡辺と篠宮の元に!?!』

エメラ「ルナティックタイム……………!!」

月「さあ、準備はいい?」

愛「ええ、もちろん」

ラブライブジャパン「!?!」

結城「くっ!!ルビィを隠れ蓑にして上がってきたのか!?!」

智和「さあ、どうするラブライブジャパン?」

月、輝夜、愛「はあ!!!」

すると輝夜は剣で切りける様に足でボールを蹴る

穂乃果「くっ……………」

切りける様に足でボールを蹴った後に月と愛がスタンバイしている!!

月、輝夜、愛「喰らえ!!」

3人とも足から剣を伸ばしている

月、輝夜、愛「ルナティックソード
!!!!!!」

『再び、ゴールを破った技が炸裂だあ
!!!!!!』

穂乃果「やるしかない……………止めるしかないっ!!!」

穂乃果は構える

エメラ「穂乃果!!」

穂乃果「!?!」

エメラ「私が、シュートブロックする!!だから止めて!!」

穂乃果「!?き、消えるから止められない筈」

エメラ「大丈夫!!」

ザツ！

エメラはルナティックソードのシユートコースの真正面に立つ

月「……………!?ま、まさかエメラちゃん」

エメラ「蹴るのもだめ、技もダメなら」

ゴゴゴゴ、シユン!!!!

エメラ「!!体で止めるっ!!!!」

ドガン!!!!

「?!?!」

エメラ「が、ぐう……………」

ダイヤ「や、やめなさい!!!エメラ!!それでは貴方の体が!!!」

エメラ「……………ぐ……………ここ、ここで決められる方がしんどい……………」

ザツザツザツ——

エメラはどんだん後ろに押されていく

エメラ「かはっ……………ハアハア」

輝夜「う、嘘でしょ？」

愛「……………」

エメラ「……………そ、そろそろ限界……………穂乃果!!……………頼んだよ!!」

エメラは最後の力を振り絞り、ボールから抜け出す

千歌、梨子、絵里「え、エメラ!!!」

エメラ「……………」

穂乃果「……………エメラちゃんの想い、そして頑張りを絶対に無駄にしない!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないV2!!!」

ドカッ!!

月「!?し、進化した!?!」

穂乃果「ぐ、ぎぎぎぎ、と、止める!!絶対に止める!!!」

バシユウ!!!

穂乃果「ふう……………止まった」

『と、止めたあ!!!』なんと、黒澤エメラの体を貼ったブロック。そして高坂の技の進化により、シユートを見事キャッチしたあ!!!』

月「……………ふふ、本当に面白いね君達は」

穂乃果「ありがとうエメラちゃん」

エメラ「……………ハアハアハアハア」

手をあげる

真姫「穂乃果!!」

穂乃果「!!真姫ちゃん!!」

輝夜「DFですわね!!」

真姫「……………このボール無駄にはしないっ!!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「p s y c h i c A r t s v 3 !!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールはセンターラインに向かう

海未、ツバサ「……………」

既に二人は前に走っている

ハロ「…………… p s y c h i c A r t s はあんな所まで届かないよね……………誰に出して
!?!」

ことり「……………行きます!!!」

『な、なんと!?! DFの南ことりが上がっている』

月「ことりちゃん!?!」

ことりにパスが届く

ハロ「行かせない!!」

ことり「……………wonder zone!!!」

ことりの周りが虹の輝きのように光る

ハロ「!?!」

ことり「入って来ないでください!!!」

そう言っただりブルで上がっていく

メイ「……………」

ことり「……………ツバサさん!!!」

ツバサ「ナイスよことり」

ルビィ「……………行かせません」

ツバサ「……………」ニッ

ルビィ「!?」

ツバサ「さあ、今度こそ決めなさいよ！海未！」

海未「任せてください!!」

愛、月、輝夜「……………」

三人はゴール前で立ち塞がっている

海未「……………行きます!!」

ある構えをする

海未「ハア!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る

海未「ラストリゾート!!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

海未「喰らえ!!!」

愛「……………」

月、輝夜「私たちがついてる!!!」

愛「!?……………はい!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリング!!」

そしてそのリングがラストリゾートを止める!!!

愛「はあ!!!!」

調整の戦いが最高の戦いを生む!!

次回、タクティクスを攻略せよ

ワールドレジスタンス戦 「タクティクスを攻略せよ」

前回のっ！サッカー！！

エメラがゾーンに入り、圧倒的な力で一点をもぎ取り点差を埋め同点に！！だがワールドレジスタンスも負けじと応戦し同点のまま前半が終了！！ここからどうなるのか!？

『前半終了です!!点数は1対1!!ここからどうなるのでしょうか!』

結城「……………1対1か……………まあ上々だな」

果南「確かに、何点か入られてた可能性がある所ありましたもんね」

にこ「……………」

結城「……………ああ、ハーフタイム中に指示を出す。ワールドレジスタンスを倒す指示をな」

智和「……………予想外だな、意外と粘られたか。それに結城は攻略を練ってくる筈。ふふ、楽しみだが……………やすやすとやられるわけにもいかんな」

選手達が控え室に戻っていく

花陽「1対1かあ」

善子「……………1対1で、すんでよかったわね」

凜「善子ちゃん!?!」

善子「前半戦、もつと点を入れられていてもおかしくない場面が何度かあった。だからよ」

花陽「……………確かにそうだね」

凜「……………」

ラブライブジャパン side

結城「前半戦お疲れ様」

エメラ「はい……………」

結城「(ゾーンも解けてるみたいだな)」

海未「かなり、しんどい前半でしたが、ナイスですエメラ」

エメラ「ありがとう、海未」

フラッ

海未「!?」

「!?エメラ(ちゃん、さん)!?」

エメラ「ハアハアハア……」

エメラはもたれ掛かる

結城「……………(こんなに消耗するとはやはり、あいつら) まあ、座つて。真姫俺の鞆から飴とスポーツドリンクを」

真姫「はい!」

取り出して、エメラに渡す

真姫「はい」

エメラ「ありがとう」ゴクゴク

結城「相手は強い、エメラがゾーンに入っても一点しか取れなかった。エメラ、もう一点取るつもりだったろ?」

エメラ「はい……………」

結城「そして、海未のラストリゾート、ツバサの新技も相手の連携でだが決め切れる事が出来なかった、それにまだこっちは『ルナティックタイム』に対応できてねえ……相性もあるが後半。相手はもつともつと攻めてくるぞ」

海未「……………分かってます」

ツバサ「……………」

あんじゅ「ことりさんは通用してますよ！」

結城「ルナティックタイムがない時はな。だから一刻も早く攻略法を見つけろしかない。そこで、後半からは。果南、にこ、エレナ、ダイヤに出てもらおう」

果南、にこ、エレナ、ダイヤ「……………」

結城「交代するのはツバサ、千歌、あんじゅ、花丸だ」

聖良「と、言うことはDFは2人!？」

にこ「……………大丈夫よ、にこに任せなさい」

結城「後半からは3―2―3―2―1で行く」

聖良「いくら、にこさんとはいえ今のこの状況でDF2人二人って大丈夫なんですか

？」

結城「……………大丈夫だルナティックタイムを攻略するための陣形だからな」

「!？」

「ここに……………私が攻略法を見つけて見せるわ」

聖良「にこさん……………」

絵里「エレナ……………分析はどう？」

エレナ「まだまだだ。少々キツそうだが。まあいけると思うぞ」

絵里「頼むわね、勝つためには貴方の分析が必要よ」

エレナ「分かっている」

ダイヤ「エメラ！凄いですわね」

エメラ「お姉ちゃん……………」

ダイヤ「ゾーンについて行けるよう私も頑張ります!!」

エメラ「うん！」

結城「……………後半の説明をする。まず、後半初っ端は攻めろ、「だってだって臆無情」
「王の一閃」などを使って攻めるんだ。そして可能性ならば一点取ってこい。FW、MF
はボールを持ったら「王の一閃」の使用以外は上がれないな？」

絵里「そ、それではDFが手薄になりますよ!？」

結城「大丈夫だ、ことりとにこと穂乃果は全力で守りをしてもらう」

穂乃果「もう、一点もあげない!!」

ことり「……………」

にこ「……………ことり、ちよつといい?」

ことり「にこちゃん?」

穂乃果「よーしみんな!!後半も盛りがって行こう!!」

「はい!!」

ワールドレジスタンス side

智和「前半戦お疲れ様」

月「はい……………いやあ、あと1点取りたかったあゝ」

鞠莉「そうね〜思ったより粘られたわ」

ルビィ「……………ゾーン」

智和「ゾーンに関しては予想外だ……………まさかエメラちゃんが入るなんてな」

愛「……………次は止めますよ。絶対にね」

輝夜「……………あれを止められるの？」

愛「……………はい、あの技なら」

輝夜「早坂……………」

智和「まあ、後半直後は流石にゾーンは無い。さらにいえば、後半はにこちゃんや果

南ちゃんも出てくるだろう。DFはよりきついものになる……………」

月「……………僕の予想だけどFWとMFが一気に上がってくる気がする」

智和「……………月、その根拠は？」

月「……………ベンチにいる時からずっと私達を観察していたからねにこさんは。だから

動きを見るためにFW、MFは上がらせて、DFだけで止めるつもりだよおそらく」

智和「……………ならほどな」

白蘭「こつちが有利に変わらないな」

ハロ「…………いや、矢澤と言う人は侮つとはいけない。私の感がそう言ってます」
メイ「同じくよ。下手したら「ルナティックタイム」も攻略されるかも」
智和「……………いずれにせよ、「ルナティックタイム」は連発できない。していいのは決
められると確信した時だけ」

ワールドレジスタンス「……………」

智和「そして、一つ指示がある。フェイちゃん、ユリカちゃん、白蘭
ちゃん」

フェイ、ユリカ、白蘭「はい！」

智和「後半、メインは君達だ」

フェイ「……………やっただね」

ユリカ「うん、ガンガン行くよ」

白蘭「……………」

智和「あとだな。もうすぐ、あいつが帰ってくる。注意するんだな」

鞠莉「……………」

智和「まあ思いつきりいけ!!いいいな？」

はい
!!!!!!

ラブライブジャパンスide

エメラ「……………」

ダイヤ「エメラ大丈夫ですか？」

エメラ「うん、大丈夫」

ダイヤ「……………エメラは一人だけの技が出来たら……………なら今度は私の番ですね」

エメラ「!?お姉ちゃんには「演舞炎帝」がある「いや、それだけでは足りませんわ」!?」

ダイヤ「ダブルで抜いたとしても。自らシユートを決められなければ意味がないで

すわ」

エメラ「……………」

ダイヤ「……………自分だけの技ならずと練習してきた」

エメラ「……………流石、お姉ちゃん」

ダイヤ「ふふ、でしょ？」

エメラ「頑張りましょうね！」

ダイヤ「ええ!!」

ことり「!?そ、それでいいの」

にこ「ええ、相手がああ技を使う時のみ、wonder zoneを一瞬だけ使いな

さい」

ことり「……………で、でもこれで、穂乃果ちゃんが止めるのは限らない」

にこ「……………穂乃果を信じなさい」

ことり「……………」

海未「……………穂乃果」

穂乃果「……………何？海未ちゃん？」

海未「穂乃果、らしくないですね」

穂乃果「!!」

海未「……………ゴールを破れてから考え事ですか？」

穂乃果「……………うん、どうしたら完全に止められるかなって」

海未「……………穂乃果らしくない」

穂乃果「……………海未ちゃん」

海未「穂乃果ならここで次は止めるって言う」

穂乃果「……………」

海未「高坂穂乃果!!! 貴方はラブライブジャパンの守護神でしょ!! なら止めるんだよ!! 死ぬ気で!! それでこれまでも止めてきた!!!」

穂乃果「海未ちゃん!!」

穂乃果は驚いた顔で言う

海未「……………だから、貴方の力を見せてください。穂乃果」

穂乃果「うん!!!」

絵里「なんか学校での光景を見てみたい」

にこ「そうね」

真姫「これで穂乃果は大丈夫ね」

絵里「ねえ、あの技やらない？」

ここ「……………確かにいいかもね」

絵里「でしょ!?!なら」

ここ「でも今回は無しよ」

絵里「!?!」

ここ「この技は相性が悪い。サニデイジャパンの時にとつておきましょう」

絵里「……………分かったわ」

ここ「……………真姫」

真姫「何?」

ここ「無考の極意……………なれそう?」

真姫「!?!……………いや分からないわ。だって制御は出来ていないし。私自身、分からな

いことが多い」

ここ「……………そう」

観客席

善子「後半どうなるかしら」

凜「ラブライブジャパンは負けないにや!!」

花陽「そうだね」

「横いいかな?」

凜「はい、どう!? あー!?!?!」

花陽「凜ちゃんどうし!? えっ」

善子「貴方は!?!」

「いつも娘がお世話になってるね」

「ありがとうどうね〜いつも」

花陽、凜「真姫ちゃんのお父さんとお母さん!?!」

美咲「花陽ちゃんに凜ちゃん、それに善子ちゃんね」

善子「私も!?!」

真矢「もちろん知っているよ」

西木野美咲と西木野真矢。西木野真姫の親である

花陽「今日、お仕事は？」

美咲「それなら、副委員長に任せたわ」

凜「副委員長？」

真矢「まあ、気にするな。せつかくの真姫の舞台だから見に来たんだよ、普段行けなかつたしな

善子「そうなんですな……………」

真矢「……………」

『さあ、ハーフタイム終了まで残り5分……………おおっと!!!両チーム出てきました!!!』

ワールドレジスタンス「……………」

智和「……………」

ラブライブジャパン「……………」

結城「……………」

『さあ、さらに激しくなるであろう後半戦もまもなく開始です……………おつとくラブライブジャパンここで交代とポジション変更が行われるそうです』

ラブライブジャパン

F W…………園田海未…………黒澤エメラ…………黒澤ダイヤ

M F…………西木野真姫…………絢瀬絵里…………松浦果南

M F…………桜内梨子…………統堂エレナ

D F…………南ことり…………矢澤にこ

G K…………高坂穂乃果

『な、なんだこのポジションは!??!?!? DFか2人!?これで守り切れるのか!?』

美咲「ふふ、結城さん面白い事をしますね」

真矢「智和に似てな」

真姫「……………」

真矢「……………真姫」

智和「月、大当たりだな」

月「ふふ、やったね」

智和「まあ、作戦は言った通りだ。FW2人、白蘭は攻めろ、そして「ルナティックタイム」は連発するな以上だ!!」

「はいっ!!」

結城「さあ、みんな行ってこい!!!」

「はいっ!!!」

『さあ、まもなく、ラブライブジャパンボールからキックオフです!!』

美咲「始まるね」

真矢「……………ああ、最後の45分がな」

ピ—————!!!

エメラ「お姉ちゃん!!!」

ダイヤ「!!」

絵里「さあ、みんなあがるわよ!!!」

フェイ「こ、これは!?!」

ユリカ「月のゆう通りだったね!!!」

『ラブライブジャパンDFを残り、全員が上がっていく』

ダイヤ「……………」

ドリブルで上がっていく

フェイ「行かせないよ!!!」

ダイヤ「行きます!!」

シャン

フェイ「!?!」

ダイヤ「……………私の舞に」

シャンシャン

ダイヤは舞う

ダイヤ「身惚れなさい!!」

フェイ「……………!!止める」

フェイは胸の周りに手を回りに回って空気の塊を作り出す

フェイ「エアーバレット!!!」

空気の塊をダイヤにける……………だが

ダイヤ「……………」

シャン

フェイ「!?あの空気塊をかわされた!？」

ダイヤ「無駄です、この技は必ず回避する……………そして」

フェイ「!?な、あ、あつい!？」

ダイヤ「喰らいなさい!!!」

フェイを吹き飛ばし、炎道を作り出す

フェイ「くっ!!!」

ダイヤ「演舞炎帝」

『こ、こで!!究極の技!!演舞炎帝が炸裂だ!!!』

ダイヤ「さあ、頼みましたよエメラ!!」

エメラにパスをだす

エメラ「……………」

白蘭「行かせない」

エメラ「……………いや、通る」

真つ向勝負

エメラ「……………くっ」

ドリブルで抜こうとするも隙がなく抜くことが出来ない

白蘭「……………」

果南「エメラ!!」

白蘭「……………」

エメラ「果南さん!!」

果南「さてと、久しぶりに暴れよっかな」

『(っ)で！「海のドリブラー」松浦が上がっていく』

鞠莉「かーなん!!勝負よ」

果南「ふふ」

足を地面につけて、右足を後ろに下げてクラウチングスタートの体制を取る

果南「……さあ、鞠莉ついて来れる？」

鞠莉「!?」

しゅぴん!!!!

鞠莉「!?」

果南「ゼロヨン極」

『とてつもない、スピードのクラウチングスタートで抜き去ったぞ!!!!』

鞠莉「くっ!!」

愛「……………」

果南「さあ、私の宝刀喰らってみるかなん？」

愛「……………」

果南「はあ!!!」

周りには落ち葉が舞う

果南「伝来!!!」

右足に力を込める、そして宝刀のように鋭く伸びる

果南「宝刀!!!」

黄色の斬撃のようなシュートがゴールに向かう

愛「……………止める!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリングG2」

そしてそのリングが伝来宝刀を止める!!!

愛「はあ!!!」

バッシュウ!!!!!!

愛「……………これ以上はやらせない」

「と、とめたあ!!!みごと_{ミゴト}にキャッチ!!」

果南「ふふ、やるね」

愛「……………」

輝夜「早坂!!!」

愛「輝夜様!!!」

ロングパス

輝夜「!!」

梨子「たあ!!!」

スライディングを仕掛ける

輝夜「……………」

華麗にかわす

梨子「!?」

さあ、残るはDFとキーパーだけだ!!!

ことり「くっ」

にこ「任せなさい」

にこが輝夜の方に向かっていく

輝夜「……………ついに来ましたね、「守りのファンタジスタ」

にこ「抜いて、見なさい。抜けるものならね」

輝夜「行きます!!」

そう言うと輝夜はボールを上にあげる

輝夜「はっ!」

輝夜自身も上に上がる

輝夜「……………月の力」

ボールを月ごと下に蹴る

輝夜「ルナティックレイ!!!」

にこ「……………ふん、無駄よ」

するとにこは手を地面につけて自身を風のように回転させる

輝夜「!？」

やがて回転はもの凄い力を生み、相手の必殺技を掻き消すほど大きなものとなる
にこ「……………」

すると、月は止められてボールもにこの足に吸い付く

にこ「……………極旋風陣、残念だったわね」

『で、出ました!!矢澤は代名詞とも呼べる技旋風陣だあ!!!』

にこ「ふふ」

月「返してもらおうよ!!」

にこ「……………甘いわよ月」

月「!?」

すると、にこはアクロバティックな動きで月を躲す

にこ「アクロバットキープ」

『これがファンタジスタと呼ばれる所以です!! D F、M Fをこなします!!』

『それにしてもあの身のこなし素晴らしいですね』

月「くっ……………にこさん凄い」

にこ「エレナ!!」

エレナ「……………ナイスパスだ!!」

『統堂エレナにパスが渡った!!』

メイ「行かせない」

エレナ「通る……………」

急激にスピードを上げる

エレナ「shocking slash」

メイ「!?」

『あーっとキーパーと一対一だ!!』

愛「……………」

エレナ「私の新技受け取ってもらおう」

愛「!?」

エレナ「キングス・ランス!!」

エレナの後ろに白き騎士のようなのが現れその槍と同時にボールをける

エレナ「ハア!!!」

愛「……………」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリングG2!!」

そしてそのリングがキングス・ランスを止める!!!

愛「はあ!!!!」

バシユウ!!!!

『な、なんと統堂の新必殺技を止めたぞ!!!』

愛「点だけは………上げませんよ」

後半は熱い

次回、運命の少女の帰還

ワールドレジスタンス戦 「運命の少女の帰還」

前回のっ！サッカー！！

前半が終了し、作戦を立てる両チーム。そしてついに後半が始まり開始早々果南とここが大活躍!!お互い譲らない後半が始まったのであった!!

『後半が始まり、早5分。凄く攻防が繰り広げられております。ラブライブジャパンが押しているように見えますがどうなるのでしょうか!?!』

愛「……………」

輝夜「早坂、あれ撃つわよ!」

愛「了解です、輝夜様……………でもいいのですか? 「ルナティックタイム」を使わなけ

れば撃てませんよ？」

輝夜「大丈夫、撃つ時しか使わないから」

愛「分かりました」

輝夜にボールを渡す

輝夜「さあ!!!行きますよ!!!」

ダイヤ「たあ!!!」

スライディングを仕掛ける

輝夜「……………甘い!」

躲す

ダイヤ「くっ!」

輝夜「ハロさん!!」

ハロ「はい!」

海未「やらせませんよ」

海未はハロに近づきアーツドロウを使う態勢に入る

海未「(けれど、この人にはあの技がある、出来るだけ間合いを開けてD f)「遅い」!？」

ハロ「……………考えてたらダメだよ」

海未「くっ!!」

ハロ「任せなさい!!」

海未「ハロ!! 気をつけて!!」

ハロ「……………」

ハロ「あんたのブラックビートと私の旋風陣。どっちが強いかしらね」

ハロ「……………そんなのやる前からわかってるよ」

ハロ「……………(そのままきなさい)」

ハロ「お望みどおり!!喰らえ」

ボールを上蹴り上げる

ハロ「黒き刻剣」

そう言つて自身も飛び上がる

ハロ「ブラックビート!!」

剣を出して地面に突き刺す

にこ「!!極旋風陣!!」

するとにこは手を地面につけて自身を風のように回転させる……………だが

にこ「くっ……………力が吸われる」

にこは力を失い、旋風陣を止める

にこ「く、くそお」

ハロ「さあ、決めてね月!!!」

月「任せてよ」

輝夜が並ぶ

輝夜「やりましょうか」

月「うん」

『ルナティックタイム!!』

辺りが暗くなり、月が輝く

ことり「……………」

にこ「ことりにはルナティックソードのパワーダウンをお願いしたいの」

ことり「!？」

にこ「まだ「ルナティックタイム」の攻略するには時間がかかるわ……………だから必ず相手はルナティックソードを打ってくる筈」

ことり「で、でもあの技はシュートブロックできないよ!？」

にこ「……………いや。ことりはシュートを撃つ直前に wonder zone を使って

くれたらいいの」

ことり「!?撃つ直前!?!」

にこ「高度の技なだけに一瞬のズレでもおそらくパワーダウンすると思うのよ」

ことり「出来るかな……それに出来たとしても穂乃果ちゃんも止められるか」

にこ「穂乃果を信じなさい」

ことり「!?!」

にこ「ことり、頼むわね」

—

愛「完璧ですね。相手はまだ対策出来ていない」

輝夜「ええ、そうね」

月「……行くよ」

三人の刃がラブライブジャパンを襲う

月、輝夜、愛「ルナティック」

だが、この瞬間

月、輝夜、愛「!?」

ことり「wonder zone!!!」

本来、DFの技。動きを止めてボールを奪う

月「……ことりちゃんのwonder zoneをまさかシュート直前に使ってくる

とは……」

輝夜「けれど、打ち切れます!!」

愛「はあ!!!」

ルナティックソードが放たれる

穂乃果「……それだけ弱らせてくれたら充分!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!! v2!!!」

ことり「ほ、穂乃果ちゃん!!!」

穂乃果「任せて!!!ことりちゃん」
バシユウ!!!

月「つつ……やるね」

『パワーダウンさせたとはいえルナティックソードを止めたあ!!!』

穂乃果「ナイスだよことりちゃん!!」

ことり「うん!」

月「……………ふふ、流石だね本当に」

輝夜「戻りましょう」

愛「ええ」

「ルナティックタイム」は解除される

にこ「……………少しずつ、見えてきたわ。けどまだ決定打がない」

ことり「にこちゃん」

にこ「その為にも一点決めるわよ!!」

ことり「うん!!」

穂乃果「絵里ちゃん!!」

絵里「真姫、あれ行くわよ!」

真姫「了解!!!」

すると全員がある技の配置につく

智和「……………」

ダイヤ「さあ、行きますわよ!!」

端から端へパスをする

エメラ「はあ!!!!」

斜めにパス

フェイ「これはタクティクス!?!」

ルビィ「……………く、来る」

真姫「行くわよ! エリー!!!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「Psychic Arts!!!!」

そのボールを絵里に向かって放たれる

絵里「さあ、ワールドレジスタンス喰らいなさい!!!」

6人の力がこもったボールを蹴る

絵里「必殺タクティクス!!」

ラブライブジャパン「『王の一閃』!!!」

フエイ、ユリカ「!？」

ハロ「は、早い」

一気に敵のDF陣の所まで飛ぶ

エメラ「!!!」

エメラがボールを受ける

ルビィ「!?ま、まさかエメラお姉ちゃん」

エメラ「……………」ジジジ

ダイヤ「ゾーンですわ!!」

エメラ「もう一点貫う」ジジジ

エメラは一気にゴール前に行く

ルビィ「くっ………止めるっ！」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!ぜい!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!!」

エメラ「………遅い」

『おおっと、一気にゴール前だっ!』

ルビィ「くっ」

エメラ「さあ、もう一点貫うわよ」ジジジ

立ち止まる

エメラ「はあ!!!」

ある技の構えをする

ダイヤ「撃つんですね!」

エメラの上にエネルギーが貯まる

エメラ「はあ!!!」

足下のボールを右足に氷の力を込めて上に蹴り上げて、上げたボールを左足に炎の力を込めてエネルギーの塊の中に入れる

エメラ「らあ!!!」

するとエネルギーの塊は青と赤の色となる

エメラ「喰らえ!!!」

そして、エメラは飛び上がり、回転しながらエネルギーの塊まで飛び上がり、オーバーヘッドを放つ

エメラ「ジ・メドロア!!!」

青と赤の混ざったエネルギーがゴールに向かう

愛「……………」

ルビィ「ここまで!!作戦どおりだよ!!」

エメラ「!?」

ルビィ「うお!!!!!!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!!ぜい!!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!!」

ジ・メドローアにぶつかる

ルビィ「……………くっ、威力が強すぎて落ちてるのかも分からないよ……………」

エメラ「無駄だよ、このシュートは止められない」

ルビィ「……………うわあ!!!!!!」

ファイアカットを突破後はキーパーのみ

愛「……………止める!!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリングG2!!」

そしてそのリングがジ・メドローアを止める!!!

愛「はあ!!!」

エメラ「……………進化させたか」

愛「ぐう……………」

押されていく

エメラ「……………終わりだ」

愛「……………」ニツ

エメラ「……………（な、何を笑ってる）」

ルビィ「ルビィ達の作戦は成功だよ」

エメラ「……………何を言って!？」

愛「ぐあ
!!!!!!」

ガン
!!!!!!

エメラ「!?ご、ゴールポスト」

『惜しくもゴールポストだあ……………追加点ならず』
ゴールポストに当たるがボールは生きている

エメラ「関係ないもう一点決め」

ズキツ
!!!!

エメラ「!?うぐ……………」

ジャンプしようとするがゾーンが解けて反動を受けてしまう
エメラ「くっそ!!!」

だが、それでもエメラは飛び上がる

ダイヤ「え、エメラ!?!」

だが

ルビィ「ルビィの方が早い!!!」

ルビィがボールを取る

エメラ「かかってきなさいルビィ!!!」

ルビィ「……………遅いよ」

エメラ「!?!」

ビュン
!!!!!!

ルビィ「真疾風ダツシュ!!!」

エメラ「くっ!!!」

エメラは抜かれる

海未「貫きます!!」

海未は手から無数の矢を作り出し相手に投げる

海未「アーツドロー!!」

矢で相手の動きを止める、その隙に海未はボールを奪い取るのだが

ルビィ「……………」

海未「!?ぼ、ボールは」

ハロ「こつちだ」

海未「やりますね……………」

ハロ「輝夜!!!」

輝夜「はい!」

絵里「行かせないわよ!!」

輝夜「……………」

絵里「……………」

輝夜「……………月さん!!!」

上にパスを出す

月「ナイスだよ!!」

絵里「!？」

なんと月はスカイウォークを発動しており空中でボールを受け取る

月「さあて、いけえ!!! ユリカちゃん!!!」

ユリカ「ナイス!!!」

にこ「……………止めるわよ」

ユリカ「んふふ」

するとエメラは水のエネルギーを貯めてにこの方に放出する

にこ「……………当たらなければ意味が「あるよ」!？」

にこは理解できなかつた、なぜユリカは自分の目の前にいるのか……………さらに言うな
ら

にこ「!?う、動けない」

ユリカ「ジャックナイフ!!!」

にこ「!?くっ」

にこは抜かれる

結城「……………相性最悪だなあの技にこと」

ユリカ「さあ、穂乃果!!!喰らえ!!」

隣の地面に影の自分を生み出してそれと同時に飛び上がる

ユリカ「シャドー・クロスバイパー!!」

本体と影がクロスして蹴り、そのシユートはゴールに向かう

穂乃果「止めるよ!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないv2!!!」

ドカツ!!!

穂乃果「ハア!!!!」

バシユウ!!!

『止めたあ!!!両チーム一步も引きません』

結城「……………ふう、なんとかなったな」

曜「今の穂乃果ちゃんなら大丈夫ですよ」

結城「そうだな」

聖良「でも、あのタクティクスを攻略しなければ勝てない」

結城「ああ……………」

すると何故か結城は立ち上がる

ツバサ「結城さん？」

結城「すまんない、俺は一旦席を外す残り30分には帰ってくると思う」

ベンチ「?!？」

結城「その間、指示は出せないが。頼んだぞ」

すると結城は裏の方に消えていった

ツバサ「……………」

理亞「あのタクティクスを破れるの……………」

聖良「今は信じるしかありません、にこさんを」

にこ「……………」（このままじゃギリ貧よ……………少なくとも相手は技を隠している可能性が高いのに比べてほとんど出し切っている）……………海未も本気を出そうとしてるみたいだけど出せないみたいね……………とにかく急ぐしか無いわね」

ここから30分までお互いの猛攻が続いた

フエイ「真バウンサーラビツト!!」

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないv2!!」

エメラ「まだ打てる!!!」

エメラ「クロス・トルネード!!!」

愛「アルテミスリングG2!!」

白蘭「ホワイトハリケーン極!!!」

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないv2!!!」

この時までには互角だった……同点だった。だがある事がきっかけで、試合は大きく動こうとする。

ワールドレジスタンス戦 「勝利への暗示」

前回のっ!!! サッカー!!!

同点で迎えた後半、『ルナティックタイム』での猛攻が続く中南ことりがルナティックソードの弱体化に成功!! 見事に決められる事なく守り切り同点が続くそして残り後半30分、ついに大きな動きが!!!

アキバドームスタジアム

エメラ「ハアハアハア」

ダイヤ「……………(エメラはもう限界ですわね) エメラ!!!」

エメラ「……………くそっ」

ルビィ「やっぱり凄いよお姉ちゃんは。けど、体力使ってしまったみたいだね」

エメラ「お姉ちゃん!!! あれを!!」

ルビィ、ダイヤ「!?」

海未「エメラ」

聖良「……………最後のシュートを打つみたいですね」

理亞「エメラ……………」

エメラ「はあ!!!」

ダイヤ「エメラ!!行きますよ!!」

智和「……………かつこいいね、みんな」

エメラとダイヤは交互に飛び上がる

エメラ、ダイヤ「ファイアトルネード G 2!!!」

ルビィ「!?やらせないっ!!!」

ルビィも飛び上がり、ボールを蹴る

ドガッ!!!

ルビィ「く……………」（こ、こうなったらルビィも撃ち返して）「ルビィ!!」!?」

愛「私が止める!!だから打ち返さなくていい!!!」

ルビィ「……………わ、分かった」

ルビィはわざと吹き飛ばされて受け身をとる

愛「任せろ!!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリングG2!」

そしてそのリングがファイアトルネードDを止める!!!

愛「はあ!!!!」

バシユウ!!!

愛「くっ……………ギリギリだけど止めたよ」

『と、止めたあああ!!!黒澤エメラとダイヤのシュートファイアトルネードDを見事にキャッチだ!!!』

エメラ「……………くっ」

ダイヤ「エメラ!?!」

エメラは前屈みに手をつき動けない

ルビィ「エメラお姉ちゃん!!」

『おおっとどうした?! 黒澤エメラが動けないぞ?!』

海未「エメラ」

エメラ「ハアハアハア、くそっ体力もまだまだだなあ」

絵里「いや、エメラ貴方はよくやってくれたわ、同点なのも貴方のおかげよ。それに慣れないゾーンなんだから仕方ないわ」

エメラ「ハアハアハア……もつとサツカーしたい」

真姫「任せなさい、貴方の想いは私達が引き継ぐ!!」

『おおっと!! ここでラブライブジャパン、選手交代です、黒澤エメラに代わって……』

曜「だ、誰が出るの!?!」

花丸「監督いないズラよ!?!」

千歌「……誰が」

ツバサ「まさか!!」

後ろを向く

結城「ただいま」

ラブライブジャパン「結城さん!？」

結城「選手交代だ!! F Wの黒澤エメラに代わって」

カツンカツンカツンカツンカツンカツン

「久しぶりの晴れ舞台やね」

正面の入り口から何者かが歩いてくる

絵里「!?帰ってきたのね」

結城「DFの東條希!!!!!!」

希「はい!!!!!!」

『な、なんとお!!!!事情により遅れていた、東條希が到着!!そして選手として今から参戦
だあ!!!!!!』

エメラ「の、希さん後はお願ひします」

希「任せとき、勝つよ」

『FMを2人にしてDFを3人に戻すようだ!!』

絵里「希……………遅いわよ!!」

希「ごめんなエリチ」

絵里「まあ、いつもの事よね」

ため息を吐きながらいう

にこ「お帰り希」

希「にこつち……………ただいま!!」

ルビィ「……………希さんが帰ってきた」

鞠莉「希……………分かってない事が多いデスネ〜」

月「……………でも、やるしかない」

『ワールドレジスタンスのゴールキックから再開です!!』

愛「ルビィ!!」

ルビィ「!!」

にこ「希!!聞きなさい、私達はあるタクティクスにやられているのよ」

希「結城さんも言うてたね」

にこ「『ルナティックタイム』!!相手が消えるわ」

希「消えるねえ……………」

にこ「にこももう直ぐで何かを掴めると思うのだから希一緒に考えて!!!」

希「……………分かった」

ルビィ「輝夜さん!!」

輝夜「……………月さんどうします?」

月「……………希さんは侮れない。けど、だからこそ勝負すべきだよ!!」

輝夜「分かりましたやりましょう!!」

輝夜、月「『ルナティックタイム』!!!」

周りが暗くなり月が浮かび上がる

希「……………これがルナティックタイムかあ」

にこ「ええ、来るわよ」

希「……………ウチ、一回体験してくるわ」

にこ「な、何を」

気づけば希はいない

にこ「の、希……………」

輝夜「さあ、上がって「ウチも混ぜて〜」!？」

希「ふふ、ルナティックタイムのお手並拝見といこか!!」

輝夜「は、早い!? さっきまでDFラインに居たはずなのに……………」いいでしょう上等です」

ドリブルで希を、抜きにかかる

希「……………」

グオン!!

希「!? (成る程ね)」

輝夜「『ルナティックタイム』は止められない!!」

『おおつと!!いきなり交代してきた東條をルナティックタイムで抜き去った!?!』

希「やるねえ」

にこ「……………希」

輝夜「ユリカ!!!」

ユリカ「ナイスパス!!」

ユリカ「さあ、今度こそ決めるよ!!」

隣の地面に影の自分を生み出してそれと同時に飛び上がる

ユリカ「シャドー・クロスバイパー!! G 2」

本体と影がクロスして蹴り、そのシュートはゴールに向かう

穂乃果「止めるっ!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃない!!! V 2!!」

バシユウ!!!

穂乃果「点はあげない!!」

『ここも高坂が見事にセーブ点は決まらない!!』

ここ「希!! あんた」

希「ごめんな、にこつち体験してみたかったんや」

ここ「それは分かるけど、強引すぎよ!!」

希「……………にこつち」

ここ「希!？」

希「次は止める」

ここ「ゾクッ

ここは久しぶりに希から恐怖を感じたのだった

穂乃果「真姫ちゃん!!!」

真姫「!!」

エレナ「真姫!!」

真姫「エレナ!!」

エレナ「さてと、行くか」

メイ「いえ、そつちに攻撃ターンは回さない」

エレナ「!?」

メイ「フェイタルソフト!!」

メイは分身しエレナに向かう

エレナ「しまっ!?!」

メイ「甘いよ」

『ここで奪い返し再びワールドレジスタンスボールだー!!!』

メイ「さあ月!!!」

月「……………ふふ。そろそろ決めないとね輝夜さん」

輝夜「ええ、その通りですね」

月がドリブルで上がる

希「……………」

再び希が立ち塞がる

絵里、にこ「希?!?!」

「希（さん、ちゃん）?!?!」

月「へえ、また来るんだ。けど止められるの希ちゃん」

結城「……………（正直俺も『ルナティックタイム』の対策はわかんねえ、そんなタクティクスを止められるのか希?）」

月「……………じゃあ!!遠慮なく抜かせてもらおうよ!!!」
希「……………」

グオン
!!!!

月「（抜いたやつぱり止められるわけが）?!?!」

『!?!』

輝夜「そ、そんな」

希「……………」

希は目を瞑りながらも月に追っていた

月「う、嘘だ!?! 『ルナティックタイム』は発動してる筈」

希「……………」

エレナ「あれは何が起こってるんだ!?!」

絵里「希……………!?!」

にこ「……………はっ、本当におっそろしいわねあんたは」

結城「の、希は目をつぶってルナティックタイムの消えるのを無効化したと言うのか
!?!」

希「……………残念やったな月ちゃん」

希は目を開けて言う

ザツ!!

『な、なんとお!!!出てきた直後東條希が『ルナティックタイム』を破ったぞ!!!』

輝夜「(嘘でしょ!?!まさか一回抜かれただけで、原理が分かったの!?!)」

希「ここからはウチらのターンやね♪♪」

ドリブルで希は上がっていく

輝夜「やらせない!!」

白蘭「うかつに近寄るな輝夜さん!?!希にはあの技がある」

輝夜「!?!」

希「うふふ」

手を上に掲げて、指パッチンする

希「ヘブンズタイム!!!」

すると全ての選手が止まり、あたり一面に花が舞う

希「……………」

だがその間を希は軽々と歩き選手を抜く

輝夜、白蘭「……………」

そして抜き終わり

ピシユン!!!

輝夜「くっ!?何が!？」

白蘭「し、しまった!？」

ブオン!!! 風で吹き飛ばされる

希「…ウチを止められるかな?」

鞠莉「(な、なんなの!?!この技は)」

ルビィ「(希さん……………やっぱり凄い)」

希「……………」

あっという間にDFラインまで上がる

メイ「私が止める!!!」

黄粉子「ウチも行くやんね!!!」

鞠莉「!?二人とも待ちなさい!!」

希「ウチは待たない」

鞠莉「!?」

再び指パッチンをする

そして、二人の間を通り抜けて再び解除する

メイ、黄粉子「!?」

そして風に吹き飛ばされる

希「……………さあて1対1やね、キーパーさん」

愛「(東條希のシュートのデータは全くない。けど止めてみせる)」

希「魅せてあげるウチのシュート!!」

すると希はボール上に向けて前屈みの姿勢をする、さらに月が浮かび上がっており、その後月から降ってくるようにボールが下に落ちてくる

希「!!」

地面に到達する前に自身は瞬間移動してボールを燕返しのように蹴り付け、かかとで撃つシュートはまるで満月の稲

希「月光丸・燕返し」

超強力なシュートがゴールに向かう

愛「止めてみせる!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリングG2!!」

そしてそのリングが月光丸・燕返しを止める………がしかし

愛「!?こ、これが東條希のシュート!?な、なんでこんな威力を打てるのにDF………」

きやあ!!!」

バシユン

!!!!!!

『ご、ゴール!!!ここにきてリードを広げたのはラブライブジャパン。そしてシュートを決めたのはDFの東條希だあ!!!!』

『彼女がシュートを打つのは久しぶりみたいですが超強力でしたね』

絵里「ハラショーよ!!希」

希「うふ♪ありがとうエリチ」

DFまで戻る

にこ「ナイスよ希」

希「ありがとうにこっち」

愛「くっ………な、なんてシュート」

輝夜「早坂!!大丈夫!？」

愛「大丈夫ですよ輝夜様………」

輝夜「何もかも予想外だったまさか、『ルナティックタイム』が破られるなんて」

愛「けど、完全な原理が相手に伝わった訳じゃないと思いますけどね」

輝夜「ええ、そうよね」

智和「まずいな、タクテイクスはもう使えないかもしれないな」

にこ「……………希、あんたのおかげで『ルナティックタイム』の謎が解けたわ」

にこはニヤツとする

希「……………ふふ、流石にこっち」

にこ「ことり!!」

ことり「はい!」

にこ「……………」

ことり「……………」

ことり「!?!」

にこ「間違いないわ、これが『ルナティックタイム』の原理よ!!」

『さあ、後半も残り25分とほとんどん時間が少なくなっている中ラブライブジャパンが
一歩リード果たしてワールドレジスタンスはどう動くのか!?!』

輝夜「……………」

月「……………次も使うよ」

輝夜「!?」

月「効果が切れるまで使う、このチームで戦うことはおそらく2度とないだろうしね」

輝夜「……………」

月「まだ、一点差勝てるよ」

輝夜「分かっています!!」

ユリカ「そろそろ、一点取らないとやばいよね」

フェイ「うん」

『それではワールドレジスタンスボールから再開です』

ピー!!!

ユリカ「月!!!」

月「輝夜さん!!!」

輝夜「!!」

輝夜「ハロさん!!」

ハロ「ナイスパス」

輝夜「……………」

にこ「……………」

月「……………（おかしい、なんでここできこさんがでてくるんだ止められなかった筈なのに……………!?) ハロさん止まって!?!?」

にこ「……………」

ハロ「行くぞ矢澤にこ!!」

グオン!!!

ハロ「……………!?!?」

ハロは消えてにこを抜いたはずなのだが。なぜにこは自分の目の前にいるのか理解できなかった

にこ「今何かした？」

ハロ「なっ！」

にこ「じゃ、貰うわね」

ハロからボールを奪う

にこ「宣言しとくわ。『ルナティックタイム』はもう通用しないわよ!!!」

『ルナティックタイム』 攻略!!

何故にこちゃんがとる事が出来たのか次回判明します。そして希ちゃんがとる事が出来た理由も。

次回、
砕かれる太陽

ワールドレジスタンス戦「砕かれる太陽」

前回のっ!! サッカー!!

後半30分に希が戻ってきて試合に合流!!そして『ルナティックタイム』を破りへブンズタイムで次々と選手を抜き月光丸・燕返しでシュートを決め1点をリード!!さらにここが『ルナティックタイム』を攻略!!果たしてどう言う構造なのか!!

にこ「ことり、よく聞きなさい」

ことり「にこちゃん!」

にこ『「ルナティックタイム」の原理は視線誘導よ』

ことり「視線誘導!？」

にこ「希のヘブンズタイムは暗示でしょ？」

ことり「うん、そうだよね」

にこ「だから、希は一回で気づけた、そのおかげでにこも気づけたけどね」

ことり「で、でも視線誘導ってなんで」

にこ「人間はね、DFする時に3つを見るわ、ボール、左右上下の敵チーム、そして味方」

ことり「う、うん」

にこ「そんな中に第4のものが現れたら？」

ことり「!?それがルナティックタイムの」

上を見る

にこ「そう、あの月よ」

ことり「な、成る程!? 4つも見るのが有れば消える様に見えてもおかしくないね」

にこ「……………ええ、けれど、それだけじゃない」

ことり「!?」

にこ「ワールドレジスタンスは全員、ミスディレクション（視線誘導テクニク）を取
取得している!!!」

ことり「!!!どうすればいいの?」

にこ「簡単じゃない、相手選手を見れば見るほど、誘導される。ならば見なければい
いのよ」

ことり「って事は希ちゃんみたいに目を瞑ってDFするって事!?!」

にこ「いや、そんな事はしなくていいわ。それにことりには wonder zone
があるじゃない。いいことり、見れば見るほど誘導されるからね」

一

ことり「にこちゃんが言ったこと、本当だったんだ」

にこ「ふふん」

月「まさかミスディレクションを見抜かれるとはね」

輝夜「予想外ですね」

にこ「誰だと思ってるの？にこを？宇宙No. 1 DF!!にこにーよ!!!」

にこはドリブルで上がる

にこ「ラブライブジャパン聞きなさい!!!『ルナティックタイム』は視線誘導!!ミスディレクションのテクニックを使ったタクティクスよ!!」

ラブライブジャパン「!?」

にこ「見ようとしたらダメよ!!!意識を広げなさい!!!」

希「ふふ、流石にこっち」

結城「流石だなにこ、お前ほど頼りになるDFの司令塔はいねえよ……………」

にこ「頼むわよ!!絵里」

絵里「ええ」

にこ「……………」

智和「……………」（まさか、もう攻略されるとは試合終了15分くらいだと思っていた

が。やるな、ラブライブジャパン！けどな、結城。ラブライブジャパンにはまだあるんだよ弱さがな」

絵里「果南!!」

果南「オーケイ!!!」

果南にボールが渡る

果南「さーてと、どうしよっかな」

鞠莉「果南、第2ラウンドよ!!!」

果南「鞠莉……………」

鞠莉「さあ、抜けるかしら」

果南「……………そろそろ私らしい、ドリブル技を使う時が来たかな」

鞠莉「私らしいドリブル技？」

果南「ゼロヨンじゃあ、爆発させられるからね」

鞠莉「!?（か、果南は私のグラウンドスイーパーに気がついてる!?!）」

果南「さあ行くよっ!!」

地面から水の龍を呼び出して、龍の上乗る

果南「クロシオライド!!」

鞠莉「!?」

波の龍が鞠莉を飲み込む様に激突する

希「果南ちゃん!!」

にこ「完成したのね」

鞠莉「くつやるわね果南」

果南「にしし」

『松浦の新必殺!!クロシオライドが炸裂!!、!』

果南「希!!!」

希「オーケイ!!」

愛「!?また上がって来てるだと」

ルビィ、メイ「くっ」

希「……………次決めるのはウチじゃない」

すると斜め前にパスを出す!!!

希「ダイヤちゃん!!!」

愛、ルビィ、メイ「!?」

ダイヤ「はいつ!!!」

希「ダイヤちゃんんは凄い選手やよ!!自信持って打って!!」

ダイヤ「希さん……………」

エメラ「お姉ちゃん!!!決められる絶対に!!!」

ダイヤ「エメラ!!」

海未「決めるのですよダイヤ!!」

ダイヤ「海未さん…ありがとうみんな!!では行きます!!」

ダイヤはボールを止め、腕を組み

ダイヤ「!!」

ボールを蹴る、そして蹴ったボールに刹那なスピードで追いつきさらに蹴る、さらに刹那のスピードで追いつき蹴る

ダイヤ「これが私の!!!!シユートですわっ!!!!」

かかると力を貯めてトドメのシユートを放つ!!!!

ダイヤ「刹那ブースト!!!!」

ジャキン!!シユン!!!!

『超強力なシユートだあ!!!!』

愛「止めるっ!!!!」

腕を目の前で回転させて、自身の後ろに王家の紋章を映し出す

愛「アルテミスリングG3!!」

そしてそのリングがシユートを止める………が

愛「……………なっ、こ、このパワー!?」

どんどん押されていく

愛「く、くうううう」

ルビィ、メイ「決めさせない!!!」

二人は愛の両サイドに入りボールを蹴り返す

愛「二人とも!?!」

ルビィ!!メイ「はああああ
!!!!」

ドガッ!!!

ボールはゴールネット上側を通り観客席に

ダイヤ「……………止められましたか」

海末「止められたのはたまたまですよ、愛だけなら決められました」

ダイヤ「海末さん」

海末「それにまだコーナーキックです一点取りますよ!!」

ダイヤ「はいっ!!」

希「……………」

にこ「止められちゃったわね」

希「まずいよ、これは」

にこ「!?希」

希「ここで、2点差にするつもりだった。なのに止められたと言う事は」
にこ「……………」

希「DF、集中やで」

にこ「分かっているわよ」

海未「ダイヤ!!!」

コーナーキックをする

ダイヤ「!!行きます」

ダイヤがボールを取ってシュートを打とうとするがしかし

フェイ「君らの攻撃はもう終わりだよ」

コーナーキックを足で受け止める

ダイヤ、海未「!?」

ラブライブジャパン「!?」

結城「ついに動きやがったか」

希「……………やっぱり」

にこ「な、何よ」

希「おそらく、まだ本気を出していないって事やよ」

ことり、にこ「!？」

『な、なんとお!!…ここで攻撃を止めたのはDFの菜乃花フェイだあ!!』

フェイ「……………ユリカ、白蘭。ここからが本番だよ」

白蘭「ああ、待ちくたびれたぞ。まあそれでも予定より早くて嬉しいな」

ユリカ「やっととセーブなしで行けるのね」

フェイ「まあ、体力の問題もあるし監督の言うことには賛成だからいいんだけどね

……………さあ、始めようか」

フェイはドリブルで上がっていき、ユリカと白蘭はサイドに上がっていく

絵里「MF陣!!!DFよ!!」

真姫「止めるっ!!!」

ザーーーーー!!!

フェイ「遅いよ」

シュツ！スライディングを軽々と躲す

真姫「さつきよりも数段早い!!」

絵里「止める!!ロシ「白蘭!!」!?速すぎる!」

白蘭「ナイスパス、フェイ」

にこ「行かせないわわよ!!」

白蘭「……………そうだ」

何かを閃いた様にボールを上上げる

にこ「!?あんたまさか」

ボールを光、風のエネルギーの中に入れて回転させる

白蘭「喰らえ!!」

白蘭の上には台風、天候が変わるほどの力を込めて打つシュートは厄災!!

白蘭「ホワイトトローハーリケン!!神」

にこ「!?こ、この距離からなら。にこの旋風陣で!!」

するとにこは手を地面につけて自身を風のように回転させる

にこ「極旋風陣!!!」

激突する

にこ「くつ………（こ、この威力は半減させるのが精一杯）頼むわね穂乃果!!」

穂乃果「うん!」

白蘭「にこ、俺がそんな事を考えてないとも思ったか?」

にこ「!?なんですって」

にこは旋風陣を止め、後ろを見る

ユリカ「さあ、これが私達のゴールへの経路だっ!」

にこ「しまっ!? (こ、ことりは!?)」

ことり「くっ………動けなかった」

にこ「穂乃果あああ!!!」

穂乃果「分かってるっ!!!」

ユリカ「今度は決めるからね穂乃果!!」

ボールを上蹴り上げる!!

ユリカ「ブラックファイールド!!!」

ボールにシャードクロスバイパーの力が集まる。そしてユリカもボールまで飛び手でオーラを集めて、さらに飛び上がり加速をつけてシュートを放つ!!

ユリカ「はあ!!!」

穂乃果に影の手そして影の獣のシュートが襲いかかる

穂乃果「穂乃果は負けないよっ!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないV3!!!」

ユリカ「……………」

穂乃果「これくらい止めれるっ!!!」
「ガシッ!!!」

『と、止めたあ!!!キーパー高坂、ユリカ・ベオルのブラックフィールドをキャッチしたぞ!!!』

穂乃果「ハアハアハア」

希「ナイスやで穂乃果ちゃん!!!」

穂乃果「希ちゃん」

ユリカ「止められちゃったか」

フェイ「どんまい次決められるよ」

ユリカ「だね!!」

フェイ「……………ワールドレジスタンス!!試合はまだ終わってない!!」

ワールドレジスタンス「!?」

フェイ「僕もユリカも白蘭もあれだけ走れるんだ!!みんなもつと走れるよね!!」

月「……………へえ、言ってくれるね」

輝夜「……………」

フェイ「みんなも勝ちたいでしょ!?だからもつと行こう!!」

ハロ「……………ふっ」

鞠莉「なんかキャプテン見たいねフェイ」

ルビィ「ですね」

フェイ「みんな行こう!!!」

メイ「そうだな」

黄粉子「流石フェイやんね」

希「……………ここからが本番やで穂乃果ちゃん」

穂乃果「……………」

希「……………はつきり言っとくけど穂乃果ちゃんが究極のGK技を完成させなければ負けるよこの試合」

穂乃果「……………うん、分かってる」

希「頼むでキャプテン」

ザツザツザツ

穂乃果「にこちゃん!!!」

にこ「よつと」

ユリカ「行かせないよ!!」

にこ「つつ!!!」

アクロバットな動きをする

ユリカ「!？」

にこ「アクロバットキープ」

にこ「エレナ!!」

エレナ「ナイスだにこ」

絵里「分析はどれくらい!？」

エレナ「あともう少しだ」

絵里「あと少しね」

エレナ「ああ、時期に終了する」

絵里「了解!!」

エレナ「真姫!!」

真姫「はい!!」

真姫「……………（海未とダイヤがサイドから上がってるなら）行くわよ!!」

ザツザツ!! シュン!!!

真姫「!？」

白蘭「もらうぞ真姫」

なんと超スピードで真姫からボールを取る

ダイヤ、海未「!？」

『な、なんとお！ここまで戻ってきていたああ!?!?!』

真姫「（は、はやい。なんでスピードなの）!?!?!」

白蘭「このまま上がれ!!」

白蘭はドリブルで上がっていく

絵里「止めるわよ」

白蘭「……絵里かだが、お前じやスピードが足りない」

絵里「!?」

白蘭「はあ!!!」

自身に雷を纏いジグザグに超高速移動する

白蘭「疾風迅雷」

絵里はあっという間に抜かれる

絵里「くっ……………」

希「エリチ!!」

白蘭「……………来るか希」

希「……………」

白蘭「……………止めてみるよ」

希「……………」

辺りに白い雪が舞う

白蘭「……………これは」

希「切なさの雪……………スノーハーレション!!
キラキラキラキラキラキラ!!!

希の合図と同時に、雪が強い光を放ち始めた

白蘭「……………流石DFの希。だが!!!」
シュン!!!

希「……………」

白蘭「それじゃ、止められねえよ！」

「な、なんと東條を抜いたあ!!!」

にこ、ことり「希（ちゃん）!?!」

白蘭「海未もよく見ておくんだな!!」

海未「!?!」

白蘭「俺の新しいシュートを!!!」

足からドラゴンを出して螺旋状にゴールに向かわせ、力を貯めるそして白蘭も飛び上

がりシュートを放つ

白蘭 「喰らえ!!!ドラゴンブラスター!!!」

右足でバネを放つ様にシュートを放つ!!

海未 「!?」

にこ 「さっきのホワイトハリケーンより遥かに威力がちがうわよ!!」

穂乃果 「……………」

白蘭 「さあ、穂乃果止められるかな?……………まっこれだけじゃないけどな」

にこ、ことり 「!?!?」

穂乃果 「う、嘘でしょ!?!」

ユリカ 「この時を待ってたんだよっ!!!」

ボールを上蹴り上げる!!

ユリカ 「ブラックフィールド!!!」

ボールにシャードクロスバイパーの力が集まる。そしてユリカもボールまで飛び手でオーラを集めて、さらに飛び上がり加速をつけてシユートを放つ!!

ユリカ「はあ!!!」

穂乃果に影の手そして影の獣のシユートが襲いかかる

『(っ)で超強力なシユートチェインだ!!!』

穂乃果「くっ……………それでも穂乃果は止める!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないV3!!!」

ことり「す、凄い捕えてるよ!!穂乃果ちゃん!!!」

にこ「……………」

曜「ま、まさか穂乃果ちゃんはそのチェインシユートを」

結城「……………」

穂乃果「ぐぎぎぎぎ」

ことり「いい、今のは仕方ないよ!!チエインシュートなんだし」

穂乃果「いや、でも私は止めなければ行けなかった。この場面で決められたらだめなのにな」

ことり「穂乃果ちゃん……………」

白蘭「……………あんな穂乃果初めて見るな」

輝夜「確かにそうですね」

白蘭「輝夜さん」

輝夜「太陽の奇跡の守護神。いつもは笑顔で全てを見て、チームを導くそれが彼女ですが後半からそれが出来てませんからね。それに何かもがいてる様にも見えません」

白蘭「そうだな」

フェイ「ナイスシュート!!」

白蘭「次はお前の番だろ?フェイ」

フェイ「うん……………とっておきを見せてあげる」

結城「……………選手、交代だ」

ベンチ「!?!」

結城「梨子に代わって聖良!!!」

『ラブライブジャパン選手交代です!!!MFの桜内に代わってDFの鹿角が入る模様です』

梨子「聖良さんお願いします」

聖良「任せてください!!!」

理亞「……………（私だけ出てない）」ガシッ!

頭を掴まれる

理亞「結城さん!？」

結城「大丈夫だ、お前の出番はある。もう少し待ってくれ」

理亞「はい」

『そして、ワールドレジスタンスもポジションを交代する模様です。天命をMFからFWへ!トリプルFWの模様です!!さあ同点ですがここからどうなるのか!?ラブライブジャパンボールからスタートです!!』

ピーー!!

ダイヤ「海未さん!!」

海未「真姫!!絵里!!」

真姫、絵里「了解!!!」

海未はボールを後ろに回す

真姫「!!」

絵里「どうする真姫。上がらなければ打てないわね」

真姫「そうね……突破するしかないわね!!」

ドリブルで上がる

フェイ「もらうよ!!!」

胸で手をまわし空気の塊を作り出す

フェイ「エアー!!バレット!!」

真姫「……………はあ!!!」

エアーバレットを躲そうとする

フェイ「(反応速度が上がってる)!!」

真姫「くっ、躲しきるのは無理ね。なら
ボールにオンプの力を込める

真姫「フォルテシモ!!!」

ドガッ!!!

相殺する!!!

真姫「ボールは渡さない!!!」

フェイ「くっ!!!」

一気に上がっていく

真姫「エレナ!!」

エレナ「!!」

エレナは上がっていく

エレナ「……………(あと少しだ) 果南!!!」

果南「ほっと!!」

黄粉子「これ以上は行かせないやんね!!」

果南「……………むう、黄粉子ちゃんの技は私の相性悪いからね……………仕方ない打つ

か」

黄粉子「!?」

果南「はあ!!!」

周りには落ち葉が舞う

果南「伝来!!!」

右足に力を込める、そして宝刀のように鋭く伸びる

果南「宝刀!!!」

黄色の斬撃のようなシュートがゴールに向かう

黄粉子「させないやんね!!」

黄粉餅を作り出してそれを回りに当ててボールに当てる

黄粉子「もちもち黄粉餅!!!」

黄粉子「さ、流石に止めるのはむり、きやあ!!!」

だが威力が弱まる

果南「それでいいんだよそれで。これはシュートじゃないからね」

海未「ナイスです果南」

真姫「この三人で打つの久しぶりね」

絵里「ええ、ソルゲ組の力見せてあげましょう!!」

愛「……………来る」

海未「行きます!!!」

ボールに闇の力を込める

海未「うらあああああああ!」

ボール蹴り上げて空中ボールを乱打乱打乱打

海未「せい!」

一回転して蹴った後

足に力を込める

絵里と真姫の同様に力を込める

そして力をため終わり、絵里は左足、真姫は右足、海未はかかと落としでボールを蹴

る

海未&真姫&絵里「soldier strike!!!」
『超絶強力なシュートsoldier strikeだあ!!!』

愛「……………アルテミスリングでは止められないでしょうね。なら」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「今までを超えるだけ!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「KING REFLECTOR!!!」

海未、真姫、絵里「!!」

愛「沈めボール!!!」

バッシュウ!!!

『な、なんと?!?新必殺 KING REFLECTORでsoldier strike

eを止めたあ!!!』

海未「ま、まさかフルパワーのsoldier strikeを止めるなんて!?!」

真姫「こ、こんな事今までないわよ」

絵里「ええ、これは本当にまずいわね」

愛「……………」

輝夜「早坂!!!」

愛「……………」この技密かに練習してたんですよ」

輝夜「……………」

愛「いつか普通の技じゃ止められない時が来ると思ったので。この技を考えつきました」

輝夜「……………」本当凄いわね」

愛「もう一点もあげません!!だから頼みましたよ!!」

輝夜「ええ、任せて!!!」

輝夜にボールが回る

輝夜「ハロさん!!!」

ハロ「ああ!!!」

果南「たあ!!!」

果南はスライディングする

ハロ「黒き刻剣!!!」

そう言つて自身も飛び上がる

ハロ「ブラックビート!!」

剣を出して地面に突き刺す

果南「ぐっ……………はああああ!!!」

ハロ「?!?」

果南は力を吸い取られながらも力を振り絞りボールを蹴る

果南「……………ち、力が」

ハロ「力を吸われたのにあそこまで動けるとは……………」

果南「どうも……………」

果南がボールを蹴った先にはフェイ

フェイ「さあ!!!行くよ!!!」

にこ「来てみなさい!!」

ことり「止める!!」

フエイ「……………普通に行ったら。止められるしスカイウォークでも遅いから多分止められる、なら進化させるよ!!」

エアバレットを作り出してそれを小さくして靴につける

にこ、ことり「?!?!」

フエイ「さあ!!!行くよ!!」

空に飛び上がりそして

スピードを急激に上げて空を移動する

にこ「なっ?!?早い」

フエイ「これがスプリントスカイワープ!!!」

『な、なんと空中で加速したあ!!!』

ことり「スカイウォークを加速させた!?!」

にこ「おそらくエアバレットの空気を利用したのよ……………まずいわね」

希「……………」

希は詰めていなかった。何故ならチエインを警戒していたからだ

希「……………（打ってもらうなら一人がいい。チエインはさせないよ）」

フェイ「……………成る程流石希だね。けど、このシユートは止められないっ!!!」

穂乃果「……………」

フェイ「穂乃果!!このシユートで逆転させてもらうよ!!!」

するとフェイはまるで恐竜の牙の様なポーズをとる

智和「打つか、あのシユートを」

穂乃果「!!」

希「……………（気付いたね穂乃果ちゃん。そのシユートは）」

フエイ「はああああ!!!!!!」

フエイの後ろには青白くとても大きな恐竜が見えるそしてフエイは空中で一回転し恐竜と共にシユートを放つ!!!

フエイ「王者の牙!!!!」

本当に恐竜の牙の力を纏ったシユートがゴールに向かう!!!

穂乃果「止める!!! 止めなくちゃならないんだ!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらああああああ!!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないV3!!!」

だが

穂乃果「?!?!」

希「やつぱりやね。そのシユートは

触れられないシュートや」

穂乃果「ははっ………」

穂乃果ちゃんは最強だね!!

どんなシュートも止めちゃうもんね!

流石太陽の奇跡の守護神!!

穂乃果ちゃん任せたよ!!!

穂乃果「げめん、止められないや」

バシユン

!!!!!!!

高坂穂乃果3失点め。今までの試合では最高でも2失点までしかしたことが無い。しかもここまで完璧にシュートを入れた事を今までないのだ。

太陽は砕かれ、もう止められないのか!?

次回

「輝くスターダスト」

ワールドレジスタンス戦 「輝くスターダスト」

前回のっ！サッカー！！

1点逆転して流れになるラブライブジャパン！！だがワールドレジスタンスがついに本気を出し白蘭&ユリカのチェインシュートで一点を取られ同点に、これで一旦終わるかと思いきや、フエイが触れられないシュート王者の牙を打ちなんと一点差に！！穂乃果はこのまま折れてしまうのか……

ほのか「とめるよっ！！！」

ほのか「たあ！！！！」

ほのか「よっ！！！」

バッシュウ!!

「ほのかちゃん凄いい!!」

「ほのかちゃんはどんなシュートでも止めるよね」

「むてきだよむてき!!」

ほのか「そんな事ないよ。だって止めれない人いるもん」

「あれは違うよ人間じゃない。だって止められない」

「だってこうこうせいの子パーからも決めたみたいだよ」

「あの子は強すぎるよ、意味不明なくらいに」

「ほのかちゃんは最強だから自信持つて!!」

ほのか「……………うん!!」

「

」

『ご、ゴーストール!!なんとワールドレジスタンスがさらに追加点!!またもや逆転してしまつたあ!!!ラブライブジャパン厳しくつたぞお!!!』

穂乃果「……………」

フェイ「……………結城さんから話は聞いたよ」

穂乃果「!？」

フェイ「触れないシュート止められないつだつてね。それじゃあサニデイジャパンのルビイの「ラストリゾート」は止められないね」

穂乃果「……………くっ……………」

唇を噛む

フエイ「……………」

『なんとという事でしょう。あの高坂が3点も決められてしまうというまさかの事態です!!! これからどうするのでしょうか』

穂乃果「……………」

曜「穂乃果ちゃん!!!」

結城「王者の牙……………恐竜の本当の牙の様なシユートだが普通のシユートと違う点がある」

ツバサ「違う点?」

エメラ「それ牙は何重にも層で重ねているって事ですよね」

結城「ああ、その構造が触れられない技を作り出している」

ベンチ「!?!」

エメラ「と、いう事は弾かれながらも威力を殺していける技を穂乃果ちゃんが使わな
いといけないという事ですな」

結城「そうなるな」

理亞「そんな技穂乃果には!」

ツバサ「あるわ!!」

理亞、梨子、千歌「!」

ツバサ「アドバンチュールの時から練習していた技がある。それなら止められる」

結城「ああ、だがしかし……………今の穂乃果はズダボロだろう初めて3点なんか入られたんだ。精神的ダメージが大きい」

穂乃果「……………」

海未、ことり「穂乃果(ちゃん)!!」

穂乃果、ことり「海未ちゃん、ことりちゃん」

海未「大丈夫ですか!」

穂乃果「う、うん私は大丈夫」

ことり「穂乃果ちゃん……………」

穂乃果「次は止めるから点取ってきてね」

海未「はい!」

結城「今、不安要素が4つある」

花丸「4つもズラ!？」

結城「1つ目、穂乃果の調子の低下、これは穂乃果自身への怒りさらには絶望だ……」

ツバサ「穂乃果」

結城「そして2つ目、ワールドレジスタンスの士気がどんどん上がっている事。だからあと1点でも取られることがあればもう終わりだ」

千歌「……………」

結城「3つ目、ラブライブジャパンの士気の低下だ。穂乃果がやられている事によって士気もどんどん下がる、穂乃果が黙れば更にひどくなる。」

梨子「穂乃果ちゃん」

結城「そして4つ目、これが一番重要だ。海未が本気を出せない」

ベンチ「!？」

結城「海未は穂乃果を常に気にしている。穂乃果に気が行き本気になれないんだ」

エメラ「海未に本気になってももらうには穂乃果に新しい技を完成してもらい。完全にプレーに集中できるようにしなければならぬ」と言うことですね」

結城「その通りだ」

『さあ、またもやしんどくなつたラブライブジャパン!!ここからどうするのか!』

海未「……………どうしましょうか」

ダイヤ「……………こちらはシユートを決められ、シユートを決められない」

海未「K I N G R E F L E C T O Rは並みの技じやだめでしょう。例えばですが、私のラストリゾートRなら突破できるかもしれませぬ」

ダイヤ「……………成る程、今使えないんですね」

海未「……………はい、悔しいながら」

ダイヤ「ならば一度チェインシユートやってみませんか?」

海未「……………チェインですか」

ダイヤ「ラストリゾートと私の刹那ブーストの力を合わせれば決められるかもしれませぬ」

海未「確かに可能性はありますよね」

ダイヤ「やってみましょう！」

希「……………」

にこ「あんた達分かってる!!ゴールまでボールを運ばせたらダメよ!特にフェイにはね!」

聖良「分かっています。その場合は他の選手に打たせてでもフェイさんを止めます」

にこ「そうしないと私達負けるわよ」

ことり「穂乃果ちゃん」

にこ「ことり、今は集中しなさい死ぬ気でDFよ!」

ことり「うん……………」

フェイ「チャンスだよ」

白蘭「確かなあと一点決めれば俺たちの勝ちだ」

ユリカ「それにしても王者の牙かあ凄い技ね」

フェイ「うん、しんどかったよ習得するのでもあれだけのシユートが打てればよしだ

よ!」

白蘭「フェイ分かってるなもしラブライブジャンが同点にしてきたら」

フェイ「分かってるよ、それは始まる前に月も了承してるでしょ？」

白蘭「ああ……………」

ルビィ「王者の牙かあ……………」

鞠莉「どうしたのルビィ？」

ルビィ「このチームで一番凄い技だなあって」

鞠莉「あら？ 貴方にもあるじゃないラストリゾートDが」

ルビィ「技の本質が違うし、それに触れないシユートなんてルビィには無理だよ

……………」

鞠莉「……………そうね。まあ考えるのは後よD F頑張りましょう」

ルビィ「うん!!」

観客席

善子「何やってのよ穂乃果!!」

凜「確かに今の穂乃果ちゃんからは覇気感じないにや」

花陽「そうだね」

真矢「……………確か穂乃果ちゃんは3点をいられるのは始めてなんだよね？」

花陽「はい……………入れられたとしても2点まで。それに次打つときまでには対策を考
えついでいました」

美咲「……………今の穂乃果ちゃんは」

真矢「……………」

『さあ、再びラブライブジャパンボールからスタートです!!』ピーーー!!

海未「ダイヤ!!」

ダイヤ「はいっ!」

フエイ「行かせないよ!!」

胸の周りで手を回して空気を作り出す

フエイ「エアールバ」「アーツドロー!!!」!?

海未「邪魔はさせません」

ダイヤ「ナイスです海未さん!!」

フエイ「やるね」

ダイヤ「真姫さん!!」

真姫「さあ!!行くわよ!!」

ハロ「やらせるか!!」

真姫「……………（必殺技じゃなくとも）抜く!!」

シュン!!

ハロ「は、早い!!」

真姫「行くわよ!!」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「psychic Arts V3!!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールはセンターラインに向かう

真姫「さあ、任せたわよ海未!ダイヤ!」

海未「はいっ!!」

ダイヤ「!!」

ルビィ「行かせない!!」

ダイヤ「行きますわよルビィ!!」

シャン!!シャン!!シャン!!

舞を舞い始める

ルビィ「!!」

ダイヤ「……………」

ルビィ「……………」

ダイヤは舞を続ける

ルビィ「そこだっ!!!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!ぜい!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!!」

ダイヤ「……………無駄ですわよ」

シャン! シャン! シャン!!!

ルビィ「!? (あの体制から躲すの) !?」

ダイヤ「演舞炎帝!!!」

ルビィを吹き飛ばし炎の道を作る

ダイヤ「さあ、行きますわよ!!!」

ダイヤはボールを止め、腕を組み

ダイヤ「!!!」

ボールを蹴る、そして蹴ったボールに刹那なスピードで追いつきさらに蹴る、さらに

刹那のスピードで追いつく最後はかかとに力を貯めてトドメのシュートを放つ!!!!

ダイヤ「刹那ブースト!!!」

ジャキン!! シュン!!!!

ゴールに向かう

愛「その程度じゃ決められ!?!」

海未「じゃあここにチェインしたらどうですか?」

ザッザー!!

そして海未はある技の構えをする

海未「はあ!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る

海未「ラストリゾート!!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

『な、な、なんとお!!!刹那ブーストとラストリゾートのチェインだあ!!!威力が凄まじいぞお!!!』

メイ「い、威力がえぐい……………」

愛「……………」

輝夜「……………止めれるわ早坂。貴方ならね」

愛「私はこれ以上絶対に点をあげない!!!!」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「これが私の全て!!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「KING REFLECTOR!!!」

シユートの威力がどんどん弱まっていく

海未「これは……まいましたね」

ダイヤ「……苦しいですわね」

ドン
!!!!

愛「……止めた」

『なんとお!!!二人の超強力チェーンを見事に沈めたぞお!!!』

『かたやラストリゾートは園田の代表の技ですからねとんでもない技だ』

ダイヤ「……止められるの!?あれを」

海未「あれはそれほど強大でやばい壁ですね。何か策を練らないとダメですね」

エレナ「……(KING REFLECTOR、強い。壊れるか分からないな、可

能性があるとしたら」

希「ウチらの槍なら壊せるかもね」

エレナ「希……………」

希「でも、あれはとっておきにしておきたいんや。だからここぞという時に合図するからその時に打つよ」

エレナ「了解だ、そのためにもみんなにはシュート打って貰わないとな」

希「そうやね」

愛「……………（1点も決めさせなければ勝てる）」

ルビィ「ナイスです愛さん!!」

愛「ルビィ……………ゴールは任せてくださいね」

ルビィ「うん!!」

『さあ、ゴールキックからスタートです!!』

愛「ルビィ!!」

ルビィ「……………」

ダイヤ「止めます!!」

ルビィ「じゃあついてきてね!!」

急激にスピードを上げる

ルビィ「疾風ダツシュ!!」

ダイヤ「くっ……………」

ルビィ「白蘭さん!!!」

白蘭「ああ!!」

真姫「……………」

白蘭「……………真姫。お前の成長本当に凄いと思う」

真姫「褒め言葉と素直に受け取っておくわね」

白蘭「ああ、だが試合は勝たせてもらおうぞ!!」
前のめりにしやがみ足に力を貯める

真姫「(来る!!)」

白蘭「スプリントワープ!!!」

ギンギンギンギンギン!!!

真姫「つつ!!早いわねほんと」

白蘭「ふふ」

穂乃果「……………」

白蘭「……………撃つぞ」

ラブライブジャパン「!?」

白蘭「喰らえ!!」

足からドラゴンを出して螺旋状にゴールに向かわせ、力を貯めるそして白蘭も飛び上がりシュートを放つ

白蘭「喰らえ!!!ドラゴンブラスター!!!」

右足でバネを放つ様にシュートを放つ!!

穂乃果「……………」

聖良「止めます!!!」

聖良はスケートのように滑り飛び上がる

聖良「すうくくうっ!アイスグランド

!!!」

足を地面に叩きつけて氷を張り巡らさせる

白蘭「俺のシュートがその程度で止められるとでも?」

聖良「パワーダウンさせられれば十分なんですよ!!!」

穂乃果「……………!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないV3!!!」

ズザア!!!

穂乃果は後ろに下がっていく

ラブライブジャパン「!?」

穂乃果「くっ!!」

結城「やっぱりな、穂乃果は今危ない状態だ」

にこ、ことり「はあ!!!」

サイドからボールをける

穂乃果「!!!」

ガシッ!!!

『入れられそうになりながらもなんとかゴールを阻止したああ』

穂乃果「ありがとう、ことりちゃんにこちゃん」

ことり「……………」

にこ「……………穂乃果」

穂乃果「……………」

結城「ムードが悪いこれでは……………相手に一気に持つてかれるぞ。どうする」

白蘭「……………つまらない。今の穂乃果ならホワイトハリケーンでも決められるな」

フェイ「今は沈んでる。けど復活したらおつそろしいよね」

白蘭「ああ、今まで負けた事がないだけに復活したら恐ろしいな」

ユリカ「でも、私達はいつもの試合をするだけだよ」

フェイ「そうだね」

穂乃果「ことりちゃん!!」

ことり「……………（穂乃果ちゃん）」

絵里にパスをする

エレナ「分析は終わったぞ絵里。いつでも発動できる」

絵里「ナイスよ……………けど今は状況が悪すぎるわね」

エレナ「そうだな。なら次考えることは一つ」

絵里「あのキーパーをどうするか」

エレナ「絵里には試して欲しい事が一つある」

絵里「試して欲しい事？」

エレナ「盾の角を狙って欲しい」

絵里「盾の角!?!」

エレナ「盾の弱点を探し出すんだ」

絵里「成る程ね。やってみるわ」

絵里は上がる!!

月「行かせない!!」

絵里「通るわよ!!!

地面から龍を呼び出す

絵里「昇竜!!」

月「!?!」

絵里「さあ、私の刃を喰って!!」

すると絵里は風を集めて羽を生やす、そして一旦、地面を降り、高く飛び上がりオーバーヘッド

絵里「天空の刃!!!」

愛「無駄だ」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「これが私の全て!!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「K I N G R E F L E C T O R !!!」

絵里「……………狙いは角よ!!」

円を描くように角に飛ぶ

愛「……………成る程」

ドン!!!

絵里「……………全く意味なさそうね」

エレナ「K I N G R E F L E C T O R 攻略は骨が折れそうだな」

愛「……………絶対に入れさせない」

結城「……………（どうしたもんかK I N G R E F L E C T O R、破れなきや勝てないのに点も入れられそうか）……………強いなワールドレジスタンス」

海未「……………どうすれば破れるのですか」

ダイヤ「このままでは点は決められるのに決められない状況か固まってしまおうどうすれば」

海未「穂乃果……………」

穂乃果「……………（私が止めなきや、チームは勝てない）」

フェイ「……………（キャプテン失格だよそれじゃあ穂乃果ちゃん）」

愛「メイ!!!」

メイ「ハロ!!!」

月「任せて!!!」

一気に中盤までボールが回る

海未「相変わらず早い連携ですね!!」

月「白蘭!!ユリカ行くよ!!」

白蘭、ユリカ「おう（うん）!!」

月「……………!!」

身体を空中で何回も回転させて闇のシユートを放つ

月「バイシクルソード!!!」

オーバーヘッド!!!

エレナ「やらせると思っただけか!?!」

エレナは飛び上がる

エレナ「キングスランス!!」

エレナの後ろに白き騎士のようなのが現れその槍と同時にボールをける

エレナ「ハァ!!!」

月「くっ!!」

相殺する

真姫「ナイスよエレナ!!!」

「またもやラブライブジャパンボールだあ!!!」

真姫「……………!!!海未」

海未「はいっ!!!」

真姫は海未に走って追いつきに行く

海未「通りますよ!!!」

黄粉子「もちもち黄粉「スパークエッジドリブル!!!」キヤツ!!!」

海未「……………真姫!!!」

バックパスする

真姫「ねえ、曜の対策の時の技やらない?」

海未「……………弾く技ですか。効きますかね?」

真姫「やってみないと分からないわ!!!」

海未「分かりました!!!」

真姫「さあ、シュート行くわよ!!!」

ボールに音符の力を込める

真姫「フォルテシモV4!!!」

ゴールに向かう

愛「他愛もない」

ゴールの周りに透明の壁が透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「KING REFLECTOR!!!」

キイイイーロー!!

愛「……………だろーうと思いましたよ」

真姫「!?」

海未「……………まさかそんな事まで可能とは」

ドンツ!!!

『と、止めたあ!!! KING REFLECTOR!! 無敵なのか?!?!?』

愛「回転させて、時間を稼ぎ。弾かさせてもう一度打つ。そのつもりだったらだろうけど無駄ですよ、そんな真似はさせないように一撃と止めるからね」

真姫「くっ……………」

海未「これは仕方ありません。私も予想外でした」
真姫「悔しいわ」

愛「鞠莉!!」

鞠莉「よっ……輝夜!!!」

輝夜「……フェイさん!!!」

フェイ「……」

穂乃果「……」

海未「……!!」

ダイヤ「海未さん!」

フェイ「……」

ことり「行かせない!!」

フェイ「ワンダーゾーンはもう効かない!!!」

空中で移動、そして加速

フェイ「スプリントスカイワープ!!」

ことり「!?」

『一気にゴール前だ!!!』

にこ「まづい!?!」

穂乃果「……………」

フェイ「……………今の穂乃果に王者の牙は勿体無いね」

穂乃果「!?!」

海未「……………」

プツン!!

フェイ「行くよっ!!」

ボールと共に丸でウサギのように跳ねながら力をためて月の下でオーバーヘッド

フェイ「バウンサーラビットV5!!!」
ラブライブジャパン「!?」

穂乃果「……………」

シャツ!!!

フェイ「?!?!?!」

にこ「もの凄いスピードの何かが今横を」

ドガンンンンンンン
!!!!!!!!!!!!!!

穂乃果「……………う、海未ちゃん」

海未「……………」

後ろの髪は括られていた

海未「……………」

どかつ!!

ボールを外に出す!!!

穂乃果「う、海未ちゃん。ありが「なんでそんな顔をしてるんだよ!!!」!?」

海未「穂乃果!!!なんでそんな顔してられるんだ!!!お前は今この技は必要ないって終われたんだぞ!!!何を考えてる!!」

ことり「う、海未ちゃん!」

穂乃果「……………」

海未「……………初めて3点入れられたから悔しいのか?」

穂乃果「……………」

海未「止められないと思ったから諦めたのか?」

穂乃果「……………」

海未「試合はまだ終わってないだろ!!!」

穂乃果「海未……………ちゃん」

海未「穂乃果!!!お前は太陽の奇跡の守護神だろ!!私達の太陽なんだろ!!なら照らせよ

!!輝きで!!!」

穂乃果「……………」

穂乃果は少し涙を流す

海未「……………止めて見せて。穂乃果ならできるでしょ」

穂乃果「……………」

穂乃果は涙を拭い

穂乃果「うん！止める!!どんなシユートも止めるよ!!だから海未ちゃんは集中してプ

レーして欲しい!!」

海未「……………遅いよ穂乃果」

穂乃果「ごめん!!」

海未「……………ふっ」

髪の毛を結ぶのを解く

海未「任せましたよ穂乃果!!」

穂乃果「うん!!!」

結城「穂乃果はもう大丈夫だな」

曜「そうですね」

ツバサ「それにしても海未が穂乃果にあそこまで怒るは初めてみたかも」

千歌「確かに!!」

梨子「それくらい穂乃果ちゃんを信用しているんだろうな」

海未はポジションに戻る

ダイヤ「驚きました、急にポジションから離れるから」

海未「すいません、けどこれで穂乃果は大丈夫です!!」

ダイヤ「……………海未さんと穂乃果さん羨ましいですわ」

海未「そうですね？」

ダイヤ「お互いがお互いを信じ合っている。なんか兄弟みたいですわね」

海未「……………そうかもしれないですね」

『さあ以前ワールドレジスタンスボールからスタートです!!』

フェイ「ユリカ!!!」

ユリカ「よっと!!!さあシュート行くよ!!!」

ボールを上蹴り上げる!!

ユリカ「ブラックフィールド!!!」

ボールにシャードクロスバイパーの力が集まる。そしてユリカもボールまで飛び手でオーラを集めて、さらに飛び上がり加速をつけてシュートを放つ!!

ユリカ「はあ!!!!!!」

穂乃果「止めるっ!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらあああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないV3!!!」

バシユウ!!!

『と、止めたあ!!!高坂復活か!?!』

穂乃果「もう負けていられない!!」

ユリカ「ふふ」

穂乃果「真姫ちゃん!!!」

真姫「!!」

穂乃果「みんなどんどん攻めて!!!」

ラブライブジャパン「おう!!!」

フェイ「……………」

白蘭「士気を取り戻したな」

フェイ「白蘭、ボールお願いしてもいい？」

白蘭「お前狩る気だな」

フェイ「止められなければ穂乃果ちゃんはそこまでの子だよ」

真姫「絵里!!!」

絵里「ナイスパ「いいや、貰うね!!!」!？」

真姫「は、早い!？」

『ワールドレジスタンスのカウンターだ!!!』

白蘭「もう一度こっちの攻撃を喰らえ!!」

白蘭がフェイにパスを出す

完全に1対1になる

フェイ「さあ、行くよ穂乃果ちゃん。これでもう一度!!、貴方の心をへし折る!!」

するとフェイはまるで恐竜の牙の様なポーズをとる

フェイ「王者の牙!!」

穂乃果「……………」

少し前

穂乃果「……………」

穂乃果はビデオを見ていた

結城「誰かいるのか?……………!?穂乃果!?!」

穂乃果「!?結城さん……………す、すいません遅くまで」

結城「いや、いいが……………何を見てるんだ?」

穂乃果「これです」

再生ボタンを押す

ビデオ

ルビィ「……………ふう」

ルビィはA T Pを解除する

エメラ「解除した？」

(オト) ダイヤ「……………何をやる気なんですか？」

ルビィ「まさかこの試合で使う事になるなんて思わなかったよ……………
はあああああああああああ！」

ルビィの真上には巨大なオーラの塊があつた。そしてその塊は、強風とルビィから溢れるオーラを吸収している

(オト) 穂乃果「!!」ガタ

結城「まさか……………な」

真姫「はあ……………」やれやれ

真姫「ほんと、無茶するんだから」

周りの空気をボールに集めるそしてそのボールをルビィは

ルビィ「ふうううう！」

その空気の塊のボールを飛び上がり下に叩き落とす

ルビィ「ぜい!!!」

ボールに先回りして左足でスピンをかけるそしてオーラを力のため続ける

ルビィ「はあああああ！ ATP!!」

ため終わりもう一度 ATP を発動させる

ルビィ「……………!!」

そのシュートはフィールドを、大地を揺らした

ルビィ「ラストリゾート!!」 ドガアアアン

ラブライブジャパン「!!」

ドガアン ドガアン ドガアン

ボールは弾むたびに轟音と共に地面を粉々にし、縦横無尽に駆け回る。

周りの地面を巻き込みながら、確実にゴールに迫っている

(オト) 海未「……………」

(オト) 曜「このシュートは!!!でも私の水の壁は超えられないよ!!!」

ステップを踏む、激流を呼び起こす！

(オト) 曜 「AQUARIUM!!」

ルビイの放ったボールがAQUARIUMに飛び込んでいく

(オト) 曜 「!!な、なんて威力飲み込めな……………」

次第に水の勢いは弱まっていき(オト) 曜は吹き飛ばされる

(オト) 曜 「うあああああ!!」

ルビイ「……………まずは1点」ゴゴゴゴ

バシユーーーーーン

ビデオを止める

穂乃果「……………」

結城「サニデイジャパンのルビイの『ラストリゾート』か……………」

穂乃果「はい……………あの時は気付けませんでした。あのラストリゾートは……………海
未ちゃんのものより格が違う」

結城「……………そうだな。俺も今見て改めて思った。全く異質だな、力とか強さとかじゃない……………絶対的な何かがシユートに纏っている」

穂乃果「……………私の夢なき夢は夢じゃないではきつと止められない。それにこの先。この技も破られる時が来る。実際、海末ちゃんの新技には夢なき夢は夢じゃないでは全く歯が立たないから」

結城「……………穂乃果」

穂乃果「とはいえ、もう今日は遅いので寝ますねおやすみなさい」

ガチャ

一

穂乃果「(私は少し天狗になっていたのかもしれない。サニデイジャパンの試合の時

だってもし、あのシュートを打たれていたら。もつと凄い技を打たれていたら………と
思うと少し怖くなっていた」

結城「……………（俺はお前に頼り過ぎていたのかもしれないな、穂乃果、でも、今の
前ならお前なら）どんなシュートも止められるよ!!穂乃果」

穂乃果「……………結城さん、行きます!!!」

そう言うと、穂乃果は両手に夢なき夢は夢じゃないの力を込める

海未「……………ついに見られるんですね」

穂乃果「穂乃果はどんなシュートも止めてみせる!!!」

穂乃果回転しながら飛び上がり、両手を合わせる。すると両手からオレンジ色のエネ
ルギーが溜まる

穂乃果「はあ!!!!でりゃ!!!」

そして、それを下に投げる、するとそのエネルギーは無数のレーザービームのような
光線のように下に流れていく、そして光景はまるでスターダスト

ダイヤ「き、綺麗ですわ」

エメラ「これが」

真姫「穂乃果の!!」

ことり「究極の技!!」

海未「やりましたね、穂乃果」

そしてエネルギーは王者の牙のシュー!!に刺さっていく

穂乃果「ダリヤリヤリヤリヤリヤリヤ」

回転しながら、エネルギーシュートに對て続ける

フエイ「……………す、凄い」

そして……………

ドガンンンンンン
!!!!!!

スタッ!!!穂乃果が地面に着地する

穂乃果「……………みんな、止めたよ」

ジュウー

ボールは地面にめり込む

穂乃果は着地する

『と、と、止めたあ!!なんなんだ今のは、今の技は!!!王者の牙を止めた!!!』

結城「……………無限に降り注ぐようなスターダストそして太陽の力……………ふふ、最高の技じゃねえか穂乃果」

穂乃果「……………」ニツ

結城「名付けるならば、summer of fall（サマー・オブ・フォール）だな!!」

穂乃果は今後からこう言われるようになる

「星と太陽の守り手」と

次回、王の盾を砕け

ワールドレジスタンス戦 「王の盾を砕け」

前回のっ！サッカー!!

2連続失点しショックを受ける穂乃果。ピンチに陥るラブライブジャパン。しかし海未の怒鳴りもありながらなんとか持ち直す穂乃果!!新必殺「summer of fall」を完成させ!!フエイのシュートを完全に止めたっ！試合はまだ分からない!!

『この土壇場で高坂の新必殺 summer of fall が炸裂!!!王者の牙を止めたああ!!!』

穂乃果「ハアハアハア……………やったあ。やったああああ!!!」

フエイ「……………ふふ、このシュートを止めるなんて。穂乃果、君は凄いよ」

穂乃果「ありがとう!!!」

フエイ「……………でも試合は負けないよ」

フエイは自陣に戻る

ことり、海未「穂乃果（ちゃん）!!!」

穂乃果「やったよことりちゃん、海未ちゃん!!!」

海未「穂乃果、怒鳴ってしまいごめんなさい」

穂乃果「いや、あれがなかったら穂乃果はもうダメだったかもしれない。だからありがとう海未ちゃん!!」

海未「はい！」

ことり「穂乃果ちゃん凄い!!」

穂乃果「えへへ、やつと完成したよ」

ことり「凄くかつこよかつたよ!」

穂乃果「ありがとう、ここからは私に任せて!!」

ことり「!!うん!」

穂乃果「ゴールは穂乃果に任せてつ!!!みんなは思いっきり攻めてね!!!」

大きい声で言う

ラブライブジャパン「うん!!!」

智和「覚醒させちやつたか………ふふ。それにしても究極の必殺技かあまさか実現に
なるとは思わなかったな」

真矢「乗り越えたみたいだな穂乃果ちゃん」

善子「かつこいい!!」

凜「まるで星空みたいだったにや!!」

花陽「あれが究極の技」

美咲「確かあの技って」

真矢「昔誰も完成出来なかった技だな」

美咲「凄いわね、みんな」

真矢「……………（真姫）」

『さあ、後半残り20分、点差は1点!!ラブライブジャパンがここから巻き返すのか!?それともワールドレジスタンスが守り抜くのか!?見逃せないぞ!!』と、ここで選手交代です!!』

結城「さあ、遅くなったが暴れてこい理亞!!」

理亞「はいっ!!!」

『FWの黒澤ダイヤと変わって鹿角理亞が交代です!!ラブライブジャパンはこれで選手全員を出しました!!!』

ダイヤ「理亞さんあとはお願いしますね!!」

理亞「ええ、任せて!!」

海未「はなっから飛ばしますからね理亞」

理亞「分かってる!!」

『ゴールキックから再開です!!』

穂乃果「聖良さん!!」

聖良「さあ!! 行きますよ!!」

絵里「聖良!!」

聖良「絵里さん!!」

絵里「……………あれ使うつもりね?」

聖良「はい!! やつてみます!!」

絵里「真姫!!」

真姫「……………」

理亞「真姫!!」

真姫「……………(ふふ、やる気満々ね)」

輝夜「たあ!!!」

真姫「……………甘い!!」

スライディングを躲す!!!

真姫「聖良!!」

聖良「ふふ、さあ頃合いですね理亞」

理亞「ええ、姉様やってやりましょう!!」

ルビィ「来るよ!!!」

聖良は飛び上がり月の様なものを浮かび上がらせる

理亞「うおおおおお！」

それに反応し理亞が何度もボールを蹴る

理亞「喰らいなさい！」

一度ボールから離れて聖良と二人で蹴る

理亞、聖良「真アイス・オブ・エデン!!」

海未「あの二人、殆ど練習してないのに真……さすがですね」

愛「……………無駄だよ!!!」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「これが最高の壁!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「K I N G R E F L E C T O R !!!」

パキパキパキ

愛「!?」

聖良「普通に打ったわけじゃないですよ、エターナルプリザードの氷を何倍にもして打ちました。これならどうです？」

愛「……………やるねけど、それじゃあ王の盾は破れませんよ!!!」
ドン!!!

聖良「……………ダメですか」

『と、止めたああああ、K I N G R E F L E C T O Rからはゴールは奪えないのか!?!』

理亞「姉様……………」

聖良「氷は効かず炎も効かない。無敵なのかもしれないね」

理亞「……………」

聖良「でも、壊せる筈です。あとは任せます」

聖良はD Fに戻る

愛「……………(K I N G R E F L E C T O Rは無敵の筈。分かっている……………けど胸

騒ぎがする)」

ルビィ「愛さん!!!」

愛「ルビィ!!!」

ルビィ「行くよ!!!」

急激にスピードを上げる!!!

海未「来ますかルビィ!!!」

ルビィ「うん、ここでもう一点決めて決定打にするっ!!!」

海未「やれるものなら!!!」

海未は手から無数の矢を作り出し相手に投げる

海未「アーツドロー!!!」

矢で相手の動きを止める、その隙に海未はボールを奪い取る

ルビィ「!？」

海未「油断大「フェイタルソフト!!」!?」

メイ「気を取られていましたね?」

海未「くっ……………」

メイ「ルビィ!!!」

ルビィ「!!月さん!!!」

月「オーケイ!!」

絵里、エレナ「はあ!!!!」

月「……………」

月の体が青く輝く

絵里、エレナ「!?」

月「こんな面白い戦い僕ももつともつと楽しみたい!!!
青い光に包まれていく

月「ブルースターダスト!!!」

ギンギンギン!!!

月「ルビィちゃん!!!」

絵里「……やられたわね」

エレナ「……ああ、まさかこの土壇場で」

絵里「……みんな進化を続けているってことね」

ルビィ「………穂乃果さん勝負です!!!」

穂乃果「うん!!いいよっ!!!みんな手は出さないでね!!」

ルビィ「行きます!」

自分の右足に紫のオーラを纏う

ルビィ「ラアア!!」

ルビィは自分の上にエネルギーの塊を作り出すそして飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

ルビィ「ふう!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように右足で蹴る

ルビィ「うらあああ!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を左足で蹴る

ルビィ「ラストリゾートD!!」

ドラゴンの力を得たシュートが何度も地面にバウンドしながらゴールに向かってい

く

穂乃果「…………ルビィちゃん本当に凄いシュートだね。だから穂乃果も本気で行くよ!!」

穂乃果は両手に夢なき夢は夢じゃないの力を込めて回転しながら飛び上がり、両手を合わせる。すると両手からオレンジ色のエネルギーが溜まる

穂乃果「summer of fall」

そして、それを下に投げ、するとそのエネルギーは無数のレーザービームのような光線のように下に流れていく

エネルギーの塊がシュートに刺さっていく

穂乃果「ダリヤリヤリヤリヤリヤリヤ」

回転しながら、エネルギーを当て続けぬ

ルビィ「……………綺麗」

そして……………

ドガンンンンンンン
!!!!!!

穂乃果「止めたっ!!!」

『高坂穂乃果ラストリゾートDを見事にキャッチだあ!!!』

絵里「エレナ!!!」

エレナ「ああ、分かっている」

穂乃果「頼んだよ!!!」

聖良「!!絵里さん!!」

結城「……………始まるな」

エレナ「やるぞ絵里」

絵里「ええ!!」

エレナは膝をついて目を瞑り、集中する。そして自身の情報の塊を絵里に渡す

絵里「……………!!」

そして絵里はそれを剣のように振ってラブライブジャパン全員に張り巡らさせる

絵里、エレナ「必殺タクテイクス!!」「『ザ・ジエネラル』!!」

ラブライブジャパン「?!?」

ラブライブジャパンの選手全員にエレナの情報が行き渡る

海未「こ、これが」

真姫「タクテイクス!!」

理亞「す、凄い情報が入ってくる!!」

ラブライブジャパンの選手が青く光り輝く

月「な、なにこれ!!」

フェイ「!?!」

エレナ「(皆んな!!情報は行き届いている筈だ!!K I N G

R E F L E C T O Rを

破るために皆んな協力してくれ!!)」

果南「脳内に直接!？」

エレナ「(ザ・ジエネラルで相手の情報などはサポートになつてる筈だ!!今が攻め時だぞ)」

希「ふふ、やるね〜エレナっち、エリチ」

にこ「そうね」

絵里「果南!!!」

果南「オーケイ」

輝夜「連携がさらに良くなっている!?!これは」

ハロ「あのタクティクスのせいですね……………厄介だな」

ルビィ「……………」

鞠莉「初めて見るタクティクスね……………でもやるしかないわね」

メイ「ええ」

果南「……………!!これは」

目の前の選手の細かい癖なども伝わる上完璧なパスコースも!!

理亞「果南!!」

果南「理亞!!」

理亞「(パス完璧)!!」

結城『『ザ・ジエネラル』か……………あの二人そんなタクティクスを作っていたなんてな』

ツバサ「……………エレナ本当に貴方は凄いわね」

理亞「行くよ!!!」

ボールをどんどん凍らせていく

理亞「うらああああ!!!」

バキン!!!

理亞「……………はっ!」

ボールを上蹴り上げる

理亞「ふっ!」

理亞もボールと共に上に上がる

理亞「喰らえ!」

理亞は凍ったボールをオーバヘッドで下に叩き落とす

理亞「真エターナルショット!!」

ガギャン!!!

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「これが最高の壁!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「K I N G R E F L E C T O R !!!」

パキパキ

愛「!？」

理亞「(アイス・オブ・エデンより凍らせることをさらに特化させたシュート……さあどう?)」

愛「……………無駄だよ!!」

理亞「!？」

ドシューウ!!!!

『止めたああやはり無敵なのか!?!』

愛「……………氷のシュート、いいシュートだな」

理亞「素直に褒め言葉と認めておくわ」

愛「ルビィ!!」

ルビィ「!!」

海未「行かせません!!!」

ルビィ「(は、反応が早すぎる)!!」

ハロ「ルビィ!!!」

ルビィ「ハロさん!!」

海未「!?(カバー!!)」

絵里「了解!!」

ハロ「!?ちい早いなあ……………（おそろしい連携だな）」

絵里『『ザ・ジエネラル』はこんなもんじゃないわよ!!』

ハロ「……………刻剣で膝まつかせるまで!!!」

ボールを上に蹴る

ハロ「黒き刻剣」

そう言って自身も飛び上がる

ハロ「ブラックビート!!」

剣を出して地面に突き刺す

海未「くっ」

ハロ「残ね!？」

エレナ、真姫「たあ!!!!」

ハロ「何っ!!」

ハロは慌てて前にボールを蹴る

エレナ、真姫「!？」

絵里「貴方、やるわねあれに反応するなんて」

ハロ「今のまぐれよ（なんだこの連携力、ザ・ジェネラル……………）」

エレナ「……………くつやられたか」

真姫「……………」

エレナ「真姫!？」

観客席

美咲「真姫ちゃん？」

真矢「……………どうしたんだ真姫」

真姫は下を向いている

月「よつと!!!」

白蘭「こつちだ!!!」

月「白蘭ちゃん!!!」

白蘭「穴もあるようだ「……………」!? なっ、何!?」
何者かが超スピードでボールをカットする

エレナ「……………心配は入らなかったようだな」

真姫「……………」

白蘭「目の色が銀!?と、言うことは」

希「ふふ、この土壇場でまた観れるとはね」

にこ「真姫……………」

智和「見せてもらおうじゃないか」

真姫「……………」

智和「無考の極意!!!」

ガタツ!!!

美咲「!? 貴方?」

真矢「ま、まさか、お前がそれを発動するとはな真姫」

真矢は驚いた表情で真姫を見る

善子「知ってるんですか?」

真矢「ああ、俺も昔にあの状態になった事があるからな」

善子、花陽、凜「?!?」

真矢「俺の時は一瞬だったが………まさか真姫が使う日が来るとは夢にも思わなかったぞ」

善子「どんな感じなんですか?」

真矢「あの状態になったら考えがなくなる。勝手に身体が動くからな、だから止められるものは居ない。遥かに超える実力がない限りは」

真姫の目は銀色に輝き。焦り、力強さは全てなくなる

真姫「……………」

白蘭「す、凄い（なんて威圧感だ……………それに真姫の今の状態冷静そのものなのに闘志もある）」

真姫「……………極めてみせる」

白蘭「極める？」

真姫「……………」

ビュン
!!!!

白蘭「!?」

真姫「迅速!!」

『な、なんと西木野の迅速が炸裂!!ドリブルにしろディフェンスにしろ止めた奴は今までいないぞ!!!』

真姫「……………」

エレナ『……………真姫!!ルビイとメイの間にパス出せるか?』

真姫「……………」

ボールを左右から蹴りつけて。ボールに回転をかける

真姫「psychic Arts Z!!!」

選手たちの頭上を通り過ぎてボールはセンターラインに向かう

エレナ『(理亞!!海未!!)』

海未、理亞「了解!!!」

二人はある場所に走る

ルビイ「psychic Arts!?!どこにうつ?!」

海未、理亞「はあ!!!」

メイ「!?!しまっ」

海未、理亞が二人を突破してボールをトラップする

海未「理亞!! 貴方のエターナルシヨットと私の神速ラブアローシユートを混ぜましょう!!!」

理亞「混ぜる!?!」

海未「超スピードで打ち込みます!! 早く!!」

理亞「わ、分かった!!!」

ボールをどンドン凍らせていく

理亞「うらああああ!!!」

バキン!!!

理亞「……………はっ!」

ボールを上を蹴り上げる

海未「行きます!!!」

海未は手から弓矢を飛び出し、そしてボールに口から生み出したハートをぶつける

海未、理亞「喰らえ!!!」

そして体を弓矢の様にしなりシユートを放つ

海未、理亞「神氷ラブアローシヨット!!!」

ビュン
!!!!

愛「!!!」

ドガン
!!!!

愛「K I N G REFLECTOR」

『と、止めたあ！超絶スピードの氷と矢のシュートを止めたあ!!!』

愛「……………この技にはスピードは無意味です」

海未「ダメですね……………」

理亞「……………海未、ラストリゾートRは？」

海未「……………」

理亞「……………打てないのね」

海未「ごめんなさい」

理亞「そんな時もあるわ。大丈夫よ」

海未「……………ありがとうございます理亞」

真姫「……………」

エレナ「ナイスアシストだ真姫。決まらなかったがこれでスピードは」

真姫「自陣のゴール前からシュート打つ」

エレナ「!?だ、大丈夫なのか!」

真姫「……………大丈夫」

エレナ「分かった」

愛「黄粉子!!!」

黄粉子「任せるや「……………」!?早っ!!」

真姫「……………」

真姫がボールを奪取

『は、早い西木野ボールを奪ったああああ!!』

ハロ、ルビィ「くっ!!!」

愛「……………」

真姫「……………」

ルビィ「!?!」

理亞「真姫!?!」

『な、なんと西木野!!自陣に戻って行っているぞ!!!』

千歌「真姫ちゃん!」

梨子「な、なんで戻ろうとしてるの!」

ツバサ「……………真姫は一体何を?」

エメラ「!!……………恐ろしい事を思いついたね真姫」

ツバサ「!?エメラ分かったの?」

エメラ「はい……………真姫は自陣からあのシユートを打とうとしている」

ツバサ「!」

結城「……………クレツシエンドか」

エメラ「……………」

絵里「な、なんで逆送してるの!」

エレナ「……………(真姫の事だ何かあるはず)」

月「戻ってくる!」

輝夜「そんなの予想できないわ」

真姫「……………」

エレナ『(みんな!!!真姫を守るんだ!!ボールは絶対に奪わせるなよ!!)』
ラブライブジャパン「了解!!!」

白蘭「!?なっマークし始めただど!?」

ハロ「何をするつもり!?」

真姫「……………」

真姫はDFの所まで戻る

ユリカ「くっ!!!」

フェイ「何をするつもりなんだ!?」

真姫「……………」

希「体持っつか?」

真姫「大丈夫」

希「……………分かった」

そしてDFの最終ラインまで戻ると立ち止まり、相手のゴールをほうを向く

ルビィ「……………!?（真姫ちゃんまさか!?）みんな気をつけてシユートがくる」
ワールドレジスタンス「!?」

真姫「……………喰らえ」

すると真姫はボールを自身の胸のところの位置まであげる

真姫「……………ハア!!!」

ピアノを弾くように手を動かす

真姫「……………うらあ!!!」

そして、手を動かした後、一回転しボールを蹴る

真姫「クレッツシエンド!!!」

ドガン!!!!

真姫のシユートがゴールに向かう

観客「!?」

ワールドレジスタンス「!?」

『な、な、な!なんと!!自陣ゴールからシユートを放ったああ!!!』

白蘭 「どんなシュートでも威力は落ちる!!!」

白蘭 はマークをかわしボールを蹴り返そうとする

白蘭 「!? なっ何!?!」

ルビィ 「そのシュートは!!! どんどん威力が増すんです!!!」

白蘭 「なんだと!?!」

ズズズ

白蘭 「!? こ、このパワー!?!」

ドガン!!!

白蘭 「くっ!!!」

白蘭 は吹き飛ぶ

フェイ 「白蘭!!」

ユリカ 「と、遠目でも分かる!! あのシュートは凄まじいスピードで威力が上がって
いつている」

バシユン!!!!!!

月、輝夜、ハロ 「止めるっ!!!」

3人がかりで蹴る!!

だが

ザザザ……………

月、輝夜、ハロ「!?」

白蘭「さ、3人がかりでも!？」

真姫「……………私のクレツシエンドは無限よ」

月、輝夜、ハロ「うわあ!!!」

とんでもない威力のシュートがゴールに向かう

愛「……………」

愛は少し不安を感じていた、無限に威力を上げ続けるシュートを止められるのかと

愛「……………」

でも、それでも愛は自分の技ならと感じていた

愛「私は絶対に点をあげないっ!!!」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「これが最高の壁!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「KING REFLECTOR!!!」

ドガンンンンンン

愛「……………くっううう」

真姫「……………」

愛「……………ここ、こんなシユート受けた事ない……………けどっ!!!」

ドガン!!!

愛「死ん!でも入れさせない」

ジュウー

『と、止めたああ無限に威力が上がり続けるクレツシエンドを最強の壁が阻んだ!!!』

真姫「……………」

エレナ「真姫!!大丈夫か」

真姫「……………大丈夫よ」

エレナ「(消耗しているな) 真姫無理は」

真姫「エレナ……………話があるわ」

エレナ「!?」

真矢「クレツシエンドか」

美咲「まさか、真姫ちゃんがあんなシュートを打てるなんて」

真矢「……だが、こんなものではないはずだ」

美咲「貴方」

真矢「真姫」

愛「ハアハアハアハア」

ルビィ「愛さん!!!!」

愛「る、ルビィ………なんとか止めたよ」

ルビィ「す、凄いよ!愛さんあのシュートを止めるなんて」

愛「ありがとう………(だがやはり変だ思ったよりは強くなかった………ギリギリくらいだと思っていたけどそんな事もなかった………私のK I N G R E F L E C T O R が凄すぎるの?)」

真姫「……………分かった？」

エレナ「ほ、本当にできるのか!? そんな事が」

真姫「ええ、たぶん終わった瞬間に解けると思うわ、だから一発勝負よ。頼んだわね
エレナ」

『残り15分!! 果たしてどうなるのか!!!』

愛「ルビィ!!!」

ルビィ「……………（真姫ちゃんは流石に後ろだね）ハロさん!!!」

理亞「たあ!!!」

ハロ「!!くっくっ（ザ・ジェネラルを忘れていた!!）間に合えっ!!!」
パスを出す

理亞「くっ!!! 届かない」

輝夜「ナイスです!!!」

輝夜「行きますっ!!!」

にこ「通さないわよ!!」

輝夜「!!（早いっ!!!）こんなにも早くにこさんが」でもまだ間に合う!!」

輝夜は上に上がる

輝夜「……………月の力」

ボールを月ごと下に蹴る

輝夜「ルナティッククレイ!!!」

月を下に落とす

にこ「やらせないわよ!!!」

するとにこは手を地面につけて自身を風のように回転させる

輝夜「!？」

にこ「……………」

すると、月は止められてボールもにこの足に吸い付く……はずなのだが
にこ「!?」

月「お願いします!!白蘭さん」

白蘭「任せろ」

にこ「しまった!?」

自身に雷を纏いジグザグに超高速移動する

白蘭「疾風迅雷」

にこ「しまっ!!」

希「……………任せたよ真姫ちゃん」

そう言うのと希は上がっていく

白蘭「!?（こ、この土壇場で希が上がった!?な、何故だ絶対に止めなければ）!?」
「迅速」なっ何!?!」

ザシユツ!!

真姫「……………」

『……ここで!!西木野が再びボールを奪った!!!』

希「エレナっち!!」

エレナ「本当に大丈夫なのか……………」

希「……………今のウチらに出来ることは真姫ちゃんを信じて走るだけ!!」

エレナ「そうだな」

結城「真姫、どうするつもりだ」

真姫「……………」

真姫は相手のゴールを見る

真姫「これで同点よ!!」

真姫はドリブルで上がっていく

輝夜「たああああ!!!」

真姫「……………」

軽々と躲す

輝夜「は、早い!？」

真姫「……………」

絵里「ま、まさか真姫貴方!!」

にこ「ゴールまで一人で運ぶ気!？」

真姫「……………」

月「ハロさん左右から行きますよ!!」

ハロ「了解!!!」

真姫「……………」

月、ハロ「たあ!!!!」

絶妙に左右からスライディングを仕掛ける

真姫「……………」

だが今の真姫には通用しない
スカツ
!!!!

月、ハロ「!!」

『西木野!!MFラインを突破!!3人抜きです!!』

真姫「……………」

鞠莉「これ以上はっ!!行かせない!!」

周りに爆裂の種を撒きそれを爆発させる

真姫「……………」

鞠莉「グランドスイーパー!!!」

ドガンンンンンン!!!

煙が上がる

鞠莉「……………!？」

だがそこには居ない

真姫「……………迅速」

鞠莉「!？」

真姫は爆発する瞬間迅速で回避していたのだ

真姫「……………あと3人」

メイ「もう行かせない!!!」

メイは分身を作り真姫を襲う

メイ「フェイタルソフト改!!」

以前よりも分身は増えスピードも上がる……………だが

真姫「……………」

シンシンシンシンシンシン!!!

メイ「ぜ、全部かわしてる!？」

結城「す、すげえこれが真姫か」

ツバサ「す。凄い」

エレナ「いけえ!!!真姫!!!」

真姫「……………」

真矢「真姫!!行け!!今までを超えて見せる!!」

立ち上がって、手を振るわせる

美咲「……………ふふ、昔はあんなに反対してたのに」

黄粉子「ルビイちゃんお願いやんね!!!」

ルビイ「はい!!!」

真姫「……………サーーーーー」

海未「!?ま、まさか真姫ノーモーションであれを!?」

ルビィ「止めるっ!!」

ルビィは回転して足に力を溜める

ルビィ「!!ぜい!!」

その力を真空波として前に飛ばす

ルビィ「ファイアカット!!」

真姫「……………イーーーーー」

ルビィのファイアカット!! 広範囲かつ強力な技なのだが、今の真姫は飛びながらそれを軽々と躲す

ビュンビュンビュンビュンビュン

ルビィ「くっっ!!」

真姫「……………キーーーーー」

目が少し光り、そして光が輝く

しゅぴん
!!!!!!!

ルビィ「黄粉子ちゃん!!!後はお願ひ!!!」

黄粉子「任せて!!!」

真姫「……………」

黄粉子「もちもち黄粉餅!!!」

餅が真姫に伸びる……………だが

真姫「……………」

ドオン
!!!!!!

黄粉子「え?」

真姫「……………」

ラブライブジャパン、ワールドレジスタンス、観客席「!?!?」

なんと真姫はボールを足に挟み逆さの状態でジャンプし、もちもち黄粉餅を回避して
いた。

『……………』

あまりの衝撃に実況者も言葉を失っている

真姫「クーーーーー!!!」

そして真姫はそのままゴールの真上まで飛ぶ

愛「!?」

真姫「アーツ!!!!!!」

ノーマーショッ!での p s y c h i c A r t s を放つ

愛「!?止めるっ!!!」

ガキン

愛「!?」

K I N G R E F L E C T O R をギリギリで発動させシユートは止めたのだが今ま

でと違う音が出る

愛「!?まさか!!!」

ボールは弾かれる

愛「狙いはK I N G R E F L E C T O R にヒビを入れること!？」

希「そう言うことや!!」

愛「……………」

希「いくよ!!エレナっち!!」

エレナ「ああ!!」

すると希はボール上に向けて前屈みの姿勢をする、さらに月が浮かび上がっており、その後月から降ってくるようにボールが下に落ちてくる

希「!!」

希が燕返しのように一発蹴りそして、エレナがさらに空中にボールを蹴り上げる。そして

希「これが」

エレナ「私と希の!!」

希、エレナ「月の槍!!!!」

希はオーバーヘッドでエレナはキングスランスのシュートを放つ!!!

希、エレナ「月下王の槍!!!」

月の王のシュートがゴールへと飛ぶ

愛「と、止める!!!!」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「これが私の全て!!!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「KING REFLECTOR!!!」

バチン!!!!

愛「くっ!!!!」

希「チェックメイトやKING REFLECTOR」

エレナ「粉々に砕け散れ」

愛「くっくっくそお!!!!」

ピシピシピシピシピシ
!!!!!!

愛「!!……………最強だと思ってた壁が破られるなんて……………うわあ
!!!!!!」

バシユウ
!!!!!!

K I N G R E F L E C T O R を見事に砕く!!!

次回、ワールドレジスタンス戦ラスト

私達は未来の花

ワールドレジスタンス戦「私達は未来の花」

「行くよ!!!」

「ほのかちゃん!!」

ほのか「たああああああ」

「すごい!!!」

ほのかはシュートを決める

「すごいね!! 全部のポジション出来るんじゃない?」

ほのか「うん、私はどこのポジションでもできるようにするんだ!!」

「かつこいいなああ、ほのかちゃんは!!!」

ほのか「えへへ、そんなことないよ、ことりちゃん」

ことり「そんなことあるよ」

「ほのかがいれば世界とか目指せちゃったりして」

ほのか「いいすぎだよ」

「……………」

ほのか「……………ねえ視線感じない？」
ことり「確かに、なんか感じるよね」

「……………」

サッと何かが動く

ほのか「!!! 後ろ!!!」

しーん

ほのか「あれ？」

ことり「気のせいかもねほのかちゃん」

ほのか「うん、だよね!!!」

サッカーを再開する

「……………」

夕方

「ほのか、ことり。今日はここまでにしよう」

ほのか「うん！ そうだね」

ことり「帰ろっか!!!」

ほのか「……………」

ことり「ほのかちゃん？」

ほのか「先に帰ってて」

ことり「!?」……………わ、分かった」

ことりと友達が帰っていく」

「……………」

ほのか「人苦手なんでしょ？」

「!?」

ほのか「お願いでできて!!」

「……………」

青い髪の少女が出てくる

ほのか「私はこうさかほのか、あなたは？」

「……………わ、私そのだ

うみです」

一

ワールドレジスタンス戦「私達は未来の花」

『な、なんとお!!! ここからは天命白蘭と園田海未のエース対決が始まるぞ!!!』

凜「す、凄いにや」

花陽「この土壇場でエース対決!？」

善子「この土壇場だからでしょ、白蘭は今回で勝つつもりね」

凜「どっちも頑張つて欲しいけどやっぱり海未ちゃんを応援にや!!! 海未ちゃん頑張れ!!!」

花陽「海未ちゃん負けるなあ!!!」

『さあ、エース対決どうなるのか!? ワールドレジスタンスボールからスタートです!!!』

びー!!!

フェイ「白蘭!!!」

白蘭「!!!」

海未「……………久しぶりですねこうやって向かい合うのは」

白蘭「ああ、1回目は全国大会、そして2回目はラブライブジャパン強化合宿の時。そして今回3回目」

海未「前半の時と少し勝負しましたがその時は負けましたね」

白蘭「あれはウォーミングアップだ勝負に入らない」

海未「なら、全開で行きますよ」ニツ

白蘭「そこなくちや面白くない」ニツ

白蘭「……………」

海未「……………」
静まり返る

白蘭「!!」

海未「!!」

ギョングョングョングン!!

ルビィ「同時にスプリントワープ!!」

理亞「は、早い」

ダイヤ「あの二人超高次元の駆け引きをしますわ」

白蘭「着いて来るか海未!!」

海未「こんな所で着いていけなくなったら本末転倒です」

白蘭「ふふ、そうだな」
立ち止まる

海未「……………」

白蘭「いくぞ海未!!!」

海未「こいつ!」

自身に雷を纏いジグザグに超高速移動する

白蘭「疾風迅雷」

海未「……………そこだっ!!!」

海未は手から無数の矢を作り出し相手に投げる

海未「アーツドロー!!!」

矢で相手の動きを止める、その隙に海未はボールを奪い取る……………がしかし

海未「!? 何っ」

白蘭 「それは残像だ」

『天命が園田を抜いたああああ!!!』

海未 「くっ!!!」

白蘭 「いくぞ穂乃果!!!」

穂乃果 「うん！ こいつ!!!」

白蘭は足からドラゴンを出して螺旋状にゴールに向かわせ、力を貯めるそして白蘭も飛び上がりシュートを放つ

白蘭 「喰らえ!!! ドラゴンブラスター!!!」

右足でバネを放つ様にシュートを放つ!!

穂乃果 「すう、止めるっ!!!」

穂乃果はピアノを弾くような手の動作をするそして両手を一度クロスさせて広げる

穂乃果「うらああああああ!!!」

飛んでくボールを挟み込む

穂乃果「夢なき夢は夢じゃないV3!!!」

バシユウ!!!

白蘭「止めるか。しかもさつきよりパワーアップしてるな」

海未「ナイスです穂乃果!!」

穂乃果「海未ちゃん。やられっぱなし嫌でしょ? 決めてきてよ!!!」

海未にパスを出す

海未「分かっています!!!」

穂乃果のパスを受け取りドリブルを始める

白蘭「海未もつとこいつ!!!」

海未「言われなくとも!!!」

体と体がぶつかり合う

白蘭 「ふふ、やっぱり楽しいサッカーは！」

海未 「そうですね、心躍ります」

白蘭 「だからこそ勝ちたい」

海未 「そう！ 勝ってみんなで笑いたい！！」

白蘭 「……………だからボールもらうぞ！！」
強いタツクルをする

海未 「くっ……………ま、負けません!!!」
仕返す

鞠莉 「互角の様ですね……………」

ルビィ「で、でも海未ちゃんはまだ」

メイ「……………隠しているのか？ それとも余裕なのかそれとも出せないのか？」

白蘭「はあ！！！！」

海未「はあ！！！！」

海未は一旦距離を取る

白蘭「ふつ、そんなもんか？」

海未「いや、今から抜き去ります」

すると海未は地面に足を擦らせてドリブルする

白蘭「その技は見切ってる!!!」

海未「……………!!」

次の瞬間それを止めて少し足を曲げてロケットダッシュ

白蘭「!?」

海未「スプリントワープ!!!!」

ギユンギユンギユンギユン!!!!

『こ、今度は園田が抜いた!!!!』

白蘭「!!」

海未「フエイントですよ!!!」

一気にゴール前に

海未「行きます!!!」

そして海未はある技の構えをする

海未「はあ!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!!」

そして溜まりに溜まったエネルギーの塊を右足で蹴る
海未「ラストリゾート!!!」

何度も地面にバウンドしながらゴールに向かっていく

愛「止めるっ!!!」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「これが私の全て!!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「K I N G R E F L E C T O R !!!」

ドガッ

!!!!

海未「……………もう治ったんですね」

愛「最強の盾、そうそう何度も何度も壊させない」

『見事にキャッチ!!!』

ツバサ「やっぱりあの技を破るには」

エレナ「ラストリゾートRしかない……………」

結城「……………海未」

それから5分間の間一進一退の攻防が続いた

白蘭「はあ!!!」

白蘭が抜いて、シュートを打たれる時であれば。ギリギリで止める時もある

海未「はあ!!!!」

またその逆も然り、してそ二人の戦いは観客、チームメンバーも楽しんでいた
だが拮抗は長く持たない

海未「はあ!!!!」

白蘭「!!」

白蘭を抜く

ルビィ「ま、まずい!? 白蘭さんが読まれ始めている」

黄粉子「海未ちゃんはやっぱりとんでもないストライカーやんね」

白蘭「ハアハアハア、くそ」

半年前

ピッピッピ——!!!

『試合終了!! ラブライブジャパン対レジスタンスジャパン3—1でラブライブジャパンの勝利だああああ!!!』

白蘭「ハアハアハア、くそお。俺は海未に勝てないのか」

海未「白蘭、ありがとうございます。貴方と勝負するのは楽しいです!! またやりましょう!!」

白蘭「あ、ああ」

俺は完全に負けていた、シュート、ドリブル、ディフェンス、分析力。全てに置いて海未は俺の上を行っていた

白蘭「……………なんで。なんで勝てないんだ」

俺は悩んだ海未には絶対に勝てないそう思い始めていたから

白蘭「勝てないはずは無い!! 同じ人間なんだ!! 努力が足りないんだもつとやるしか無い!!」

そして俺は厳しいトレーニングを重ねどんどん成長していったと思う。だがある日

言われたんだ。それじゃあ園田海未には勝てないと俺は分からなかった、努力しているのに勝てない？ 才能が負けているのは知っているが少なくとも俺もあるそう感じていたから。だが勝てないと言った人はこう言った「サッカーは楽しいか？」と。その時俺はすぐにはいと言えなかった。俺は勝つためにしかやってないんだとその後気づいた。それから早かった。色んな高校を周り色んな人とサッカーをした。すると少し景色が変わった様に見えた。多分楽しくなったんだろう

白蘭「これがサッカーを楽しむか……………」

それからは以前とは比べ物にならないくらいに上手くなったと思ってるそして今。俺は海未の目の前にいる

一

白蘭「……………ふう」

海未「……………!?」ゾクッ

海未は背後から得体の知れない何かを感じ取った。それは初めての事だった。

海未「くっ!!!」

慌てて海未はシュート態勢に入る……………

シュン!!!

海未「!?」

白蘭「……………」

海未のボールはいつの間にか白蘭の元にあつた
フィールドプレイヤー「!?」

結城「ま、まさか白蘭」

エメラ「……………これはやばい」

海未「……………ゾーン!?」

白蘭「……………」

目から白い線が出ている

白蘭「……………」

海未「……………白蘭。負けませんよ!!」

スライディングを仕掛ける

白蘭「……………ハア!!!」

海未「!!」ビリビリビリ
スライディングを止める

白蘭「……………」

希「圧で海未ちゃんを止めたんや
にこ「くっ!!白蘭」

白蘭「……………」

海未「くっ……………（これが白蘭のゾーン今までとは桁違いです）」
白蘭「疾風迅雷……………神」

海未「!？」

バリバリバリバリ

海未「!? み、みえっ」

白蘭「遅い」

『一瞬で園田を抜き去ったああ!!』

白蘭「……………」

穂乃果「白蘭ちゃん、貴方の全力見せて!!!」

白蘭「ハア!!!」

足からドラゴンを出して螺旋状にゴールに向かわせ、力を貯めるそして白蘭も飛び上がりシュートを放つ

白蘭「ドラゴンブラスターGX」

右足でバネを放つ様にシュートを放つ!!

穂乃果「!? ……………穂乃果も本気で行かないやだねっ!!!」

穂乃果は両手に夢なき夢は夢じゃないの力を込めて回転しながら飛び上がり、両手を

合わせる。すると両手からオレンジ色のエネルギーが溜まる

穂乃果「サマー・オブ・フオール!!!」

そして、それを下に投げる、するとそのエネルギーは無数のレーザービームのような光線のように下に流れていく

エネルギーの塊がシュートに刺さっていき

穂乃果「ダリヤリヤリヤリヤリヤリヤ!!!」

回転しながら、エネルギーを当て続けぬ!!!

そして……………

ドガンンンンンンン!!!!

ドン!!!

穂乃果「止めたよ!」

『ここが高坂がナイスセーブ!! 同点のまままだ!!』
穂乃果「……………白蘭ちゃんやるね」

白蘭「……………ふっ」

自陣に戻る

海未「ナイスです、穂乃果!!」

穂乃果「白蘭ちゃんは最強だよ、勝てる？」

海未「絶対に勝つて見せます!!」

穂乃果「うん、ファイトだよ!!」

海未「!!」

前を向く

白蘭「……………」

海未「……………白蘭。絶対に負けません!!!!」

白蘭「!!」

海未「!？」

目の前までくる

海未「アーツ!!」

だが

ザツシュ!!

海未「!?」

白蘭「……………その程度か？」

海未「……………負けない!!!」

白蘭に追いつこうとする

白蘭「……………」

海未「ハアハアハア」

真姫「まずいわね。白蘭はまだ余裕そうだけど、海未は」

絵里「無駄な動きが多いわね。このままじゃ確実に海未は負けるわ」

海未「……………私は私は!!」

白蘭「……………残念だ、海未」

海未は白蘭を抜き去る

ワールドレジスタンス「!! いけえ!!! 白蘭!!!」

白蘭「……………進化させる俺のシュートを!!!」

海未「……………」

穂乃果「……………白蘭ちゃん」

白蘭「……………喰らえ!!」

そういうと白蘭はホワイトハリケーンの構えをする、

白蘭の上には台風、天候が変わるほどの力を込める

白蘭「天候の力そして、龍の力を混ぜる」

穂乃果「!?!」

白蘭はそのエネルギーを上ボールに集中させて飛び上がる

白蘭「俺の最高の技喰らえつ!!!」

さらに足からドラゴンを出して螺旋状にゴールに向かわせ、力を貯める

白蘭「ホワイトドラゴンハリケーン!!!」

そのシュート厄災と龍。やばく無いはずがない

穂乃果「!! 止めてみせる!!!」

穂乃果は両手に夢なき夢は夢じゃないの力を込めて回転しながら飛び上がり、両手を合わせる。すると両手からオレンジ色のエネルギーが溜まる

穂乃果「サマー・オブ・フォール!!!」

そして、それを下に投げる、するとそのエネルギーは無数のレーザービームのような光線のように下に流れていく

エネルギーの塊がシュートに刺さって!!!

穂乃果「ダリヤリヤリヤリヤリヤリヤ!!!」

回転しながら、エネルギーを当て続けね!!!

そして……………

ドガンンンンンン!!!!!!

穂乃果「くっ、お、重い叩きつけ切れないかも……………」

白蘭「……………」

穂乃果「それでも穂乃果は止めるんだあああ!!!」

穂乃果はサマー・オブ・フオールを止めて手をボールに向けて急降下

穂乃果!「たああああああ!!!」

ドガッ!!!!

煙が上がる

穂乃果「ハアハアハア」

穂乃果の腕の下にボールはあった

『高坂穂乃果がホワイトドラゴンハリケーンを止めたあ!!!!!!』

穂乃果「……………ハアハアハア」

海未「穂乃果!!!」

海未は穂乃果に駆け寄る

海未「大丈夫ですか?」

穂乃果「……………ないよ」

海未「ほ、穂乃果?」

穂乃果「大丈夫じゃないよ!! 痛いよ!! しんどいよあんな重いシユート受けるの!!」

海未「穂乃果!？」

穂乃果「今の海未ちゃんはダメだよ!! 最低だよ!! 何かにすがって!!」

海未「……………」

穂乃果「海未ちゃんもつと凄いでしょ?」

海未「!!!」

穂乃果「だから、魅せて私達のストライカー園田海未を」

海未「……………」

ボールを海未に投げる

海未「あはは……………あははははは!!!」

穂乃果「海未ちゃん?」

海未「2回目ですな穂乃果に怒られたのは」

穂乃果「?」

海未「覚えていますか? 初めて穂乃果が私に怒った。そして私達が出会ったあの日を」

穂乃果「!!」

海未「あの日を貴方は初めて私とあったにも関わらず、まるで家族かのように私に怒ったんですよ」

うみ「そのだうみです」

ほのか「あなたずっと見てたよね？サッカー好きなの？」

うみ「……………」黙ってうなづく

ほのか「本当!?なら一緒にやろ!!」

うみ「……………」駄目なんです」

ほのか「？」

うみ「私がやったら不幸になります」

ほのか「不幸？」

うみ「私がサッカーをすればみんなのプレーを奪うんです」

ほのか「……………」

うみ「だから、私はやりま「なんでだよ!!!」!?!」

ほのか「なんで諦めるの!!なんで自分を否定するの!!」

うみ「私は、私は」

ほのか「諦めちや駄目だよ!!うみちゃん!!」

うみ「……………」

ほのか「不幸になるわけない!!私がほのかがうみちゃんとサッカーしたいもん!!!」

うみ「……………こうさかさん」

ほのか「だからね」手を出す

ほのか「私とサッカーやろ!!」

うみ「……………はい」

涙を流す

こうして海未は自身のサッカーを取り戻した

海未「貴方が居なければ私はここに居ない。未来の花を咲かせてくれたのは穂乃果貴方のおかげです」

穂乃果「海未ちゃん……………」

海未「だから、見ていてください」

そう言つて海未は髪の毛を括る

穂乃果「!? 海未ちゃん!!」

海未「絶対に勝つから」

希「うふふ、この土壇場で海未ちゃんも覚醒やね」

海未はドリブルで上がっていく」

白蘭「……………海未お前」

海未「さつきはごめん白蘭。でもここからが本当の戦いだ」

白蘭「……………ふっ」

海未「私が白蘭を倒す!!」

白蘭「やれるもんならやってみろ!!!」
スライディングを仕掛ける

海未「……………」

絵里「な、なんでよけないの？」

真姫「……………まさか海未はギリギリで躲すつもり!？」

海未「……………」

白蘭「……………ちっ」

スライディングを止める

海未「やるね白蘭、まさか気付くとは」

白蘭「(な、なんだこの圧倒的な感じ!!
今までの海未じゃない、これが本気だとい
うのか)」

海未「もう私は負けない誰にも」

白蘭「ハア!!!」

タツクル

海未「……………」

躲す

白蘭「くっ!!!」

海未「遅いよ白蘭」

白蘭「負けてたまるかあ!!!」

すぐに追いついてもう一度ボールを狙う

海未「……………」

それも躲す

白蘭「!?」

輝夜「白蘭さんがまた押され始めている!？」

フェイ「白蘭は駆け引きでも負けている」

月「!？」

フェイ「このままだと負けるよ白蘭」

白蘭「……………俺は負けねえ!!!」

海未「!？」

すると白蘭は足に力を貯めて黄色の斬撃を飛ばす

海未「!!」

それを海未はジャンプして躲す……………がしかし

白蘭「!!」

ジャンプした瞬間白蘭はボールを狙い飛び上がる

海未「なっ!!」

白蘭「……………」

フェイ「白蘭がボールを奪った!!」

月「DFだね……………名付けるとしたら迅雷嵐脚」

海未「……………」

海未も速攻で戻る

白蘭「……………!!!」

白蘭はスピードアップ

海未「!! ………………」

白蘭「これを決めて完全勝利だっ!!!」

白蘭はシュートの態勢に入ろうとする

白蘭「!？」

海未「撃たせない」

ザッ!!!

ボールを奪う

白蘭「くっ!!!」

海未「DF技驚いたけど、ギリギリ躲そうと思えば躲せてた」

白蘭「なにつ!？」

海未「取られたのは必殺技を見るためそして。完全に置き去りにしてシュートを打ちにいくため!!!」

白蘭「……………なら。もう一度喰らえ!!!」
すると白蘭は足に力を貯めて黄色の斬撃を飛ばす

海未「今度は抜くぞ」

そう言つて両手からアーツドロウの時の弓矢を出して両手に持つ

白蘭「はあ!!!!」

斬撃は海未の方に行く

海未「りやあ!!!!!!」

海未はボールを足で挟んで回転しながら空中に飛ぶ

白蘭「なにっ!!」

予想外の出来事に驚く白蘭だがそれでは終わらない

海未は回転しながら躲し白蘭の後ろに回り込む

白蘭「!?!」

海未「……………はあ!!!」

海未は手の矢を白蘭の周りに投げつける
シュンシュン!!

白蘭「!?」

海未「!!……………これで終わり」

ドガン!!!!

矢が爆発する

海未「アーツバースト」

『な、何とここで園田の新必殺技だ!!!』

海未「……………決める!!」

ゴールに走っていく

白蘭「……………くっ。なんて技だ」

海未「……………」

愛「止めてみせる!!! 止めればチャンスがある!!!」

海未「いいや、チャンスなんかない。私がトドメを刺すから」

愛「ゾクっ!!!」

穂乃果「いけえ!!! 海未ちゃん!!!!」

海未「これが私の全て!!!」

すると海未はある技の構えをする

海未「ハア!!!」

海未は自分の上にエネルギーの塊を作り出し飛び上がってそのエネルギーを抱え込むように蹴るに下に蹴る

海未「ふう!!!」

下に蹴ったエネルギーにスピンをかけるように左足で蹴る

海未「ぜい!!」

さらにボールを上上げる

海未「うらああああ!!!」

さらにあげたボールを両足で蹴りつける

海未「ラストリゾート!!!」

矢を手から出しボールに当てるそして

海未「R(リーズン)!!!!」

矢と共にボールシュート!!!

鋭く思い一撃がゴールに向かう

愛「!!!」

ゴールの周りに透明の壁を作り出す

愛「止めてやるっ!!!」

透明だがダイヤモンドの様に輝く!!

愛「KING REFLECTOR!!!」

バチン!!!!

愛「!?!!!!なっ……………まさか嘘でしょ」

パキパキパキパキ!!

ラブライブジャパン「いけえ!!!!!!」

愛「ヒビも入れられてない、ぎっぎのラストリゾートは完璧に止めたなのに。つ、強すぎる」

白蘭「こ、これが海未の本気そして」

海未「終わりだワールドレジスタンス」

白蘭「ラストリゾートRか」

バキン

ドゴン

ゴールネットが揺れる

『……………ラブライブジャパンについて逆転!!!!!!
!!!!!! 決めたのは園田海未だあ!!!!!!』

海未「……………ハアハアハア」

髪の毛を結ぶのをとる

海未「ハアハアハア」

そして拳を突き上げる

『4-3で勝ったのは………ラブライブジャパン
最高の試合決着!!!
!!!!!!!!!!!!!!』

次回、最終回

二つの世界のサッカー

二つの世界のサッカー

「試合終了!! 4―3 激戦の末勝ったのはラブライブジャパンだああああああ」

海未「はあはあはあはあ」

ドツサツ

穂乃果、ことり「海未ちゃん!!!!!!」

海未「穂乃果、ことり……勝ちましたよ」

穂乃果「当然だよ!! 負けるわけないじゃん海未ちゃんが」

ことり「やっぱり海未ちゃんは世界一のエースだね!!」

海未「ありがとうございます」

白蘭「見事だ海未」

海未「白蘭……」

白蘭「ふふ、少しくらいは勝てると思ったんだがな全く叶わなかったな」

海未「そんなことはないですよ。本気にならないと勝てないって思ったのは白蘭貴方が初めてですよ」

白蘭「!!……そうか俺は少しでもお前に近づくことが出来たんだな」

海未「はい、白蘭貴方は私にとって今までもこれからも最強のライバルです!!」

白蘭「俺もだ、でもな」

白蘭は手を出す

白蘭「次は勝つぞ海未」

海未「ふふ、負けませんよ絶対」

コツン

真姫「はあ、勝てたわね」

希「真姫ちゃんお手柄やで!!」

真姫「ありがとう」

真矢「真姫!!」

真姫「!?ば…パパ!!!」

希「行つてき真姫ちゃん」

真姫「……………うん」

真矢「真姫……………よく頑張ったな」

笑顔で言う

真姫「!!」

すると真姫は涙を流す

真姫「うん!!」

美咲「……………良かったね」

希「……………」

絵里「希?」

希「いやあ、懐かしいなあと思って」

絵里「懐かしい?」

希「真姫ちゃんが入るまでのことを」

絵里「!!大変だったわね」

希「でも今考えたら真姫ちゃんのお父さんは真姫ちゃんの覚悟を見たかったんやろうね」

絵里「そうね、そして今ついに認められたのよね」

希「……………そうやね」

絵里「よかった本当に」

愛「申し訳ございません輝夜様!!」

輝夜「……………」

愛「4点も決められるなんてキーパー失格です」

輝夜「早坂」

愛「はい……………」

輝夜「よくやってくれましたね」

笑顔で言う

愛「輝夜様……………」

輝夜「また練習しましょう!!次は勝ちます!!」

愛「はい!勝ちましょう」

エメラ「海未は凄いなあ」

ダイヤ「エメラも凄いですわ!!」

エメラ「お姉ちゃん」

ダイヤ「試合中に技を完成させ、ゾーンにも入ったんですよ?」

エメラ「でも、もう入れるかは分からないし」

ルビィ「なれるよエメラお姉ちゃんなら！」

エメラ「る、ルビィ!?!」

ルビィ「やっぱり自慢のお姉ちゃんだよ！」

笑顔で言う

エメラ「ありがとう、ルビィ」

智和「ふ、完敗だよ、結城」

結城「勝てたのは運も良かったですし、それに……みんな頑張ってくれました」

選手全員を見渡す

智和「お前の腕、そして選手にも恵まれたな」

結城 「ええ」

智和 「それと結城、お前に聞きたいことがあるんだ」

結城 「なんですか？」

智和 「希ちゃんの事についてなんだが………」

こうしてワールドレジスタンスとラブライブジャパンの試合は終わりを迎えた

数日後

結城の部屋

結城「試合終わってから数日か………完全な休みも久しぶりだな」

コンコン

結城「誰だ？」

希「ウチです!! いいですか？」

結城「希か………いいぞ」

ガチャ

希「こんには結城さん」

結城「おう、どうした？」

希「出発はいつですか？」

結城「ああ!!、何も言つてなかったな。まだわからないんだ」

希「分からない？」

結城「ああ、ワンダバがタイムマシンを今調整してくれている。時空の波長がいいと
きに飛ばないと失敗するかもしれないからな」

希「なるほど」

結城「本題にはいろうか」

希「………察しがいいですね」

結城「まあな、希のことは大体わかるよ。」

希「二つあります、一つはサニデイジャパンのことです」

結城「成る程な、その前にいいか？」

希「はい」

結城「今回の試合、なんで本気を出さなかったんだ？」

希「……………」

結城「正直、勝つか負けるかの試合だった。お前の力があれば2点差、いやもつと点差が付いていたはずだ」

希「確かにそうですね、けど海未ちゃんに託したくなつたんです、必ず覚醒して決めてくれると思つたので」

結城「そうか、智和さんにも言われたんだ」

智和 「希ちゃんについてなんだが」

結城 「希ですか？」

智和 「全く力を使っていないな？」

結城 「気づいたんですね」

智和 「そりやあな、見ているところが違うからな」

結城 「……………」

智和 「……………彼女に関して気になることはいっぱいあるが今はいいまたいつか聞かせてくれ。全部は知らなくとも何個かは知ってるんだろ？」

結城 「はい……………」

智和「俺のききたいことは以上だ」

—

希「……………」

結城「あの人には頭が上がらないよ本当に」

希「そうですか」

結城「俺の話ばかりですまん、次は希だ」

希「はい、一つ目の話からいきます、サニデイジャパンについてです」

結城「おう」

希「前に戦った時とは別物のチームです」

結城「……………」

希「限界を超えた人が多すぎる、正直予想外ですあそこまで強くなるとは」

結城「お前がそこまで言うってことは相当だな」

希「穂乃果ちゃん、海未ちゃんは気付いていると思いますが向こうのルビィちゃんのラストリゾートは海未ちゃんのラストリゾートとは全く違う、威力なんかじゃなく技そのものが強すぎる」

結城「ああ、それを分かったうえでフェイにお願いしたからな、あの技を」

希「王者の牙ですね」

結城「その通り、重く触れられないシユートそれを穂乃果に止められなければルビィのラストリゾートは当然止められんからな」

希「いい練習になったと思います。ですか結城さんもう一つのキーパーの果南ちゃんも問題ですよ」

結城「ほう」

希「観客席で見たので完全に分かったとは言えませんが止めた時に入門していました

よ」

結城「!？」

希「まさか、そんな人間、ウチ以外に現れるとは思いませんでしたよ」

結城「……………成る程な」

希「ですが、果南ちゃんは見えるだけだと思います。なので私のシユートは止められない筈です今のままならね」

結城「そうか」

希「それに向こうの穂乃果ちゃんもゴットハンドXを完成させたみたいですよ。明らかに威力が違いました」

結城「厳しい、戦いになるんだらうな」

希「ええ、間違いありませんね」

結城「こちらだけ情報を流すのは駄目だから対策はやめておこうと思ったが成長のス

ピードが異常に早すぎるこれは少しばかり対策を取らないとボロ負けする可能性があるな」

希「……………はい」

結城「が一つ決めている事がある」

希「？」

結城「希は後半から出すと言う事だ」

希「ですよね」

結城「そして今回も初手に海未は出さない、俺が向こうのチームならルビイも温存するだろうしな」

希「ですね、ではスタメンは？どうするんですか？」

結城「まだ何も決まっていない。希お前が見に行った時の情報でいい、教えてくれ」

希「分かりました」

座る

希「まず、絶対に気をつけないといけな選手を言います。穂乃果ちゃん、果南ちゃ

ん、ルビイちゃんを除き」

結城「おう」

希「DF……このポジションは昔ほど穴もなく今や一番きついかもしれせんね」

結城「……………」

希「まず、聖良ちゃん。アイスエイジと言うDF技には要注意というか使われたらおそろくなんでも止めてしまうと思います」

結城「アイスエイジか……………」

希「私のシユートには無意味ですが他のシユートには十分すぎる威力です。恐らくラストリゾートRですら止められないにしろ威力は確実に落とされるでしょう」

結城「それはえぐい技だな、でもそんな強力な技連発できないよな？」

希「ええ、連発は出来ません、そしてもう一つ警戒すべきはそれを応用した理亞ちゃんとのシユート技、氷結のグングニルです」

結城「名前が既にやばそうだな」

希「イジゲンザハンドと言うシュートの軌道をそらせる技があったんですがその技そのものを凍らせてシュートを決めました。そのため通常の止め方では絶対に止められないでしょう」

結城「だろうな。対策できるか？」

希「一応あるディフェンス技を練習中です。その技が出来ればシュートを消す事ができるでしょう」

結城「頼んだぞ」

希「はい!……次は善子ちゃんです」

結城「!?追加招集されたのか」

希「はい、善子ちゃんはDeep Resonanceと言う技を使います」

結城「名前からして自強化技だな」

希「はい、その技の特徴は共鳴して相手にどこまでもついていく、又は全て躲すといった技です」

結城「……………ふつまるで誰かさんの技と同じやねえか」

希「無考の極意と確かに似ていますが違いますが。それは善子ちゃんの限界を超える事ができないという事です」

結城「限界を超えられない？」

希「はい、無考の極意は、無駄な動きをなくし、動きに磨きがかかりそこにさらに強化が入るので全く別物に変わりますが Deep Resonance は違います。共鳴を使って体を動かすので善子ちゃん自身を超えられないんです」

結城「成る程、真姫なら止められるな」

希「はい、それに海未ちゃんや私でも戦っていけば止められるかもしれませんね」

結城「そうか」

とりあえずDFは2人です

結城「……………既に全く別物過ぎるな、どう対抗するか」

希「……………正直MFは全員やばいですが。一旦3人だけ」

結城「ああ」

希「まずにこつち」

結城「向こうのには間違いない最強クラスだな」

希「はい、こつちがDFするにあたって一番やばいのがにこつちでしょう。ボールのキープ力、それに突破力。誰を取っても無双レベルです。一人で止めるのは難しいでしょう」

結城「成る程な」

希「新しく考えているタクティクスは対にこつち用に作りました。他の選手にも普通に通用すると思いますがにこつちからすれば嫌なタクティクスとなるでしょう」

結城「分かった、にこは任せる」

希「はい、そして二人目。梨子ちゃんです」

結城「梨子!? 意外だな」

希「彼女はゾーンに目覚めました。そしてタクティクス中にゾーンを発動させる事で正確さ、スピード全てが別次元となっております」

結城「ゾーンか、誰でもなれるって訳じゃないのにバーゲンセールでも起きてんのか

？」

希「梨子ちゃんをのらせるとまずい事になります」

結城「分かった」

希「そしてラスト。この前の戦いから一番成長した存在がいます」

結城「誰だ？」

希「キャプテンが穂乃果ちゃんから千歌ちゃんに交代しました。これで分かりますよね？」

結城「……千歌か」

希「はい、千歌ちゃんもゾーンを発動出来る様になっていました。しかも闇の力と同じ時に」

結城「闇の力か……俺らの世界には無いものだな」

希「はい、Braveheartと呼んでいました」

結城「Braveheart」

希「そして一番危ないのかその状態のシユート技、エクリプス・サンです」

結城「……………なんとなく分かった。太陽と闇の技の融合。つまり太陽が力を高めて闇が力を奪うこんなところか？」

希「結城さんほとんど正解です」

結城「それは相手にしたく無い技だな」

希「ですが、ウチらの穂乃果ちゃんなら力を吸い取られる事なく止める事ができると
思います」

結城「成る程な」

希「MFは以上です」

結城「かなり、いや既にラブライブジャパンを超えてるかもしれないな。始めに闘った時にそのレベルならボロ負けしていただろうな」

希「ですね……………次はFW……………3人です。」

結城「3人もいるのか」

希「まず一人目ツバサっち。ロシア戦で Shocking Party という技を完成させました」

結城「……………」

希「この技はあんじゅちゃん、エレナっちの力をツバサっちに注ぐと言う技です。勿論二人の技も使えます」

結城「一人に力を注ぐかあ……………」

希「それにツバサっちはゾーンが使える。ゾーン×Shocking Party。時間は長くは持たないだろうけど最強形態の一つでしょう」

結城「でも言い方を変えれば動けるのが9人になって事だろ？。隙間あるはずだ」

希「はい……………」

結城「……………」

希「次、ダイヤちゃんです」

結城「ダイヤか……………」

希「向こうのダイヤちゃんはヒノカミ神楽と言う状態になります」

結城「ヒノカミ神楽だど!？」

希「知っているんですか？」

結城「ああ、ダイヤの父さんから昔聞いた事があるんだ。何百年前黒澤家では年に一度豊作を願って舞を踊っていた。そしてその舞は自身から炎が溢れるほど凄まじいものだ……」

希「では、こつちのダイヤちゃんも使えるのでは？」

結城「いや、それはない、何故なら数百年前に後継ぎを決める前に領主が死んでしまつたみたいなんだ。だから舞は中途半端になつてしまひ。完全に受け継ぐ事は出来なかつたみたいなんだ」

希「……………成る程」

結城「……………舞えば舞うほど強くなる」

希「!？」

結城「サッカーで言うならそうなると言つていた」

希「その通りです。その状態の場合全てを技が強化されるみたいです」

結城「そうか」

希「そして最後の一人。理亞ちゃん」

結城「理亜か……………」

希「今ラストリゾートを完成させようとしています」

結城「!?なんだと」

希「その内、いや近いうちにルビイちゃんと同じレベルに到達すると思います」

結城「二人がああのラストリゾートを放てるのか……………」

希「さらに言うとうとAwaken the powerにゾーンを組み合わせていた事もありません」

結城「……………そうか。理亜もそんなに強く」

希「そしてオーバーサイクロンといった技もあります。ラストリゾートには及びませんが超強力なシュートです」

結城「……………そしてルビイと穂乃果と果南か……………」

結城は頭をぐしゃくじやする

希「どうしますか結城さん？」

結城「少し考える」

希「分かりました」

結城「……俺はお前がワクワクしてるのが凄いと思うよ」

希「……………やつとですよ。ウチの力を全力で使える試合が始まりそうです」

結城「ふ、そうか」

希「はい」

結城「じゃあ、俺はこれから考えるから一人にしてくれ」

希「分かりました」

ガチャ

それからラブライブジャパンは結城の指導の元。短い間だったが、練習を行った、サニデイジャパンの技を内容は教えずに。そしてワールドレジスタン戦から1ヶ月が経過する頃

結城「まもなく決戦だ。みんな準備はいいか？」

ラブライブジャパン「はいっ!!」

結城「いい返事だ」

全員がタイムマシンに乗る

結城「それじゃあワンダバ頼んだぞ！」

ワンダバ「任せろ」

こうしてラブライブジャパンは再び、サニデイジャパンと戦うために時空を越える。
その試合は過去最高となる。見逃すな!!

サニデイジャパン対ラブライブジャパン第二回戦は続報をお待ち下さい

作者の話

振り返り&茶番回

オト姫「こんにちは!!オト姫です!!」

真姫「西木野真姫よ!」

オト姫、真姫「二つのサッカーをここまで見ていただきありがとうございます!」

オト姫「お、息びったり言えたな」

真姫「まあ何度も練習したからね」

オト姫「改めて、ここまで見てくださりありがとうございます!いろんな方に支えられて最後まで出来たと思っています」

真姫「完結できるか悩んだ時期もあったしね」

オト姫「そうだなああ」

真姫「……………」

オト姫「さて!!今日はこんな感じで私と真姫ちゃんがお送りします!!」

真姫「よろしく」

オト姫「さて、まずはこれまでの話の振り返りをしていこう」

真姫「全部凄い試合だったわね」

オト姫「ああ、みんなが成長し限界をこえる姿は本当にすごかったなあ」

真姫「そうね」

オト姫「私の一番好きな試合は再選アドバンチュールかな」

真姫「一番みんなが成長した試合だしね」

オト姫「とくに真姫のクレッシェンドが一番好きだよ」

真姫「そ、そう／＼／」

オト姫「ああ、照れてる」

真姫「私のことはいいわ次よ！つぎ!!」

オト姫「笑笑、分かったよ。真姫ちゃんほどの試合が一番よかった?」

真姫「やっぱり、ワールドレジスタンスね」

オト姫「そうかそうか、最高の試合だったもんなあ」

真姫「私も強くなった、それにパパも来てくれた」

オト姫「……………よかったね真姫ちゃん」

真姫「ええ!!」

オト姫「それに穂乃果も新しい必殺技を覚えたし、いい試合だった」

真姫「そうね」

オト姫「振り返りは大雑把だがこんなものでいいでしょう、次が本番かな？」

真姫「技についてよね」

オト姫「ああ!!ラブライブジャパン必殺技のランク付けのコーナーだな」

真姫「かなり楽しみにしてたわよ!!」

オト姫「全部紹介したいところだが、Sランク、SSランク、公式チートの順で紹介しようと思う」

真姫「公式チート？」

オト姫「限りなく最強に近い技となってるから公式チート」

真姫「成る程ね」

オト姫「ちなみに私（作者）の目から見たものだから他の人から見たら ん?と思うところもあると思いますがそれを踏まえたくえで見てください」

真姫「人それぞれ価値観が違うからね」

オト姫「それじゃあ、Sランクの技から紹介していこう!!」

真姫「どんな技があるのか楽しみね」

S
ランク

キヤッチ技「AQUARIUM」

ドリブル技「ゼロヨン」

ドリブル技「アグロバットキープ」

シュート技「菊一文字」

ドリブル技「スプリントワープ」

シュート技「アイス・オブ・エデン」

シュート技「キングスランス」

ブロック技「もちもち黄粉餅」

シュート技「ファイアトルネードDD」

シュート技「マキシマムサーカス」

ブロック技「アーツドロー」

ブロック技「ウインドウドロー」

シュート技「エターナルショット」

ドリブル技「スパークエッジドリブル」

ブロック技「アイスグラウンド」

オト姫「こんな感じです」

真姫「意外と少ないわね」

オト姫「そう?」

真姫「Sランクが一番多いのかと思ってたけど違うわね」

オト姫「そうだね、というわけで15個の技がSランクな訳ですが、真姫ちゃん気になる技ある?」

真姫「そうね、菊一文字はSなのね」

オト姫「うん、今じゃあの威力は通用しなく成りつつあるからねSが妥当かな」

真姫「その傾向で行くとアーツドロローも?」

オト姫「そうだね、Sランクにするか迷ったけど一応Sランク技にしたよ」

真姫「あとはウインドウドローとか」

オト姫「みんなが思っている以上にウインドウドローは強力だからね、Sランクだね」

真姫「あとファイアトルネードDDがSランクじゃないのも意外ね」

オト姫「これに関してはここでSランクにしなかった意味を考えてほしいですね」

真姫「成る程ね!!」

オト姫「Sランクはこんな感じかな」

真姫「うん」

オト姫「個人的に気に入っている技はアイス・オブ・エデンかなあフアラムオービア
スの兄弟の技を鹿角姉妹用に変えたただけだけどね」

真姫「私はやっぱり菊一文字ね」

オト姫「続いていきましようSSランク」

真姫「ここが一番多いのね」

オト姫「うん、それじゃあどうぞ」

SSランク

水の波動

刹那ブースト

夢なき夢は夢じゃない

月下王の槍

ヘブンズタイム

ラストリゾート

月光丸・燕返し

旋風陣

クロシオライド

ストームゾーン

クロストルネード

ジ・メドローア

やきもちスクリユー

ヘブンズタイム

soldier strike

迅速

クレツシエンド

バニシングメロディ

真姫「18個ね……確かに一番多いわね」

オト姫「でしょ？」

真姫「ヘブンズタイムSSランクなのねてつきり公式チートかと思つたわ」

オト姫「ああ、上があるからな」

真姫「……成程ね」

オト姫「実はこの中には公式チートに近いSSランも存在しているけど分かる？」

真姫「……ジ・メドローアとか？」

オト姫「違うよ」

真姫「違うのね……」

オト姫「意外かもしれないなが3つある、1つは旋風陣」

真姫「まあにこの技はえぐいしね」

オト姫「2つ目クレッツシエンド」

真姫「クレッツシエンド」

オト姫「普通に考えればクレッツシエンドは無限に威力があがる最強技だが、初動がな
……………」

真姫「それは分かる気がするわ」

オト姫「そしてあと一つは迅速だな」

真姫「!?迅速」

オト姫「この技に関しては私は公式チートにしてもいいかなと考えたよ」

真姫「なんで?」

オト姫「まず現時点で止めれる技がないつてのと、発動した時には抜いているからね」

真姫「止められない……」

オト姫「現時点の話だけだな」

真姫「そうよね」

オト姫「こんな感じだな」

真姫「個人的には月下王の槍も公式チート近い感じがするわ」

オト姫「なるほどな」

真姫「ヒビが入ったとはいえ壁を壊したのよ？」

オト姫「確かに……」

真姫「SSランクの技に関してどれもやばい技よね」

オト姫「極論を言えばそうだな、だがこれよりも上があるってことだ」

真姫「恐ろしいわね」

オト姫「ちなみにSSランクだけど出てない技もあるからそれにも注目してほしい」

真姫「楽しみね」

オト姫「と、いうわけで公式チート技の発表です」

真姫「ついに来たわね」

オト姫「公式チート技に関しては一つ一つ発表しようと思います」

真姫「そうね」

オト姫「それでは、まずはこの技から」

ラストリゾートR

真姫「この技は間違いないわね」

オト姫 「この技は海未ちゃん象徴との言える技だからね!!」

真姫 「最強でいてほしいわね」

オト姫 「そうだね、この技を止められる選手が果たしているのかどうか」

真姫 「穂乃果あの技なら……」

オト姫 「うん、止められるかもね」

真姫 「いつか戦ってほしいわね」

オト姫 「ラストリゾートRは特別な技だから止められるなんてことあったらやばいんだけどね」

真姫 「そうね」

オト姫 「ラブライブジャパンの最強の技なので、誰にも破られないはずですよ」

真姫 「……………」

オト姫 「次はこの技!!!」

summer of fall

真姫 「この技も最強技ね」

オト姫 「穂乃果ちゃんが重い、そして触れられないシュートを克服した技だからなこれに向こうのルビィのシュートにも対応できるはず」

真姫 「どうなるかしらね、輝こうサッカーの方ではあのシュートほとんど止められた

「ことないみたいだし」

オト姫「戦ってみないと分からないね」

真姫「……………ええそうね」

オト姫「あとこの技は好きなアニメの技から参考にして作った技です」

真姫「ゲームもよくやってるわよね」

オト姫「うん!! まあこんなところにしておこう」

真姫「長くなるからね」

オト姫「てなわけで、次の技に行きましょう」

真姫「あと何個技があるの?」

オト姫「今公開できる技は2つかな」

真姫「2つね」

オト姫「うん! ということで行きましょう次の技はこちら」

wonder zone

真姫「!! 頭の中からこの技完全に消えていたわ」

オト姫「ワールドレジスタンス戦ではほとんど使っていないからね、相性の問題もあつ

たし」

真姫「成る程ね」

オト姫「うん、けど wonder zone は最強クラスのわざです、動けなる技を動きながら使えるからね」

真姫「そうね」

オト姫「完璧な技ではないから隙はあるけど限られた人にしか見つけられないかな」

真姫「……」

オト姫「誰が抜くことが出来るか楽しみ」

真姫「私の迅速なら」

オト姫「wonder zone は範囲技だ場所に入ったら止められる、だが wonder zone を発動させる前に抜ければ別だな」

真姫「……」

オト姫「wonder zone はひとまずこんなもんだ、ラスト行こう」

真姫「次で最後、ね」

オト姫「この技は印象に残ってる人が多いと思います」

真姫「……」

オト姫「ラストはこちら」

アーツバースト

真姫「!!この技は」

オト姫「本気状態の海未が迅雷嵐脚を躲すために使った技だな」

真姫「そうね」

オト姫「wonder zoneの話の続きになるがこの技ならwonder zoneを回避して抜けるだろうな」

真姫「!!」

オト姫「ドリブル技の中でならうちのチーム内最強かな」

真姫「それは間違いないわね」

オト姫「海未ちゃんは本当に恐ろしいよね」

真姫「そうね、世界一のストライカーだしね」

オト姫「これからの進化も楽しみです」

真姫「今回はこれで以上よ」

オト姫「サニデイジャパンとの勝負のときにまだ見ぬ技も登場するのでお楽しみに!!」

真姫「どんな技が出るのか楽しみね」

オト姫「というわけで今回の話はここまで!!」

真姫「見てくれてありがとう!!」

オト姫「最後にサニデイジャパンとの試合をより楽しんでもらうためにある技の特訓のお話を少しお見せします」

真姫「!!!」

オト姫「それではどうぞ!!!」

「私たち3人のトラブルバスターをみせつけるわよ!!」

違うグラウンド

「はあはあはあはあ」

「どう?」

「こ、この技ってこんなに難しいんですね」

息を整えながらいう

「まあこの技は莫大なエネルギー使う技やからね」

「コツはつかめてきたかも」

「さすがやな」

「頑張って自分のものにして見せる」

彼女たちの進化は止められない

二つの世界のサッカー完全完結